

付二 閻錫山大連脱出事件

九 雜件

- 1 小幡アグレマン問題解決関係
2 中国沿海漁業問題
3 漢口水害救済問題

日本外交文書 昭和期I第一部第五卷 日付索引

1074 1039 1030 1030 1013

一 東北（満蒙）懸案解決交渉

1 昭和6年1月(1)日 在中國重光（葵）臨時代理公使より

幣原（喜重郎）外務大臣宛（電報）

領事館開設に關し中國側の台北領事館開設を承

認する旨のメモを王外交部長に手交について

別電 一月一日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第一三〇二号

中國側の台北領事館開設を承認するメモ

付記一 昭和五年十二月十三日着在中国重光臨時代

理公使より幣原外務大臣宛電報公第一二一

六号

東北における領事館開設問題は先ず鄭州の開館より始めること得策との意見具申

二 昭和五年十二月十六日発幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛電報公第四五三

号

領事館開設に關し我が方鄭州、洮南を中國

就テハ館員姓名並ニ着任時期等御回示アリタシ

北平、奉天、漢口へ轉電シ上海、南京へ暗送セリ

側台北、清津で交渉繼續方訓令

南京

發

本省 1月1日前着

公第一三〇一號

往電公第一二九七號會見ノ際領事館開設ノ問題ニ付テハ從來ノ話合ヲ確カムル意味ニ於テ別電公第一三〇二號ノ如キ「メモ」（日本文及^{英文}_{英文}）ヲ王部長ニ手交シタル上此ノ問題モ貴部長ノ立場ヲ考慮ノ上最善ノ努力ヲ爲シタル結果無事ニ解決シタリト述ヘタル處王ハ深ク謝意ヲ表シタル上早速領事館員ヲ派遣スヘシト語レルニ付本官ヨリ館員ノ臺灣到着ノ日取等ハ更ニ通知ヲ受ケタク又我方ニ於テモ鄭州領事館ヲ至急開館スルコトトナルヘキニ付御承知アリタシト述ヘタル處王ハ河南主席劉峙ニ報告ノ都合モアルニ付至急館員ノ氏名其ノ他承知シタシト語レリ

1

(別電)

南京 12月 発
本省 1月1日前着

公第一三〇二號

(付記二)

上海 発
本省 12月13日後着

公第一二一六號(暗)

領事館開設問題ニ關シ日本側ハ豫テヨリ帽兒山、洮南及鄭州ニ領事館新設ノ希望ヲ有シ居タリ(尙仁川及京城ニ於ケル中國領事館設置ノ件ハ其ノ當時早速日本側ニ於テ承認セリ)然ルニ帽兒山及洮南ニ於ケル日本領事館開設ニ付テハ中國側ニ種々ノ困難アリタル處王外交部長ハ右困難ノ廢除ニ努ムヘキコトヲ言明セラレ殊ニ洮南ノ領事館開設ニ付テハ遠カラス故障ナキニ至ルヘキ見込ナル旨述ヘラレタルヲ以テ(別電)^{省略}日本側ハ先ツ中國側ノ最希望セラル臺北領事館開設ヲ承認スルコトトシ帝國政府ヨリ必要ノ訓令ヲ臺灣總督府ニ發スヘキコトヲ承諾ス

尙中國政府ノ既ニ承認セラレ居ル鄭州ニ於ケル日本領事館開設ヲ見ル様帝國政府ハ速ニ處置スヘシ

北平、奉天、漢口ヘ轉電シ上海、南京ヘ暗送セリ

日華兩國領事館ノ新設問題ハ永キ歴史ヲ有シ中國側ハ元山領事館ヲ事實上清津ニ移シタルニ對シ正式ニ朝鮮總督府ノ承認ヲ得シト言フニ在リテ臺北領事ハ既ニ蔣介石ノ同鄉ナル林紹楠ノ任命ヲ見同人ハ臺灣總督府ノ承認ヲ待ツテ出發ノ豫定ナリ之ニ對シ日本側ハ鄭州、帽兒山及洮南ノ三地ニ領事館新設ヲ要求シ居ル處帽兒山ハ勿論洮南ニ付テモ警察權ノ關係ヨリ容易ニ其ノ目的ヲ達スル能ハス此ノ問題ハ南京及奉天力今日ノ如キ關係トナレル以上尙更徐々ニ其ノ解決ヲ期スル外ナキ處鄭州ノミハ戰時終了ノ結果直ニ開館シ得ル狀態ニアルニ付今日ニ於テハ滿洲ニ於ケル領事館ノ新設ハ飽ク迄南京政府特ニ王部長ノ斡旋ニ依頼スル建前ノ下ニ先ツ鄭州ヲ開館スルト共ニ支那側申出ヲ待タス進シテ先方ノ要求ヲ認ムルコト諸般ノ事情ヨリ見テ得策ナルヤニ存セラル

本件モ南京事件等ノ交渉進捗ト共ニ今後問題トナルヤモ圖ラレサルニ付至急右様御詮議願度何分ノ儀御回電ヲ請フ
北平、奉天ヘ轉電シ上海ヘ轉報シ南京ヘ暗送セリ

申出テ我方ニ於テハ之ヲ承認シ置キタル次第アリ御参考迄北平奉天ヘ轉電セリ
上海ヘ轉報南京ヘ暗送シ貴電公第一二一六號ト共ニ漢口ヘ暗送アリタシ

(付記二)

本省 12月16日発

公第四五三號(暗)
貴電公第一二一六號ニ關シ

最近ニ於ケル中央ト奉天トノ關係ハ寧ロ中央ニ對シ奉天側說得ヲ要求スル上ニ於テ好都合トナレルモノト認メラルルニ付此際帽兒山ハ暫ク措クトシテ我方ハ鄭州洮南ヲ支那側ハ台北清津ヲ夫々二館宛開館スル立前ニテ今一押シ支那側場說得ヲ試ミラレ度右ニ依ルモ支那側カ洮南ニ同意セサル場合ニハ差當リ我方鄭州ノ開館ヲ行フト同時ニ支那側ノ台北開館ヲ認ムルコトトシ清津ハ支那側ニ於テ洮南ニ同意ヲ與

フル場合之ヲ承認スルコト致シ度シ因ニ支那側ハ曩ニ仁川領事館ヲ廢止シ之ト同時ニ清津領事館新設ヲ企圖シタル

次第ナルカ(元山領事館ハ依然存續シ現ニ副領事駐在ス)

其ノ後去ル十月仁川ニ京城總領事館ノ分駐辦事處設置方ヲ

昭和六年一月八日

在奉天

在奉天林(久治郎)總領事
林 久治郎〔印〕

總領事

林 久治郎

〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

中國鐵道貨物運貨差別待遇ニ關スル件

本件ニ關シテハ東北側ニハ特殊ノ東北交通委員會ナルモノ
存在シ東三省ハ從來歴史的ニ多少特殊ノ事情存在スルコト
ニモアリ極力地方的解決ヲ期スル目的ヲ以テ再三本官ヨリ
當地特派員宛嚴重抗議ヲ提出シタル次第ハ屢次當方ノ報告
ニ依リ御承知ノ通ナル處特派員ハ其都度之ヲ東北交通委員
會ニ移牒シ東北交通委員會ハ一々中央ノ指揮ヲ仰キテ當方
ノ要求ヲ反駁シ來リタルカ本官最後ノ抗議ニ對シ當地特派
員ハ別紙^(省略)寫ノ通本件ニ關シ中央鐵道部ヨリ東北交通委
員會ニ對シ九國條約第五條ニ基ク日本側ノ抗議ニ對シテハ
已ニ外交部ヨリ理由ヲ具シテ重光代理公使ニ駁覆セル通覈
ニ關内各鐵道ハ新運賃率ヲ實施シテ何等ノ支障無キノミナ
ラス本件實施ハ鐵道部ヨリ全國各鐵道ニ遵行ヲ命シタルモ
ノニシテ局部問題ニ非サルヲ以テ地方的解決ヲナス能ハス
且門戶開放政策ハ原則上外國貨物相互間ニ中國鐵道力差別
待遇ヲナスヲ得サルコトヲ指シテ言ヘルモノニシテ本國貨
物ノ優待ハ純然タル内政問題ニ屬シ外人ノ干渉ヲ許ササル
ニ依リ右已ニ全國各路ニ命シ一律實行セシメタル次第ナル
旨指令アリタル趣照復シ來レルニ付御參考トシテ御查閱相
成度

會ニ移牒シ東北交通委員會ハ一々中央ノ指揮ヲ仰キテ當方
ノ要求ヲ反駁シ來リタルカ本官最後ノ抗議ニ對シ當地特派
員ハ別紙^(省略)寫ノ通本件ニ關シ中央鐵道部ヨリ東北交通委
員會ニ對シ九國條約第五條ニ基ク日本側ノ抗議ニ對シテハ
已ニ外交部ヨリ理由ヲ具シテ重光代理公使ニ駁覆セル通覈
ニ關内各鐵道ハ新運賃率ヲ實施シテ何等ノ支障無キノミナ
ラス本件實施ハ鐵道部ヨリ全國各鐵道ニ遵行ヲ命シタルモ
ノニシテ局部問題ニ非サルヲ以テ地方的解決ヲナス能ハス
且門戶開放政策ハ原則上外國貨物相互間ニ中國鐵道力差別
待遇ヲナスヲ得サルコトヲ指シテ言ヘルモノニシテ本國貨
物ノ優待ハ純然タル内政問題ニ屬シ外人ノ干渉ヲ許ササル
ニ依リ右已ニ全國各路ニ命シ一律實行セシメタル次第ナル
旨指令アリタル趣照復シ來レルニ付御参考トシテ御查閱相
成度

背後地ヨリ出廻ル穀類ハ殆ト全部海吉奉海ノ兩線ヲ經由シ
テ南下スル狀態トナリ滿鐵側殊ニ吉長鐵道ノ蒙リタル打擊
ハ相當深刻ナルモノアリタル次第ハ客年九月十四日附拙信
機公第六六三號ヲ以テ及報告置タル處今期大豆ノ出廻期ニ
入ルヤ右ノ事態ハ一層深刻化シ來リ滿鐵力吉長線各主要驛
ニ大豆ノ混合保管取扱ヲ開始シテ荷主ニ對シ取引ノ迅速ト
金融ノ便宜ヲ供與スル例年ノ政策ノミニニテハ其效ヲ奏スヘ
クモアラス從來ノ大豆出廻り系統全ク一變セントスル情勢
ヲ來シタルカ爲滿鐵側モ遂ニ高踏的態度ヲ捨テ支那側ト一
戰ヲ交ユルノヤムナキニ立至リ傍系會社タル國際運輸會社
ヲシテ吉敦線各驛及吉長線主要驛ヨリ大連ニ輸送スル大豆
ニ對シ取扱料金ノ引下ヲ斷行セシメタルニ端ヲ發シ茲ニ滿
鐵ヲバツクトスル國際運輸ニ對シ東北交通委員會ノ指導下
ニ在ル海吉奉海兩鐵道ノ激烈ナル貨物爭奪戰ヲ展開スルニ
至レリ
而シテ其結果ハ海吉奉海兩鐵道間ニ利害間反スル狀態ヲ招
來シタルカ爲メニ支那側ノ結束亂レ國際側ニ極メテ有利ナ
ル狀態ニ於テ一段落ヲ告ケタルカ今後ニ於テモ尙或ハ競爭
ノ繰返トナルヘキモ今日迄ノ經過概要不取敢別紙ノ通報告

尙右來信主張ニ對シ當方ニ於テハ斷シテ承認シ難キ旨別紙
乙號寫ノ通重テ申入レ置キタリ

本信寫送付先、中華民國代理公使、北平首席、上海、南京、濟南、青島、吉林、長春、哈爾賓、天津

3 昭和6年1月8日 在吉林石射（猪太郎）總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

滿鉄の傍系会社國際運輸と中國側鐵道をめぐる大豆運賃引下げ競争の状況報告

機密公第二六號

昭和六年一月八日

在吉林

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

滿鐵對海吉奉海兩鐵道ノ貨物爭奪戰ニ關スル件

海吉奉海兩鐵道カ昭和四年十二月聯絡輸送開始以來採算ヲ
無視シタル運賃政策ヲ以テ滿鐵線ニ對抗シ滿鐵側力高踏的
態度ヲ持シ居ル中ニ漸次其ノ輸送^{（手分）}内ニ喰入リ吉林及其ノ

ス

本信寫送付先	代理公使	北平、奉天、哈爾賓、間島
	長春	安東、鐵嶺、遼陽、營口、齊齊哈
爾	鄭家頓 ^{（モカ）}	南京、上海
	上海商務參事官	

（別紙）

滿鐵ヲバツクトスル國際運輸對海吉奉海支那側

兩鐵道ノ貨物爭奪戰

（一）滿鐵ノ混合保管取扱開始ト國際運輸ノ取扱料金引下。

滿鐵側カ從來ノ高踏的態度ヲ捨テサルヘカラサルニ立至
リタル事情ハ前述ノ通りニシテ滿鐵ニ於テハ例年ノ如ク
客年十一月十日ヨリ吉長線指定驛ニ於テ大豆ノ混合保管
ヲ實施シテ荷主側ニ取引ノ迅速ト金融ノ便宜ヲ供與スル
ト共ニ傍系會社タル國際運輸（吉長吉敦線ヨリ長春經由
滿鐵線ヘ出廻ル特產ハ總テ國際運輸ニ於テ取扱フ）ヲシ
テ同月十五日ヨリ吉敦線各驛及吉長線指定驛ヨリ大連ニ
輸送スル大豆ニ對シテハ從來ノ長春大連間ノ運賃一キロ
屯當金一四・二〇圓ヲ左ノ如ク銀板ニ改メタリ

吉敦線各驛及吉長線吉林附近指定各驛積込ノ大豆ニ對ス
ル長春大連間一キロ屯當ノ輸送取扱料金

（單位 銀大洋元）

吉敦線 各驛發	二三・四五
吉長線 吉林驛發	二三・〇九
〃 九站驛〃	二三・四五
〃 孤店子驛〃	二四・〇〇
〃 樺皮廠驛〃	二四・一八

右改訂ニ依リ運賃率ハ夫々引下ケノ結果トナリ殊ニ引下率最モ大ナル吉林驛積出ノ分二三・〇九元ヲ邦金ニ換算セハ約一二・〇〇圓ニ相當シ從來ノ取扱料金一四・二〇圓ニ比シ二・二〇圓方ノ低減ニシテ海吉奉海經由ニ比シ有利トナリタルニ依リ俄然國際運輸取扱ノ大豆ハ著シキ增加ヲ示セリ

次テ國際側ニ於テハ同月二十六日以後ハ前記銀大洋扱ヲ長春奉天間ノミニ限ルコトシ左ノ如ク改訂シタルカ右ハ長春大連間ノ通算ニ於テハ曩ノ引下ト略々同額トナル様規定セラレタルモノナリ（改訂ノ理由ハ金銀相場ノ變動ニ依ル國際側ノ損失ヲ輕減セシメントスルニ在リ）

吉敦線各驛及吉長線吉林附近指定各驛積込ノ大豆ニ對スル長春奉天間一キロ屯當ノ輸送取扱料金

（單位 銀大洋元）

吉敦線 各驛發	八・九〇
吉長線 吉林驛〃	八・五五
〃 九站驛〃	八・九〇
〃 孤店子驛〃	九・二〇
〃 樺皮廠驛〃	九・八〇

（一）國際側ノ取扱料金引下ニ對スル海吉奉海側ノ運賃割引海吉奉海側ニ於テハ國際運輸ノ取扱料金引下ニ狼狽シ兩鐵道局協議ノ結果十一月二十七日ヨリ海吉線吉林附近三驛（東站、總站、口前）ヨリ奉天ニ輸送スル穀類ニ對シテハ從來ノ運賃ニ付一割五分ノ割引ヲ爲スコトニ決定セリ此ノ割引ニ依レハ荷主ハ海吉奉海ヲ經由スル方遙カニ有利トナリ同日ヨリ吉長經由ノ大豆ハ再ヒ激減スルニ至レリ

（二）國際運輸ノ第二回取扱料金引下
國際運輸支那側ニ追隨シ十二月三日再ヒ左掲ノ如ク取扱料ノ引下ヲ行ヒ海吉ヘノ出廻ヲセキ止メタリ

吉敦線各驛及吉長線吉林附近指定各驛積込ノ大豆ニ對スル長春奉天間一キロ屯當ノ輸送取扱料金

（單位 銀大洋元）

吉敦線 各驛發	七・二〇
吉長線 吉林驛〃	六・七〇
〃 九站驛〃	七・一〇
〃 孤店子驛〃	七・四〇
〃 樺皮廠驛〃	七・七五

（三）海吉奉海側ノ第三回運賃割引案ノ頓挫

茲ニ於テ海吉奉海側ハ更ニ運賃ノ引下ヲ行ヒ國際運輸ノ第三回取扱料金引下ニ對抗セサルヘカラサル立場トナリタルヲ以テ海吉鐵路局ハ十二月二十一日各荷主ニ對シ更ニ割引ヲ爲スヘキ旨ヲ通知シテ吉長線ヘノ出荷ヲ押ヘ奉海鐵路局ノ承認ヲ俟タヌシテ同二十四日吉林附近三驛ヨリ奉天ニ輸送スル穀類ニ對シテハ左ノ通運賃ノ拂戻ヲ爲スヘキ旨ヲ發表シ大豆約六十車ヲ受託セリ

然ルニ今回ノ競爭ニ於テ海吉トハ稍々立場ヲ異ニスル（次項參照）奉海鐵路局ハ右海吉ノ獨斷的措置ニ對シ承認ヲ肯セス爲メニ海吉側ハ茲ニ蹉跌ヲ來シ右運賃拂戻案

ハ二十四日一日限リニテ中止ヲ餘儀ナクセラレタリ

吉敦線各驛及吉長線吉林附近指定各驛積込ノ大豆ニ對ス

海吉線吉林三驛（東站、總站、口前）ヨリ奉天驛ニ

輸送スル穀類一車ニ對スル拂戻額（單位銀大洋元）

八十車未満ノ場合

三八・二五

（註第二回割引運賃ノ一割五分ニ相當ス）

八十車以上ノ場合 四〇・〇〇

百車以上ノ場合 五〇・〇〇

（七）海吉奉海兩鐵道間ノ利害背馳

奉海力海吉ノ運賃拂戻案ニ同意ヲ與ヘサリシ理由ニ關シ

一般ニ觀測セラル處ニ依レハ由來海吉側ニ取りテハ吉

林ヨリ南下スル大豆力運賃收入ノ大宗ニシテ之レカ吸收

ノ如何ハ同鐵道ノ死活ニ關スルモ一方奉海線ニ在リテハ

貨車ノ不足ニ依リ自線各驛ニ出廻ル貨物遂日滯貨シツツ

アル折柄割引率多クシテ極メテ不利益ナル海吉側ノ貨物

ヲ引受クルカ爲メニ自線貨物ニ對スル貨車配給ニ愈々不

足ヲ來シ滿鐵線ニ貨物ヲ奪ハル虞ナシトスサル折柄海

吉側カ自線ノ維持ニ沒頭シ奉海側ノ立場ヲ顧慮セスシテ

獨斷專行的ニ運賃ノ拂戻ヲ決定シ之レカ實施ヲ迫ルカ如

キ態度ニ出テタル爲メ感情問題モ加ハリ拂戻案ニ不承認

ヲ唱ヘ海吉側ヲシテ蹉跎ヲ來サシメタルモノナリ

（八）今後ノ形勢
上述ノ如ク海吉側ニ取リテハ吉林ニ於ケル特產物ノ吸收

量如何ハ直ニ自己ノ死活ニ關スル問題ナルヲ以テ奉海側
ニ拒絶ヲ受ケタリトテ此ノ儘對滿鐵ノ競爭ヲ斷念シ得サ
ルヘクサリトテ同線ハ單獨ニテ國際側ニ對抗シテ無謀ナ
ル割引ヲ爲ストモ到底勝算ナキヲ以テ或ハ東北交通委員
會ヲ動カシ奉海ヲ抵制シテ共同ノ運賃割引ヲナサシメム
トルカ或ハ吉林省府ヲ動カシ課稅ノ免除、地方商民
ニ對スル自國鐵道利用ノ強要等ノ學ニ出ツルヤモ圖リ難
シ

（九）以上

附表 吉林ニ於ケル大豆發送數量比較（自十二月七日至同三十日）

4 昭和6年1月9日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良の瀋陽帰還を待つて本格的鐵道交渉開
始すべく交渉員に申し入れについて

奉 天 1月9日前発
本 省 1月9日後着

上 海 1月9日後発
奉 天 1月10日後着

第九號（暗）

貴電第一號ニ關シ

客年貴電第一九〇號末段御訓令ノ件ハ張學良不在ナルト明白ナル代理者ナキヲ以テ張作相及臧式毅ニ會見ノ節（客年往電第六〇九號並第六一九號）鐵道問題ニ對スル當方ノ考ヲ説明スルニ止メ學良ノ歸奉ヲ待チ居リタル次第ナルカ良ハ客臘來數日中ニ歸奉スヘシト傳ヘラルノミニテ期日尚不明ナルニ依リ不取敢本日交渉員ニ申入ルコトトスヘシ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

編注『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』76文書

5 昭和6年1月9日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

（王）外交次長に対し日中双方の利害調節の空氣
醸成方希望表明について

外交次長王家楨北上ノ途明⁽¹⁾日本使ヲ來訪シタル際客年上
村發閣下宛電報第九五二號ノ日本ノ新聞論調等ニ論及シテ
國民政府及張學良ノ日本ニ對スル立場ニ付辯明ヲ爲シタル
上日本新聞ノ最近ノ對支強硬論特ニ中國側カ排日手段ニ訴
ヘントシツアリトカ滿洲問題ニ付日本側ハ積極的ニ強硬
ナル態度ヲ以テ交渉ヲ開始スヘシトカノ報道頻リニ流布セ
ラル處中國側乃至張學良ノ態度ニ付此ノ上辯明スルノ手
段ナシ恐ラク日本陸軍及滿鐵方面ニ於テ何等畫策シツツア
ルモノト思ハルトノ趣旨ニテ頻リニ訴ヘタルニ付本官ハ最
近ノ日本新聞ノ論調記事通信等ハ正鵠ヲ失シ居ル點ナシト
ハ言ヘサルモ一半ノ責任ハ中國側ニモアリ例ヘハ内亂鎮定
後中國側カ如何ナル態度ヲ以テ日本ニ臨ムヘキヤニ付日本
新聞通信員カ異常ノ注意ヲ拂ヒ居タル際ニ

中國側ニ於テ相當不謹慎ナル言說モアリタルニ剩サヘ漢口
ル傾モアリタリ加之漢口、北平其ノ他ニ在リテハ中國新聞

ハ盛ニ今尙排日記事ヲ掲ケ居リ是等ハ自然日本新聞ニ誤解ヲ與ヘタリト思ハル又滿洲ニ於ケル交渉ニ付日本新聞ハ幾多ノ憶側測カヲ傳ヘソツアルモ日本政府ハ何等滿洲ニ於テ新ナル利權獲得ノ目論見又ハ新シキ所謂積極政策ヲ立テタル次認シテ之ト相互援助ノ精神ヲ發揮セラルルナラハ滿鐵モ亦

第二アラス若シ中國側ニ於テ滿鐵ノ正當ナル業務發展ヲ承認シテ其ノ精神ヲ以テ之ニ對應セントスル趣旨ノ方針ニテ從テ互ニ協調スルコトニ依リ双方ノ希望ヲ調節シタシトノ考ニ外ナラス故ニ中國側ノ或一部ニ於テ唱フル如ク滿鐵ヲ壓迫シテ其ノ勢力ヲ滿洲ヨリ驅逐逐カントシ

又ハ之ニ致命的打撃ヲ與ヘントスルカ如キ單純ナル政策ヲ執ラルルナラハ我方ハ之ニ對シ飽迄反對セサルヲ得サル譯ニテ本官ノ考ニテハ滿洲ニ於テハ滿鐵ノ正當ナル業務發展ト中國側ノ經濟的發展トハ兩立セサルモノニ非スト思ハル曩ニ貴下ヨリ依頼アリタル滿鐵カ中國ノ依頼ニ依リ建設セル鐵道ノ借款條件變更問題（客年往電公第編注(三)九三〇號）ノ如キ滿洲ニ於テ直接双方ノ間ニ話ヲ進メラルニ於テハ適當ニ解决ニ至ルコト困難ナラスト認ム何レニシテモ右ノ精神ハ奉天當局ノ要部ニ充分傳ヘラレ双方ノ利害ノ調節ニ進

九日森島ヲシテ王特派員ヲ往訪客年往電第六〇九號並第
六一四號本官ノ張作相並臧式毅ニ對スル談ニ基キ然ルヘク帝國政
府ノ立場ヲ説明セシメ特ニ政府ノ訓令ニ依ルコトヲ明カニシタル上客年貴電第一七二號後段ノ趣旨ヲ以テ本件聯絡工事至急停止方申入レシメタリ右ニ對シ特派員ハ自分ハ本件ニ關シテハ今日迄何等知ル處ナキヲ以テ關係ノ向ニ付聞合セノ上何分ノ回答ニ及フヘキ旨述ヘタルニ依リ森島ハ重ネテ本件ハ特ニ政府ノ訓令ニ依ルモノニテ政府トシテ重要視シ居ル次第付速ニ措置セラレタク圓滿ノ結果ヲ見ル様特派員トシテ充分盡力セラレントヲ切望スル旨篤ト申入レ置キタリ

公使、北平へ轉電セリ

編注『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』79文書

7 昭和6年1月(1)日 在安東米沢（菊三）領事より
幣原外務大臣宛（電報）

新義州における密輸取締り勵行につき朝鮮總

ム空氣ヲ作ラレンコトヲ希望スト述へ置キタリ

尙王ハ數日中ニ當地發吉林省ノ兩親ヲ見舞歸任スル豫定ナリトノコトナリ

關東長官ヨリ木村理事ニ轉報アリタシ
北平、奉天、天津、關東廳へ轉電シ上海、南京へ暗送ス
編注一「本？」との書き込み訂正あり。

編注二『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』77文書參照。

編注三『右同』42文書別電参照。

6 昭和6年1月10日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

王特派員に対し四洮・打通新連絡工事至急停
止方申し入れについて

奉天 1月10日前発
本省 1月10日後着

第一二號

往電第九號ニ關シ

督府へ訓令方依頼について
安東 発
本省 1月11日後着

第二號

客年貴電第四〇號御訓令ノ趣旨ニ基キ爾來本官ハ隨時安義兩地官憲ヲ會同シ密輸取締ニ關スル具體的對策ニ付協議ヲ進メ九日ノ會合ニ於テ大體意見ノ一致ヲ見タル處朝鮮側ハ表面大ニ協調的態度ヲ示シツツモ裏面ニ於テハ尙未タ安東ヘノ密輸防止ヲ以テ朝鮮ノ對滿輸出貿易ヲ阻害スルモノト爲スノ觀念ヲ脱却スルニ至ラサルハ容易ニ觀取シ得ル所ニシテ曩ニ政府ノ取締勵行方針決定ト共ニ朝鮮總督府ヨリ一應ノ指令アリタルハ事實ナルモ新義州側ニ於テハ右ヲ以テ一片ノ辭令以上ニ重キヲ置カサルカ如ク殊ニ現實監視取締ノ任ニ在ル官吏等ニ對スル首腦者ノ訓告モ從テ徹底セサル憾アリ之ヲ最近ノ實狀ニ徵スルモ朝鮮ヘノ密輸ニ對シテハ取締峻嚴ヲ極ムルニ反シ安東ヘノ密輸ニ對シテハ甚タンク緩慢ニシテ現ニ十日夜ノ如キ數十人ノ鮮人ニ依リ密輸行ハレ我方取締ノ警官一名負傷シタルノ事實アリ元來當地ヘノ密輸入ハ其ノ仕向地タル新義州ニ於ケル取締ニ依リ始メ

テ之力完全ナル防止ヲ爲シ得ヘキ次第ニシテ殊ニ警官ノ増員ナキ當地トシテハ一二先方ノ誠意アル協力ニ俟タサルヘカラサル所ナリ然ルニ事情上述ノ如キ以上如何ニ當方ニ於テ熱心取締ニ當ルトモ結局ハ其ノ實ヲ擧クルコト困難ニシテ延テハ最近著シ好轉セル江岸一帶ノ事態ニ再ヒ火ヲ注クノ虞アリ就テハ本官ニ於テハ朝鮮側首腦部ニ對シ此ノ上トモ取締勵行方勸説スヘキモ取締令ノ發布目前ニ迫レバ先ニテモアリ最緊要ノ時機ナルヲ以テ此ノ際本省ニ於テ拓務省ト御打合ノ上朝鮮總督府ヲシテ國境出先官憲ニ對シ充分政府方針ノ徹底スル様今一應嚴重訓令方御取計相煩度尤モ右拓務省トノ御交渉ニ當リテハ現地朝鮮側ノ感情ヲ害シ蟻蛇ニ終ラシメサル爲右ハ本省自身ノ發意ニ基クノ形式ヲ採ラルル様致シ度シ

公使ヨリ上海、南京へ轉報ヲ請フ
代理公使、北平、奉天、關東廳へ轉電セリ

編　注　『日本外交文書　昭和期I第一部第四卷』223文書

ノ任命ノ點ニ付中國側ノ意向ヲ諒解セラレタント述ヘ更ニ進シテ最近日本新聞カ頻リニ書立テ居ル滿洲鐵道問題ノ如キニ付テハ張學良トノ間ニ南京ニテ何等打合ヲ爲シタルコトナク自分ノ全ク關知セサル所ナルニモ拘ラス日本新聞ハ種々ナル積極政策ナルモノヲ書立テ事態ヲ紛糾ニ導ク虞アリ自分等ノ得タル情報ニ依レハ右ハ日本陸軍ノ劃策トモ言ハレ居レリ

又中國陸軍ニ獨逸人ヲ傭聘セルコトニ付日本新聞紙上彼此ト批評セラレ居ルモ右ハ斷シテ日本ヲ除外スル意味ニアラスシテ却テ中國ノ事情ニ明カナル日本軍人傭聘方ヲ考慮シ居ル程ナルモ何分日本陸軍ノ態度ニ顧ミ事ヲ運フニ困難ヲ感スル次第ナリト洩ラセル趣ナリ尙其ノ際蔣ハ過日政治記念週ニテ爲シタル演說（近ク佛伊ノ關係破れ再ヒ歐洲大戰起リ英國等モ之ニ加入シ日本及中國モ引入レラルヘク而シテ英國ハ衰亡ニ傾クヘシ云々）誤ツテ新聞ニ出甚タ困却セリトノ打明ケ話ヲ爲シ右蔣ノ談ナルモノノ事實ナルコトヲ暗ニ肯定シ居タル由ナリ蔣以外ノモノニアリテモ何レモ眞面目ニ日華關係ノ重要ナルヲ自覺シ兩國間惡感情ノ發生セサル様大イニ希望ヲ表明セルカ殊ニ陳立夫ハ頻リニ亞細亞

8 昭和6年1月12日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

蒋介石が東北鉄道問題につき張学良と何等打合せをなしたことなき旨など談話について

上海　1月12日後発
本省　1月13日前着

第三三號（暗）

過般來黨部方面ノ有力者ニシテ日本側ニ接近ヲ求ムル現象トシテ最近賀耀祖ハ上海ニ於ケル有力邦人ニ接觸シ意見ノ交換ヲ行ヒタシトノ熱心ナル希望ヲ表明シ來リ上海日報ノ波多等ト聯絡シ當地ニ於テ右會合ヲ催セルコトアリ更ニ波多數日前南京ニ赴キ菊池代議士ト共ニ賀ノ斡旋ニテ政府及黨部ノ各方面ニ接觸シ蒋介石、胡漢民、陳立夫、何應欽トモ面會ノ機會ヲ得タリトノコトナリ而シテ右會談ノ際蔣ハ波多等ニ對シ自ラ日華關係ノ改善ニ重キヲ置ク意向ナル次第ヲ明カニシ南京事件等モ幸ニ解決ニ近ツケリ元來自分等（蔣等）ハ日本政府ノ難題トセラル南京事件ノ如キニ付テハ充分解決ノ意思アリ就テハ濟南事件ノ如キハ中國側ニ於テ極メテ困難ヲ感シ居ル事件ナルニ付日本側ニテ委員

主義ノ點ニ立脚シテ日華關係ヲ以テ之力基調トスヘシト論シ更ニ條約改正問題ニ付日本カ事情已ムヲ得スシテ承諾セリトノ形トセス何トカシテ日本ノ同情アル態度ヲ中國一般ニ諒解セシメ得ル様ノ方法ニ依リ之ヲ實行セラレタキモノナリト頻リニ繰返シ居タル趣ナリ他方或ル黨部有力者ハ南京政府ノ中ニハ對日本關係ニ於テ執ルヘキ態度ニ付二派アリ蔣ヲ中心トスル政府及黨部ハ飽迄日本トノ關係ニ重キヲ置キ一層良好關係ヲ齎ラスニ努力スルモノナルカ他ノ一方ハ、胡漢民、劉蘆隱等ノ一派ニテ日華關係ニ重キヲ置カスシテ從來ノ態度ヲ持續スルコト然ルヘシト爲スモノニシテ此ノ點日本側トシテモ注意ヲ要スヘシトノ内密談ヲ試ミタル由ナルカ波多ノ胡等ニ會見セル印象ニ依レハ右ハ必スシモ真相ヲ傳ヘタルモノニアラスト認メラレタル趣ナリ（本官ニ於テモ客年往電第一二七九號ノ通り胡ノ態度ハ必スシモ前記ノ話ノ如クニハアラス漸次改善セラレ居ル様考ヘ居リ旁右有力者ノ談ナルモノハ今少シ以前ノ事態ナラスヤト思考ス）右ハ最近南京政府部内ノ關係ヲ知ル上ニ於テ何等御参考トモナルヘキニ付電報ス

北平、奉天へ轉電シ上海へ轉報、南京へモ暗送セリ

9 昭和6年1月15日 常原外務大臣より
在安東米沢領事宛（電報）

安東密輸問題に關し拓務省に取締り令至急実施
を朝鮮総督府に取締りの徹底を依頼した旨通達

本省 1月15日後7時5分発

貴電第二号及第四号ニ關シ

拓務省側ト協議ノ結果拓務次官ヨリ關東長官宛十五日附公

信ヲ以テ至急廳令実施手配方訓令スルト共ニ同日附朝鮮政
務總監宛電報ヲ以テ右貴電第四号ノ次第ヲ轉報シ客年代理
公使宛往電公^{〔通〕}第四五〇号申合セノ趣旨未タ管下地方官憲ニ
徹底セサル憾アル様認メラル、ニ付更ニ右徹底方配慮セラ
レ本件取締ニ付一層連絡協調以テ取締ノ実ヲ舉クルニ遺憾
ナキヲ期セラレ度旨訓令済ナリ

代理公使、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

代理公使、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

編注『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』224文書別

電

10 昭和6年1月15日 在奉天林總領事より
常原外務大臣宛（電報）

汪特派員は四洮・打通連絡工事停止申し入れに
関し詮議中につき決定次第通知と回答について

本省 1月15日後7時5分発

往電第一二號ニ關シ

本十五日王交渉員ニ回答ヲ促シタル處右ニ關シテハ特ニ慎
重ノ爲自分ヨリ公信ヲ認メテ臧主席ニ報告濟ナルカ主席ハ
右ニ基キ交通委員會ニ照會シ詮議中ナルヲ以テ其ノ内決定
次第回答スヘシト答ヘタリ尙王ハ其ノ際學良ノ歸任期ニ關
シテハ全然不明ナルモ既ニ宋子文ハ南京ニ歸リ王正廷モ數
日中離津ノ筈ナルト共ニ山西、西北兩軍ノ善後措置モ略目
鼻付キタル模様ナルヲ以テ遠カラス歸任スルコトト思ハル
旨語リタルカ他面十六日着奉ノ筈ナル莫德惠カ學良ト打
合セノ爲直ニ天津ニ向フ豫定ナルニ鑑ミ此處四、五日内ニ
ハ學良ノ歸奉ハ望無キカ如シ

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、天津、南京へ轉電セリ

在間島岡田（兼一）總領事より

11 昭和6年1月15日 常原外務大臣宛

我が方検挙の朝鮮人共産党被疑者を中國官憲

において横取りに關し引渡方交渉について

機密第三三號

（1月23日接受）

昭和六年一月十五日

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 常原 喜重郎殿

我方ノ檢挙シタル鮮人共産黨被疑者ヲ中國官憲ニ於テ
横取りノ件

本月八日當館警察署赤司警部ヲシテ武裝警察官三十二名ヲ
引率セシメ（途中銅佛寺分署員二名、頭道溝署員五名、天
寶山分署員十名參加、但シ天寶山署員八名ハ小北溝ヨリ歸
署セリ）從來我方警察官ノ巡回セサル危險地域天寶山北方
茶條溝地方ニ出張セシメタル處一行カ八日夜天寶山ニ到着

スルヤ同地中國官憲ニ於テハ該地方ニ我方ノ多數警察官ノ
第一 東北（滿蒙）懸案解決交渉

（欄外記入）

出動シタルヲ嫌忌シ種々ノ口實ヲ設ケテ其前進ヲ妨害セントノ素振リヲ示シ一方在局子街籌備處長代理（孫延吉縣長）ヨリハ局子街田中副領事及當地商埠局馮科長ヲ通シテ我方警察官力奥地方ニ出動スルコトハ該地方駐屯軍隊保衛團自衛團其他中國側各機關トノ間ニ誤會ニ依リ事端ヲ發生スル虞アルニ依リ至急歸還ヲ命スル様取計ハレ度旨申出アリタリ右ニ關シ馮科長力館員ヘノ内話ニ依レハ右籌備處長代理ノ申出ハ兩三日中ニ張籌備處長モ歸任スヘキ事情ニアルヲ以テ上司ヘノ申譯シテコノ際一應ノ抗議ヲナシ置ク程度ノモノニシテ飽迄我方警察官ノ行動ヲ抑制セントノ意向ハナシトノコトナルモ我方トシテモ無益ノ衝突ヲ避クル見地ヨリ赤司ニ對シテハ現地ノ狀況已ムヲ得サル事情アルニ於テハ奥地ヘノ巡回ヲ見合セ歸還スヘキ旨ヲ命シ置キタル處赤司ハ天寶山分署長トモ協議ノ上奥地ノ巡回ヲ見合セ豫定ヲ變更シテ九日朝天寶山發長仁溝方面ヨリ細麟河小北溝地方ニ出テ同地方ノ共產黨員檢挙ヲ實施スルコトシ九日午後小北溝ニ到着各村落ヲ搜查ノ後被疑者二十六名ヲ檢挙シ頭道溝ニ向ケ引揚ケノ途中同日午後七時過キ細麟河新場里ヲ通過シタル處最近同地ニ新設セラレタル延吉縣公安局第

二分局第六分駐所前ニ差掛リ突然見張巡警三名ニ依リテ過ヲ阻止セラレ次テ分駐所長トノ間ニ約二時間ニ互リ種々交渉ヲ試ミタルモ中國側ハ條約違反ヲ^(二年分)二檢舉者全部ノ引渡シヲ要求シ附近ノ保衛團陸軍側トモ連絡シ若シ應セサル司トシテハ不便ノ土地柄上司ニ指揮ヲ仰クノ方法モナク已ムヲ得ス武力衝突ヲ避クルタメ權宜ノ處置トシテ中國側ノ主張スル引渡シニハ應シ難キモ一時同分駐所ニ身柄ヲ預ケ置キ今後上司ノ交渉ニ依リテ其歸屬ヲ決スヘキ旨ヲ話合ヒヲ徵シテ同所ヲ引揚ケタル趣ニテ一行ハ十日無事夫々歸署セリ（別添赤司警部復命書参照）

依テ本官ハ十二日不取敢田中副領事ヲ局子街ニ出張セシメ局子街田中ト同道孫籌備處長代理ヲ往訪セシメテ本件ニ對スル中國側出先官憲ノ無理解ヲ難詰セシメ更ニ我方ノ意ノアル處ヲ詳細説明シテ抑留中ノ共產被疑者ヲ至急我方ニ押送方並ニ今後コノ種妨害行爲ヲ絶体爲サシメサル様取計方嚴重交渉セシメタル處孫處長代理ニ於テハ本任處長モ兩三日内ニ歸任スヘキヲ以テ此ノ際自己^(日)ノ責任ヲ以テ本件ヲ處

理スルヲ欲セサル事情モアリタルモノノ如ク我方ノ要求ニ對シテ兔角責任免レノ口吻ヲモラシ居タル趣ニテ田中モ已ムヲ得ス張處長歸任迄先方ヲシテ何等熟考セシムルコトトシ一方局子街田中ヲシテ引繼キ交渉ヲ重ネシムルコトトシテ辭去シタル趣ナリ（交渉顛末別紙田中副領事報告参照）次テ十三日局子街田中ハ孫處長代理ヲ再ヒ訪問シテ本件ニ關スル中國側ノ不當ヲ詰リ現地分駐所ノ差出セル文書ニ依リ身柄返還方要求シタル處先方ハ相變ラス主權論立場論ヲ陳辯シテ中國側ノ片面的主張ヲ飽迄主持シ我方ノ要求ニ應スル模様ナカリシモ更ニ田中ヨリ嚴重追求セラレタル揚句考慮ノ上兩三日中ニ回答スヘキ旨答ヘタル趣ナリ（詳細別添田中發本官受電話要旨参照）然ルニ一方局子街田中ノ探知セル處ニ依レハ孫處長代理ハ本件處理方ニ關シ十三日省政府ニ電請シタリトノコトニテ今後ニ於ケル中國側ノ態度如何ハ豫斷致シ難キ次第ナルモ本官トシテハコノ上トモ嚴重交渉ヲ重ネテ我方ノ意ノアル處ヲ了解セシムルコトニ努力スルト共ニ張處長歸任後ニ於テ行ハントスル一般交渉ノ素地ヲ作ル様仕向クル所存ナリ右不取敢報告ス

本信寫送附先 代理公使 上海 北平 奉天 吉林
南京 四分館

（欄外記入）

奉天及吉林ニ於ケル一般交渉ノ熱意足ラス訓令ノ達成前途遼遠ナルヲ思ハシムルモノアリ此際鞭撻ノ要アリト存ス 三浦

（印）

兩線ヲ私費旅行シタル結果齋セル同方面見聞記此際何等御参考迄別紙ノ通報告ス

本信寫送附先 代理公使、上海、哈爾賓、奉天、吉林、天津、長春、鐵嶺、鄭家屯、牛莊、南京

（別紙）

打通線（山通支線）及吉海、瀋海線見聞記

一、打通線沿道

打虎山ヨリ彰武ニ至ル間ハ棉花其他ノ農產物ニ富ミ村落都市點在スルモ彰武、通遼間ハ廣漠タル砂丘地帶ニシテ何等見ルヘキモノナシ

二、吉海及瀋海線沿道

南滿洲穀倉ノ稱アル連山地方ノ沃野ヲ貫通セル鐵道ナル爲朝陽鎮山城子等主要驛ニハ何レモ數百車ノ大豆ヲ野積セルヲ目擊セリ

三、通遼ノ發展

通遼ハ鄭通支線ノ終點タルト共ニ打通線ノ終點ニシテ

肥沃ナル平野ノ中ニ立チ開魯、魯北、天山、林東、林西ノ諸縣ニ通シ對蒙貿易ノ一大中心トシテ昔日ノ鄭家原田通譯官力年末年始ノ休暇ヲ利用シ打通線及吉海、瀋海

在中華民國日本公使館

大使館參事官 矢野 真

機密第四六號

昭和六年一月十五日

（1月24日接受）

原田通譯官の打通、吉海、瀋海線等中國側鉄道沿線の現状視察報告送付について

（1月24日接受）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

原田通譯官ノ打通、吉海、瀋海線旅行見聞記報告ノ件

屯ノ地位ヲ奪ヒ農產物、蒙古產、牛、馬、羊、獸毛皮等ノ取引盛ニシテ殊ニ打通線開通以來ハ人口約三萬ヲ増シ目下六萬ヲ有シ今後益々發展ノ兆アリ

四、通遼ニ於ケル物資集散狀況

通遼ヨリ南下スル列車ハ一日約二十貨車ナルカ右積載物ノ約半數ハ四洮線ヨリ連絡輸送セルモノニテ他ハ通遼ヨリノ各種物資トス又打虎山ヨリ北行スル列車ニ搭載スルモノハ主トシテ石炭、鹽、麵粉、棉花、各種雜貨及山東苦力ニテ其六割ハ四洮線ヲ經テ齊々哈爾方面ニ輸送セラル從テ通遼、鄭家屯、洮南方面ノ出廻り貨物ハ大部分打通線ニ依リ夏期ハ營口ヘ冬期ハ天津ニ出テ荷爲替ニ依ルモノノ外ハ大連方面ニ出テサル模様ニテ最近ハ四平街、八面城方面ノ特產物スラ打通線ニ吸收セラレツツアル現狀ナリ今試ミニ鄭家屯、營口間ニ於ケル打通、滿鐵兩線ノ運賃ヲ比較セハ左ノ如シ

三十噸車一輛ニ付 滿鐵金三圓二十五錢

打通銀二元九十五仙

五、滿鐵ノ苦慮

右ノ如ク滿鐵ハ左右兩競爭線ノ爲少ナカラサル脅威ヲ

同室執務シ居リシカ先般連絡員增加ノ爲特ニ一室ヲ所有シタルニ過キサルカ如シ

昭和6年1月16日 在安東米沢領事より

幣原外務大臣宛（電報）

安東密輸取締り令は日本の恥辱に付發布取り止めか延期を希望との同地商工會議所決議について

第七號

關東長官宛貴電第六號ニ關シ

當地商工會議所ニ於テハ本日緊急常議員會ヲ開キ討議ノ結果密輸ノ取締令ハ國際信義上已ムヲ得サルヘキモ凡ソ世界ニ日本ノ恥辱ヲ暴露スルカ如キ法令ノ發布ハ國家ノ体面ヲ毀損スルコト甚タシク殊ニ該法令力体刑ヲ科シ未遂迄モ處罰スル等中國關稅法ニ定ムル處以上ニ邦人ヲ取扱フハ不合理マレリトノ理由ニ基キ此ノ際該法令ノ發布取止メ方又ハ延期方希望スル意味ノ電報ヲ貴大臣及拓務大臣關東長官

受ケツツアルハ否ム可カラサル事實ニシテ同線ニテハ焦慮ノ餘リ貨物蒐集ノ爲百方手ヲ盡シ居ルモ何分前記支那鐵道運賃カ銀立ナル上競爭ノ爲犠牲的ニ低率トセラレ居ル結果到底之ニ對抗シ得ス從テ豫期ノ效果ヲ擧ケ得サルカ如ク現ニ滿鐵沿線ノ各驛ハ往日ノ如キ特產物ノ載荷ナク又大連埠頭ノ野積カ從前ノ如ク大豆ニ非スシテ石炭ナルニ見ルモ其一端ヲ察知シ得ヘン

六、北寧鐵道ノ東蒙進出計畫

北寧總局ハ十二月末優秀ナル技師五名ヲ打通線調査ノ爲派遣シタルカ偶然同車シタル同局姜秘書官ノ内話ニ依レハ北寧局ハ今回打通線ノ完備ヲ期スルコトトナリ將來ハ一級品ノ機關車ヲ配シ運輸狀態ヲ改善シ四洮線トノ連絡ヲ保チ行ク々ハ北平齊々哈爾間ニ直通列車運轉ノ計畫アルト共ニ打通線ヲ更ニ開魯ニ迄延長セム計畫アルカ何分遼河ノ水流常ニ不同ノ爲未タ建設着手ニ至ラサル趣ナリ

七、通遼ニ於ケル打通、四洮兩線新連絡狀況

通遼滿鐵公所出張員ニ付取調ヘタルモ何等新施設トテハナク從來ハ打通線連絡員カ四洮驛内ニ四洮連絡員ト

宛發スルコトヲ殆ト滿場一致ニテ決議セル趣ナリ依テ本官ハ直ニ荒川會頭ヲ招致（シ）施行理由ハ單ナル警察處分ニシテ法律上ノ体刑ニアラス又罰則ハ本件ノミニ限ラス輸入禁制品取締リ規則ヲ初メ其ノ例乏シカラサルノミナラス此等ノ規則ニハ罰金刑スラ附シアルニ拘ラス獨リ本件ニ付テノミ國家ノ体面毀損ヲ云々スルハ矛盾モ甚タシク其ノ無理解ヲ難シ今更取締令ノ實施ヲ阻止スルカ如キ態度ヲ執ルハ我商民カ今日迄密輸ニ從事シ來リタルコトヲ中外ニ聲明スルニ等シク殊ニ中國側ニ對シ從來内地人ノ密輸從事者絶無ト主張シ來レル本官ノ立場ヲ根本ヨリ破壞シ將來ノ交渉上非常ナル不利ヲ招クモノナリト論シ極力其ノ發電阻止ニ努メタルモ既ニ會議所ニ於テ正當ノ手續ニ依リ決議シタルモノナレハ已ムヲ得ストテ遂ニ發電シタル模様ナリ尙議員ハ本件討議ニ當リ半ハハ自暴自棄的態度ヲ執ル迄興奮シ居タル趣ナレハ本件發電ニ氣勢ヲ擧ケ密輸ニ關シ如何ナル不祥事ヲ突發スルヤモ計リ難ク旁々當地商民間ノ空氣右ノ如キハ益々以テ法令實施ノ必要ヲ感セシムル次第ニ付至急之力發布ノ促進アランコトヲ希望ス

公使ヨリ上海南京へ轉報請フ

支、北平、奉天、關東廳長官へ轉電セリ

編注 「第六號」は一月二十四日前着在安東米澤領事より

在中国
臨時代理公使 重光 蔡殿
所謂支那側對日強硬政策陸軍

光 葵殿
政策陸軍宣傳說二関スル件

幣原外務大臣宛郵第一号により「第五號」と訂正。

14 昭和6年1月16日 中谷（政一）関東庁警務局長より
谷（正之）亞細亞局長宛（電報）

安東の密輸取締見方の公石頭日旅行に参じて

関東庁
1月16日後発
本省
1月16日後着

セリ右報告ス
御指示ニ基キ密輸取締規則（廳令）ハ本日附公布即日施行

15 昭和6年1月17日 谷亞細亞局长より 在中国重光臨時代理公使宛

幾密半公言

昭和六年一月十七日

正月廿二

一部ノ間ニハ最近貴台ト陸軍側トノ間ニ何等行違アルヤノ
風説行ハレ居レリトノ聞込モアリタルニ付過日小磯軍務局
長及建川部長ニ対シ本官ヨリ本件ニ關スル本月上旬貴重

及之ニ引用ノ上村來電等ヲ引用シ陸軍側ノ注意ヲ喚起シタ
ル處陸軍側ニテモ善ク事情ヲ諒解シ早速建川部長ヨリ佐藤

武官宛書面ニテ本件ニ関シテハ何等行違アリタルモノト思考スルニ付今後一層貴台ト連絡ヲ保ツ様申送リタル趣ナナル

ニ就テハ右貴台限リノ御含迄不取敢申進候 敬具

16
昭和6年1月19日
在天津田尻（愛義）総領事代理より

張學良十八日瀋陽歸還について

學良ハ十八日朝十一時半極秘裡ニ「フォード」飛行機ニテ

張學良十八日瀋陽帰還について
天 津 1月19日前発
本 省 1月19日後着
第二六號
學良ハ十八日朝十一時半極秘裡ニ「フォード」飛行機ニテ
歸奉シタルカ右ハ既電ノ通種々風說アル爲皇姑屯事件ノ一
ノ舞ヲ恐レシニ依ルトノ風說傳ハリツツアリ

公使ヨリ上海ニ轉報アリタシ

代理公使、南京、奉天、天津へ轉電セリ

18 昭和6年1月21日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

張福運が安東において日本人監視員十人採用
方を總稅務司に通告した旨を米沢に通知

南京 1月21日後発
本省 1月22日前着

第六一號
本官發安東宛電報

第一號

客年外務大臣宛往電公第一二六八號ニ關シ

廿一日堀内ヨリ張福運ニ對シ貴官發本官宛電報第二號ノ次
第ヲ通報スルト共ニ一月十日附貴官發外務大臣宛機密第二
三號公信ニ依リ安東地方ニ於ケル我方關係各當局力密輸防
止ノ爲凡ユル手段ヲ盡シ居ル事情ヲ適宜説明セシメタル處
張ハ貴國領事力本件ニ付充分協調セラレ居ル次第ハ安東稅
關長ヨリモ報告アリ日本側ノ盡力ヲ多トスル次第ニシテ之
ニ對シ民國側ニ於テモ先達ノ貴官ノ提議ニ基キ安東日本人

外勤員ヲ増員スル爲新ニ外人ヲ任用セストノ既定ノ方針ノ

例外トシテ既ニI、Gニ對シ十人以内ノ日本人^{the waiter}ヲ採用スル權限ヲ與ヘI、Gニ於テ日下物色中ナリト述ヘタルヲ以テ（大臣宛本官往電第三八號參照）堀内ヨリモ中國側ノ態度ヲ謝シ置キタル趣ナリ本件ニ對シテハ大臣來訓ノ趣旨ニ依リ此ノ上トモ御盡力ヲ煩ス

大臣、奉天、關東長官へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

編注『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』237文書

19 昭和6年1月22日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良が盛大な儀式にて勳章を授受について
付記一 昭和五年六月

張學良に対する叙勳見合せについて
二 昭和五年十一月八日着在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛電報第五四三号

張學良の蔣に対し日中關係改善を斡旋すべ
き旨談話について

三 昭和五年十一月十一日付幣原外務大臣より

在中国重光臨時代理公使宛人機密第一一八

号公信

民國政府に対し別にアグレマンを求むること
となく張學良に叙勳取計い方について

奉天 1月22日前発
本省 1月22日後着

第三九號

曩ニ張學良ニ下賜相成タル勳一等旭日大綬章竝ニ勳記ヲ捧
持廿一日午後四時學良ヲ訪問贈與シタル所同人禮服ヲ^{著用}
シ張作相臧式毅以下文武主要大官數十名列席ノ上盛大ナル
儀式ヲ以テ之ヲ拜受セリ委細郵報

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、南京へ轉電セリ

（付記一）
昭和五年六月
日

宮内次官ヨリ秩父宮殿下滿洲御旅行ノ際張學良ヨリ警備其
ノ他ニ付殊ノ外ノ歎待ヲ受ケラレ且品物贈進迄爲シタルニ

（付記二）

奉天 発

本省 11月8日前着

第五四三號

ハ通譯ヲ退ケ極秘トシテ自分ハ今回天津又ハ青島ニ於テ蔣介石ト内治外交上重要政務ノ打合セラ爲スコトトナリタルカ其ノ際小幡「アグレマン」問題ニ付テモ好意的調停ヲ試ミント思ヒ居タル矢先同大使ハ既ニ獨逸駐劄ヲ命セラレ重光氏引續キ公使ヲ代理セラルコトニ決定シタル趣ナル處

日本政府ハ本問題ヲ如何ニ歸結セシメントスル意図ナリヤ自分ハ日支關係改善ニ腐心シ居ルヲ以テ何等自分ニ於テ爲シ得ヘキコトアラハ敢テ蔣トノ會見ニ於テ談合ヲ辭セサルニ付此ノ邊ノ事情ヲ互ニ全然個人ノ資格トシテ出發前林總領事ト談合シタキ積リナリシモ餘裕ナカリシニ付何分ノ儀至急天津宛直接ニ内報ヲ請フト語リタル由ナリ右ハ絃勲ニ對スル感謝ノ意思表示的御世辭ト解セラレサルニアラサルモ御参考迄

北平、上海ニ轉電セリ

（付記三）

人機密第二一八號

昭和五年十一月十一日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在中國

臨時代理公使 重光 葵殿

張學良絃勲ニ關スル件

勲一等旭日大綬章 勲二等 中華民國陸海空軍副司令東北邊防軍司令長官 張學良

右者絃勲ノ件ニ關シテハ本年六月初旬發貴電ヲ以テ御意見御申越ノ次第モアリ一時見合セ置キタル處其後支那時局モ平定シタルニ依リ在奉天林總領事並ニ宮内大臣トモ協議ヲ遂ケタル上此際絃勲ノ取計ヲナスコトト相成本大臣ヨリ上奏ノ結果本月五日附ヲ以テ頭書ノ勲章絃勲被仰出タリ依テ該勳章ハ林總領事ニ遞送シ傳達方取計タルニ付右ニ御了承相成度尚前記貴電中貴任國官吏ヘ外國勳章贈與ノ場合ハ國民政府ヲ經由セラレタキ同國側ノ意図ナル旨御申添有之タル處右ハ同國ニ於テ暗ニ「アグレマン」ノ要求ヲ意味スル

20 昭和6年1月22日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

勳章贈与後張學良に東北懸案の協議解決方を懇惫したところ日本側報道振りに不満表明について

奉天 1月22日後発 本省 1月22日後着

第四〇號（暗）
貴電第六號ニ關シ

本件寫送付先

在奉天 林 総領事
在南京 上村 領事

編注一 「兎モ角モ」の箇所に「此際ハ」と書き込み訂正あり。

り。

編注二 「日支ノ」の箇所に「又々」と書き込み訂正あり。

「問題ヨリ」の次に「諸満州問題ニ付」と書き込みあり。

「北方ニ」の箇所、削除訂正あり。

「止メラレ」の箇所に「取計願」と書き込み訂正あり。

り。

ト中央政府トノ關係漸次親善ノ度ヲ加ヘ近ク條約改正交渉ノ機運ニモ向ハントスルハ東亞大局ノ爲極メテ敬賀スヘキ現象ナルカ東北側ハ日本ト特殊密接關係ヲ有スル關係上神經過敏ナル兩國新聞其ノ他一部現政府反対者流ノ無責任ナル言論ニ依リ最近種々面白カラサル風評外間ニ傳ヘラレ外務大臣並ニ本官等責任者トシテハ甚々遺憾ニ考ヘ居ル次第ナルカ我方トシテハ決シテ新規ナル利已の要求ヲ提出セン

スル諸懸案卽チ主トシテ鐵道ニ關スル未解決事項ヲ協議解
決セントスルニ過キサレハ張副司令ニ於テモ今回來訪ノ木
村理事ヲ相手トシテ虛心坦懷具體的交渉ニ應セラルコト
ト致度將又洮南領事館開設ニ關シテハ我方ハ斷シテ政治的
野心ヲ有スルモノニアラス嘗テ一部浪人等力同方面ヲ中心
トシテ不法ナル政治運動ヲ試ミタル如キ過去ノ經緯ニ拘泥
スルコトナク現政府ノ公正ナル態度ヲ信シテ中國側要求ニ
係ル清津領事館開設ト交換的ニ至急開設ノ運ニ至ル様御盡
力アリタン

(2) ハ王外交部長トノ間ニハ既ニ諒解成立シ日下ノ處之力實
現ハ一二張副司令ノ意嚮如何ニ懸爾次第ナリト附言シタル
後用意シ置キタル貴電第七號ノ漢譯ヲ手交シタル處學良ハ
鐵道交涉ニ關シテハ自己ノ權限ニテ片附ケ得ヘキ事項ハ喜
シテ解決ニ努力スヘキモ然ラサル事項ハ解決困難ナルカ何
レ木村理事ヨリ日本側提案ノ要領ヲ聞キタル上方針ヲ決定
スルコトトスヘシ元來自分力東三省ノ政權ヲ預リテ以來日
本トノ關係ハ圓滿ヲ主眼トセルニ拘ラス最近日本各新聞力
自分ノ誠意ヲ疑ヒ恰モ日本ニ對抗敵意ヲ抱キテ滿鐵ニ對シ
壓迫ヲ加ヘツツアル如キ議論ヲ爲シツツアルハ實ニ了解ニ

苦シム所ニシテ抑之力原因ハ那邊ニ存スルヤ疑無キ能ハス
洮南領事館開設ニ關シテハ自分ハ別段特別ニ反対意見ヲ有
スルモノニ非ス何レ歸省中ノ王外交次長トモ協議シ其ノ結
果中央ニ傳達方取計フヘキモ臨江領事館ニ關シテハ過去數
年來強硬ナル輿論ノ反対モアリ自分トシテハ承認シ難シト
答ヘタルニ付本官ハ重ネテ最近満洲鐵道問題ニ關スル日本
新聞ノ論調ハ主トシテ新聞自体カ餘りニ神經過敏ナルニ起
因スル一方各國トモ有勝ナル一部無責任者流ノ宣傳モ手傳
ヒ全然政府ノ考ヘ居ル所ト反対ナル輿論ヲ釀成シ居ル次第
ナルモ其ノ真相ハ我方提案ノ内容判明次第直ニ水解スル事
ナルト共ニ洮南領事館開設ニ關シテハ此ノ際是非好意的考
慮ヲ拂ハレタシト述ヘ置キタリ

學良ニ會見ノコトニ打合セ置キタリ
公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
支、北平、南京、天津、關東廳長官ヘ轉電セリ

ツツアリ現在ノ満洲ニ於テ日本ト衝突シテ如何ナル結果ヲ招クヘキヤヲ良ク諒解シ居レルヲ以テ日本ト競争ヲ企ツル

依テ自分ハ木村理事ノ開始セムトスル鐵道交渉ノ内容ヲ質セルニ學良ハ會見後ニ非サレハ窺知シ難キモ今日ノ總領事

張學良、張作相には鉄道網を実現して満鉄を
圧迫する意志なき旨湯爾和談話について

引出上に金を給る事無くして済金を
圧迫する意志なき旨湯爾和談話について

廿二日午前湯爾和本官ヲ來訪セルニ依リ折柄居合セタル木村理事ヲモ紹介シタル力同人ハ學良ノ招キニ依リ廿日當地ニ着シ廿一日夜十時王樹翰ニ誘ハレ學良ヲ訪問シ張作相ヲ合セ四人ニテ會談シタリトテ其ノ時ノ模様ヲ大体左ノ如ク

言一

學良ヨリ近ク木村理事來リ鐵道問題ニ關スル交渉ヲ開始ス
ル筈ニテ本日總領事ヨリ其ノ話アリタリト述ヘタルニ付自
分(湯)ハ滿蒙ニ於ケル支那側ノ鐵道政策ニ關シ新聞紙上種々
傳ハレル處アルモ眞相果シテ如何所謂鐵道網ヲ實現シテ滿
鐵ヲ壓迫セントスルモノナリヤ等質問セルニ學良モ作相モ
直ニ之ヲ否定シ支那側ニ滿鐵壓迫等ノ計畫アルヘキ筈無ク
新ニ鐵道ヲ敷設セントスルモ之ニ處スルノ經費モ無ク技術
モ備ハラス新聞ニ傳ヘラルル所ハ全ク捏造ナリト語リ特ニ
學良ハ自分ハ相當ニ遠大ナル觀察ヲ爲シテ事ニ處セントシ

右等ノ話ニ對シ本官ハ此ノ際日支關係ヲ最モ好ク理解セラ
ル貴下ノ來奉ハ眞ニ好都合ナリ昨日總司令ニ對シ我政府
ノ方針ノアル處ヲ説明シ置キタルモ猶實我關係ヲ眞實ニ理
解セラル貴下ヨリモ更ニ總司令ニ對シ今回ノ満鐵交渉力
圓滿ニ進捗スル様御懇意相成度シトテ我方針ヲ詳説シ更ニ
協調ニ重キヲ置ケル我現政府ノ極メテ重大視スル處ニシテ
日支將來ノ關係ニ甚大ナル影響アルヲ以テ其ノ點ヲ特ニ學
良ニ印象セラル様依頼シ置キタル力湯ハ木村理事交渉開
始後ノ模様ニ依リ學良ヲ代表シ我國ニ赴キ朝野ノ有力者間

ニ意思疏通ヲ計ルコトトナルヘシト附言セリ
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、南京、天津へ轉電セリ

在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

22 昭和6年1月23日 第四八號（暗）

張學良第一回鉄道交渉において中央と地方との権限問題並びに民論重視を談話の旨木村理事報告

奉天 1月23日後発
本省 1月23日後着

木村理事ヨリ

第一號

廿二日午后五時張學良ヲ來訪シ就任挨拶ノ後直ニ懸案ニ付話合ヲ求メタルニ張ハ之ヲ快諾シタルモ問題ノ性質上中央又ハ地方ニ於テ夫々權限ヲ異ニスルモノナリトテ逸早ク逃ヶヲ張リタル力法理論形式論ヲ離レテ專ラ事務的見地ヨリ非公式ニ實際ノ權力者ト率直ナル下場均シヲ遂クルヲ妨ケスト大体御指令ノ趣旨ニ依リ日支兩國民ノ感情ノ疎隔空氣

ノ險惡ナル今日先ツ輕微ナル懸案ヲ一掃シ將來ノ對策ヲ冷靜ニ考慮スル基礎ヲ造ルコト今回交渉ノ要點ナリトテ（一）新線問題（二）並行線問題（三）鐵道ノ接續聯絡運賃協定問題（四）借款整理問題ヲ最抽象的ニ陳述シ特ニ先方ノ態度ニ鑑ミ並行線ニ關聯スル問題ハ最初ノ試ミトシテハ稍緩和的ニ左ノ通提議セリ

一、將來敷設セラルヘキ鐵道又ハ條約及契約ニ依リ日本ノ關係アル鐵道ハ今日ノ空氣ニアリテハ容易ニ解決ヲ見ルコト困難ナルヲ以テ空氣改善後ニ於テ中國側力共存共榮ノ趣旨ニ依リ希望セラルニ於テハ日本ハ其ノ建設ニ對シ極力援助協議スルニ吝カナラサルコトヲ茲ニ表明ス但シ目下直ニ日本關係新線ニ對シ強要セントスル意思ナキコトモ亦言明ヲ憚ラス

二、數年來日支兩國間ニ政治的外交問題トナリ居レル並行線ニ關シテハ事態甚々複雜微妙トナリ居ル處小職ノ所見ヲ以テセハ本問題ノ實際的利害關係ヲ有スル鐵道當事者間ニ技術的事務的ニ解決ノ方法可能性アリト信ス而シテ各自ノ政府ニ於テ當事者間ノ實務的解決妥協案ヲ認ムレハ政治的外交問題ハ自ラ消滅スヘシ

右ニ關シテハ總司令ニ於テ可能性アリトノ御考ニテ談合ヲ試ミラル御意向ナリヤ否ヤ

三、日支鐵道競爭問題ニ付テモ滿鐵ハ支那側鐵道ニ包圍セラレ收益ニ大打擊ヲ蒙リツツアリ等新聞紙ニ報道セラルル處一地方ニ幾多鐵道現存スル以上勢ヒ競爭ハ免カレス外間ニ傳ヘラル日支兩鐵道ノ收入減ハ世界不況ノ結果ニシテ已ムヲ得サルモノナリ然レトモ鐵道ノ競爭ニ關シテハ二ノ憂フヘキ影響アリ即チ（一）ハ滿洲ニ於ケル特異ノ關係ニ基クモノニシテ滿鐵ニ於テハ競爭ノ挑戰ニ對シ之ニ應スルノ實力ト準備トヲ有スルモ激烈ナル競爭ノ結果ハ最近ノ空氣惡化ニ鑑ミ勢ヒ政治的問題トモ化シ眞ニ不測ノ事態ヲ發生セシムルノ虞アリ（二）ハ世界的共通ノ經濟的問題ニシテ世界何レニアリテモ競爭ノ結果ハ双方損害ヲ受ケ其ノ間利益ヲ收ムモノハ唯第三者ノミニシテ無法ナル競爭ノ結果ハ互ニ妥協スルノ已ムヲ得サルニ至ル實例甚タ多シ

斯クノ如ク滿洲ニ於ケル日支鐵道間ニ於テ經濟上政治上憂慮スヘキ結果ヲ招來セシムルハ面白カラサルヲ以テ此ノ際虛心坦懷双方互讓的合理的ナル鐵道ノ接續運輸ノ聯

委細郵報ス

23 昭和 6 年 1 月 24 日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

張學良の叙勲に関する松岡代議士の演説は事

実に反するため新聞掲載禁止について

奉天 1 月 24 日後発
本省 1 月 24 日後着

廿四日松岡代議士ハ議會演説中張學良ハ日本勳章拜受後其

ノ場ニテ床ニ叩付ケタリト述ヘタル旨當地本邦諸通信社ニ
入電アリタル處右ハ全然事實ニ反シ學良ハ意想外ニ盛大ナ
ル儀式ヲ以テ我陸軍顧問ヲモ立會ハシメ感激拜領ノ上本官

ニ對シ日本天皇陛下ノ聖旨ヲ体シ日支親善ノ表象トシテ永
ク佩用スルト共ニ今後益々日支親善ニ努力スヘキ旨挨拶シ

タル程ニテ此ノ種荒唐無稽ノ報道ノ傳ハルコトハ鐵道交涉
ヲ目前ニ扣ヘ居ル今日重大ノ惡影響アリト認メタルニ付不

取敢全滿ニ亘リ新聞掲載禁止方手配セリ尙右誤傳ノ出所ニ
付テハ目下取調中ナルモ貴地方ニ於テ御心當リノ點アラハ
御回示ヲ請フ

公使、北平、天津、漢口、廣東、濟南、青島、關東長官、

在滿各領事ニ轉電セリ

24 昭和 6 年 1 月 26 日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

張學良は日本の東北鐵道交涉方針に安堵の旨

を湯爾和に談話について

奉天 1 月 26 日着
本省 1 月 26 日着

本二十六日湯爾和ハ森岡領事ニ對シ左ノ通内話セリ
木村滿鐵理事ノ學良訪問後間モナク（本月二十二日）自分

ハ學良ニ會見シ同理事ノ談話ノ要領並右ニ對スル學良ノ意
向ヲ聽キタル力學良ハ右ニ關シ滿洲鐵道問題ニ付テハ近來

日本新聞力種々穩當ナラサル報道ヲ爲セル關係モアリ如何
ナル提案ヲ滿鐵側ヨリ爲スヘキヤニ付キ天津滯在中ヨリ種々

ノ豫想ノ下ニ之カ應待振及對應策ヲ研究シタルカ歸奉勿々
林總領事ノ談話ヲ聽キ次イテ木村滿鐵理事ヨリ四ヶ條ノ要
求範圍ヲ直接聽カサレテ始メテ日本政府ノ眞意ノ在所ヲ知

リ漸ク安心セル次第ナリ程度ノ相談ナラハ自分ニ在リテハ
本官廿二日ヨリ朝鮮總督府へ出張折衝ヲ重ネタル處朝鮮總

督府側ニ於テハ取締ノ勵行ニハ協力スルモ元來今次ノ取締
カ外務省ニ於テ國際信義ノ保持ヲ念トシ進ンテ之ヲ唱道サ
レタル關係上必然之ニ伴フ鮮人失業者救濟方ニ付テモ無論

外務省ニテ疾ク考究濟ノコトト思考シ居レリト云ヒ特ニ救
濟資金ノ問題ニ關シテハ其ノ尻ヲ持込マルハ迷惑至極ナ
リトノ態度ヲ示セリ右ハ總督府トシテ一應ノ理由ナキニア

ラサルモ在滿鮮人問題トシテ考フレハ爾ク冷淡ナルヲ得ル
ノ理ナク結局本官ヨリ失業鮮人中差當リ糊口ニ窮シ直ニ救
濟ヲ要スヘキモノ一百名（家族ヲ合シ約四百名）ニ對スル

處置腹案（人力車夫箸製造、繩、筵、臥製造等）ヲ提議シ
最低限度四千一百圓ノ資金ヲ要スル次第ヲ詳述シ支出方懇

望シタルニ對シ漸ク外務省又ハ關東廳ニ於テ相當ノ支出ヲ
ナスヘキコトヲ條件トシテ半額見當ノ支出方考慮スヘシト

云フニ落着キタリ

一 東北（満蒙）懸案解決交渉

（欄外記入一）

25 昭和 6 年 1 月 26 日 在安東米沢領事より

幣原外務大臣宛（電報）

安東密輸取締りに伴う困窮朝鮮人救濟費に關

し外務省も半額程度の支出を要請

安東 発
本省 1 月 26 日後着

往電第八號ニ關シ

一 東北（満蒙）懸案解決交渉

曩ニ貴地ニ開催ノ關係官省取締協議會ニ於テ密輸專業者ノ善導問題ニ關聯シ鮮人救濟方考慮セラレタル際所要經費ノ

點ハ如何ナル御打合トナリ居ル次第ナリヤ承知致シタク（一）

萬一何等右ノ如キ打合（ナキ）ニ於テハ早速關係ノ向ト御

協議相願度ク兎ニ角差當リノ急場切抜ケノ爲前記朝鮮總督

府ノ註文モアリ此ノ際半額二千餘圓ノ支出方至急御取計相

煩ハシタシ尙永久的對策トンテハ管内農村ヘノ移住、鮮内

歸農等目下慎重考慮中ナリ

（欄外記入二）

公使ヨリ上海、南京ヘ轉報ヲ請フ

代理公使、北平、奉天、關東廳ヘ轉電セリ

（欄外記入二）

一月二十八日

笛川課長ニ手交済

（欄外記入二）

永久対策ハ六万円ノ經費（新聞記事ニ依ル）ナリ

（在奉天木村（銳市）滿鉄理事より）

永井（松三）外務次官宛（電報）

26 昭和6年1月26日

（

ト語リ且其ノ他要路ノ人々モ小職ノ提議ヲ聞キ安心ノ態ナ

リト語リ居リ張作相ハ學良ヨリ未タ内容ヲ聞カスト稱シ感

想ヲ述フルコトヲ避ケ居ルモ吉林省ニ關スル鐵道問題ニ付

テモ其ノ後小職トノ會談ヲ快諾スル旨ヲ述ヘタリ高紀毅ハ

本件ノ爲態々呼返サレタルコトヲ明言シ何事モ卒直ニ各自

ノ立場ヲ闡明シ充分議ヲ盡シテ解決ヲ進メタキ意思ヲ洩シ

タルモ未タ交渉問題ノ有無、時期トモ語ルコトヲ避ケ居レ

リ尙又勲章問題ハ電通ニ於テ陶尚銘ニ聞合セタル爲意外ニ各方面ニ傳ハリ爲ニ或ハ今回ノ交渉促進ニ相當影響ヲ及ホ

スヘキヤニ想像セラル旁小職ハ都合ニ依リ一旦大連ニ歸り餘熱ノ冷メタル頃ヲ見計ヒ再ヒ來奉ノ上商議促進方ニ努力スルコトナルヤモ計リ難シ爲念

一、邦人方面

1 商工會議所方面

會議所理事者方面ニ於テハ規則ノ制定ヲ豫知シ居タルモ會議所トシテ表面ニ立チ各種ノ對策ヲ講スルハ

穩當ナラスト放任シ居タルカ一月十五日ノ常議員會ニ於テ理事者ノ怠慢ヲ攻撃サレ決議ニ基キ阻止的電報ヲ發スルニ至リタルカ會員ハ會議所理事者ノ怠慢

ヲ攻撃スルコト甚シク而モ反會頭派ノ策動モ加リテ荒川會長ノ攻撃ヲ試ミ或ハ會員ノ脱退或ハ輸入組合トノ合併論ヲ以テ理事者ニ難癖ヲ附ケムトシ今ヤ脱退等ノ分裂ヲ見ムトスル狀況ニアリテ將來理事者對會員トノ關係ニ於テハ密輸ヲ原因トシテ相當ノ紛糾アルモノト豫想セラル

會員中ノ商業者殊ニ常議員等ノ大部分ハ密輸關係ナリト雖モ多數ノ意思ノアル所已ムヲ得サルヲ以テ會議所理事者ニ於テモ密輸取締ニ關シテハ密輸ヲ原因トシテ相當ノ紛糾アルモノト豫想セラル

イ警察方面ニ對シ取締上ノ手加減希望シ且附屬地外ノ取締ノ徹底ヲ要望スルコト

（參照一月二十日附關機高第四〇三號）

密輸取締規則公布前後ノ狀況
外務次官殿

拓務次官殿

昭和六年一月二十六日

關東廳警務局長

27 昭和6年1月26日

（中谷（関東廳警務局長より）
堀切（善次郎）拓務次官宛
永井外務次官）

地日本人・朝鮮人の対応について
安東における密輸取締り規則施行に対する現状

關機高第五五八號ノ二

（2月2日接受）

第一規則制定並ニ取締ニ對スル各方面ノ意図、言動

張學良は我が方の鐵道問題提案に対し此の種の提議ならば商議進行し得べき旨談話について

奉天 1月26日後発
本省 1月27日前着

第三號（暗）

總領事經由拙電第一號ニ關シ

學良トノ會談ノ反響ニ付爾來小職ノ會見セル支那側要路ノ談話ヲ綜合スルニ學良ハ鐵道問題ニ關シ天津ニテ王正廷ト

モ打合セノ上歸奉シタルモノト明言シ湯爾和ハ學良自身モ此ノ種提議ナラハ外間ニ誤解ヲ與フルコトナク話合ヲ進メ得ヘシ

ト語リ且其ノ他要路ノ人々モ小職ノ提議ヲ聞キ安心ノ態ナリト語リ居リ張作相ハ學良ヨリ未タ内容ヲ聞カスト稱シ感想ヲ述フルコトヲ避ケ居ルモ吉林省ニ關スル鐵道問題ニ付

テモ其ノ後小職トノ會談ヲ快諾スル旨ヲ述ヘタリ高紀毅ハ

本件ノ爲態々呼返サレタルコトヲ明言シ何事モ卒直ニ各自ノ立場ヲ闡明シ充分議ヲ盡シテ解決ヲ進メタキ意思ヲ洩シ

タルモ未タ交渉問題ノ有無、時期トモ語ルコトヲ避ケ居レ

善ノ方法ヲ以テ善處スルノ手段ヲ執ラシムルコト等ヲ以テ望マントスルモノノ如シ

2 輸入組合方面

取締規則ノ執行ハ輸入組合員ニ影響スルモノノ最モナルモノアルヲ以テ種々ノ策動ヲ試ミツツアルカ條文中ニ安東、鴨綠江ノ字句ヲ使用シ安東カ恰モ密輸ノ本場ノ如ク現ハレタルハ不穩當ナリ尙沒收ノ外ニ拘留、科料ノ罰則アルハ海關法令ヨリモ酷ナルモノアリ等ト攻撃ヲ試ミツツアルモ發布當日ハ規則ノ研究ニ止マリ對策等協議シタル模様ナシ

3 一般商民ノ影響言動

イ商人中最モ取締規則ノ影響ヲ受クルモノハ卸商、ゴム類商、金物商等ニシテ其他如何ナル商人ト雖幾分ノ打撃ハ免ル能ハス
口一方ニ海關密輸入稅ノ改正アリタル際取締ノ徹底ハ特ニ打撃大ニシテ銀價暴落ノ影響ト相俟ツテ悲慘ナルモノアリ

從來新義州側ヨリ安東ニ物質ノ買出シニ來リシモ

今後ハ安東ノ物價騰貴スルヲ以テ之ト反対ノ現象

4 青年聯盟支部員ノ言動

會議所其他力表面ニ立ツ能ハストセハ他ニ何等カノ名稱ニ依ル團体ヲ造り取締法令ノ撤廢運動ヲ起シ其他對策ヲ講スヘシトノ議論ヲ爲スモノアリ

青年聯盟ニ於テハ一月十九日總會ヲ開催シ本問題ニ對スル對策協議ノ豫定ナルカ密輸問題ニ關シテモ或ハ何等カノ具体方法ヲ論議セラルルニ非ラスヤト思料セラル

5 各種ノ企業計畫

邦人間ニ於テ酒造工場、ゴム製品工場、燐寸製造工

事トナリタレハ將來其方法ヲ研究セサルヘカラスト規則發布後ハ新義州稅關ニ於テ輸出免狀ヲ發給セサシ協議中ナリ

4 密輸運搬人夫方面

密輸スヘキ貨物無キニ至リタル關係上現在ニ於テハ密輸ニ從事スル能サルヲ以テ一般人夫ハ現在鳴ヲ靜メ不穩ノ計畫ヲ爲スカ如キ模様ナキモ其ノ言動ノ主ナルモノハ

イ新義州稅關及中國海關ニ對シ巧ニ輸入手續ヲ欺キ密輸ヲ敢行スヘシ

ロ小規模ニ例ヘハゴム靴ノ如キ五、六足宛体ニ潛メ密輸ヲ行フヘシ

ハ新義州及安東側ノ取締警戒線ヲ突破シ密輸ヲ敢行スヘシ

二新義州側人夫ニ於テハ暴力ヲ以テモ反抗シ密輸ヲ爲スヘシト主張スルモノ相當多キ模様ナリ

木鴨綠江ノ解冰時期ニ至ラハ取締モ漸次緩和スヘキ連絡協調セラルルヲ以テ密輸ハ從來ニ比シ數倍ノ難

ヲ生シ安東ハ自滅スルノ外ナシ

ハ斯ル安東ノ重大問題ニ對シ今日ノ結果ヲ見タルハ要スルニ領事館方面ノ手腕ナキニ依ルモノナリトシ攻撃的言辭ヲ弄スルモノアリ

二安東警察署ノ取締ニ依リ大量密輸ハ不可能ナルヲ以テ少量ノ部分的ノ密輸ヲ敢行スヘシ若之モ不可能ナルトキハ商民舉ソテ安東ヲ引揚クヘント叫ビ一般商人トシテハ密輸ノ方法ヲ研究シ居ル模様ナリ

1 朝鮮人會幹部
取締規則及嚴重ナル取締ハ已ムヲ得サルモノト承知シ居ルモ密輸關係者ノ轉業力重大問題ナリトシ幹部連ニ於テ新義州側トモ寄々研究中ナリ

2 鮮人有力者方面

中國側ノ利益トナルカ如キ取締規則ニ對シテハ反対

ナリトノ意見ヲ抱持スルモノ多シ尙失業鮮人ハ自己ノ生命ヲ保タンカ爲ニハ如何ナル舉ニ出ツルヤ計リ

難キヲ以テ之レヲ救濟ハ安東トシテ重大問題ナリ云々

3 密輸貿易、運送業者方面

中國側ノ爲ニ取締規則ヲ發布シタルハ我國ノ恥辱ニシテ之力爲メニ受クル損害大ナルモノアリトノ意見

ヲ有シ取締規則ニ反対シ居レルカ取締力新義州側ト連絡協調セラルルヲ以テ密輸ハ從來ニ比シ數倍ノ難

へ身体ニ隠匿シ一日數回ニ亘リ江上ヲ往復密輸ノ方法ニ出テントシ之レカ可能ナリヤ否ニ付キ協議研究シ居ル模様ニテ警察官ニ對シスル事項迄取締ルヤ否ノ問ヲ發スルモノサヘアリ

ト海關吏ノ買収方法ニ依ルヘシ

三、海關吏ノ規則ニ對スル感想

海關長ノ如キ幹部ハ規則發布ヲ多トン居ル模様ナルモ警察ニ於ケル沒收品ノ處分ニ付テハ多少ノ研究ヲ爲シ居ルカ如シ

下級海關吏方面ニ於テハ日本側ノ規則發布ハ警察官ノ職務執行ヲ確立セシメ其ノ結果ハ現地海關吏ノ職務執行範圍ヲ縮少セラレタルノ感アリト爲シ居ルカ如シ

第二密輸狀況

1 聽令發布前新義州稅關ニ於テ輸出免許ヲ受ケ居タル貨物ニシテ時機ヲ見テ密輸入セントスルモノアルヲ探知シ警戒中十八日午後七時頃新義州側ヨリ酒樽二十挺ヲ橋ニ積載シ來リ江岸ヨリ陸揚セントシタルモ鐵橋下ニ於テ新義州稅關看視員ニ發見阻止セラレタルヲ以テ埠頭下六道溝等ニ陸揚場所ヲ物色シタルモ之亦警戒中ノ

稅關吏ニ阻止セラレテ目的ヲ果タサス止ムヲ得ス新義州稅關棧橋附近ニテ時機ヲ窺フ内同所ノ集合モ稅關吏及警察官ニ禁止セラレタルヲ以テ貨物番人二名ヲ殘留セシメ他ハ解散歸宅セリ

2 前日迄水上ニ於テハ密輸業者ノ往來頻繁ナリシモ前記事故ノ爲彼等ノ隻影ヲモ認メス密輸ハ全然敢行セラレサル狀態ナリ

3 目下新義州側水上ニハ去ル十六日輸出免狀ヲ得タル酒樽百十七挺アリ其ノ一部ハ密輸セントシテ前記ノ如ク阻止セラレタルヲ以テ之ヲ敢行スル能ハス時機ヲ窺ヒ居ルモノノ如シ

右ニ對シテハ本月十九日請負人ヲ當署ニ呼出しシ貨物ハ一旦新義州ニ陸揚ノ手續ヲ爲シ更ニ鐵道ニ依リ運搬スヘク警告シタリ

28 昭和6年1月28日 帰原外務大臣より
在奉天林總領事宛
亞二機密第九號

林土、臨江兩事件の一体解決を訓令について

昭和六年一月二十八日

在奉天

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

總領事 林 久治郎殿

林土及臨江事件解決交渉ニ關スル件

本件ニ関シ客年十二月十一日附機密公第八九〇号ヲ以テ御報告ノ次第アリタル處両事件ノ解決ニ關シテハ當時中國側責任當局タル兩邊道尹兼安東交涉員ニ於テ明白ニ之力責任ヲ確認シタルハ御承知ノ通ニシテ今日ニ至リ王特派員力

從來ノ經緯ヲ無視シ若林中尉以外ニ對スル責任ヲ總括的ニ否認スルカ如キハ甚タ謂ハレ無キ仕打ニシテ殊ニ其論拠ト

シテ種々牽強附會ノ辯ヲ為シ居ル趣ナルモ我方トシテ到底聽クヘキ限リニ在ラス且又本件解決交渉上冒頭貴信末段御來示ノ如ク若林中尉ノ賠償ノミニ重莫ヨ置クハ他ノ被害者ニ対シ著シキ差別待遇ヲ與フルモノニシテ諸般ノ關係上面

白カラサルニ付両事件ハ当初ノ方針通一体トシテ解決方此上共折衝アリタシ

一 東北（滿蒙）懸案解決交渉

尚貴信追書中村參謀長ト臨江縣長トノ間ニ本件解決ヲ遂ケタリトノ中國側ノ言分ニ関シ陸軍省ヲ通シ中村少將ニ確メ

29 昭和6年1月29日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

編注『日本外交文書 昭和期I第一部第四卷』172文書參照

宋子文より日本陸軍の東北における行動に遺憾表明について

南京 1月29日前發
本省 1月29日後着

第八八號（暗）

客年貴電合第六〇四號ニ關シ

廿八日宋子文ト會談ノ節累次御來報ノ趣旨ニ依リ滿洲問題及鐵道交渉ニ對スル政府ノ態度ヲ説明シタル上新聞記事等ニテ誤解ナキ様述へ置キタル處彼ハ充分ニ理解シ且日本政府ノ眞意ヲ多トセルモ同時ニ右ニモ拘ラス陸軍側ノ滿洲ニ於ケル行動ハ屢々世間ヲ誤解セシムルモノアルハ遺憾ナリト述ヘ居タリ

奉天、北平へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

30 昭和6年1月30日 在奉天林總領事より 币原外務大臣宛（電報）

張作相が鐵道交渉に関し円満解決妥協案成立の見込と談話について木村より報告

奉天 1月30日後発

本省 1月31日後着

第七〇號（暗）

木村理事ヨリ
第二號

三十日來訪セル張作相ノ談ニ依レハ二十三日第一回政務委員會ニ於テ小職ノ會談ノ要領ヲ張學良ヨリ説明ノ上我方ノ

提議ハ堅實味アリ小職ノ交渉ノ精神モ眞面目ニ且ツ和平的ナルカ故ニ本交渉ヲ開始スヘシトノ意図ヲ明白ニシ更ニ第二回ノ會合ヲ催シ小職ノ口上書ノ漢譯ヲ基調トシテ再ヒ協議スル事トナレルカ作相自身モ此ノ精神ニテ進行セハ圓滿ノ解決ヲ見ルヘシト信スト述ヘ双方共自己ノ立場ヲ固執シ相手方ニ強要スルノ態度ニ出テサルニ於テハ妥協案ヲ見出シ得ヘシト附言セリ作相ノ性格ニ徵シ斯カル斷言的言明ヲナセルハ相當支那側ノ議熟シ居ルモノト察セラル程式竣ノ極秘トシテノ内報ニ依レハ既ニ高紀毅ハ本交渉開始ノ内命ヲ受ケ各鐵道局長ニ至急調査報告提出ヲ命シタリトノ事ナリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、南京へ轉電シ哈爾賓、吉林、間島、長春、安東、牛莊、齊々哈爾、鄭家屯、滿洲里へ暗送セリ

31 昭和6年1月31日 在奉天林總領事より 币原外務大臣宛（電報）

東北問題に關し我が方に中國攻擊の捏造情報あり連合本社に対し嚴重注意方上申について

奉天 1月31日後発
本省 1月31日後着

第七一號（暗）

最近特ニ滿洲鐵道交渉力問題トナリタル以來我方某方面ニ於テ一種不純ノ野心ニ基キ故意ニ情報ヲ捏造シテ日支兩國ノ關係ヲ悪化セシムヘク企圖セルヤノ疑アリ現ニ外務省力密接ノ關係ヲ有スル新聞聯合ノ如キ奉天支局ノ通信ニアラサルモノヲ態ト奉天發電トシテ（一）學良蔣介石兩人ノ排日決議ニ基キ滿蒙鐵道網ノ大計畫ヲ以テ滿鐵ヲ壓迫ス（二）奉天ニ英支合辦三千萬元ノ銀行ヲ設立セントス（三）

最近奉天ノ排日傾向特ニ顯著トナリタリ等ノ捏造情報ヲ發表シ又南京聯合發電トシテ學良作相ノ關係惡化シ滿洲ニ内

亂勃發スル虞アリト發表シテ恰モ滿洲ニ於テ最近支那側力

特ニ排日政策ノ實行ニ着手シタルカ如キ誤解ヲ起サシメ且日本ニ於テハ内心滿洲ノ擾亂ヲ希望シ滿蒙力新支那ノ一

32 昭和6年2月(3)日 在奉天林總領事より 币原外務大臣宛（電報）

公使、北平、南京、天津ニ轉電セリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

張學良が間島問題に関し朝鮮人の中国帰化承認を要望しきつ日本警察権の確立に憂慮表明について

奉天 2月3日後着 発

貴電第一九號ニ關シ

本省 2月3日後着 発

第七五號

二月二日張學良ニ會見シ間島問題ニ關シテハ昨年十月九日貴長官ニ會見シ同地方ニ於ケル共產黨ノ跋扈及日支兩國官憲間ニ生シタル不祥事件ニ顧ミ貴我兩國官憲間ニ成可ク聯絡協調ヲ必要トスル所以ヲ述ヘ大體貴長官ノ贊成ヲ得タルカ其ノ後事態ノ推移ハ必シモ我々ノ希望ニ添ハス極メテ憂慮セラルヘキ傾向ニアリ更ニ一層貴長官ニ懇談スル様外務大臣ノ訓令ニ接セリト前置シ間島ハ永年間朝鮮ノ獨立ヲ企圖スル不逞鮮人ノ巢窟タリシカ近年彼等ハ漸次共產化シ

一昨年末以來漸次積極的活動ヲ開始シ貴我ノ官民及施設ニ

對シ計畫的ニ暴動ヲ敢テスルニ至リ遂ニ昨年五月三十日間島各地ニ亘ル大暴動ノ勃發ヲ見ルニ至リ本官ハ翌六月同地方ヲ視察シ此ノ儘ニ放任セハ益々共產黨ノ跳梁ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テ之ヲ彈壓スルニハ日支兩國官憲ノ緊密ナル聯

遺憾千萬ナリ

我方ニハ領土擴張又ハ警察権確立等ニ關スル何等ノ野心アルナク要ハ四十万朝鮮人ノ安住ヲ目的トスルニ他ナラス而シテ苟モ支那領土タル以上勿論支那側ヲ主人公トスルモ事態ノ必要上我警察官モ之ニ加ハリ共同ノ敵タル共產匪ヲ絶

滅ニ努力セントスルモノナル處若シ貴我兩國官憲間ニ意思ノ疏通ヲ缺キ相互ノ行動ニ齟齬アル場合ニハ却テ共產匪ノ爲漁夫ノ利ヲ占メラル虞アリ切ニ聯絡協調ノ方針ニ出テラレントヲ望ムト說キタル處張督辨ニ於テハ多少諒解シ始メタル様子アリシモ尙我方ノ誠意ニ對シ誤解ヲ存シ居ルニ非スヤト思ハル節アリ依テ貴長官ニ更ニ懇談ノ考ナリシモ十一月初旬南下セラレタル爲遂ニ其ノ機會ヲ得スシテ止ミタリ爾來間島ニ於ケル局面ノ推移ヲ見ルニ本官ノ張督辨ニ對スル數次ノ交渉ニモ拘ラス出先支那官憲ハ毫モ協力ノ方針ニ出テ斯我警察官力捕縛セル共產匪ヲ途中ニ待伏シ考セラル我方ニ於テハ警察官ニ對シテ支那側トノ衝突ヲ避

クル様嚴重ニ命令シ居ルヲ以テ幸今日迄事ナキヲ得タルモ此ノ儘ニテ進マハ極メテ重大ナル結果ヲ招來スルノ虞アリ跋扈セシムルニ至ルヘシ我政府ニ於テハ前述ノ如ク共產匪ノ掃蕩ニ依リ同地方ノ治安ヲ安全ニ保持スルノ一事以外ニ何等ノ野心モ期待モナキ次第ナルヲ以テ我誠意ヲ諒解シ同

地方官憲ニ對シ我方ト圓滿ナル關係ヲ保チ共產匪ノ取締上聯絡協調ノ實ヲ舉クル様訓令セラレントヲ切望スト申入レタルニ學良ハ之ニ對シ間島ハ東三省ニ於ケル共產匪ノ最猖獗スル地方ナルカ單ニ現狀ノミニテハ未タ左程大シタ事ハナカルヘキモ此ノ儘ニ放任セハ將來必ス重大化スル虞アルハ素ヨリ云フ迄モナキ所ナレハ茲ニ自分ハ忌憚ナク本問題ヲ二ツニ分ケテ意見ヲ申述フヘシハ鮮人ノ國籍問題ニシテ次ハ取締ノ問題ナリ即チ朝鮮人ハ現在二重國籍ヲ有スル爲取締ノ實ヲ擧ケ難ク又日本側ヨリ云ヘハ主トシテ支那側ノ取締ニ俟タントシ彼等ハ何レトモツカサル中間的地位ニ立チ居ルヲ以テ此ノ中間的地位ヲ利用シ其ノ跋扈活動ヲ恣ニスルモノナレハ之力取締ノ實績ヲ擧ケントスレハ先ツ此ノ二重國籍問題ヲ解決セサルヘカラス

此ノ點ニ關シ日本ハ何故ニ朝鮮人ノ歸化ヲ許ササル次第ナリヤ次ニ延吉方面ニ於ケル共產匪ノ取締ニ關シ日支兩國官憲ノ聯絡協調ニ對シテハ素ヨリ不贊成ノ意見ヲ有スルモノニハ非ス此ノ點ニ付テハ吉林省政府當局並ニ延吉出先官憲ニ於テモ決シテ不同意ニハ非サルヘント思ハルカ唯一般ノ最モ恐ル處ハ日本警察権ノ確立ニシテ兩國官憲ノ聯絡

協調ト云フモ若シ日本警察權ノ確立ト云フカ如キ結果トナ
ルニ於テハ一般ニ對シテ甚々苦シキ立場ニ立ツコトトナル
ヘキ(一チアキ)ノ述ヘタルニ依リ本官ハ先日王家楨トモ懇談シタル
次第ナルカ國籍問題ニ付テハ現ニ我政府ニ於テ折角詮議中
ナリト思ルルヲ以テ將來ニ於テ何等力妥當ナル解決ヲ見ル
ヘシト想像セラルモ唯朝鮮人方面ニハ歸化ヲ許スニ對シ
テモ反対アリ許ササルニ對シテモ反対アリ從テ許可云々ハ
時期ノ問題ニ屬ス他方假令歸化ヲ許スコトスルモ中ニハ
歸化ヲ欲セサルモノモアルヘク我政府ニ於テ歸化ヲ許シタ
レハトテ左ノミ本件解決ニ資スル處無カルヘシ次ニ警察權
ノ問題ハ前述ノ通全ク共匪取締以外何等他意アルニ非ス
其ノ從前ニ比シ目立チテ見ユルハ一兩年來共匪ノ活動特ニ
甚シクナリタル爲自然取締方面ニモ已ムヲ得ス活氣ヲ見ル
ニ至リタル迄ノコトナリト説明シタル處學良ハ本件ハ單ナ
ル外交上ノ交渉案件ト看做サス實際的ニ解決スヘキ重大問
題ナリ延吉方面ニ於ケル兩國官憲カ一家族ノ如キ關係ニ於
テ一切ノ誤解ヲ去リ從來ノ如ク警察權ノ範圍ヲ越ササル程
度ニ於テ協力シテ犯人ノ檢舉ニ努ムルハ望マシキコトナレ
ハ何レ張作相トモ篤ト協議ノ上聯絡協調方ニ付充分努力ス

往電第七五號會談ニ次キ學良ハ更ニ本件ハ甚々言フヲ好マ
ス實ハ秘書ヲ派シテ言ハシメムト思ヒ居タルモノナルカト
前置キシ新聞紙上ニ松岡代議士力議會ニ於テ自分力日本ノ
天皇陛下ヨリ下賜セラレタル勲章ヲ投付ケタリ云々トノ質
問ヲ爲シタル記事見受ケラレタル處松岡氏ノ如キ人物力議
會ニ於テ斯ノ如キ言ヲ弄セラルハ甚々面白カラスト思ハ
ルルカ自分トシテモ誠ニ迷惑千萬ニシテ遺憾ニ堪ヘスト述
ヘタルヲ以テ本官ハ松岡氏ヲシテ斯カル言ヲ吐カシメタル
ハ政黨政治ノ致ス處ニシテ日本ニ於テハ官民共ニ別ニ氣ニ
留メタルモノナキ模様ニテ當地ノ新聞ニモ右ハ掲載セラレ
サル旨ヲ述ヘタル處學良ハ木村理事モ來奉シ鐵道問題交渉
ノ矢先斯カル事件ヲ故意ニ持出シテ人ノ迷惑ヲモ顧ミス延
テハ兩國ノ關係ヲ阻害スル結果ヲ招來スルカ如キ言動アル
ハ遺憾ナリト述ヘタリ
公使、北平へ暗送セリ

~~~~~

34 昭和6年2月3日 在南京上村（伸一）領事より

幣原外務大臣宛（電報）

中央党部紀念週における張繼の東三省問題に

ヘク尙延吉邊防督辨吉興ニモ歸任ヲ延期シ滯奉中ナレハ同  
人ニモヨク注意シ置クヘシ何レニセヨ兩國官憲間ニ疎隔ア  
ル間ハ實效ヲ期シ難シト述ヘタリ依テ本官ハ貴長官カ斯ク  
迄ノ理解アルハ眞ニ欣快ニ堪ヘス依テ更ニ同方面ノ支那側  
警察充實ノ參考迄ニ申上クトテ同方面ノ支那警察充實ニ日  
本警官ヲ召聘スル如キモ一法ト思ハルト述ヘタル處學良ハ  
同方面今回ノ事態ニ對シ現在ノ制度及人物ニテハ到底其ノ  
任ニ堪ヘサル憾アルニ付同地方ノ官制改革方考慮中ナル旨  
答ヘタリ

公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ

吉林、間島、支、北平、南京へ暗送セリ

33 昭和6年2月(3)日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

張學良が叙勳問題に関する松岡代議士発言に

遺憾表明について

第五八號 第七六號 奉天 本省 2月3日前後  
二日中央黨部紀念週ニ於ケル張繼ノ東三省問題ニ關スル演  
說要領左ノ通御参考迄

自分ハ一昨年秋日本遊歷ノ歸途朝鮮ヲ經テ東三省ヲ遊歷シ  
昨冬又遼東ニ赴キタル(原)吉敦鐵道ヲモ旅行セルカ東北ノ形  
勢ハ西北方面ヨリモ一層危險ニシテ困難ナル民生問題ヲ解  
決シ國家ノ基礎ヲ鞏固ナラシメントセハ吾人ハ即チ東北問  
題ヲ腦裡ニ畫クヘシ張學良ハ非常ナル苦心ニ依リ東三省ヲ  
良ク維持シ居レルカ吾人ハ東北ノ形勢ヲ見ルニ付ケテモ之ヲ  
援助セサルヘカラス東北ニ於ケル鐵道森林移民及鮮人問題  
等ハ何レモ眼前ノ急務ナルカ日本帝國主義者ノ在野黨及  
軍閥ノ大本營タル參謀本部ハ今ヤ全力ヲ擧ケテ民政黨内閣  
ヲ攻撃シツツアリテ今後如何ナル紛糾ヲ來スヤモ知レス我  
同志ハ須ク注意スヘシ云々

代理公使ヨリ上海へ轉電セリ



幸ニ諸君ガ上司ノ意圖ヲ體シ一方支那側ト連絡協調ヲ保チ善處セラレタル結果今日迄大事ナク經過シ得タルハ同慶ニ堪ヘズ然シ將來必ズシモ樂觀ヲ許サザルモノアリ先ヅ各署長ノ執ラレツツアル共產黨運動取締ニ關シ支那側トノ協力狀況ヲ述ベラレ度シ

## 二、璉春署長

支那側ト連絡ニ付テハ大體上司ノ方針ニ從ヒ共產黨ノ檢舉ニ付テハ當地方ノ狀況トシテ我方ガ單獨ニテ積極的行動ニ出ヅルハ暫ク考慮ヲ要スルモノアリ支那側ノミヲ信賴スルニアラザルモ先ヅ順序トシテ我方ニ於テ得タル情報中事大ナルモノハ縣政府ニ小ナルモノハ縣公安局ニ通報シ相協力シテ警戒ニ努メソツアリ爾來支那側ハ共匪暴舉其ノ他不穩文書撤<sup>(撤)</sup>布等ニ對シ嚴重警戒中ナルガ如キモ軍警ハ共產運動ニ關スル知識乏シク取締上遺憾ノ點多シ今後共匪ノ行動惡化セバ第二段ノ措

置トシテ共同搜查ヲ提議シ之ヲ斷行セザルベカラズト思料ス支那側ハ例ニ依リ體面上之ニ應ゼザルヤモ測ラレズ然レドモ支那側ノ面目ヲ考慮スルニ於テハ敢テ難事ニアラザルベク只檢舉犯人身柄ノ處置ガ問題トナル

締上遺憾ノ點多シ今後共匪ノ行動惡化セバ第二段ノ措

## 三、頭道溝分署長

昨年十一月總領事ヨリノ訓令ニ基キ情報ヲ確メ支那側ニ通報スルモ支那側ヨリハ進デ當方ニ情報ヲ送リ來タルコトナシ例ヘバ土門子地方ニ斯ル事件アリシ由ナルガ知ラザルヤト問ヘバスル事アリタリト答フル位ナリル様屢々訓示ヲ爲シツツアリ

今回土門子出張ニ依ルモ從來ヨリ支那側ノ態度ハ改メラレアルモ三道溝ニ於ケル分署ノ犯人檢舉事件ニ對シ支那側ハ斯ル行動ハ如何ナル錯誤ヲ生ズルヤモ計難キ旨申出デ不快ノ狀アリ其ノ後當方ヨリ可及的情報ヲ通知シツツアリ支那側トノ共同搜查ハ目下ノ處可能ニシテ現ニ大荒溝ニ當方ヨリ五名支側ヨリ七名一松亭ニモ當方ヨリ三名支那側ヨリ五名共同出張搜查ヲ爲シタルコトアリ犯人ヲ支那側ニ交付セバ何時ニテモ實施シ得ラル尤モ當方ニテ犯人ヲ引取ルコトハ困難ナルベシ目下ノ處分署ハ人員少キ爲共匪ノ被害事件後直ニ警察官ヲ出張セシムルコト頗ル困難ナリ

## 四、黑頂子分署

支那側トハ至極圓滿ニシテ五、三十事件其ノ他ノ事件ハ支那側ニハ電話ノ便アルヲ以テ速ニ之ヲ知リ分署ニモ之ヲ通報シ來ル狀態ナリ交渉事件モ二、三アリシガ其ノ都度特務ヲ派遣シ居レルガ殆ド解決ヲ見タリ又朝鮮側ハ慶興署長、新阿山署長同憲兵分遣隊長トモ相互連絡ヲ保チ居レリ

## 五、末松理事官

璉春地方モ廳テ間島方面ノ如ク共匪ノ暴行續出スベシト言フ者アルモ私ノ見ル所ニテハ璉春ハ日支ノ關係モ至極良好ニシテ尙地帶ガ殆ド朝鮮ニ包マレ居ル關係上間島ト同一ニ視ルコトハ出來ザルベシ然シ今後充分ノ查察ヲ要スベシ今璉春ニ來リ諸君ノ話ニ依レバ對支關係ハ至極良好ニシテ寔ニ結構ナリ將來現狀ヲ維持シ得ルヤ否ヤハ斷言シ難キモ今ヨリ防遏處置方法ヲ講究シ事件ヲ未然ニ防グコトハ肝要ナリト信ズ之ガ對策ヲ承知シ度シ

## 六、璉春署長

先づ諜者ヲシテ共匪ノ内情ヲ知悉シ如何ナル人物ガ主トナリ居ルカヲ確メソツアルガ現在三名乃至五、六名ノ共匪ガ祭禮其ノ他農民集合ノ機會ニ共產黨加入方ヲ勸誘シ居レルガ目下ノ所出沒敏活ナルヲ以テ當署ニ於テハ其ノ主動者ノ檢舉ニ重キヲ置キ煽動強要ヲ受ケ加入セシ者ノ如キハ何時ニテモ檢舉シ得ラルモ主謀者ヲ捕フルコト困難ナリ今未派ヲ檢舉スルハ策ノ得タルモノニアラザルモノト思料ス豫防警察ノ目的ヲ達スル爲當署ハ昨年年末ヨリ絶エズ地方ニ出張セシメ共匪ノ

取締偵察等ニ努メツツアリ

七、末松理事官

ヲ主トシ且共産黨運動ノ撲滅ヲ期セラレ度シ支那側トノ協調其ノ他ニ就テハ琿春署長ノ執リツツアル方法ニ同感ナリ今後益々親密ニ交際シ感情ヲ融和シ治安維持ノ目的ヲ達セラレ度シ

八、毛利主任

狀況自ラ異ナルガ當地方ノ取締振ト間島方面ノソレト相違ノ點アラバ警察部ノ御意見承知致シ度シ

九、芥川警部

總活的ニ言ヘバ間島ハ自力主義琿春ハ他力主義ナリ間島方面ハ少人員ノ分署ニ於テモ小事件ナリト雖徹底的ニ取締ニ努メ琿春ノ遣リ方ハ極言セバ支那側ニ好感ヲ持タセ檢舉セシムルガ如キ方法ナリ然シ土地ノ狀況ニ依リテ治安ヲ維持スルコト可能ナルニ於テハ何等差支ナキ次第テアルモ若シ今後事件發生ニ際シテハ此等ノ方法ニテ帝國ノ官憲駐在スル以上在留民ハ承知セザルベシ故ニ第二段ノ備ヲ必要トス從來ノ傳統モアリ琿春

地方モ一概ニ將來平穩說ハ斷言出來ザルヲ以テ特ニ警戒ノ必要アルベシ

十、頭道溝分署長

琿春方面ハ從來支那側ニ無斷ニテ出張センカ地方ノ軍警ハ我警察官ニ向ヒ發砲或ハ直接間接ニ妨害的態度ヲ執ルヲ以テ一層連絡ヲ密ニシテ之ヲ理解セシメ共匪取締ノ目的ヲ達成スルヲ可トスベシ

十一、末松理事官

間島地方ハ共匪七百名ヲ檢舉シ以テ治安ヲ維持シ琿春地方ハ豫防警察ノ目的ヲ達シ共匪ノ害ヲ未然ニ防ギ共ニ時局ニ當リ聲價ヲ擧ゲ得居レルモ尙努力ヲ要スルアリト思料スルヲ以テ一層ノ奮勵ヲ望ム尙共産黨運動ニ就テハ鮮人民會役員等ノ自覺ヲ促スコト必要ナルト共ニ一般鮮人ニ對シテモ思想善導ヲ必要トスベシ

十二、決定

(一) 謀者ヲ利用シ徹底的ニ共産黨ノ内情ヲ豫知スルコト  
(二) 主謀者ノ檢舉ヲ第一要義トスルコト  
(三) 巡察隊偵察隊ヲ派シ豫防警察ノ目的ヲ達成スルコト  
(四) 支那側ト一層連絡ヲ密ニスルコト

(五) 萬一ノ場合断乎タル處置ヲ執ルノ用意アルベキハ勿論ナルコト

貴電第一号並第一三号ニ關シ

編注 本文書以下、収録文書の冒頭に☆印のあるものは、外交史料館所蔵『外務省警察史』中の「間島ノ部」間島琿春地方外務省警察ノ沿革 第六 昭和五年間島地方共産党暴動ヨリ滿州事變ニ至ル」、「同 第七ノ一 滿州事變及其ノ以降」、「在吉林總領事館及敦化分館 第二」より採録した。

38 昭和6年2月6日

幣原外務大臣より  
在安東米沢領事宛（電報）

安東密輸取締りによる困窮朝鮮人救濟費二千円支出について

付記 二月六日高裁済み

安東密輸取締りによる困窮朝鮮人救濟費支  
出に関する高裁案

本省 2月6日後8時36分発

(付記)

安東ニ於ケル鮮人失業者救濟方ノ件

安東鐵道附屬地ニ於ケル鮮人ノ大袈裟ナル密輸行為力最近民國政府ノ注意ヲ惹クニ至リ國交上並正当ナル經濟發展上不問ニ附シ難キモノアリタルヲ以テ本省ノ發議ニ依リ一昨年來拓務省、朝鮮總督府及關東廳等關係當局ノ間ニ之力取締ニ關スル協議ヲ重ネタル結果本年一月十六日密輸取締規則（關東廳令）ヲ公布スルニ至レリ然ルニ之力取締勵行ノ結果從来安東在住邦商ノ手先トシテ密輸ニ從事シ來レル鮮人（家族ヲ合シ約二千名）ノ糊口ヲ奪フコトヽナリ自ラ招キタル所トハ云ヘ人道上並鮮人統治上放置スルニ忍ヒサルヲ以テ現地領事等ニ於テ之ヲ正業ニ轉換セシムヘク腐心シツヽアルモ此ノ懶惰ナル習癖ト一般ノ同情少キ等ノ為轉業甚シク困難ナル狀態ニ在リ

依テ在安東領事ハ差当リ救濟ヲ必要トスル約百名（家族ヲ合シ約四百名）ニ對シ人力車夫、箸製造、繩、筵、呴製造等ニ從事セシムルノ案ヲ立テ之ニ要スル最低限度四千百円ノ補助ヲ得ル為客月二十二日自ラ京城ニ出張朝鮮總督府ト懇談ノ結果同府ニ於テハ本省又ハ關東廳ニ於テ相當ノ支出

ヲ為スヘキコトヲ条件トシテ半額支出方考慮スヘキ旨言明アリタル趣ニテ同領事ヨリ本省ニ於テ右半額二千円支出方願請ノ次第アリ純理上ヨリスレハ本件失業ハ自業自得ニシテ進ムテ救済スヘキ筋合ニアラサルモ本件取締ニ付テハ本邦商及鮮人等ノ怨府トナリ不穩分子ノ策動ニ依ル妄動モ懸念セラル、際同領事ノ立場ヲモ考慮スルノ必要アリト認メラル、ニ付此際右願請ヲ容レ金二千円ノ高在外居留民臨時保護取締費機密費ヨリ支出シ度キ處昭和五年度本機密費ハ既ニ全額支出済ナルニ付昭和六年度同機密費ヲ引当トシテ五年度經常機密費ヨリ右額ヲ立替支出相成様致シ度

右仰高裁

昭和六年二月六日

高裁濟

39 昭和6年2月9日 常原外務大臣より  
在南京上村領事宛（電報）

中國鐵道法案の内容探査の上報告方訓令

本省 2月9日後11時15分発

在安東

領事 米澤 菊二〔印〕

外務大臣男爵 常原 喜重郎殿

帽兒山領事館設置問題ニ關スル民國側輿論ノ件

本件ニ關シテハ客年十二月廿七日附機密第五二八號批信ヲ以テ報告致シ置キタル處其ノ後ノ情報ニ據レハ民國側ハ依然反對的輿論ノ喚起ニ努メツツアル趣ニ付其ノ情況何等御参考迄ニ左記ノ通報告申進ス

記

一、遼寧省外交協會帽兒山支部ハ帽兒山領事館設置ニ對シノ節ハ全文郵送アリ度シ

在支公使、奉天、北平へ轉電シ在支公使ヨリ上海へ転報セシム

~~~~~

40 昭和6年2月9日 在安東米沢領事より
常原外務大臣宛

帽兒山領事館開設に関する遼寧省外交協會決議文などの中國側反対情況につき報告

機密第七二號

昭和六年二月九日

（2月13日接受）

ニ贊同セラレ熱誠ナル後援ヲ乞フ云々

二、臨江縣長董敏舒ハ帽兒山ニ日本領事館設置サレルハ鮮

人増加ノ爲勢ヒ中國ノ主權ハ侵害セラルヘントテ之ヲ
快トセス管内公安局長宛移住鮮人ニ歸化強要若クハ縣
外驅逐方次ノ如ク令達シタル由ニテ該地方ハ日貨排斥
ノ形勢サヘアリ内鮮人渡航者ノ動靜ニハ細心ノ注意ヲ
拂ヒ往々ニシテ尾行スルコトスラアリ

帽兒山領事館設置ニ對シ日本ハ表面上移住鮮人保護ヲ
目的トスル故ニ縣内ノ移住鮮人ヲ悉ク縣外ニ放逐スル
カ或ハ我國ニ歸化セシメ支那服ヲ着用セシムレハ其ノ
主張スル所ナキニ至ルヘシ然レ共露骨ナル壓迫ヲ加フ
ルトキハ對外的ニ面白カラサルニ付官民協力シテ圓滑
ナル方法ニヨルヘシ尙分館設置ニ關シ日本側ノ利ヲ圖
リ援助行爲ヲナシタルモノハ賣國奴トシテ嚴重處罰ス
ヘシ云々

三、八道溝（厚昌郡對岸）中國官憲ノ言ニ據レハ日本政府
ハ民國十六年來帽兒山領事館設置ヲ計畫シ爾來所有奸
策ヲ弄シ最近ニ至リテハ中央政府ノ大官ヲ巧ミニ買收
シ漸ク其ノ承認ヲ得タル趣ナレハ假令地方民ノ反對ア

ルモ日本側ハ之ニ屈セサルヘキヲ以テ再ヒ紛擾ハ免レ
サルヘシ云々

四、輯安縣ニ於ケル某小學校教員ハ學童ニ對シ「本年七、
八月頃帽兒山ニ日本領事館設置セラルルトノ風評ナル
カ中國利權擁護ノ爲斷然反對ニテ日本ノ滿蒙侵略政策
ヲ驅逐スヘシ」ト訓話シタリ

五、要圖、敦化縣地方ニ潛伏セル鮮人共產黨本部ニ於テハ
帽兒山領事分館設置說再燃ニ伴ヒ設置後ノ取締ヲ憂慮
シ曩ニ派遣セル金州、濱江縣方面ニ於ケル共產黨宣傳
員朴璘會ニ對シ分館設置前臨江縣下ニ暴力團數名ヲ派
シ分館設置ニ伴フ紛擾ヲ機會ニ分館員ヲ暗殺スヘク嚴
命シタリトノ風評アリ

六、一月十四日安東々邊商工日報記事ニ據レハ外交部ヨリ
本件領事館設置ニ對スル遼寧省政府ノ意見ヲ徵シ來リ
タルニ對シ省政府ハ民衆ハ極端ナル反對意見ヲ表示シ
ニ基キ已ニ婉曲ニ拒絕シタリトノコトナリ

七、帽兒山中國官邊ニテハ民國諸般ノ行政施設充實セムト
スル今日日本領事館ヲ新設スルカ如キ不合理ノ外交政
事ニ對シ且安東領事館ヨリモ證據書類ヲ取寄研究シタル處
ニ依レハ昭和三年六月十七日附岡田領事及邴道尹調印ニ係
ル覺書ニハ單ニ林土臨江事件ニ關シ道尹ハ朝鮮軍ト輯安臨
江兩縣知事間ニ取極メタル約定ヲ確認ストアルノミニテ取
極ノ内容ヲ記載セス而シテ輯安臨江兩縣知事力日本軍側ニ
對シ兩事件解決ノ約束ヲナシタルコトヲ立證スヘキ支那側
提出ノ關係書類トンテハ邴道尹發岡田領事宛民國十七年六
月十七日附照會外字第七六號及照會外字第七八號ノ二通ア
ルノミナル處照會外字第七八號ノ分ハ日本軍ヨリ臨江縣知
事ニ對スル要求四ヶ條ヲ列記シ右ハ商酌ノ餘地無キニアラ
サルモ地方官ハ外國軍官ト條件決定ノ權限無キニ付國際慣
例ニ基キ領事ヲ經由シテ申出アリタント言フニ止リ又外字
第七六號ノ分ハ中村司令官ヨリ輯安縣知事ニ對シ林土臨江
兩事件ニ關シ（）縣知事ニ於テ誠意ヲ以テ土匪ヲ討伐シ地方
一帶ノ安寧ヲ維持スルコト（）犯人逮捕ノ際ハ即時通知アリ
タキコト（）警察署長及責任警官ヲ嚴重處分スルコト（）知事
ハ對岸ノ日本軍隊々長ニ對シ陳謝スルコト（）被害者ニ對シ
テハ知事責任ヲ以テ慰藉及賠償ヲナスコトノ五項ヲ提出シ
タルカ知事ニ於テハ（）（）（）項ヲ承認シ四項ニ對シテハ遺憾

41
策アル筈ナク寧ロ既設領事館ヲ減少スヘキナリトノ見
解ヲ有ス
本信寫送附先 公使、北平、奉天、南京
昭和6年2月9日 在奉天林總領事より
在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛
林土、臨江兩事件の一體解決は困難と認められ
若林大尉の賠償金を獲得の上被害者全体に分配
の方針にて進行すべき旨意見具申について
機密第一〇七號
(2月16日接受)
昭和六年二月九日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

林土臨江事件解決交渉方ニ關スル件

本件ニ關シ一月二十八日附亞二機密第九號貴信ヲ以テ當初
ノ方針通兩事件概括的交渉解決方御申越ノ次第アリタル
元來本件解決方ニ關シ邴東邊道尹兼安東交渉員カ明白ニ責
任ヲ確認シタリト言フモ當館ニ於テ詳細ニ當時ノ關係記錄

ノ意ヲ表シ五項ニ對シテハ當然撫恤スヘキモノナルモ本項ハ外交官ノ手ニ依リ解决スヘキモノニシテ知事ニ於テ決定シ難キ旨ヲ回答セルニ日本軍ニ於テハ之ヲ不満足ナリトシ兵力ヲ用ヒテ脅迫シタルニ依リ地方治安ノ爲ニ不得已全部承認シタルモ根本解决及撫恤金ニ關シテハ今後ノ交渉決定ニ俟ツヘキモノナルコトヲ保留回答シ邴道尹ニ於テモ右日本軍ノ脅迫ニ依ル條件取極ハ國際慣例ニ反スルモノナレハ根本解决及撫恤金ニ關シテハ改メテ決定シタク且日本軍撤兵以前ノ取極ハ無價値ナル旨日本軍ニ聲明方ヲ同縣知事ニ訓令濟ナルカ斯種交渉ハ今後領事ヲ介シ要求セラレ度シ云ト記載シアルニ過サルヲ以テ此際本館ニ於テ此等不利益ナル支那側公文ヲ引用シ縣知事カ日本軍ノ要求條件ヲ承認シタル確證ナリトシテ岡田邴覺書ニ關連セシメ當地支那官憲ニ抗議スル時ハ徒ラニ支那側ニ責任回避ノ口實ヲ與フルニ至ル虞アリスノ如ク岡田邴覺書ナルモノニ我軍對縣知事約束條項ヲ附記セサル缺點アル上ニ林土臨江兩事件ニ關シ輯安臨江兩縣知事對日本軍間ニ損害賠償ヲ含ム我方要求條件五ヶ條承認ニ關シ双方記名調印ヲ經タル取極ノ如キモノヲ發見セサルヲ以テ交渉甚々困難ナルノミナラス假令斯

本軍ノ脅迫ニ依ル條件取極ハ國際慣例ニ反スルモノナレハ根本解决及撫恤金ニ關シテハ改メテ決定シタク且日本軍撤兵以前ノ取極ハ無價値ナル旨日本軍ニ聲明方ヲ同縣知事ニ訓令濟ナルカ斯種交渉ハ今後領事ヲ介シ要求セラレ度シ云ト記載シアルニ過サルヲ以テ此際本館ニ於テ此等不利益ナル支那側公文ヲ引用シ縣知事カ日本軍ノ要求條件ヲ承認シタル確證ナリトシテ岡田邴覺書ニ關連セシメ當地支那官憲ニ抗議スル時ハ徒ラニ支那側ニ責任回避ノ口實ヲ與フルニ至ル虞アリスノ如ク岡田邴覺書ナルモノニ我軍對縣知事約束條項ヲ附記セサル缺點アル上ニ林土臨江兩事件ニ關シ輯安臨江兩縣知事對日本軍間ニ損害賠償ヲ含ム我方要求條件五ヶ條承認ニ關シ双方記名調印ヲ經タル取極ノ如キモノヲ發見セサルヲ以テ交渉甚々困難ナルノミナラス假令斯

セサルモ若シ陸軍側ニ於テ林土臨江兩事件ヲ包括シ出先軍憲對輯安臨江兩縣知事間ニ無條件ニ損害賠償ヲ含ム我方提出五ヶ條ノ解決條件ヲ承認セシメ雙方記名調印ヲ了シタル日支兩文ノ證文様ノ如キモノアラハ御取寄御送附ヲ請フ

本信寫送付先 代理公使、北平首席、南京、安東各領事

編注一三 「館」の箇所に「官」との書き込み訂正あり。

42 昭和6年2月10日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

中国鐵道法案第十条の内容につき報告

上海 2月10日後発 本省 2月10日後着

第一二八號

南京宛貴電第三九號ニ關シ

鐵道法草案「テキスト」ナルモノノ譯文ハ八日當地發聯絡船ニ托シ發送セルカ同船九日長崎着直ニ東京へ郵送方事務長ニ依頼済

尙第十條ノ内容左ノ通

カル約定文書ノ交換アリタリトルモ支那側ニ於テハ前顯邴道尹ノ來信ノ如ク日本軍ノ武力脅迫ニ依リ已ムヲ得ス條件附ニテ承諾シタルモノナリトノ主張ヲナスコト疑無ク王特派員ノ主張ニ對シテハ適宜應酬ヲ重ネ居ル次第ナルモ事件發生後數年ヲ經過シ支那側ノ責任者全部更迭シ居ル今日御來示ノ方針ニ基キ交渉ヲ進ムルハ現下當地方支那官場ノ空氣ニ鑑ミ實際的效果ヲ擧クル所以ニ非スシテ結局兩件ヲ懸案トシテ殘スノ結果ニ終ルコト略ホ疑ヲ容レス從テ實際問題トシテハ矢張リ昨年十二月十一日附機密公第八九〇號拙信末段開陳ノ通先方ノ責任ヲ回避シ得サル若林問題ノミヲ目標トシテ解決ヲ試ミ一定ノ賠償金ヲ得タル上ハ外務省陸軍省及朝鮮總督府三方面御協議ノ上林土臨江兩事件被害者全体ニ對シ可然御分配ヲ願フコト最モ可能性アルカ如ク此トテモ公式ノ交渉ニ依ラス非公式ニ懇談スルノ外解決ノ途ナカルヘキコトハ現地駐在官トシテ本館ノ確信スル處ニ付今一應御考量ノ上何分ノ儀折返シ御示達相成度幸ヒ右本館所見ニ御同意ヲ得ハ若林大尉ニ對スル賠償金ヲ主眼トシテ他ノ諸條項ハ先方ノ出方如何ニ依リ適宜掛引ニ利用スルコト致スヘシ尙當館及安東領事館保存ノ書類中ニハ發見認セス

外交協定ニ依リ明許又ハ默認セル各路線ノ借款建設優先權ニシテ現約ヨリ相當ノ時間ヲ經テ履行シ能ハサルモノハ本法公布ノ日ヨリ完全ニ其ノ效力ヲ失フ又國際間ニ互認セル民國領土上ノ鐵道敷設權或ハ其ノ範圍モ國民政府ハ總テ承認セス

北平、奉天、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

意向との談話について

43 昭和6年2月11日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良の木村滿鉄理事と事務的打合せをなす

第九〇號（暗）

張學良ハ十日當地本邦記者團ト會見ノ際鐵道交渉問題ニ關スル問ニ對シ大要別段日本ト交渉スヘキ問題ナキモ折角木村理事來奉中ニ付事務的打合ヲ爲シタキ意嚮ナリトノ趣旨ノ回答ヲ爲セル趣ノ處右ハ政治的交渉ヲ避ケ本件交渉ヲ鐵道業務上ノ問題ニ局限セントノ意嚮ヲ指スモノカト察セラ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、南京へ轉電セリ

44 昭和6年2月11日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
張學良など中國側當路者を困難な立場に置か
ないよう日本側報道に留意方上申

奉天 2月11日後発
本省 2月11日後着

第九二號（暗）

鐵道交渉問題ニ對スル支那側新聞論調等ハ往電第五八號以來左シタル變化ヲ認メサリシ處兩三日以來弗々鐵道關係記事ヲ散見シ十日東三省民報力「東北ニ於ケラ日支鐵道問題」九一號ノ通各紙共外交協會ノ反對運動ヲ特筆大書スルニ至リタルカ吉海線ノ交渉其ノ他既往幾多ノ事例ニ徵スルモ將又外交協會力日本新聞記事ヲ根據トシテ學良ニ質問要求シ居レル點ヨリ見ルモ右支那側新聞ノ變調ハ舊臘以來内地諸

現狀ニテハ直ニ新聞ニ譯載セラレ輿論ヲ刺戟スルコト多ク

延テ本件交渉ニ對スル風潮ヲ誘發スルノ懸念鮮カラス右ノ傾向ハ黨部等ノ關係上南京方面ニ於テモ恐ラク同様ナルヘク南京政府ニ於ケル鐵道法制定計畫ノ如キモ之力制定ニ付テハ素ヨリ幾多ノ理由アルヘキモ鐵道交渉ニ對スル日本新聞通信ノ記事論調ニ刺戟セラレタル結果トモ觀察シ得ラレサルニアラス

新聞通信ノ指導ニ付テハ勿論充分御留意ニコトトハ思考スルモノ及ホスヘキ影響ノ重大ナルニ鑑ミ^潜越乍ラ當地方

ノ事情申進旁卑見電報ス

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、南京へ轉電シ吉林、哈爾賓へ暗送セリ

~~~~~

45 昭和6年2月11日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中國鐵道法案第十條は東北の日本關係鐵道を  
対象としていないとの陳延炯内話について

奉天 2月11日後発  
本省 2月11日後着

### 第七八號

貴電第三九號及代理公使發閣下宛電報第一二八號ニ關シ十日陳延炯ノ内話ニ依レハ本案ハ要スルニ官營及民營各鐵道ノ國營化ヲ目的トスルモノニテ第十條ノ規定ノ如キモ外國借款ノ目的トナレル鐵道モ今後中國側ニ於テ買收シ得トノ原則ヲ確定セントスルモノニ止マリ本條ノ起草ニ當リ滿洲ニ於ケル日本關係ノ鐵道ヲ對象トシテ考慮セルコトナン（陳ハ右日本關係ノ鐵道ノ如ク借款後一定ノ措置ニ出テタルモノハ茲ニ包含セラレストノ解釋ヲ述ヘタリ）而シテ直接本條項ニ關係アルハ湖廣及同成（大同成都間）等ノ鐵道ニ過キストノコトナリ

尙立法院法制委員會委員羅鼎力館員ニ語ル處ニ依レハ本法案ハ二週間前鐵道部ヨリ廻付セラレ各委員ニ配付セラレタルカ（一月三十一日配布セラレタル由）立法院ニハ目下多數ノ懸案アルニ付未タ日程ニモ上リ居ラス本案カ法制及經濟委員會ノ審查ニ廻サル迄ニハ茲數ヶ月ヲ要スヘシトノコトナリ（陳延炯ハ審査終了迄ニハ半年ヲ要スル見込ナリト言ヘリ）

立法院方面ノ意向ハ今後共精々探査スヘキモ右不取敢

新聞並通信力本件交渉ニ關シ幾多ノ記事論說ヲ掲ケタルニ依リ直接間接刺戟セラレタル結果ナルヤニ思考セラル元來東北四省ノ政治力大体ニ於テ張學良ヲ中心トシテ動キ居ルハ御承知ノ通ニシテ學良ノ地位勢力亦近來頓ニ重キヲ加ヘツツアルハ事實ナルモ舊派要人ニ取巻カレ且側近ニ傑出セル有力者無キ學良トシテハ諸般ノ問題處理上要人連ノ手前ヲ憚リ且民意ヲ氣ニスルハ自然ニシテ學良カ木村理事トノ第一回會見ニ於テ當路者ノ立場ノ困難ナルコト竝民意尊重ノ必要ナルコトヲ説キ

又洮南領事館開設問題ニ關シテモ常ニ要人連ノ反對ヲ云爲シ居ルハ一概ニ遁辭トノミ速斷シ難ク一面ニ於テ東北ニ於ケル學良ノ立場ノ機微ナルヲ反映シ居ルモノト認メ得ヘシ從テ今後鐵道交渉ニ際シテモ我方トシテハ支那側當路者ヲシテ民論等ノ關係上困難ナル立場ニ立タシメサル様最善ノ注意ヲ加フルコト肝要ニシテ之力爲本官ニ於テハ當初ヨリ滿鐵側トモ充分打合セノ上地方新聞ニハ成ルヘク本件關係記事ノ掲載ヲ見サル様留意シツツアル次第ナルモ近來内地新聞通信ニ本件關係情報力簡拔ケニ漏洩スルノ傾キアルハ甚タ遺憾ニシテ日本新聞ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ居ル支那側ノ

尙當方ニテ入手セル本草案「テキスト」ハ全文二十八條及各條ニ附屬セル提案説明ヨリ成リ上海ヨリ送附ノモノト同ナリト認メラルモ爲念全文郵送ス

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

公使、北平、奉天ヘ轉電セリ

46 昭和6年2月16日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

**鉄道運賃差別に關し鐵道部は廢止の意向との**

劉業務司長などからの聞込みについて

第一五七號

中國鐵道運賃差別待遇問題ニ關シ在當地金井鐵道省書記官（ヲシテ？）鐵道部方面ニ接觸ヲ保タシメ居レル處十五日同書記官劉業務司長ニ面會外國品差別運賃ハ「コンモンキヤリヤー」タル鐵道ノ根本原則ニ反ストノ趣旨ニテ右撤廢方ヲ說キタルニ對シ劉ハ三月一日ヨリ南京ニ開催ノ筈ナル

運賃改正會議ニ於テ一般ニ運賃ノ引上ヶヲ爲スト共ニ差別

上海 2月16日後発

本省 2月16日後着

十六日孫鐵道部長ニ面會ノ際同様ノ意見ヲ述ヘタルニ對シ同部長ハ本件ハ元來實業部ノ主張ニ係ル處ニテ目下實業外交鐵道ノ三部ヨリ特別委員ヲ選ヒテ協議中ナルニ付不日解決スヘシト答ヘ尙孫部長ハ事實外國品ナリヤ判明シ難キ場合アル爲鐵道從業員ニ收賄ノ機會ヲ與へ實ハ鐵道部トシテ迷惑ニ感シ居レリ委員會ニ於テ廢止ノ意見が出ルコトト豫期シ居ル次第ナリト答ヘタル趣ナリ右ハ大体鐵道部ノ意見ヲモ反映シ居ルモノト認メラルルモ尙注意ノ上既定ノ方針ニテ手配ヲ進メ居ル次第ナリ

北平、奉天、天津、青島ヘ轉電シ上海、南京ヘ暗送セリ

47 昭和6年2月17日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛

**安東海關に日本人監視員の採用実現について**

機密第八一號

昭和六年二月十七日 在安東

領事 米澤 菊二

48 昭和6年2月17日 中谷閔東府警務局長より  
永井外務次官宛

**東北鐵道交渉に対する遼寧國民外交協會の策動について**

關機高支第一三七四號ノ二  
（2月23日接受）

昭和六年二月十七日 関東府警務局長

外務次官殿

日本ノ滿蒙鐵道政策ニ對スル遼寧國民外交協會ノ策動本月十日遼寧外交協會ヨリ各縣政府宛日支鐵道交渉問題ニ對シ左記譯文ノ如キ反對宣傳文ヲ郵送セリト謂フ

記

惟フニ日本ノ對華政策ヲ探り來レル以來全力ヲ滿蒙拓殖ニ傾注シ其ノ着眼點タルヤ所謂鐵道政策ニアリ現在我東北各鐵道ハ既ニ連絡ヲ保ツニ至リタルヲ以テ其ノ形勢ハ滿鐵ノ一大打擊ヲ受クル所トナリ其ノ野心タルヤ益激發シ過般滿鐵理事木村ヲシテ來奉セシメ其ノ重要使命タル鐵道交渉ニ至ラシメ我國ノ不利ニ導カント欲セリ

日本新聞ノ報導スル處ニ依レハ我方ニ向ツテ提出セル條件

本信寫送附先 公使、北平、奉天、南京、上海、關東長  
右報告申進ス

本信寫送附先 公使、北平、奉天、南京、上海、關東長  
官

一、中國ノ建築セル打通、錦朝ノ二鐵道ヲ承認セサルコト

二、吉會線ヲ至急建設スルコト

三、洮昂、吉敦線ノ借款契約ヲ改訂スルコト

四、日支兩方ニ於テ運賃ヲ協定スルコト

以上四項ヲ見ルニ一、三、四ノ各項ハ孰レモ附屬事件ニシテ就中最モ重要ナルハ第二項ノ吉會線敷設問題ナリ

蓋シ吉會線ノ築成ハ所謂日本力北滿運輸ヲ操縱シ北滿富源ヲ開發スルモノナラス軍事上更ニ莫大ノ便利ヲ得ルコトトナリ

如何ナル理由アリト雖絶對承認シ難ク我副司令ハ能ク権利ノ如何ヲ熟知セラルルヲ以テ極力拒絕セラレ尙本件ハ

中央ニ移管ノ上我方ノ利益ヲ維持シ日本ノ野心ヲ逞シクセシメス我國ノ主權ノ確保セラレンコトヲ請願シテ止マス謹

ソテ所見ヲ具申セル所ハ不惡御高察ヲ乞フ旨ヲ具申スルト同時ニ王花一、金恩（二名）、廣（二名）ノ四名ヲ推シテ代表トシ該

呈文ヲ持シ副司令ニ面謁セシメ一切ヲ言上セシムルコトトセリ伏シテ御諒察ヲ乞フ

神原農場内にフォード工場建設の計画ありと  
の情報の真偽に付調査方訓令

本省 2月19日後4時10分発

第三三號（暗）

貴地神原農場内ニ「フォード」工場建設ノ計畫アリ我力陸軍側ニ於テ之ヲ支持シ居ルヤノ聞込アル処取急キ承知シタキ必要アルニ付事實ノ真相出来得ル限り詳細回電アリタシ

50 昭和6年2月19日 币原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使他宛

米代理大使より米國で東北における鉄道建設あるいは買収のための対中、対独借款交渉は

行なわれていない旨通告について

亞一機密合第一七八號

昭和六年二月十九日

外務大臣男爵 币原 喜重郎

〔本信送付先〕本信末尾記載ノ通

滿洲鐵道敷設ニ對スル米國投資說ニ關スル件

豫テ米國系乃至獨逸系資本ノ滿洲鐵道投資說新聞紙等ニ傳

ヘラレタルコトアルハ御承知ノ通ナル處先般在本邦米國大使館「ドウマン」書記官谷亞細亞局長ヲ來訪シ滿洲ニ於ケ

ル鐵道問題交渉ニ付質問セルニ付大体客年十一月十四日附

亞一機密合第一四九三號（又ハ第一四九四號）別紙第二號

ノ趣旨ニテ可然應酬セルニ同書記官ハ米國トシテ滿洲ノ鐵

道ニ投資セムトスルカ如キコトナント述ヘ居リタル趣ナリ

然ルニ今般「ドウマン」書記官（目下臨時代理大使タリ）ヨリ谷局長宛書翰（別添寫参照）ヲ以テ米國政府ノ承知ス

ル限リニテハ滿洲ニ於ケル鐵道ノ建設又ハ買收ノ爲支那側又ハ獨逸側ニ對シ借款ヲ與フルト云フ如キ話合ノ米國ニ於

テ行ハレ居ルコトナキ旨外務省ニ通報方國務省ヨリ訓令ニ接シタリトノ趣旨申越シタルニ付右何等御参考追申進ス尚

右「ドウマン」書記官ノ谷局長ニ内話セル所ニ依レハ右國務省訓令ハ米國大使館ヨリ全省ニ請訓シタル結果ニ非ス

テ國務省ヨリ自發的ニ接到セルモノナル由  
本信送付先 在華代理公使、在北平矢野參事官、上海、漢口、奉天、吉林、哈爾賓、天津、間島、青島、濟南、廣東、

第一七九號（暗）

<sup>(1)</sup>今回南京滯在中王外交次長トモ兩度會見シタルカ其ノ内御参考トナルヘキ點左ノ通

（一）木村理事ハ奉天ニテ備忘錄トシテ四ヶ條ヲ提出セラ

レタルカ其ノ内容ハ勿論一般新聞ニ傳ヘラレタルモ

ノト異ナリ同理事自身モ中國側力之等諸點ニ付商議開始ヲ欲スルニ於テハ交渉ヲ開始シ差支ナシトノ緩和シタル態度ヲ採ラレ好印象ヲ與ヘラレ居ルカ奉天

ニ於テハ同理事ニ對シ出來ルタケノ歡待ヲ爲シ居ル  
筈ナリト述ヘ其ノ他種々本官ノ質問ニ對シ木村理事  
ト張學良トノ語合ハ大體右ニテ終了シ又副司令トシ  
テモ此ノ上鐵道問題ニ付同理事ト話合ヲ爲ス譯モナ  
ク今後ハ鐵道委員會ヲシテ同理事ノ提案ヲ研究セシ  
ムルコトトナレルカ交渉ヲ開始スルヤ否ヤハ未タ決  
定セス開始ニ決定ノ上ハ多分高紀毅ヲシテ之ニ當ラ  
シムル様<sup>(子)</sup>定ナリト語レリ

(二) 滿洲各地ニ於ケル鮮人ニ對スル共匪ノ活動ハ最近愈々  
激シキモ中國側トシテハ歸化問題力解決セサル以上  
實際上充分ニ之ヲ取締ルコト能ハス從テ地方官憲中  
ニハ日本カ歸化ヲ許ササルニ於テハ鮮人ヲ外國人ト  
シテ滿洲ヨリ退去セシムルノ外ナシト主張スルモノ  
モ相當アリ尤モ歸化權ノ問題ハ中國側ヨリ日本側ニ  
對シ要求シ得ヘキ筋合ニモアラサルヲ以テ滿洲問題  
緩和ノ爲日本側ヨリ進ソテ之ヲ解決セラレントヲ  
希望スト云ヘルニ付本官ハ鮮人歸化問題ニ付テハ過  
般貴下ノ意見ヲ伺ヒテ以來色々考慮シタルカ要ハ日  
中兩方面ヨリノ眞ノ協調ニアリ歸化權ノ問題ノ如キ

ニハ日本カ歸化ヲ許ササルニ於テハ鮮人ヲ外國人ト  
シテ滿洲ヨリ退去セシムルノ外ナシト主張スルモノ  
モ相當アリ尤モ歸化權ノ問題ハ中國側ヨリ日本側ニ  
對シ要求シ得ヘキ筋合ニモアラサルヲ以テ滿洲問題  
緩和ノ爲日本側ヨリ進ソテ之ヲ解決セラレントヲ  
希望スト云ヘルニ付本官ハ鮮人歸化問題ニ付テハ過  
般貴下ノ意見ヲ伺ヒテ以來色々考慮シタルカ要ハ日  
中兩方面ヨリノ眞ノ協調ニアリ歸化權ノ問題ノ如キ

52 昭和6年2月21日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛  
上海ヨリ南京ニ轉報セリ  
北平、奉天ニ轉電セリ

安東密輸取締りによる失業朝鮮人救済並び邦  
商苦境打開策について

機密第八九號

昭和六年二月廿一日 在安東

(2月24日接受)

領事 米澤 菊二〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

密輸取締影響對策ニ關スル件

密輸取締廳令實施後ノ密輸狀況等ニ關シテハ客月卅日附機  
密五六號拙信ヲ以テ及報告置キタル次第アル處其ノ後ニ於  
テモ安義兩地關係官憲ノ取締協力ニ依リ右拙信記載ノ狀況  
ト同様僅ニ鮮人等ノ零碎ナル密輸アルニ過キス江岸一帶平  
隱<sup>(隠)</sup>ニシテ從前ト全ク面目一新ノ感アリ然ル處他面失業鮮人  
救濟並邦商苦境打開ノ二問題ハ依然當地ニ於ケル最モ厄介  
ナル懸案トナリ出先官憲ノ立場トシテハ右兩者ノ積極的對  
策ヲ講スルノ道德的責任ヲモ感スル次第ニ有之前者ニ關シ  
テハ豫テ本省ヨリ支出方御許可相成タル救濟資金ト近ク補  
給ノ運ニアル朝鮮總督府下付資金ト合シ曩ニ及報告置キタ  
ル方法ニ依リ何時ニテモ救濟ノ實施ニ入り得ル見込ナルモ

ハ一問題タルニ止マリ根本問題ニハアラサルヘシ尙  
在滿鮮人ニ退去ヲ命スルカ如キハ無責任ナル新聞論  
說ノ辯論トシテハ別ナルモ苟クモ親善ナル關係ヲ維  
持シツツアル兩國間ニ於テ國內ニ平和的ニ住居シ居  
國人ハ何等條約上ノ權利ヲ以テ居住シ居ルモノニア  
ル相手國人ヲ退去セシムルカ如キハ平時ニ於テハ全  
ク有リ得ヘカラサルコトナリ日本ニ在留スル多數中  
國人ハ何等條約上ノ權利ヲ以テ居住シ居ルモノニア  
ル譯ナルモ彼等力中國人タルノ故ヲ以テ退去ヲ命シ  
得ル譯ナルモ彼等力中國人タルノ故ヲ以テ退去ヲ命シ  
スルカ如キハ未タ考ヘタルコトモナシト應酬シ置ケ  
リ

其ノ他王ハ法權撤廢漢口租界回収等ニ對スル日本側  
態度ヲ尋ネタルニ付王部長ニ對スルト同様回答シ置  
ケリ

上海ヨリ南京ニ轉報セリ  
北平、奉天ニ轉電セリ

劍ニ局面打開ノ方策ヲ考究セシムルノ機運ニ向ハシムル様  
努力スルト同時ニ本官自ラモ此ノ議ニ參畫シ積極的ニ打開  
策ノ指導又ハ援助ニ當リツツアル次第ナルモ何レモ一タ一  
朝ノ事業ニ非サルヲ以テ差詰メ多クノ期待ヲ繫キ得サル憾  
アリ然レトモ取締規則實施後既ニ一ヶ月ヲ越エ多少冷靜ニ  
大局ヲ注視スル向モ弗々現ハレ殊ニ有識階級ニ於テハ夙ニ  
取締緩和ニヨル商勢維持ノ見込ナク旁此ノ際安東商民ハ舉  
テ適正ナル經濟發展策考究ニ入ルノ要アリト爲シ本官ノ新  
聞ニヨル宣傳ト相俟テ此ノ傾向ハ次第ニ大ナラントシツ  
アルヲ以テ本官ニ於テハ目下右氣運ノ助成ニ全力ヲ注ギ居  
ル次第ナリ尙今日迄ノ右兩方面ニ於ケル事業ノ經過<sup>(概)</sup>左  
記ノ通リナルニ付委細左ニ就キ御承知相成度不取敢右報告  
申進ス

## 記

## 一、失業鮮人救済問題

(本省及總督府ヨリノ下付ノ資金ニヨル救濟關係ハ後  
日別ニ報告ス)

本法案中我方トシテ特ニ注意ヲ必要トスルハ第十條第一項  
ノ規定カ満蒙ニ於ケル我方既得ノ權益ヲ排除セントスルモ

貴電第八七號ニ關シ

本省 2月23日後3時20分發

中國鐵道法案が正式公布の場合は時機を逸せ  
ず適當の措置を講じたき意向について

専門的調査ヲ各専門家ニ依嘱シ以テ有效適切ナル方策  
ヲ建テ公正ナル經濟發展ニ努ムルコトトスヘキ旨ノ申  
合ヲ爲シタリ右申合ニ基ク對策ノ具体化カ如何程ノ實  
效ヲ奏スヘキカハ目下ノ所豫測シ難キモ一般ノ氣運極  
メテ眞摯ナルモノアルニ徵シ多少共局面好轉ニ向フモ  
ノト信セラレ一般商民側ニ於テモ本件催シニ多大ノ望  
ヲ囑シツツアル實狀ナリ

本信寫送附先 公使、北平、奉天、關東長官、朝鮮

總督、

53 昭和6年2月23日 帰原外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

ノナルヤニモ認メラル點ニシテ果シテ然ラハ我方トシテ  
ハ固ヨリ之ヲ承認シ得ヘキ限りニ非スト雖モ同條項ノ字句  
ハ其ノ意義必シモ明確ナラス又南京來電第七八號等ノ次  
第モアル一方本法案力立法院ニ廻付セラレタルノミノ現下  
ノ段階ニ於テ警告等ノ措置ニ出ツルコトハ同院ノ傾向ニモ  
顧ミ却テ中國側ノ態度ヲ硬化セシメ我方ノ意圖ト反對ノ結  
果ヲ招來スルノ虞ナキニ非ス尙又立法院ノ本法案審査終  
了迄ニハ尙相當時日ヲ要スル見込ナル趣ニテモアリ傍々我  
方トシテハ引續キ中國側ノ眞意突止メニ努力スルト共ニ權  
益擁護ノ爲メ必要ト認メラルニ於テハ本法案力正式公布  
ヲ見タル際機ヲ逸セス我方既得權益ハ本法ニ依リ何等影響  
ヲ受クヘキモノニ非サルコトニ付キ適當ノ措置ヲ講スルコ  
トト致置度意向ニ付右ニ御承知置相成度シ

木村理事ニ内示アリタシ

代理公使北平上海南京ニ轉電セリ

第四〇號（暗）

専門的調査ヲ各専門家ニ依嘱シ以テ有效適切ナル方策  
ヲ建テ公正ナル經濟發展ニ努ムルコトトスヘキ旨ノ申  
合ヲ爲シタリ右申合ニ基ク對策ノ具体化カ如何程ノ實  
效ヲ奏スヘキカハ目下ノ所豫測シ難キモ一般ノ氣運極  
メテ眞摯ナルモノアルニ徵シ多少共局面好轉ニ向フモ  
ノト信セラレ一般商民側ニ於テモ本件催シニ多大ノ望  
ヲ囑シツツアル實狀ナリ

授職狀況概略右ノ通リニテ多少トモ實效ヲ擧ケツツア  
ルモ數百ノ失職者救濟ハ到底右ノ如キ姑息手段ニヨル  
能ハス何レ本信前文記述ノ補給金ニヨル具体策ニ據ラ  
シムルノ外ナク尙最近官憲ノ救濟ヲ聞キ込ミ奥地貧農  
鮮人ノ來安スル向サヘ弗々アルヲ以テ各地朝鮮人會ヲ  
通シ阻止ニ努メツツアリ一方雇主側ハ目下財界不況ノ  
折柄ナルニ加へ銀安ニ依ル賃金安ニ加フルニ勤勉ナル  
中國人労働者ニ比シ夥シク能率低下ノ怠惰ナル失業鮮  
人雇入レヲ好マス滿鐵側ニ於テモ鮮人雇入ヲ一般ニ禁  
止シ居ル事實サヘアリ旁此ノ上雇主側ノ採算ヲ度外視

十六戸家族數二百四十一名ニ達セリ尙右ノ如ク官憲ノ  
手ヲ經ス直接材木運搬等適當ノ職ヲ自ラ求メ就職シタ  
ル者十六、七名アリ

本月二日附拙信機密第六四號報告ノ本件救濟懇談會ニ  
於ケル打合セニ基キ其ノ後各方面ヨリノ救濟本意ノ履  
入申込ミ小人員ナカラ引續キアリ一方本官ハ朝鮮人會  
ニ命シ戸別的ニ失業鮮人狀況ノ調査ヲ爲サシメ最モ窮  
状ニアルモノヨリ順次警察ヲ經テ右申込ニ充テシムル  
コトトセルニ今日迄授職シタル者四十六名此ノ戸數四  
十六戸家族數二百四十一名ニ達セリ尙右ノ如ク官憲ノ  
手ヲ經ス直接材木運搬等適當ノ職ヲ自ラ求メ就職シタ  
ル者十六、七名アリ

## 二、邦商ノ局面打開方策關係

シ無理押シヲ爲スコト困難ナル實情ニアリ  
尙一般市民側ニ於テモ官憲ノ救濟事業奔命ニ刺戟サレ  
此ノ行ヲ援助スルノ趣旨ヲ以テ救濟基金募集寄附等ヲ  
爲ス向アリ日本赤十字社篤志看護婦人會安東支部ニ於  
テモ會員ヨリ寄附ヲ募リ救濟資金充當方申出アリタル  
ヲ始メトシ個人有志者數名ヨリモ同様ノ申出アリ今日  
迄右寄附金合計二百七十五圓ニ達セルヲ以テ之亦適當  
ナル運用方法考究中ナリ

密輸取締ト關稅引上ニ依リ生シタル安東商民ノ行詰リ  
ハ豫想外ニ深刻ニシテ之力打開策ヲ講スルハ焦眉ノ急  
ナルニ鑑ミ本官ハ本月十二日商工業關係團體首腦部及  
有力者十數名ヲ當館ニ招致シ右打開策及積極的發展策  
ニ付懇談ヲ遂ケタルニ何レモ本官ノ意ヲ諒トシ關係商  
工業ヲ通シ何等力局面打開ニ資スル策ニ付考究スヘン  
トテ眞摯意見ノ發表ヲ爲シタル次第ニシテ結局安東ノ  
現況ハ此ノ儘默視スルヲ許ササル實狀ナルニ付更ニ有  
識者ヲ交ヘ今後毎月二回此ノ種會合ヲ爲シ互ニ其ノ研  
究考案ヲ持合ヒ具体案ノ完成ヲ爲スコト尙必要ニヨリ

## 毅談話を政治報掲載について

奉天 2月24日後発  
本省 2月24日後着

### 第一二〇號（暗）

二十四日當地政治報（天津特信）ハ滿洲鐵道交渉ニ關スル  
高紀毅ノ談トシテ左記要領ノ記事ワ<sup>ヲカ</sup>掲載セリ

鐵道交渉ハ東北交通委員會ノ職掌關係ニ屬スルヲ以テ目下  
交渉資料ヲ蒐集シ準備中ナルカ自分ハ未タ副司令ヨリ交渉  
開始ノ命令ニ接セス木村理事提出ノ條件ハ〔〕條約及契約ニ

依リ日本トノ關係アル鐵道ニ關シテハ中國側ニ於テ若シ發  
展施設ヲ豫備スル場合ニ於テハ日本側カ極力援助ヲ希望ス

〔〕並行線問題〔〕中日兩鐵道運賃協定問題〔〕日本請負建設ニ  
係ル中國鐵道ノ工費借款切換問題ナルカ運賃協定ニ關シテ

ハ原則上贊成スヘク借款切換問題ニ關シテハ支那側ニ於テ  
モ其ノ希望アルニ依リ喜ソテ相談スヘク交渉開始ニ關スル  
準備ハ既ニ略々整ヒタリ

自分ハ職務關係上本件交渉ヲ擔當スルコトトナルヘキモ外  
交知識ニ乏シキヲ以テ國內諸君ノ援助ヲ望ム本件交渉方針  
ニ關シテハ嚮ニ東北政務委員會ニ於テ數回檢討ヲ遂ケタル  
モ其吉林省ノ境域内ニアリ且吉會問題モ其ノ中ニ包含セ  
ラルヲ以テ吉林地方將來ノ實際利害ニ甚大ナル關係ヲ  
有ス故ニ余ハ奉天滯在ノ際張長官（學良）ト本問題ニ談  
及セル時慎重ニ處理スル様主張セリ吉敦鐵道ノ延滯利息  
其ノ他ハ現在既ニ尠ナカラサル額ニ達シ居リ元利ノ總計  
ハ殆ンド日本金三四百萬圓ニ達スヘク金價昂騰ノ今日之  
ヲ銀ニ換算スルトキハ驚クヘキ額トナルヘシ若シ故ニ此  
際適當ナル辦法ヲ講セサレハ前途茫々シテ誠ニ憂懼ニ  
堪ヘス目前ノ計トシテハ同鐵道ノ收支相償ヒ此上損失ヲ  
重ヌルコトナキ様至急方法ヲ講究シ然ル後負債償還方ニ  
付勘考スヘキナリ、今回日本側ハ其立替金ヲ借款ニ改メ  
ント提議スル模様ナルカ是モ整理ヲ欲スル日本側トシテ  
ハ當然ナリト云フヘシ然シ乍ラ吉敦鐵道ノ東部ハ現在鐵  
路ナキヲ以テ同方面ノ發展ノ爲メ何レ將來ハ新鐵路ノ建

モ其ノ結果ハ不明ナル力最早舊正月休モ過キタル事ナレハ  
間モ無ク交渉開始ニ至ルヘク自分ハ副司令ノ招電アリ次第  
赴奉スル積リナリ

支、北平、南京、天津、吉林へ轉電セリ  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

在吉林石射總領事より

55 昭和6年2月24日 在吉林幣原外務大臣宛

張作相の省政府委員會における鐵道建設に外資  
を借りることは根本的な錯誤との談話について

機密公第一一八號  
昭和六年二月二十四日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿  
總領事 石射 猪太郎  
在吉林

滿鐵ノ鐵道問題交渉ニ關スル張作相ノ所說報告ノ件  
當寵業者ノ齋ラス所ニ依レハ張作相ハ其歸吉後最初ニ開力  
レタル二月十八日ノ省政府委員會席上ニ於テ滿鐵ノ鐵道問  
題交渉ニ關シ左ノ通述ヘタル趣ナリ

# 一 東北（満蒙）懸案解決交渉

スル所ナリ吉會鐵道ニ至リテハ日本側ノ久シク實現ヲ企

圖シ居ルモノニシテ吉敦鐵道ノ建設ハ其ノ豫定ノ一段階

ナリ若シ日本側力吉會問題ヲ提起シタル際ハ中央ニ於テ

解決スヘキモノナリトノ趣旨ニテ應對スルヲ得策トス蓋

シ前述ノ如ク吉敦ノ債累日ニ深キノ故ヲ以テ若シ地方的

ニ吉會問題ヲ處理スルコトセハ必ス良好ナル成績結果

ヲ得サルノミナラス中央ニ口實ヲ與フルニ至ルヘキヲ以

テ此際日本ニ對シ「ウツチャリ」ヲ食ハスコト最上ノ策

ナレハナリ

東省ノ鐵道網ハ勿論完成ノ見込ナク縱令實現セシムルモ

亦一二年以内ニテ能ク成シ遂ケ得ル所ニハアラス此ニ對

スル日本側ノ焦慮ハ取越苦勞ニ過キス云々

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫付先

代理人、北平、奉天、哈爾賓、間島、長春、齊々哈爾、關東長官

御支出相仰キ度シ

56 昭和6年2月27日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

57 昭和6年2月28日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

木村理事鐵道交渉に関する張學良との意見一  
致事項を新聞発表について

奉天 2月28日前發  
本省 2月28日前着

第一三一號（暗、至急）

木村理事ヨリ第三號

鐵道交渉問題ニ關スル新聞發表

今廿七日張副司令ニ豫テノ約束ニ基キ會見前回ノ懇談ノ續  
キトシテ張副司令ハ鐵道問題ニ關シテハ既ニ高委員長（高  
紀毅）ト木村理事トノ間ニ腹藏無キ事務の意見ノ交換ヲ遂  
サシムル爲天津ヨリ呼返シタルニ付適當ノ時期ニ懇談ヲ遂  
ケラレタシト述ヘ尙今後ノ懇談ニ關スル双方ノ態度精神ニ  
關シ世間ノ疑惑ヲ避ケル爲左ノ三點ニ關シテ意見ノ一致ヲ  
見タリ

一、今後ノ話合ハ所謂外交的政治的ノ重々シキ形式ヲ執ル

交渉即チ談判ヲ避ケ寧ロ實際的ノ見地ヨリ非公式懇談  
又ハ商議ノ形式トスルコト

重要案件については滿鉄、陸軍その他出先諸  
機関と連絡緊密化に留意しつある旨について

奉天 2月27日後発  
本省 2月27日後着

第一二八號（暗）

鐵道交渉並航空聯絡問題ノ模様ハ累次電報ノ通ニシテ現在  
ノ状勢ニテハ本官トンテハ表面ニ出ソラ差控ヘ居ル次第ナ  
ルモ我方目的達成ノ爲ニハ素ヨリ當方トシテモ支那側トノ  
交歡情報ノ蒐集支那側要人連トノ聯絡等側面的活動ニ全力  
ヲ盡シ居ルハ素ヨリ既往ニ於テ對支重要交渉案件カ日本側  
内部ニ於ケル聯絡協調ノ缺如ニ依リテ挫折シタル幾多ノ事  
例アルニ鑑ミ滿鉄側ハ素ヨリ陸軍其ノ他出先諸機關トノ聯  
絡ニ付テモ表裏トモ細心ノ注意ヲ用フルト共ニ他面新聞通  
信ノ利導上ニモ過誤ナキヲ期シ居ル處現地ノ狀況並對内對  
外ノ機微ナル關係上自然經費ノ支出ヲ要スルコト鮮カラサ  
ル實情ニ付事情御諒察ノ上本年度分トシテ機密費金二千圓  
御支出相仰キ度シ

58 昭和6年2月28日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

鐵道交渉に關し懇談形式で進めることで張學  
良と合意成立との木村理事電報  
第一三二號（暗）  
木村理事ヨリ第四號

廿七日約ニ依リ張學良ヲ訪問セル所學良ハ先ツ事務多端ト  
舊正月トノ爲ニ懇談ノ機ヲ逸シタルコトヲ謝シ前回ノ會談

ノ引續キトシテ高紀毅ト小職トノ間ニ先ツ各問題ニ付忌憚ナキ意見ノ交換ヲ遂ケシムル爲既ニ本人ヲ天津ヨリ召還セリ同人ニハ今回ノ交渉ニ付テハ政治的色彩ヲ避ケ鐵道實務者ノ見地ヨリ事務的懇談ヲ爲スノ趣旨ニ於テ特ニ同人ヲ選任シ小職ト意見ヲ交換セシメタル上解決可能ナリヤ否ヤヲ検討シ解決可能ニシテ而モ日支相互ニ利益ニシテ天下ニ發表スルモ何等愧ソル所ナキ公正ナル案ニ到達スルトセハ直ニ解決ニ進ムヘク命令スル筈ナリト述ヘタルニ付小職ハ御尤ナリ卑見ヲ以テセハ滿洲ニ於ケル問題ハ性質ニ依リ輕重アリ緩急アリ先ツ急ヲ要スル問題輕微ナル問題ヨリ解決ヲ計リ徐ロニ不急又ハ重大ナル問題ノ懇談ニ進ムノ外ナカルヘシト述ヘタルニ學良モ大ニ同感ノ意ヲ表セリ次テ小職ハ前回學良ノ日本新聞記者團トノ會見ニ關聯シ日本ノ新聞記者團ハ支那語ヲ解セサルカ爲張副司令ノ意見ニ特殊ノ意義ヲ加味シ頗ル重大視セルモノアリシカ小職會見ノ當初二於テ言明セシ如ク政府ヲ代表シ正式外交談判ヲ爲サントスル意圖ナキハ御承知ノ通ナリ從テ貴見ノ如ク成ルヘク政治的色彩ヲ避ケ實務的見地ヨリ問題ノ解決ニ進マントスルコトハ全然同感ナリ

小職最初ノ會見ノ要領ハ單ニ日支間ノ滿洲ニ於ケル鐵道懸案ヲ四種ノ問題ニ分別シテ今後所謂懇談ノ形式ニ於テ何等カノ具體的解決案ニ進マントスル精神ヲ述ヘタルニ止マリ何等初メヨリ具體的解決案ヲ押シ付ケントスル趣旨ニアラサリシコトハ御承知ノ通ナリ閣下ノ意見モ亦支那側ニテモ同様初メヨリ成案ヲ有シテ相手方ニ要求セントスルモノニアラス懇談ノ結果初メテ具體案ニ到達スヘシトノ精神ナリト解スト述ヘタルニ全然同意ヲ表シ尙往電第一三一號懇談ノ態度精神ニ関スル三ヶ條ノ趣旨ヲ今後ノ高紀毅トノ交渉ノ指針トセンコトヲ述ヘタルニ全然同意ヲ表シ且之ヲ新聞記者トノ會見ニ付テ發表スルコトニモ同意ヲ表セリ  
一更ニ轉シテ學良ハ高紀毅ニ對シ幣原外相並木村理事ノ面子ヲ重ンシテ是非トモ解決可能ナル問題ニ付テハ此ノ機會ニ於テ解決ヲ計ルヘキ旨特ニ命スルコトトスヘシ尤モ同人ハ技術者ニ止マリ外交官ノ經歷ヲ有セサルモノナルニ付充分貴職ニ於テ其ノ邊ヲ酌量シ寛容的態度ヲ示サレタキコトヲ希望スト述ヘタルニ付小職ハ特ニ幣原外相並小職ニ對スル誠意ニ對シ深ク感謝スルト共ニ若シ貴司令並東北要路ニ對シ今回ノ會見ノ如ク何事モ率直ニ友誼的ニ懇談シ得タル

狀態ニアリトセハ滿洲ニ關スル懸案ノ交渉モ今日ノ如キ險惡ナル空氣ヲ釀成スルコトナク何等力解決ノ途モアリシナラムト想像ス小職コソ専問<sup>(門カ)</sup>家ニアラス而モ斯カル鐵道問題ノ交渉ノ任ニ當ラサルヲ得サル所以モ亦從來ノ<sup>(幕次)</sup>圍氣ヲ改善シ相互ニ友誼的ニ話合シ得ルノ途ヲ開クコトヲ自己ノ重

大使命ト信シツツアル次第ナリ小職ハ高委員長カ當初ヨリ簡明直截ニ話シ得ヘキ質朴ノ人物トノ印象ヲ抱キ居リ小職

亦同様ノ性格ナルヲ以テ時ニ議論熱スルコトモアランカ其ノ際ハ副司令ニ仲裁ヲ依頼スルコトトナルヘシト述ヘタルニ大ニ然リト微笑セリ」

依テ小職ハ今後ハ高委員長トノ間ニ商議ノ方法等ニ關シテ打合ノ上一旦大連ニ歸リ鐵道並經理ニ關スル專問<sup>(門カ)</sup>家ヲ引連レ

今日迄閣下トノ會談ノ態度精神ヲ以テ所謂懇談ノ形式ニ於テ商議ヲ進メムコトヲ慤通スル積リナリト述ヘテ辭去セリ尙學良ハ本問題ニ付テハ未タ何等南京政府ニ申送レルコトナシ早目ニ申送ルニ於テハ中央ヨリ種々ノ容喙ヲ招クノ虞アリ旁々當地ニ於テ先ツ懇談ヲ重ネシムルコト得策且ツ必要ト思考シ今後當地ニ於ケル話合進捲ノ模様ニ應シ南京ニ具報スルコトシタキ所存ナリト語レリ

轉報先往電第一三一號ノ通

59 昭和6年2月28日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

### 木村理事より張學良との会談報告中一部陸軍、

拓務両省への通報差控え方申し出について

奉天 2月28日前発

本省

2月28日後着

第一三二號（暗）  
木村理事ヨリ第五條

林總領事發閣下宛電報第一三二號ニ關シ

鐵道交涉問題ニ付テハ陸軍並拓務両省ニ對スル關係上極メテ機微ナル事情モアリ冒頭電報中段中括弧内即「更ニ轉シテ」ヨリ「微笑セリ」迄ハ兩省へ通報ヲ差控フルコトトン満鐵本社ニ對シテモ右様取計方手配シ置キタルニ付貴省ニ於テモ右御含ミニテ御取計相煩ハシタシ

轉報先往電第一三二號ノ通

60 昭和6年3月6日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

四洮・打通線連絡工事干涉は木村理事の交渉に  
影響あり得るにつき新たな措置差控えについて

奉天 3月6日後発  
本省 3月6日後着

貴電第五三號ニ關シ  
第一五九號

本件聯絡路工事ハ目下結氷季ノ爲進行シ居ラサルモノト思  
考スルモ進行ノ有無當方並ニ満鐵本社ニ於テモ不明ナルニ  
依リ爲念四洮線満鐵側代表者ニ取調方照會中ナルカ假令本  
件工事力進行中ナリトスルモ既ニ木村理事ト支那側トノ間  
ニ鐵道問題全般ニ關スル話合ヲ開始シ本件聯絡工事問題モ  
近ク其ノ一部トシテ論議ニ上ルヘク此ノ際本官ヨリ更ニ横  
槍ヲ入ルルハ今後ノ話合ニ面白カラサル影響ヲ與フル虞モ  
有之ニ付當方トシテハ今日何等新タル措置ヲ執ルコトハ  
差控フルコトニ致シ度シ

右木村理事ト打合濟  
支、南京へ轉電セリ

61 昭和6年3月9日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

四洮・打通兩線接続協定は調印終了後事業進  
行していないと満鐵側取調べについて

奉天 3月9日後発  
本省 3月9日後着

往電第一五九號ニ關シ  
第一六四號

満鐵側ノ取調ニ依レハ接續協定ハ客年十二月卅一日北寧四  
洮兩局長間ニ調印ヲ了シタルモ其ノ後倉庫ノ建築ヲ見タル  
ノミニテ爾來何等ノ進行ヲ見ス四洮局長車務工務兩處長ニ  
設備進行方ヲ訓令シタルニ其ノ後局長ヨリ督促モナク兩處  
長モ其ノ儘ニ爲シ居ル次第ニテ早クトモ年度豫算確定（六  
月）迄ハ進行ニ由ナキ趣ナリ

代理公使、北平、南京へ轉電セリ

62 昭和6年3月11日 在天津桑島（主計）總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

高紀毅が大公報記者に対し木村理事との鐵道交

涉における自己の権限等に關し談話について

天津 3月11日後発  
本省 3月12日前着

第七五號（暗）

十日來津セル高紀毅大公報記者ニ語リタル處概要左ノ通

三月六日木村理事ト第一次會見ヲ爲シタルカ意見ヲ交換シ  
タルノミニテ正式交渉ニアラス木村ノ提議ハ先ニ發表セル

モノト同一ナルカ（一）日本ト條約協定アル各鐵道敷設問

題（二）満鐵ノ並行線問題ノ二項ハ自分ニ於テ討論スヘキ

權限ナシ自分ハ單ニ鐵道當局ノ資格ニ於テ鐵道上ノ實際問

題ニ付討議シ得ルノミナルヲ以テ（三）各鐵道運賃ノ改訂

及運賃競争防止問題（四）日本ニ於テ請負ヒタル各鐵道ノ

工費ヲ借款ニ改ムル問題ニ付日本側ノ意見ヲ聽取ノ上鐵道

部及上級官署ニ轉達スル處木村モ右ニハ大体満足ヲ表シ居

レリ尤モ並行線問題ニ關シテハ木村ハ是非トモ討議ノ必要

ヲ繰返シ述ヘタルカ結局木村ヨリ討議ヲ必要トル理由書

ヲ提出スルコトトナレリ右理由書ハ未タ接受セサルヲ以テ

第二次會見日ハ未定ナリ云々

尙同記者ハ木村ノ立場カ自由ナルニ反シ高ハ鐵道當局ニシ

第七五號（暗）

テ一切ノ舉措ハ鐵道部ノ法令規定ニ依リ處理スルヲ要シ越  
權行爲ヲ許サレサルニ付本問題ハ一朝ニシテ解決シ能ハサ  
ルヘシト觀測シ居レリ  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ  
奉天ヨリ木村理事へ轉報アリタシ  
支、奉天、北平、南京へ轉電セリ

63 昭和6年3月11日 在天津桑島（主計）總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

田中副領事の和竜縣出張に際し県長、公安局

長等との会談内容報告について

（3月17日接受）

機密第二四五號

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日華警察官ノ聯絡協調ニ關シ和龍縣當局トノ交渉狀況

報告ノ件

ハ屢次ノ電報ニ依リ已ニ御承悉ノ通りナル處一方出先官憲ニ對シテモ機會アル毎ニ我方ノ意ノアル處ヲ申入レ彼我ノ干係ヲ改善シ行クコト極メテ必要ニシテ過般末松理事官、相場警視ノ三道溝方面出張ニ依リ豫期以上ノ好果ヲ收メタル先例ニ倣ヒ本月六日末松理事官、相場警視及田中副領事ヲ和龍縣ニ出張セシメタル處（當地駐屯裴營長ハ副官大尉何鎔ヲ案内ノタメ特ニ同行セシメタリ）一行ハ同日夜及七日晝同地中國側官民有力者ト打解ケタル交驩ヲナシ彼我ノ感情融和及聯絡協調ニ資スル處アリ尙田中ハ七日劉縣長及田公安局長トノ間ニ種々懇談シタル趣ニテ其要領別紙報告書ノ通リナルニ付キ何等御参考迄別紙添付此段報告ス

本信寫送附先 在支代理公使 南京 奉天 吉林

四分館

（別紙）

和龍縣長及同公安局長トノ交渉要領報告書

田 中 副 領 事

七日前十時劉和龍縣長ヲ往訪シ（暫ク後田公安局長同席ス）先ツ問島地方ニ於ケル治安狀態ノ如何ハ朝鮮統治上直接ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ我方トシテ最大ノ關心ヲ

置ク所以並ニ問島ニ於テ全人口ノ八割ヲ占ムル鮮人ノ休戚モ亦同様我方ノ極メテ重大視スル所ナルニ今日迄ノ事實ニ徵スレハコノ地方ハ常ニ馬賊或ハ民族主義又ハ共產主義的不逞鮮人ノ巢窟トナリ在住鮮人ノ日常生活力極度ニ脅カサレ居ルノ狀態ニテ鮮人ノ保護並ニ不逞鮮人及馬賊ニ對スル警防ヲ中國側ニノミ信賴シ得サルヲ痛感シ我方ハ自衛上埠外ニ出動シテ保護取締ニ當リ居ル次第ニテ毫モ領土的野心又ハ警察權ノ確立等ノ底意ニ出テ居ルモノニアラス然ルニ中國地方官憲ノ我方ニ對スル態度ハ常ニ挑戰的或ハ妨害的ニシテ且ツ鮮人ニ對スル壓迫益々深刻ヲ加ヘタメニ種々不祥事端ヲ頻發シ而モ這般ノ形勢力不逞團等ノ活動ニ乘スヘキ機會ヲ與ヘツツアル狀態ナルニ付キ帝國政府ニ於テハ何ト力穩便ノ方法ニ依リ中國側ヲ反省改悟セシメテ眞ニ貴我ノ聯絡協調ノ實ヲ舉ケテ地方治安ノ保持鮮人保護ノ目的ヲ達シ度シトノ見地ヨリ奉天、吉林、間島ノ各總領事ニ訓令シテ夫々中國側責任者トノ間ニ昨年來懇談ヲ遂ケシメ最近這般ノ狀況著シク好轉シ來レリト説明シ更ニ過般來岡田總領事ト張籌備處長トノ本件交渉ノ經過ヲ略述シタル後張處長トシテハ根本解決ノ出來ル迄ハ差當リ現狀維持ニ依リ彼努メ居ルモノノ如ク見受ケラレタリ

我ノ感情融和ヲ圖リ出先軍警間ニ衝突ヲ避ケシメ又一方彼我ノ立場ヲ互ニ諒解シテ双方ニ都合ヨキ様可然處理スルコトニ致度シトノ意見ニテ主義上總領事ノ意見ト略一致シ居ル様見受ケラレタリ尙總領事ヨリハ張處長ニ對シ貴我警察官ノ聯絡協調方ニ就テモ種々申入レ張ハ感情融和衝突回避方ニ就テ已ニ訓令ヲ發シタル旨答ヘ居タルカ出先官憲ニ不徹底ノタメカ事實ハ之レニ反シテ各地ニ於テ中國軍警力我

警察官ニ對シ實力ヲ行使シテ妨害的行爲ヲナシコレ迄屢々致スヘシト答ヘタリ

右會談中ノ印象ニ依レハ先方ニ於テ我方ノ眞意ヲ諒解シ居ルヤ否ヤハ不明ナルモ聯絡協調ノ用語ニ對シテモ別ニ嫌忌スルノ態度ヲ示サス彼我ノ感情融和衝突回避ニ就テハ十分努メ居ルモノノ如ク見受ケラレタリ

~~~~~

64 昭和6年3月13日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛

吉興鎮守使に提示の中国軍隊・警察と日本側との連絡協調に関する具体案について

機密第二五四號

昭和六年三月十三日

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉興鎮守使ニ提示シタル聯絡協調具体案送付ノ件

本月十二日吉興鎮守使ト會見ノ際提示シタル彼我聯絡協調具体案別紙寫一部送付ス尙右案文ハ同人閱讀ノ上持チ歸レ

不祥事端ヲ發生セシメサル様要望シ置キタルカ之レニ對シ同局長ハ大石署長ト十分連絡シテ問題ヲ發生セシメサル様

リ

本信寫送附先 代理公使、奉天、吉林、南京、上海、四
分館主任

(別紙)

第一、中國軍隊及中日警察官ハ平素親睦ヲ厚クシ以テ感情ノ融和ヲ圖リ相互聯絡協調ニ遺憾ナカラシメ以テ鮮人匪賊ノ鎮壓ヲ期スルコト

第二、中國軍隊及中日警察官ハ相互ニ僚友トシテ常ニ相親ミ敬禮ノ交換ヲ爲シ又相互各機關所在地ニ出張シタル場合ハ可成相訪問シ挨拶ヲ爲スコト

第三、中國軍隊及中日警察官ハ常ニ聯絡協調シ苟モ相互ニ威力ヲ示シ又ハ威嚇的言動ヲ以テ檢舉取締ノ妨碍又ハ犯人ノ奪取引渡ノ強要等ヲ爲ササルコト

第四、中國軍隊及中日警察機關所在地ノ首腦者ハ時々會合シ共匪、不逞鮮人ノ行動ニ關スル情報ヲ交換シテ緊密ナル聯絡ヲ保ツト共ニ良民ニ對スル不法行爲ノ防遏並相互間ニ抗爭ヲ起ササルコトニ最善ノ努力ヲ爲スコト

第五、共匪及不逞鮮人ノ檢舉取締上必要アル場合ハ相聯絡

ムルコトアルヘシ

第六、中國軍隊及中日警察官ノ間ニ萬一誤解又ハ過失ニ依リ事端ノ發生ヲ見タル場合ハ出來得ル限り現場ニ於

テ双方穩便ニ解決ヲ圖ル様努ムルコト

第七、中國軍隊及中日警察官ノ間ニ故意ニ威力ヲ示シ又ハ威嚇的言動ヲ爲シ若クハ妄リニ事端ヲ起シタル者ア

ル場合ハ相互ニ誠意ヲ以テ真相ヲ調査シ當該者ニ對シ速力ニ相當處分ヲナスコト

第八、前各項ハ中國軍隊及中日警察各機關ニ訓達シ周知實行セシムルコト

65 昭和6年3月16日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

王家楨が木村提案中には高紀毅において地方的

處理不可能な問題がある旨を談話について

上海 3月16日後発
本省 3月17日後着

第二八二號(暗)

十四日王家楨ニ出遭ヒタル際談満洲鐵道問題ニ及ヒタルカ本官ハ法權問題ハ滿洲ニモ關係シ居ル譯ニテ此重大ナル問題ヲ都合ヨク解決スルニハ滿洲ニ關スル雙方ノ空氣ヲ少シニテモ改善シ置ク必要アリ今次木村理事ノ交渉ノ如キ日華

雙方ノ利益スル處ニテ右交渉成立スル時ハ兩國ノ空氣改善ニ資スル處多ント思考セラルニ付貴下ヨリモ奉天當局ニ對シ大局上ノ見地ヨリ交渉ヲ促進スル様勸說セラレタントノ趣旨ヲ述ヘタル處王ハ木村理事ノ提出セラレタル四ヶ條ノ内鐵道聯絡運賃及借款契約改訂ノ問題ハ高紀毅ノ手ニ於テ地方的ニ處理シ得ルモノナレハ別ニ故障生セサル見込ナリト言ヒ其反面ニ他ノ點ニ付テハ中央ニモ關係アリ交渉ノ進捲ハ容易ナラサルヤノ口吻ヲ漏ラセリ
北平、奉天へ轉電シ、南京へ暗送、上海へ轉報セリ

66 昭和6年3月16日 在大連木村滿鉄理事より
幣原外務大臣宛(電報)

仙石總裁等と意見の相違あり鉄道交渉方針協

67 昭和6年3月17日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

満鉄側の各問題担当交渉要員内定について

奉天 3月17日後発
本省 3月17日後着

議のため上京電命方永井次官に依頼

第一七七號（暗）

鐵道交渉ニ關シ満鐵側ニテハ運賃並ニ聯絡問題ニ付テハ鐵道部長村上工事費問題ニ付テハ計理部長神鞭新線並ニ並行線問題ニ付テハ計畫部長大藏各理事ヲシテ交渉ニ當ラシムルコトニ内定セル趣ナリ

68 昭和6年3月18日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中國側の鐵道交渉担当者決定について

奉天 3月18日前發
本省 3月18日後着

第一八一號（暗）
往電第一七七號ニ關シ
中國側ニテハ吉長兼吉敦局長郭續潤、同總務科長尹壽松洮昂局長萬國賓、四洮局長何瑞章ノ四名ヲ專問委員ニ内定シタルカ別ニ吉林省側ヲ代表シテ吉海鐵道總辦李銘書ノ參加ヲ見ルニ至ルヤモ知レサル趣ナリ

69 昭和6年3月20日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

高紀毅が會議促進のため満鉄側委員長に木村を要望について

奉天 3月20日前發
本省 3月20日後着

第一八六號

十九日入江公所長高紀毅ニ會見シタルニ高ハ會議ノ統一促進ヲ計ル爲日支双方ヨリ夫々委員長ヲ選任スルコト必要ト思考セラルル處支那側ヨリハ自分（高）カ委員長トナル故滿鐵側ヨリハ當然木村理事カ委員長トナラルコト思考スルニ付テハ専問委員ノ詮衝ト同時ニ右委員長ノ件モ決定セラレタキ旨申出テタル趣ナリ

満鐵總裁へ轉電セリ

70 昭和6年4月1日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

神原農場に關し陸軍側が満鉄に購入方運動中

との神原内話について

奉天 4月1日後発
本省 4月2日前着

第二三三號

往電第一〇九號ニ關シ

神原ハ三月中旬内地ヨリ歸來大連方面ニ往復シ三月廿七日再ヒ内地ニ向ケ出發シタルカ本人ハ當地ノ昵懇者ニ左ノ通

内話セル趣ノ處同人從來ノ遣口ニ鑑ミ信ヲ措キ難ク満鐵邊ヘノ賣込ヲ促進セントスル底意力ト思考セラルルモ爲念

「フォード」ハ人ヲ介シ神原ニ北陵農場ノ讓渡方ヲ申出テタルニ依リ神原ハ其ノ東半約四十町歩ヲ金六十萬圓ナレハ

手離ス旨先方ニ回答シタル處「フォード」側ハ西半約六十町歩ヲ欲シ即座ニ百萬圓ヲ出ス意図ヲ語リ甚タ乘氣ナルヲ

見テ神原ハ豫テ知合ノ森田茂、小磯軍務局長等ニ右事情ヲ告ゲタルニ小磯局長等ハ國家的見地ヨリ之ヲ外人ニ讓渡ス

ルハ不可ナリト爲シ満鐵ヲシテ引受ケシムル様神原ヲ援助シ満鐵ニ運動ヲ爲シ居リ充分ノ成算ヲ有ス云々

71 昭和6年4月3日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

朝鮮總督府の安東密輸取締り緩和策について

注意喚起方要請について

付記一 二月二十三日付中谷関東府警務局長より谷

亞細亞局長宛（私信）

関東府より安東密輸取締りを注意喚起しつつある旨並びに在東北各機關の協調方具申

二 三月四日付谷亞細亞局長より中谷関東府警務局長宛（私信）

関東府の協力を要請並びに在東北各機關の機能發揮に尽力、指導方仰ぎたきについて

安東 4月3日後発
本省 4月4日前着

第五六號

密輸取締ハ取締令發布ノ下ニ新義州側關係官憲ノ協力特ニ稅關ノ輸出免狀下附制限（一月十日付拙信機密第二三號ノ二参照）ニ依リ殆ント完全ニ效果ヲ擧ケ來レル一方取締實施後三ヶ月ニ垂トン商民一般ニ密輸ニ望ヲ絶チ本官ノ不況

打開ニ對スル努力ト相俟テ漸ク公正ナル基礎ノ上ニ商賣ノ建直シヲ爲サントスルノ傾向ヲ示スニ至レル處最近朝鮮總督府ヨリ新義州稅關ニ對シ輸出免狀發給ノ制度ハ法ニ根據ナキヲ以テ順次其制度ヲ緩和シ近キ内ニ全部取締前ノ狀態

ニ復歸スヘキ旨内命シ來レリ右ハ例ニ依リ密輸ノ取締ヲ以

テ朝鮮ヨリノ輸出貿易ヲ阻害スル愚策ナリトスル朝鮮總督府一流ノ偏狹^(編注)ナル見解ニ起因スル處今ヤ鴨綠江解氷シ舟運ノ便開キ一部常習者ニ於テ密輸ノ機會ヲ窺ヒ居ル重大ナル時機ヲ以テ朝鮮總督府ノ右^(編注)態度ハ折角今日迄當方面ノ關係官憲ノ協力ニ依リ收メ得タル取締ノ效果ヲ著シク薄弱ナラシメ延テハ再ヒ一般商民ヲ驅ツテ密輸ニ狂奔セシムルニ至ルナキヲ保セス殊ニ出先新義州稅關ニ於テ我方ノ誠意ニ信賴シ一部地方民ノ苦情ヲ無視シテ公正ナル取締ニ專念シ居ルニ對シ本府ヨリ取締ノ緩和ヲ獎勵スルニ等シキ命令ヲ發スルカ如キハ政府部内ノ方針不統一ヲ暴露シ徒ニ前年ノ失敗ノ愚ヲ繰返スモノニシテ（我）方ノ威嚴ノ爲ニモ最遺憾トスル所ナリ本官ヨリハ直ニ新義州側ニ對シ從來通り取締ノ嚴正ヲ持續サレ度キ旨希望シ置キタルモ上局ヨリノ命令ナルカ爲責任者トシテノ立場頗ル苦シキモノアリト訴ヘ居

答致シ候本省ニテ多大ノ御高配ヲ得タリト聽キ誠ニ恐縮ニ存居候

一、二十日ノ安東領事館管内渾水泡事件ニ就キテハ在京長官ヨリ御報告申上候事ト存シ候力今迄ノ資料ニテハ不逞鮮人力不逞行爲（昨年十、十一月革命軍人ト稱スルモノノ人質、拉去事件、本年二月十四日石頭城駐在巡查ノ革命軍中隊長檢舉事件）ニ對スル官憲ノ檢舉ノ復仇行爲ト見做サレ候モ詳細ハ一昨朝松田高等課長、鮮人係主任楠田警部ヲ安東ニ派遣シ實狀調査ノ上米澤領事トモ御協議申シ上ケ此上ノ不祥事ヲ出サヌ様手配致シ置キ候ト共ニ不敢取旅順ヨリ巡查四、奉天ヨリ巡查三ヲ增派致シ置キ候

一、過般來御高慮ヲ煩シ候荒川領事ノ小澤新之輔氏方犯罪事件犯人ヲ中國側ニ引渡要求ノ件ハ二十一日詳細ナル經過御報告ト共ニ當廳從來ノ取扱ヒ振リ御報申上ケ候通リニ有之候被害者ハ元大連取引信託會社專務取締役小澤新之輔氏ノ養母シヅ（七十六）三女キク子（一三）ニ有之、犯罪地ハ大連、犯人ハ同家ニボーアタリシ杜書春（二十四）ニテ山東ニ原籍アリ犯罪當時大連ニ住所ヲ有

ル關係モアリ此際本省ニ於テ拓務省ヲ通シ朝鮮總督府側ニ對シ嚴重御交渉相煩ハシ度シ
支、北平、奉天、關東長官ニ轉電セリ

（付記一）

拜啓餘寒猶去ラサルノ候朝夕御起居御伺申候議會中種々御多用ノ御事ト拜察致シ當方面ヨリハ出來ル丈問題ヲ出サヌ様ニト注意致居候得共何トナク本年ハウルサキ年ノ様ニ思ハレ候ヘハ極メテ冷頭事案ヲ見ツメテ進ミ度存居候間御氣付ノ節ハ御高示ヲ得度ク願上候

次ニ最近色々問題トナリ候數件ニ付卑見極ク要點丈申上候一、安東密輸問題ハ御指導ト米澤領事ノ御熱心ト朝鮮側ノ今度ハ眞面目ノ援助トニ依リ大体順調ニ參リ居候モノ多年ノ陋習故仲々思ヒ切レス緩メル時ハ又原ノ如ク相成ル可ク候間警察ニハ絶エス注意ヲ喚起致居候鮮人ノ失業セル者ノ救濟ニ就キテハ内務局長トモ數次懇談致シ候得共地方費ハ州内ニ限ルモノトテ如何トモ出来申サス滿鐵力附屬地ノ助長行政ヲ預ル關係上同社ノ地方事務所方面ニ特ニ御願ヒ致スヨリ外ナシト存シ其様米澤領事ニ御

シ居リシ者ニ有之犯人ノ殺害行爲ハ慘酷ヲ極メシモノ從ツテ在滿邦人ニ異常ノ恐怖ヲ捲キ起シタル事件ニ有之候犯行後大連郊外若草山ニ隠レ同夜町ニ潛ミ翌朝大連ヲ抜ケ出シ汽車ニテ州外ニ落チ延ヒ午後三時五十九分蓋平驛ニ下車城内（支那法域）ニ逃ケ込ミタルヲ三十五分遅レニ蓋平驛ニ下車、追跡シタル警察官力管内逮捕ノ機ヲ逸シ不得止蓋平公安局ニ至リ局長ニ委細ヲ告ケテ其ノ援助ノ下ニ取り押ヘ公安局長ニ亘リ取調ヘ間違ナントテ引渡シヲ快ク受ケ候間連レ歸リシモノニ有之二箇月後支那ノ排日分子カ之ヲ種トシ問題トセル爲蓋平縣長ヨリ公安局長ニ小言ヲ云ヒ出シタル事件ニ有之候

此種事件ハ從來日支間ニハ笑ツテ圓満ニ協調致シ參リ候事件ナルニ荒川領事力如何ニモ問題ヲ大袈裟ニ致シ事實ノ眞相ヲ充分ニ奉天林總領事ニモ告ケス爲ニ林總領事ヨリノ書面トナリ荒川領事ハ御出下サルコトト存シ居リ候處林總領事ノ御書面ノ趣トハ相異シテ書面ニテ當長官宛本問題ハ外務省ニ解決方御判断ヲ願フ様ノ御書面アリ前後甚シク協調ヲ缺クノ態度ヲ執ラレ誠ニ小生トシテハ心外ニ存シ居リ候早速荒川氏ニハ御出^(マサ)ノ節御打合セ申

上ケ度キ様申出テ同時ニ林總領事ニハ前後ノ關係私信ニ
テ御報致シ小生直接奉天ニ參リ御相談申上ケ度キ旨申シ
送リ候處奉天ヨリ森島領事ヲ差遣スルカラトノ御報ヲ得
十九日ニ同領事ノ御出ニ依リ奉天ハ事實ニ就キ小生ノ私
信ニテ荒川氏ノ報告トニ相異アリシコトヲ述ヘラレ當廳
ノ意見ニ同意致サレ御出ノ節營口ニテモ打合セ致サレタ
ルヤニ承知致シ候

本問題ハ斯クノ如ク何等中央ニ煩ヲカカル程ノ事案ニハ
無之又斯クセヌコトカ當然ノ出先ノ務ニ有之候然ルニ荒
川氏カ之ヲ問題化セントセル眞意ハ甚々諒解ニ苦シミ居
リ候小生ハ赴任以來常ニ在滿機關ノ協調第一主義ヲ力説
致シ區々タル各自ノ立場ヨリノ面子論ニハ執着致サヌ様
部下ト共ニ微力ヲ盡シ居リ幸ニ外務關係各官共一致邦人
ノ保護既得ノ權益ノ支持ニ努力致シ居候固ヨリ多年ノ
習性兎角日本人ハ蔭テ人ノ仕事ニ對スル無責任ノ惡口ヲ
云フ例ヘハ折角警察力集メタ材料ヲ他ノ協調機關ニ廻ハ
スト「アンナ報告力何ニナルカ」「警察ハ問題ハカリ起
シテ困ル」トカ「閻ノ町ニ大連各所カラ刑事力行ツテ先
方ハ迷惑シタ」トカ其ノ様ナコトハナキニ何力大袈裟ニ

云フ
先ツ當面ノ小生等ニ其レ程心付カレシナラ御注意下サル
ヘキニ其ノ様ナ人ニ限り面前テハ御話シカ上手小生共ハ

其ノ様ナケチナコトニハ氣ハ惡ク致サヌカ下級ノモノニ
ナルト隨分嫌ナ顔ヲ致スモノアリ隨分煩サキ次第ニ御座
候而シ其レハ其レトシテ御互ニ満洲迄來テ小競合ノ必要
ハ無之矢張リ力ヲ協セテ盡力致スヘキモノト確信致シ居
リ候間若シ斯ルコトニ付キ御氣付ノ節ハ良ク御指導ヲ賜
ハリ度ク候

荒川君モ長ク御家族ニ御病人アリ再々旅順ニ御家族ヲ置
カルル様ニテ間々御出テノ模様故斯ル問題ニ付一回ノ書
面ト來タ序ニ一寸話頭ニ上セタ位ノコトニテ當廳ノ態度
ヲ云々ト一人極メニセラレスニ今少シ協調的ノ態度ヲ執
ラル様小生ハ切望致シ居リ候

一、對支交渉關係ノ情報秘密保持ノ件モヨク承知致シ候
奉天署長ニモ過般其ノ旨小生ヨリ申シ渡シ置キ領事館ト
ノ緊密ナル關係ヲ保ツ様念ヲ入レ置キ申シ候
先ツハ最近ノ心付キタル二三ヲ御報申シ上ケ小生ノ心持
チ御汲ミ取り願ヒ外務方面ノ官憲ノ方ニモ御序ノ節御話シ置

云フ
先ツ當面ノ小生等ニ其レ程心付カレシナラ御注意下サル
ヘキニ其ノ様ナ人ニ限り面前テハ御話シカ上手小生共ハ
其ノ様ナケチナコトニハ氣ハ惡ク致サヌカ下級ノモノニ
ナルト隨分嫌ナ顔ヲ致スモノアリ隨分煩サキ次第ニ御座
候而シ其レハ其レトシテ御互ニ満洲迄來テ小競合ノ必要
ハ無之矢張リ力ヲ協セテ盡力致スヘキモノト確信致シ居
リ候間若シ斯ルコトニ付キ御氣付ノ節ハ良ク御指導ヲ賜
ハリ度ク候

荒川君モ長ク御家族ニ御病人アリ再々旅順ニ御家族ヲ置
カルル様ニテ間々御出テノ模様故斯ル問題ニ付一回ノ書
面ト來タ序ニ一寸話頭ニ上セタ位ノコトニテ當廳ノ態度
ヲ云々ト一人極メニセラレスニ今少シ協調的ノ態度ヲ執
ラル様小生ハ切望致シ居リ候

一、對支交渉關係ノ情報秘密保持ノ件モヨク承知致シ候
奉天署長ニモ過般其ノ旨小生ヨリ申シ渡シ置キ領事館ト
ノ緊密ナル關係ヲ保ツ様念ヲ入レ置キ申シ候
先ツハ最近ノ心付キタル二三ヲ御報申シ上ケ小生ノ心持
チ御汲ミ取り願ヒ外務方面ノ官憲ノ方ニモ御序ノ節御話シ置

キ願上候 拝具
二月二十三日
中 谷 政 一
谷 學 兄
硯 北

(付記二)

（欄外記入）陳者客月二十三日附貴輸難有拝誦致シ候御來諭ノ諸點ニ對

シ不取敢異見ヲ申述ヘ度
拝復時下益々御清穆之段奉慶賀候

一、安東密輸取締問題ニ付テハ幸ニシテ囊ニ貴廳取締規則
ノ公布ヲ見安東領事ノ措置及朝鮮總督府側ノ協力ト相
俟テ着々実績ヲ擧ケツツアルハ御同慶ノ至ニシテ段々
ノ御高配奉深謝候御高見ノ通本件取締ハ此上共手ヲ緩
メ難キ次第ニ付我政府折角ノ取締方針ニ成果アラシム
ル為ニハ今後共貴廳側不斷ノ御盡力ヲ仰キ度ク存シ居
リ候而シテ之ニ伴フ失業鮮人ノ救濟ニ付テハ自業自得
トハ云ヘ人道上並朝鮮人統治上ヨリ放置スルニ忍ヒサ
ルヲ以テ囊ニ米澤領事ヨリノ申出モアリ差當リノ救濟

云フ
先ツ當面ノ小生等ニ其レ程心付カレシナラ御注意下サル
ヘキニ其ノ様ナ人ニ限り面前テハ御話シカ上手小生共ハ
其ノ様ナケチナコトニハ氣ハ惡ク致サヌカ下級ノモノニ
ナルト隨分嫌ナ顔ヲ致スモノアリ隨分煩サキ次第ニ御座
候而シ其レハ其レトシテ御互ニ満洲迄來テ小競合ノ必要
ハ無之矢張リ力ヲ協セテ盡力致スヘキモノト確信致シ居
リ候間若シ斯ルコトニ付キ御氣付ノ節ハ良ク御指導ヲ賜
ハリ度ク候

二、杜青春引渡問題ニ付テハ此種事件ヲ地方的ニ解決セム
トスル御意見ハ全然御同感ニテ今後共右御方針ニテ進
マルコトハ大局上至極望マシキ儀ト被存候本件御處
理上貴廳ト牛莊領事トノ間ニ一時行違ヲ生シタル模様
ニシテ同領事ノ遣口ニ付種々御注意ニ接シタルハ誠ニ
恐縮ニ存シ候同領事ニ於テ聊カ其ノ立場ヲ主張スルニ
急ナルノ嫌アリタル様認メラレ候モ其ノ心事ニ至リテ

ハ畢竟在満各機關間ノ協調連絡ヲ一層密接ナラシム

トスルニ存シ何等惡意アリテノコトトハ存セラレス此點ハ貴方ニ於テモ幸ニ御諒察ヲ得ラルヘキコトト存シ

候申ス迄モ無ク在満各機關ノ執掌スル事務ハ邦人ノ保護既得ノ權益擁護ニ在ルモ他方外交關係ニ影響スルノ

虞アルモノ多々有之其ノ處理ニ當リテハ慎重事ヲ取扱

フト共ニ各機關間ニ一糸乱レサル協調ヲ保持スルノ必

要将来益々大ナルモノアリ御高見ノ如ク自己ノ立場及

面子ノミニ拘泥スルヲ許ササル次第ニ付此點ハ今後共

當省關係出先官憲ニ對シ一層注意セシメ度ク考へ居リ

候ニ付テハ貴廳ト致シテモ此上共現地領事トノ間ニ事務上及感情上完全ナル協調關係ヲ繼續シ在満諸機關ノ

機能ヲ充分發揮スル様御盡力ト御指導ヲ仰キ度ク至囁

ニ不堪候先ハ貴答旁々御挨拶如斯御座候 敬具

(欄外記入)

二月五日亞ニヨリ發送スミ

編注一 「ナル」の後に「ノ」との書き込み訂正あり。

編注二 「ナル時機ヲ以テ」の箇所に「時機ナルニ拘ラス」

第一九號

海吉線延長の目的が吉敦線の貨物吸収にある
「闔ノ町」の箇所に「闔の處」との書き込みあり。

との書き込み訂正あり。
編注三 「態度」の後に「斯クノ如クナルニ於テ」との書き込み訂正あり。

編注四 「闔ノ町」の箇所に「闔の處」との書き込みあり。

72 昭和6年4月9日 在吉林石射總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

海吉線延長の目的が吉敦線の貨物吸収にある
ところ抗議の口実なしと思考について

吉林 4月9日後発
本省 4月9日後着

吉敦道ハ一昨年吉長線ニ近接セシメタル軌道ヲ更ニ吉長

驛前ノ廣場迄約一粧ヲ延長センカ爲一昨七日其區間ヲ測量

セリ(昭和四年九月十一日附往信機密公第六〇九號附屬地圖參照)近ク工事ニ着手スル趣ナルカ右延長ノ目的ハ其終

點ヲ吉敦線ノ貨物積卸場ニ接近セシメ敦化方面ヨリノ貨物

ノ積換ヲ便利ニセントスルモノニシテ吉長トノ軌道連結問題

解決ヲ待チキレスシテ此計畫ニ出テタルモノト思ハルル

鮮人ノ決意ヲ鈍ラセ事態ヲ逆轉セシムル虞アルノミナラス

右ハ客年十一月当地ニ於ケル關係當局間ノ打合趣旨ニモ合致セサルモノト認メラルニ就テハ至急朝鮮總督府ニ對シ

從來通協助ヲ與ヘラルハ様御交渉相煩ハシ度此段照會申進

ス

モ右延長線ハ吉長用地ニ關係ナク吉敦鐵路局ノ用地ヲ利用スルモノナルヲ以テ之ニ對シ抗議ヲ持出スヘキロ實存セサルヤニ思考セラル
奉天、長春へ轉電セリ

73 昭和6年4月9日 永井外務次官より

堀切拓務次官宛

安東密輸問題に關し朝鮮總督府の取締り緩和
方針に注意方要請について

亞二機密第三三二號

昭和六年四月九日

外務次官 永井 松三

拓務次官 堀切 善次郎殿

安東密輸入取締方ノ件

本件ニ關シ安東米沢領事ヨリ別紙寫ノ通り稟申ノ次第有

之タル処同方面ニ於ケル密輸行為ハ關係官廳協力ノ結果最

近漸ク其ノ跡ヲ絶チ健全ナル經濟發展ノ緒ニ就カムトスル

秋ニ當リ朝鮮總督府ニ於テ取締ノ緩和ヲ來スカ如キ方針ヲ

執ルニ於テハ折角正業ニ轉換セムトシツハアル關係邦商及

機密第二九九號
74 昭和6年4月10日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛
編注 別紙は四月三日發在安東米沢領事より幣原外務大臣
宛電報第五六号を指す。

吉同鐵道工事が銀下落と外資の不利用により

進捗しない現状について

(4月17日接受)

昭和六年四月十日

在奉天

總領事 林 久治郎

外務大臣男爵 幣原 嘉重郎殿

吉同鐵道工事開始說ニ關スル件

東北（滿蒙）懸案解決交渉

本月九日當地發行支那新聞ニ哈爾賓通信トシテ最近吉林省
政府委員會議ニ於テ吉同線鐵路籌備處ヲ吉林省城内ニ設置
スルコトヲ決議シ準備ニ取掛リタルカ本鐵道ハ三年以前ヨ
リノ問題ニシテ全線測量ハ已ニ三月末迄ニ吉會鐵路測量隊
ニ依リ完了ヲ告ケ來ル五月ヨリ愈々工事ニ着手スルコトト
ナリ全線ヲ吉林ヨリ五常ヲ經テ烏珠ニ至ル南段烏珠ヨリ延
壽、方正、依蘭、樺川、富錦ヲ經テ同江ニ至ル北段ニ分チ
更ニ北段ヲ工事上延壽方正間方正樺川間及樺川同江間ノ三
段ニ分チ向フ三年間ニ北段ノ全工事完成通車ヲ俟テ民國二
十三年ヨリ南段ノ工事ニ着手シ二十五年末ヲ以テ完成ノ上
南北兩段全線ノ通車ヲ行フ工事委員ハ此際先ツ吉林官銀號
ヨリ哈大洋五百萬元此ノ現大洋四百萬元ヲ支出シ以後毎年
吉林省庫ヨリ五百萬元宛合計二千五百萬元ヲ支出シテ鐵道
工事ニ充當シ鐵軌車輛ハ北寧路ヨリ購用スヘク斷シテ外債
ニ賴ラサル旨ノ記事アリタルニ付右眞相ニ關シ目下當館及
當地滿鐵公所ニ於テ調査中ナルカ本十日偶々在吉林峰旗滿
鐵囑託來奉セルヲ以テ同人ニ事情ヲ質ネタル處今ヨリ二週
間前ニ於ケル吉林省府ノ空氣ハ近來銀價下落ノ爲財政困
吉林省庫ヨリ五百萬元宛合計二千五百萬元ヲ支出シテ鐵道
工事ニ充當シ鐵軌車輛ハ北寧路ヨリ購用スヘク斷シテ外債
ニ賴ラサル旨ノ記事アリタルニ付右眞相ニ關シ目下當館及
當地滿鐵公所ニ於テ調査中ナルカ本十日偶々在吉林峰旗滿
鐵囑託來奉セルヲ以テ同人ニ事情ヲ質ネタル處今ヨリ二週
間前ニ於ケル吉林省府ノ空氣ハ近來銀價下落ノ爲財政困

難ヲ告ケ到底急ニ本件鐵道ノ工事ニ着手スルノ餘裕無ク差

當リ本年度ニ於テハ敦化ヨリ局子街ニ至ル自動車道路（此
工事費哈大洋八萬元ナリ自動車ヲ購入運轉ヲ開始スル爲ニ
ハ全部ニテ約五十萬元ヲ要シ右八萬元ハ單ニ道路修築費ナ
リ）ヲ完成スルニ止ムルコトニ決定シ居リタル模様ナリト
ノコトナリシヲ以テ本官ヨリ同人ニ對シ近ク同人歸吉ノ上
更ニ最近ノ事情ヲ精査シ吉林總領事ヘ報告方依頼シ置キタ
リ尙峰旗ノ談ニ依レハ張作相ハ外資ニ依リ鐵道ヲ敷設スル
コトニハ絕對反對ナル上ニ銀價暴落ノ爲財政困難ノ今日全
長七百哩ニ亘リ工事費最少限七千萬元ヲ必要トスル本件鐵
道工事ノ開始ハ容易ノ業ニアラスシテ張學良並東北交通委
員會ノ年來ノ慾通ニ拘ハラス今ニ着手ニ至ラサル事實ニ徵
シテモ其實現ノ困難ナルヲ察知シ得ヘシトノコトナリ

右報告ス

75 昭和6年4月(17)日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良に対し排日運動取締り申入れ並び国民
政府中央に日中親善勧説方要請について

奉 天 癸 壴
本 省 4月17日 着

第(電書文)號

本官十六日學良ヲ往訪シタル處學良ハ一兩日中ニ北平ニ赴
キ多分五月初旬南京ニ至リ國民代表會議ニ出席ノ心算ナル
カ一寸南京ニ滯在ノ後復北平ニ來タリ或ハ山西ヲ巡視スヘ
キモ一ヶ月内ニ歸奉ノ豫定ナリト語レリ依テ本官ハ南京ニ
於テハ前回ノ例モアリ通信員等ノ誤報ニ因リ日支間ノ輿論
ニ刺戟ヲ與フルカ如キコトハ避ケ度キモノナリト言ヘルニ
學良モ前回ノ誤解ニハ甚迷惑セリト應セルヲ以テ本官ハ日
支ノ友好關係ヲ望ムコト切ナルモノアリ旁副司令トノ關係
モ尠カラス此ノ際個人トシテ又友人トシテ本官ノ衷心ヲ申
スヘシト前置キシテ學良ニ對シ貴副司令ノ熟知セラルル如
ク本官ニ於テハ在滿ノ同胞ヲ指導シテ日支ノ關係ヲ諒解セ
シメ兩者ノ親善ヲ促進セント努力シ且幾分本官ノ努力ハ報
ヒラレツツアル際支那側ニ於テハ最近黨部成立後ハ例ヘハ
外交協會等ノ反日言動等愈熾烈トナリ居ル如ク一般ニ我官
民ノ行動ヲ非難スルモノ增加シ居ルヤノ感アリ右ハ東北指
導者タル貴臺ノ留意ヲ請フ次第ナルト共ニ鐵道運賃競爭等
一 東北（滿蒙）懸案解決交渉

ト同様ニ返還セラルモノナリヤトノ質問セリ是ニ於テ本官ハ此ノ點コソ特ニ貴副司令ノ南京行ニ當リ注意セムトス

ル處ノモノニシテ附屬地ハ勿論滿鐵ト同様ノ權利ニシテ少シニテモ本問題ニ觸ルコトハ之東北ニ於ケル兩國關係ヲ脅威スルモノナリト語レル處學良ハ兎ニ角御注意ノ點ハ同感ナルニ付南京ヨリ歸奉後先方ノ御話ヲスヘシト約セルカ

其ノ際學良ハ自分ハ無論本問題提起ノ意思ナク兩國ノ平和ニ專念スルモ國民中ニハ右ノ如キ希望ヲスルモノ鮮カラスト言ヘリ

76 昭和6年4月18日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良が十七日夜北寧線にて北平行きについて

奉天 4月18日前發
本省 4月18日後着

張學良十七日夜北寧線ニテ北平ニ向ヘリ

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

（轉電先記載ナシ）

第二五六號

年
(5)十畝以上二十畝以下ヲ商租シタル者ハ有期徒刑二十年

年
(6)十畝以上二十畝以下ヲ盜賣シタルモノハ有期徒刑四年

十年
(7)二十畝以上五十畝以下ヲ商租又ハ盜賣シタルモノハ無期徒刑

(8)五十畝以上百畝以下ヲ商租又ハ盜賣シタル者ハ死刑
二處ス

(9)百畝以上二百畝以下ノ商租又ハ盜賣ヲ紹介シタル者ハ有期徒刑五年

(10)二百畝以上五百畝以下ノ商租盜賣ヲ紹介シタル者ハ有期徒刑十年以上三十年以下

(11)五百畝以上千畝以下ノ商租又ハ盜賣ヲ紹介シタル者ハ無期徒刑

二、民國二十五年五月以前ニ於テ盜賣及擔保商租シタル者

ノ處分ハ舊法ニ照シテ懲罰シ五月一日以後ノ者ハ均シ

ク本標準ニ照シテ懲罰ス

77 昭和6年4月23日 中谷閔東庁警務局長より
永井外務次官宛

遼寧省政府の國土盜賣懲罰標準制定について

關機高支第四一〇六號ノ二

昭和六年四月二十三日

關東廳警務局長

外務次官殿

遼寧省政府の國土盜賣懲罰標準制定

遼寧省政府ニ於テハ今回國土盜賣防遏ノ爲左記懲罰標準ヲ定メタリト謂フ

記

- 一、中國ノ土地ヲ外人ニ盜賣又ハ擔保商租セシメタル者ハ左記ニ依リ處分ス但シ商租地ハ沒收シ又ハ盜賣ノ場合ハ盜賣者ノ家產ヲ沒收シテ其土地ヲ買戻サシム
- (1)一畝以上五畝以下ヲ擔保商租セシメタルモノハ有期徒刑五年
- (2)一畝以上五畝以下ヲ盜賣シタルモノハ有期徒刑十年
- (3)五畝以上十畝以下ヲ商租シタル者ハ有期徒刑十年
- (4)五畝以上十畝以下ヲ盜賣シタルモノハ有期徒刑二十年

78 昭和6年4月25日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

榊原農場の滿鐵売込説に対する國民外交協会による反対決議について

奉天 4月25日後着
本省 4月25日後着

第二七四號

最近榊原農場ノ滿鐵賣込説傳ハルヤ當地國民外交協會ニ於テハ右實現阻止ノ爲本件農場回収運動ヲ開始シ二十一日青年會館ニ於テ各法團首領及新聞記者等有力者五十餘名ノ來會ヲ求メ左ノ件ヲ決議セリト言フ

一、榊原農場ノ滿鐵賣込反對ス

二、輿論ヲ喚起シ該農場ノ回収ヲ期ス

三、外交部ニ對シ日本人ノ中國國土盜賣ノ陰謀並榊原農場回収ノ理由ヲ通電ス

四、列國ニ對シ日本人ノ中國國土盜賣ノ陰謀並榊原農場回収シ調査、基本金及評價ノ三部ニ分チ研究ス

公使、上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、南京へ轉電セリ

79 昭和6年4月25日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛

我が方から横取りした朝鮮人共産党被疑者に

対する中国側の処罰振報告

機密第四二三號

昭和六年四月二十五日

(5月1日接受)

在間島

總領事 岡田 兼一 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

我方ヨリ横取りシタル鮮人共産黨被疑者ニ對スル中

國側ノ處罰振報告ノ件

本年一月九日當館警察官力細麟河小北溝ニ於テ檢舉シタル
鮮人共産黨被疑者二十六名ヲ細麟河新場里公安局分駐所ニ
於テ横取りシタル狀況及之レカ引渡方交渉ノ經過ハ一月十
五日附機密第三三號及同月二十九日附機密第八九號拙信ヲ
以テ報告ノ通リナル處今般銅佛寺分署カ牒知シタル處ニ依
レハ中國側ハ右被疑者ヲ延吉審判廳ニ於テ審理ノ結果崔龍

ヌヤウ御願ヒイタシマス

私ハ本年二月二十二日帝國議會ニ於ケル演説中「抑モ日華
兩國ハ久シキ歴史ヲ背景トシテ今日ノ如キ密接複雜ナル關
係ヲ築キ上ケテ居ルノテアル、其關係ヲ構成スル各種ノ分
子ノ中テ如何ナルモノカ我國民的生存ノ必要上變改ヲ許サ
ル性質ヲ有シテ居ルカ、又如何ナルモノカ世界ノ變遷、
殊ニ日華間ノ新事態ニ應シテ調整シ得ラルヘキモノテアル
カ、而シテ之ヲ調整スルニハ其順序方法如何、此等ノ問題
ニ付テハ我國論ハ根本ニ於テ判斷ヲ「ニスルモノト信スル」
ト云フコトヲ述ヘタノテアリマス、其裏面ノ意味ハ諸君ニ
於テ十分御諒察ノコトテアリマセウケレトモ念ノ爲メニ今
少ク露骨ニ云ヒ現ハシマスルト例ヘハ旅大租借權並ニ滿鐵
ニ關スル權利ノ如キハ我國民的生存ノ必要上ヨリ見テ到底
變改ヲ許サル性質ノモノテアル、之ニ反シテ治外法權制
度ノ如キハ世界ノ變遷殊ニ日華間ノ新事態ニ應シテ調整シ
得ラルヘキモノテアルト信シマス

東北（滿蒙）懸案解決交渉
一 邦人ノ生命財產ノ安全ヲ圖ラムカ爲メニ若干ノ事項ニ關シ
治外法權ノ撤廢ヲ求ムル支那ノ要望ハ目下懸案トナツテ居
ルノテアリマスカ、我々トシテ之ニ同意スルニハ第一ニ本
邦人ノ生命財產ノ安全ヲ圖ラムカ爲メニ若干ノ事項ニ關シ

三外六名ハ無罪放免許世浩、李斗容ノ二名ハ病死シ愈進涉

外十六名ハ本月十六日何レモ懲役五ヶ月ノ判決ヲ言渡サレ
未決拘留日數ハ三日ヲ一日ニ計算刑期ニ算入服役セシムル
コトトナレル趣ナリ眞否不明ナルモ何等御参考迄右報告ス

本信寫送附先

代理公使 上海 北平 奉天 吉林 南京 管下四

分館

80 昭和6年4月27日 幣原外務大臣演説

地方長官會議ニ於ケル幣原外務大臣演説

(昭和六年四月二十七日)

本日ハ外交問題ニ付テ地方長官各位ノ御参考迄ニ腹藏ナク
御話シ申上ケタイト考ヘマス尤モ多クハ新聞紙等ニテ既ニ
御承知ノ事柄ト存シマスルケレトモ私ノロカラ出タコトカ
世間ニ傳ハリマスルト對外關係ニ於テ種々不利ナル影響ヲ
及ホス虞カアリマスカラ、外部ニハ一切御漏シニナリマセ

テ保障ヲ得ナケレハナリマセヌ、又第二ニ治外法權撤廢ノ
結果トシテ支那ノ内地開放力相當ノ程度ニ實行サレナケレ
ハナリマセヌ、此二點ハ我々ノ特ニ重キヲ置ク所テアリマ
ス、英米モ大體我々ト同一ノ方針ヲ以テ支那ト交渉イタシ
テ居ルノテアリマスカ、我國ハ英米其他ノ列國トハ多少立
場ニ差異カアルコトヲ認メラレマス、列國ハ支那ニ於テ我
國程ノ重要ナル利益ヲ有ツテ居リマセヌ、又其居留民ノ數
モ固ヨリ我國トハ比較ニナリマセヌ、從テ列國トシテハ右
ニ申述ヘタル二點中第一點即チ生命財產ノ安全保障ニ付テ
ハ相當ニ意ヲ用ヒテ主張イタシテ居リマスルケレトモ、第
二點ノ支那内地開放ニ至ツテハ單ニ我國ノ御附合位ノ意味
ヲ以テ今日迄要求ヲ支持イタシテ居ルニ過キマセヌ、果シ
テ何處迄其要求ヲ固執スルカハ頗ル疑問テアリマス、而シ
テ支那ハ列國カ租借地並ニ租界ヲ拠棄スル迄ハ内地開放ニ
同意スルコトカテキナイト云フ主張ヲ以テ列國ニ對抗イタ
シテ居リマス、斯クノ如ク治外法權ノ交渉カ未タ國民政府
ノ思フヤウニ抄ラナイノテ國民政府ハ追々痺レヲ切ラシ又
内政上ノ理由モアリマシテ、近頃ニ至ツテハ頻リニ來月勿々、
即チ國民會議ノ開催前ニハ支那ノ一方的意思ヲ以テ治外法

權ノ廢棄ヲ斷行スルノ決心アルコトヲ宣傳イタシテ居リマス、其眞意ハ未だ遠ニ推測シ得ラレマセヌケレトモ、果シテ支那カル措置ヲ執リマスルナラハ支那ト日本其他列國トノ間ニ容易ナラヌ紛糾ヲ生スルテアラウト思ハレマス、尤モ支那ハ實質ヨリモ面子ヲ尙フ國柄テアルコトハ常ニ我々考ノ中ニ入レテ置カナケレハナリマセヌ、目下我々ハ支那カ如何ナル措置ニ出ソルカニ注目シテ之カ對策ヲ考究中テアリマス

次ニ滿蒙問題ニ付テハ我國ノ一部ニ於テ之力根本的解決ノ必要ヲ唱フルモノカアリマスルト共ニ、支那ニ於テモ亦齧々トシテ其根本的解決ヲ要求スルモノカアリマス、併シナカラ同シク根本的解決ト稱シテモ、日本側テ之ヲ云フノト、支那側テ之ヲ云フノト意味ハ同一テハアリマセヌ、日本側ノ論者ハ我國ノ爲メニ滿蒙地圖ノ色取リヲ更ヘナケレハ根本的解決テナイト云フ、又支那側ノ論者ハ日本ヲシテ旅大租借權並ニ滿鐵ニ關スル權利ヲ拋棄セシメ以テ滿蒙ニ於ケル日本ノ政治的地位ヲ根底ヨリ覆ヘサナケレハ根本的解決テナイト云フ、即チ双方ノ論者共ニ現狀ノ打破ヲ叫フ聲ハツテモ最終ノ目標ハ正反対テアリマス、斯カル意味ヲ以

クハ前内閣時代ヨリ懸案トシテ取残サレテ居タモノテアリマシテ、之力解決ハ決シテ容易テハアリマセヌ、時日ヲ要シマス、忍耐モ要シマス、併シナカラ滿洲ノ將來ヲ考ヘマスレハ此際何トカシテ解決ヲ期シナケレハナリマセヌ、世間テハ近來支那側カ自己ノ鐵道系統ニ依ツテ滿鐵ヲ包圍シ其自滅ヲ計ルノ政策ヲ執リツツアルモノト觀測シ現ニ昨年來滿鐵ノ收入減ハ斯カル支那側ノ政策ニ基ク如ク論スル人モアリマス、私ハ滿洲ノ現狀ニ於テハ夫レ程悲觀イタシテ居リマセヌ、滿鐵ハ目下其競爭線ト稱セラル支那ノ諸鐵道ト相對峙シテ之力競争ニ堪ヘナイ程ニ基礎ノ薄弱ナルモノテハアリマセヌ、又營口ト云ヒ或ハ最近支那側カ築港ニ着手セル胡蘆島ト云ヒ、何レモ容易ニ大連ト拮抗スルニ足ルヤウナ地位ヲ占メラレルモノトハ想像シ得ラレマセヌ、シ、胡蘆島ノ築港ヲモ大規模ニ完成スルニ至リマスルナラハ始メテ滿鐵ニ對スル重大ナル脅威トナリマセウケレトモ、今日ハ國內ニ於テモ又外國ニ於テモ斯カル莫大ナル資金ヲ調達スルコトハ不可能ト思ハレマス、併シナカラ我々ハ決シテ現狀ニ安ソスルモノテハアリマセヌ、從テ機會ヲ捉へ

テ滿蒙問題ノ根本的解決ト云ヒマスルナラハ双方孰レノ意見モ此際實現シ得ラルヘキ政策ノ範圍ヲ離レタル一片ノ空論ト申サナケレハナリマセヌ、即チ一方ニ於テ今日我國力滿蒙地圖ノ色取リヲ更ヘムトスルカ如キ考ハ時代ノ趨勢ト餘リニ懸ケ隔ツテ居ルノミナラス結局我懷ノ中ニ爆發物ヲ裝置スルト同様ノ危險ヲ免レナイモノト信シマス、又他ノ一方ニ於テ支那ノ如何ナル方面ヨリ旅大租借權又ハ滿鐵ニ關スル權利ヲ回収セムトスルカ如キ要求カアリマシテモ我々トシテ到底之ヲ問題トナシ得ヘキ筋合テハアリマセヌ、今日何人カ外交ノ局ニ當ツテモ、又如何ナル内閣カ組織サレテモ、斯カル支那側ノ要求ヲ取上ケテ問題トナシ得ナイコトハ明瞭テアリマシテ、私ハ豫テ支那ノ要路ニ在ル人々ト會談中屢々率直ニ之ヲ明言イタシタコトカアリマス
我々ハ滿蒙地方ニ於テ政治地圖ノ修正ヲ企テルヨリモ、兩國間ノ經濟關係ヲ改善スルノ必要ヲ認ムルモノテアリマス、而シテ其經濟關係ノ改善ハ双方共存共榮ノ主義ニ基礎ヲ求メナケレハナリマセヌ、斯カル見地ヨリ我々ハ滿洲地方ノ鐵道ニ關スル問題ニ着目シテ過般支那側ト意見ノ交換ヲ開始スルコトニナツタノテアリマス、固ヨリ此等ノ問題ハ多

テ支那トノ交渉ヲ促進シ、一方ニ於テ滿鐵ノ利益ヲ保全スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ支那ノ諸鐵道モ相當ノ收益ヲ擧ケ得ルヤウナ方法ヲ設ケ、兩々相待ツテ滿洲ノ開發ヲ圖ルコトニイタシタイト苦心計畫イタシテ居ルノテアリマス
支那ノ全體ニ亘ツテ情勢ヲ概觀シマスルニ最近悅フヘキ傾向ハ政府ノ當路者モ國民黨ノ主腦部モ所謂政治ノ建設的事業ニ全力ヲ舉クルノ必要ヲ高調イタシテ居ルコトテアリマス、支那カ内亂ノ渦巻ノ中ニ在ル間ハ政治ノ建設的革新ハ行ハレルモノテハアリマセヌ、之力爲メニ我國ニ取ツテハ兔角支那ノ内爭ニ干渉スルモノノ如キ疑惑ヲ招キ易ク、又貿易其他經濟的活動ノ上ニモ自然順調ナル發展ヲ期シ得ラレマセヌ、從テ支那ノ内亂平定シテ其有力者カ真劍ニ政治ノ建設的事業ニ努力スルヤウニナリマスレハ隣邦ノ幸福テアルコトハ申迄モナク、我國トシテモ有形的無形的ニ尠ラサル利益ヲ伴フ所以テアリマスカラ之ヲ歡迎シテ及フ限リノ支持ヲ與フヘキコトテアリマス、而シテ斯カル事業ニ對シ最有益ナル力添ヲ爲シ得ル地位ニ在ルモノハ即チ我國テアリマシテ、現ニ我國ニ留學シタ人々ハ支那各方面ニ於テ重用セラレ盛ニ活躍イタシテ居リマス又國民政府ノ各部

ヨリ軍事、警察、交通、教育其他各般ノ行政事項ニ亘ツテ
我國ニ視察員ヲ派遣シタリ、調査ノ資料ヲ求メタリ又ハ我
國ヨリ顧問教官ヲ傭聘シタリスルコト力漸次頻繁ヲ加フル
ニ至ツタノテアリマス、此等ノ視察員ハ多クハ新ナル支那
ノ建設事業ニ參畫スヘキ錚々タル若手テアリマスルカ故ニ、
其任務ニ十分ノ便宜ヲ與ヘラレマスルヤウ諸君ニ於テモ御
配慮ヲ切望スル次第テアリマス

次ニソヴィエット聯邦即チ露國ノ現狀ヲ簡短ニ申述ヘマス
露國ハ共產主義ノ國家トシテノ生存ヲ全ウスルニハ經濟上
ニ於テ外國ニ依頼スルヤウナ情態テアツテハナラヌ。速ニ
其國民經濟ヲ世界ノ經濟ヨリ獨立セシメナハナラスト云フ
必要ヲ認メタノテアリマス、之カ爲ニハ工業殊ニ重工業ノ
發達ヲ圖ルト共ニ農業ノ經營方法ヲ一變シテ共產主義ノ實
行ニ適スル集團的組織ニ改メ此趣旨ヲ以テ千九百二十九年
所謂五ヶ年計畫ナルモノヲ定ムルニ至ツタノテアリマス同
計畫ハ實施後事態ノ變遷ニ伴ツテ多少ノ變更ヲ加ヘラレマ
シタカ當初ノ豫定ニ依リマスルト千九百二十九年ヨリ千九
百三十三年ニ至ル五ヶ年間ニ總額約六百四十六億留ノ資本
ヲ投シ、工業、農業、商業、運輸、電化等國民經濟ノ各部
ニハ申述ヘマセヌ

第二ニ露國ハ五ヶ年計畫ヲ遂行スル爲ニハ工業建設ノ諸材
料、農具及原料品ノ供給ヲ外國ニ仰カナケレハナラヌ、而
シテ其輸入資金ニ充ツル爲ニハ是非共自國生產品ヲ外國ニ
賣捌カナケレハナラヌ、此必要ニ迫マラレテ露國生產品ヲ
突飛ナル廉價テ外國市場ニ賣出スコトナツタノテアリマ
ス、之レカ爲メニ歐米諸國ノ經濟界ニ尠カラサル脅威ヲ與
ヘ露國ノ「ダンピング」政策トシテ目下ノ重大問題ニナツ
テ居リマス尤モ露國ノ經濟組織ニ於テハ資本ニ對スル配當
モナク重役ノ特別賞與モナク仲買人ノ利得モナク從ツテ生
産費ハ資本主義ノ國ト同一ニ律シ難イ所モアツテ、又外國
貿易ハ國營テアリマスカラ輸出品ノ價格ハ何程テモ値安ニ
定メルコトカ出來ルノテアリマス、之ヲ普通ノ意味ニ於ケ
ル「ダンピング」ト稱シ得ルヤ否ヤ議論ノアル所テアルト
考ヘマス、

以上述ヘタル五ヶ年計畫ハ昨年十二月ヲ以テ満二ヶ年ヲ終
了シタ次第テアリマスカ本年一月聯邦人民委員會議長「モー
ロトフ」氏ハ右二ヶ年ノ成績カ國民經濟ノ各部門共ニ豫定
ノ發展率ヲ超過セルコトヲ報告致シテ居リマス、然シナカ

門共ニ大發展ヲ實現セムトスルモノテアリマシテ、其結果
五ヶ年後ニハ例ヘハ工業生產額ハ千九百二十八年度ノ約二
倍半、農業ハ約一倍半ニ增加セシメ、又國家ノ基本的資本
總額ハ七百億留ヨリ千二百八十億留ニ增加セシメムトスル
極メテ雄大ナル計畫テアリマス、其計畫ノ遂行ニ關シテ露
國政府ハ種々ノ頗ル奇抜ナル制度方法ヲ實施シテ居リマス
カ、其一二ノ例ヲ舉ケマスルト

第一ハ一週五日並ニ不休生產ノ制度テアリマス、即チ一週
間ヲ七日トスルコトヲ廢シテ五日トシ其中四日間引續イテ
勤勞シ五日目ヲ以テ休日トスル、然ルニ全國民一律ニ同シ
日ニ五日目ノ休日カ來ルト其一日ハ生產事業カ全ク休止セ
ラレルコトニナルカラ、之ヲ避ケル爲ミニ勤勞者ヲ五組ニ
分ケテ一組ツツ順々ニ休ムト云フコトニイタシタノテアリ
マス、此制度ニ依リマスレハ勤勞者トシテハ從來一週七日
ノ制度ノ場合ヨリモ休日カ増シマスケレトモ、全國民一律
ニ同シ日ニ休ムノテハアリマセヌカラ、生產事業ハ一日モ
休止シナイコトニナリマス、此制度ハ勞働者ノ生產能率ヲ
増加セム力爲ニ設ケラレタモノテアリマシテ、若干ノ利益
モアルト共ニ幾多ノ缺點モ認メラレマスカ、其得失論ハ茲
暫ク經過ヲ待ツノ外アリマセヌ

先般來北洋漁業ニ關聯シテ「ルーブル」問題ハ頻リニ世間
ヲ騒カシテ居リマシタカラ其ノ眞相ヲ大體説明申上ケマス、
先ツ露國ノ法制ヲ觀マスルニ第一ニ露國ハ「ルーブル」貨
幣ノ輸出及輸入ヲ禁止シテ居リマス、今日露國ノ國境外ニ
於テ事實上相當多額ノ「ルーブル」貨物貯藏セラレ而シテ
其相場ハ著シク低落シテ居ルノテアリマスカ假令斯カル低
落セル相場ヲ以テ露國ノ國境外ニ存在スル「ルーブル」貨
ヲ買集メルコトカテキマシテモ之ヲ適法ニ露國內ニ輸入ス
ル途カアリマセヌ、第二ニ露國ハ「ルーブル」貨ト外國貨
幣トノ間ニ公定相場ヲ設ケマシテ其相場以外ノ率ヲ以テ
「ルーブル」貨ヲ賣買スルコトヲ禁止シテ居リマス、近年
露國內ニ於テモ「ルーブル」貨ノ貨幣價值ハ激減シテ居リ

マシテ、金額力多クナケレハ事實上餘リ目立タスシテ所謂暗黒相場ニ依リ値安ニ「ループル」ヲ買入レルコトモ出來ルヤウテアリマスカ、何分國禁ヲ犯スコトテアリマスカラ、多額ノ「ループル」貨ヲ公定相場以下ノ率ニテ入手シ得ラル途カアリマセヌ、個人力外國貿易ニ從事スルノ自由ヲ認メラル國ニ於テハ國家ノ權力ヲ以テ自國ノ貨幣ト外國貨幣トノ間ニ相場ヲ一定シ之ヲ強制セムトルカ如キコトハ實際行ハレ得ヘキモノテハアリマセヌカ、露國ハ貿易國營ノ制度ヲ施行シテ居リマスカラ、國家ノ機關以外ニハ外國貨幣ヲ需要スルモノカナイ道理テアリマス、從テ個人力「ループル」貨ヲ以テ外國貨幣ヲ買取ルコトハ露國特有ノ經濟組織ヲ破壊スル投機的ノ行爲ト看做サレ嚴罰ヲ科セラレルコトニナツテ居ルノテアリマス、

唯朝鮮銀行浦潮支店ハ大正十三年ニ國外向送金並ニ「ループル」貨賣買ノ特許ヲ地方官憲ヨリ受ケマシタ、尤モ其特許ハ一定ノ期間ニ付テ保障サレタモノテナク又固ヨリ國際協定ノ性質ヲ有スルモノテアリマセヌカ、事實上鮮銀支店ハ爾來故障ナク右特許セラレタル業務ヲ取扱ツテ居タノテアリマス、然ルニ昨年九月ニ至リ露國極東財政全權ハ鮮銀

支店ニ對シ國外向送金業務並ニ公定相場以外ノ率ニ依ル「ループル」貨賣買ノ業務ヲ禁止スルノ命令ヲ發シタノテアリマス、從來我漁業家ハ鮮銀トノ間ニ所謂暗黒相場ノ取引ニ依ツテ値安ニ「ループル」貨ヲ買受ケ之ヲ露領漁業借區料ノ支拂ニ充テルコトカ出來マシタカラ借區料ノ額力近年急激ニ引上ケラレタルニ拘ハラス之ヲ支拂ツテ大體事業ノ經營上採算ノ見込カアツタノテアリマスカ、鮮銀支店力前ニ述ヘマシタル業務ヲ禁止サレマシタノテ、我漁業家ハ最早此筋道ニ由ツテ値安ニ「ループル」貨ヲ買受ケルコトカ出來ナクナリ、且昨年來漁獲物ノ賣値力不景氣ノ爲メ低落シタル結果若シ公定相場ヲ以テ「ループル」貨ヲ買受ケ之ヲ借區料ノ支拂ニ充テナケレハナラヌコトニナリマスルト到底其負擔ニ堪ヘナイコトハ明瞭テアリマス、露國政府モ此實際ノ事情ヲ酌量イタシマシテ一方ニ於テハ公定相場以外ノ率ヲ以テスル「ループル」貨ノ賣買ハ國法ニ違反スルカラ、之ヲ公然認メルコトハテキナイケレトモサリトテ他ノ一方ニ於テ日本漁業家ニ對シ其到底負擔ニ堪ヘサル借區料ノ支拂ヲ強要シテ事實上漁業ノ經營ヲ不可能ナラシムルカ如キ意思ハ毫頭^(アマタ)之ヲ有ツテ居ナイコトヲ幾度トナク明

言シ、右露國ノ法制ト日本漁業家ノ立場トヲ調整セムカ爲メニ露國側ニ於テハ日本貨幣ヲ提供スル我漁業家ニ對シテハ「ループル」貨ノ債券ヲ一定ノ割引ヲ以テ發行シ我漁業家ハ其債券ヲ額面ニテ借區料ノ支拂ニ充テルコトヲ得ルト云フ一ノ便法ヲ提議スルコトニナツタノテアリマス、茲ニ於テ其露國債券ヲ如何ナル割引ヲ以テ發行スルカト云フ點カ事實問題トシテ重要ナル爭點トナルニ至ツタノテアリマスカ之ニ關スル露國トノ交渉ハ種々ノ迂餘曲折ヲ經タル末遂ニ昨二十六日其割引率ハ一「ループル」ヲ三十二錢五厘トスルコトニ一應協定力成立チマシタ次ニ本邦人ノ海外移植ノ概況ヲ申上ケマスルト客年十月我國ニ於ケル國勢調査ノ施行ト同時ニ在外本邦人ニ關シテモ同様ノ調査ヲ行ヒマ植民ノ保護獎勵ヲ加ヘタル結果南米及南洋方面ニ於ケル在留者ノ增加セルカ爲テアリマス、此等ノ諸外國ト我國トノ關係ハ頗ル滿足スヘキ情態ニ在リマシテ嘗テ排日立法ヲ有シマシタル「パナマ」國モ其條項ヲ撤廢シ最近「キユバ」國モ亦移民立法ニ際シテ我國ニ好意アル態度ヲ示シ更ニ本

邦人ノ最多數ニ在留スル「ブラジル」國ニ於テハ國內失業對策ノ一トシテ一般外國移民ノ入國ヲ嚴重ニ制限シツツアルニ拘ハラス本邦人ニ對シテハ平常ト大差ナキ入國ヲ許シテ居リマス又南阿聯邦ニ於ケル本邦人ノ入國在留ニ付テハ從來極メテ苛酷ナ制限力アリマシテ之力緩和ノ爲多年我方ヨリ幾度トナク交渉シマシタケレトモ其目的ヲ達シナカツタノテアリマスカ昨年十月ニ至ツテ漸ク兩國政府間ニ了解力成リ立チ本邦商人ノ入國在留ニ關スル待遇ハ格段ノ改善ヲ見ルコトトナリマシタ、素ヨリ政府トシテハ此等諸國ノ好意ニ顧ミマシテ、本邦人ノ外國渡航ニ關シテハ從來ノ通ニモ貢獻セシムルヤウニ意ヲ用ヒテ居ルノテアリマス、終リニ一言申添ヘタイノハ近年一般ノ國際關係ハ益々複雜ニナリマンテ世界大戰前ニ比スレハ著ク趣ヲ異ニスルニ至ツタコトテアリマス、本來一國又ハ一地方ニ關スル問題ト雖今ヤ列國ノ利害ハ纏綿錯綜シテ動モスレハ世界的問題トナリ殊ニ苟モ國家間ノ平和ニ影響ヲ及ス事態ハ國際聯盟規約ノ明文ニ依レハ當然聯盟各國全體ノ利害ニ關スルモノト

看做サレルコトニナツテ居マス從テ世界全局ノ形勢ヲ察セ
シテ輕卒盲動スルモノカアリマスレハ我國ニ取ツテノ危
險之ヨリ大ナルモノハアリマセヌ就テハスカル目先ノ見エ
ヌ無謀ナル計畫ヲナス者ノ動靜ニ付テハ諸君ニ於テモ十分
ニ御注意ヲ加ヘラレ我々外務當局ト御打合ノ上機宜ニ應シ
テ適當ナル指導取締ノ措置ヲ執ラレルヤウニ希望イタス次
第テアリマス

81 昭和6年5月5日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

安東密輸沒收品の歸屬關係確定につき請訓

第七一號
安 東 5月5日後発
本 省 5月5日後着

⁽¹⁾ 密輸沒收品ノ歸屬問題ニ關シテハ客年末海關外勤員罷業事
件解決當時取締令發布ニ關聯シ既ニ海關側ニ於テ問題トシ
タルコトアルモ其際ハ本官ニ於テ「ピール」ニ對シ海關ノ
目的ハ輸入税ノ徵收ヲ確保スルニアリテ密輸品ノ沒收ニア
ラサルヘク我方取締ノ目的モ亦右海關ノ目的達成ニ協力セ
ハ畢竟日本官憲自ラ脫稅行爲ヲ爲スニ等シキ結果トナルヘ
シ

ト述ヘタリ依テ本官ハ問題ノ性質上即答ヲ避ケ追テ熟考ノ
上回答スヘキモ日本ノ立場ヨリスレハ密輸ハ關東廳令ノ效
果トシテ違法トナリ而シテ沒收ハ此違法行爲ニ對シ處罰ノ
モ御打合ノ上右ニ對スル本官ノ回答振御回訓相煩ハシ度シ
公使ヨリ南京へ轉報ヲ請フ

激昂セシムルコト其他相當重大性ヲ帶フルニ付關係官憲ト
モ御打合ノ上右ニ對スル本官ノ回答振御回訓相煩ハシ度シ
公使、北平、奉天、關東廳へ轉電セリ

機密第二五七號

82 昭和6年5月6日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛

中國官憲が商租契約をなしたる朝鮮人の商租

地移転を阻止しづる旨報告
昭和六年五月六日

外務大臣男爵
幣原 喜重郎殿
在安東領事 米澤 菊二
土地商租ニ對スル當地官憲ノ態度ニ關スル件

思フニ本件正式回答ハ（一）沒收品歸屬關係ノ原則ヲ確定スル
モノナルコト（二）萬一先方ニ引渡スヘシトスルニ於テハ事實
上取締警察官ニ勧甲斐ナシトノ印象ヲ與ヘ自然職務ニ不熱
心ナラシムルノ危險大ナルコト及（三）國境兩地一般ノ輿論ヲ
ヘシト述ヘタリ

ントスルニ外ナラスシテ即チ問題ハ沒收品ノ歸屬問題ヲ如
何ニスルヤニアラスシテ如何ニシテ沒收ノ如キ處分ヲ實際
上不必要ナランムヘキヤニアリトノ趣旨ヲ述ヘ置キタル次
第（本年一月九日附機密第一五號拙信第六節ノ二參照）ナ
ルカ既報ノ如ク外勤者側ノ態度變化ニ伴ヒ密輸漸ク增加ノ
傾向ヲ示シ安東側警察官ノ沒收處分ニ附セラルモノ鮮力
ラス一方海關ニ共同差押ヘ等ノ事實モ現ハレ本件沒收品ノ
歸屬如何ハ茲ニ實際問題トシテ解決ヲ必要トルニ至レリ
右ニ關シ今般海關長ヨリ公文ヲ以テ（イ）沒收品ハ當然中
國側ニ歸屬スヘキモノナリ（ロ）依テ我方警察官ノ差押ヘ
ニ係ルモノハ之ヲ引渡サレタシ（ハ）差押ヘヲ爲シタル官
憲ニ對シテハ中國官憲ノ沒收者ニ對スルト同様報酬ヲ提供
スルコトト致度キ旨申越スト共ニ四日「ピ」本官ヲ來訪右
ノ次第ヲ更ニ詳述シ若シ我方ニ於テ之力引渡ヲ爲サストセ
ハ畢竟日本官憲自ラ脫稅行爲ヲ爲スニ等シキ結果トナルヘ
シ

自体ニ對シ不法ノ干涉ヲ爲シ地主タル中國人ヲ嚴罰ニ處スル等直接商租契約權ヲ排除スルノ手段ニ出テツツアルニ因ルコト多ク漸ク我對滿發展上看過シ難キ事態ヲ馴致シツツアルヲ以テ本官ハ少クトモ當地官憲ノ關スル限り個人間ノ自由意志ニ依ル商租契約ニ對シ直接間接ノ障害ヲ加ヘサル様申シ入レ度キ所存ニテ之カ機會ヲ覗ヒ居タル處今回鳳城縣第六區東瓜林子居住鮮人裴承賢ナル者安東縣第三區脈起山（渾水泡派出所東方十丁）居住中國人王樹庭ヨリ同人所有ノ田畠四十三天地（一天地ハ一〇八〇坪）ヲ一万六千元ニテ商租シ三月十四日別添ノ如キ商租契約ヲ爲シタル事實アリ然ルニ同地ニ於ケル中國官憲ハ該商租鮮人ノ商租地ニ移轉スルヲ阻止セシヲ以テ渾水泡駐在我警察官ヲシテ不取敢其ノ不法ヲ責メ置カシメルカ折柄當地王縣長ハ本官ニ對シ中國側ニ於テ該契約ノ内容ヲ確メ度キモ同中國人ハ所在不明ナルヲ以テ（事實ハ中國官憲ノ毒手ヲ虞レ逃亡セリ）確メラレサルニ付該鮮人ヨリ契約内容ヲ承知致シ度キ旨依賴シ來リタルヲ以テ本官ハ先方ノ申入ヲ應諾シ該契約書寫ヲ示シ同契約カ完全ナル個人間ノ自由契約ニシテ正當ナル商租契約ナル旨ヲ詳細説明シ當該中國官憲ニ於テ該鮮人ノ

約セシムレハ足ルヘント云ヒ本官ノ要求ヲ容レテ當該地方官憲ニ對シ該鮮人ニ妨害ヲ加フルコト無ク移住セシムル様轉筋シ事實該鮮人ハ無事同地ニ移住スルコトヲ得タリ尙縣長ハ本官ニ對シ商租ト云フモ從來ノ實例ハ必ラス地券ヲモ交付シ居ルニ付本商租ニ關シ將來省政府ヨリ指令シ來リ該中國人ニ於テ商租金及其他ノ諸掛ヲ用意シタリトスルモ地券ニシテ轉々讓渡サレタル場合ニハ關係複雜トナリテ其解決モ容易ナラサルヲ以テ地券ハ他ニ轉讓セサル様領事館ニ保管方ヲ依頼シタルヲ以テ本官ハ先方ノ意ノアル所ヲ諒シ之ヲ應諾シ右地券ヲ一應當館ニ保管スルコトシタリ惟フニ本件ニ關シテハ何レハ省當局ヨリ縣政府ニ對シ該商租契約解除方ヲ命令シ來ルヘント思料セラル處勿論地主タル中國人ハ到底其ノ回收能力無キヲ以テ縣長ノ云フ如ク結局ハ懸案トナルヘキモ目下ノ處先方ノ理解アル態度ニ依リ無事移住シ得タルヲ以テ將來共何等ノ障礙ナク商租地ニ於テ耕作シ得ヘント思料セラルモ其ノ成行ニ關シテハ本官ニ於テ特ニ注意シ居レリ

右何等御参考迄報告ス

本信寫送付先 公使 北平 奉天 朝鮮總督 關東長官

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

商租地ニ移住スルヲ妨碍スルハ甚タ不當ナルヲ以テ如斯行爲無キ様轉筋方嚴重申入レタル處縣長ハ該契約書ヲ一覽ノ上別ニ土地ヲ賣買シタルモノニ非サルヲ以テ官憲ニ於テ之ニ干涉スルノ權利ナク又商租ニ關シテハ大正四年ノ所謂廿一ヶ條ニ根據ヲ有スルモ地方法官タル本官等ニ於テ之力效力シ來ル場合ニハ改メテ交渉スルコトノ差シ當リハ該契約期間ヲ三十年ニ改メ又商租ノ商ノ字ヲ削除セシメラルレハ充分ナルヘシトテ專ラ理屈ヲ拔キニシ實際的見地ヨリ問題ノ解決ヲ講セントスル意向ヲ示シタルヲ以テ本官ハ商租ニ關スル交換公文ニ徵シ其ノ期限ヲ三十年ト改ムルコトモ又先方ノ讓歩的態度ヨリ見テ商ノ字ヲ削除セシムルコトモ共ニ不可ナシト思料シ先方ノ申入レ通應諾シテ改約ノ上ハ直ニ該鮮人ハ中國官憲ノ妨碍ヲ受クルコト無ク自由ニ移轉シ得ルコトニ諒解ヲ遂ケタリ一方該鮮人ハ現實ニ商租地ニ移轉耕作ヲ爲ス能ハサル折柄ナルヲ以テ喜ンテ右改約ニ應シタルモ地主タル中國人ハ依然所在不明ニテ改約不能ナリシニ付其ノ旨縣長ニ通報シタルニ縣長ハ既ニ商租者ニ於テ右ヲ承諾スルニ於テハ將來該中國人ヲ探し得タル際正式ニ改

83 昭和6年5月11日

在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

遼寧國民外交協會が旅大、安奉線回収などを

国民會議に提議方張學良等に電請について

奉天 5月11日後發
本省 5月11日後着

第三〇四號

遼寧國民外交協會ハ十日附ヲ以テ在南京張學良及遼寧省國民會議代表ニ對シ即時旅大及安奉線回収日本軍隊警察撤回及郵便局取消方ヲ國民會議ニ提議アリタキ旨電請セル趣ナルカ右電文ノ要旨左ノ如シ
旅大及安奉線ハ早ク既ニ滿期ト成レルモ未タ回収セラレス駐在日本軍警ハ至ル所支那人ヲ殺傷シ郵便局モ撤退セス在留日本人ハ多ク毒物ヲ販賣シ馬賊ヲ庇ヒ又最近日本軍ハ安東電燈廠ノ工事ヲ阻止シ遼陽ノ日本巡查ハ支那人ヲ慘殺シ種々ノ暴行忍フヘカラス茲ニ本會ハ全体執行委員ノ決議ヲ經テ即時旅大及安奉線回収日本郵便局取消シ駐屯日本軍警撤退方國民會議提議ノ件ヲ電請ス

支、北平、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、吉林、
哈爾賓へ轉電セリ

(別紙)

日支官憲聯絡協調ニ關シ和龍縣長トノ懇談要領

田中副領事

102

84 昭和6年5月23日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛

幣原外務大臣宛

日中官憲連絡協調に関する啓和竜県長との会

談内容について

機密第五五〇號

昭和6年5月二十三日

(5月29日接受)

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支官憲聯絡協調ニ關シ和龍縣長トノ交渉狀

況報告ノ件

新任和龍縣長啓彬ト舊知ノ間柄ニアル田中副領事ヲシテ大拉子ニ出張セシメ日支官憲聯絡協調方ニ關シ種々懇談セシメタル處其要領別紙報告書ノ通リナルニ付何等御参考迄別紙添付此段報告ス

本信寫送附先 在支公使 奉天 吉林 管下四分館

リ(五)依テ帝國政府ハコノ事態ニ處スルタメ最モ穩便ノ方法ニ依リ支那側ノ無理解ヲ反省改悟セシメ中日協力シテ間島ノ治安ヲ保持シ朝鮮統治ニ對スル禍因ヲ去リ在留鮮人ノ安定向上ヲ得セシメントノ見地ヨリ奉天吉林間島ノ各總領事ニ訓令シ相呼應シテ中國當局ト懇談セシメタルカ其間龍井事件其ノ他不祥事件ノ發生ヲ見ル等益々紛糾ヲ重ネタルモノ後中國當局ニ於テモ我方ノ眞意ヲ了解シタルモノト見エ漸次彼我ノ關係ハ好轉スルト同時ニ當地方ノ事態モ稍改善セラレテ今日ニ至レルモノナリトノ趣旨ヲ説明シ更ニ奉天、吉林、間島各總領事力今日迄張學良、張作相、張書翰等ノ間ニ懇談ヲ遂ゲタル狀況ノ一般ヲ概説シタル上コレ等最高責任者ノ意向ハ差當リ現狀維持ノモトニ中日双方ノ感情融和ヲ計リ以テ彼我ノ衝突ヲ避ケルト同時ニ相互ニ立場ヲ了解シテ個々ノ問題ニ善處スルノ方針ニ出ツルヨリ外ナシトノ意見ナルカ如シ

然ルニコレ等上司ノ意向力出先官憲ニ徹底シ居ラサルカタメ力其後ニ於テモ屢我方ノ檢舉シタル犯人ヲ奪取スル等彼我ノ衝突ヲ誘致スルノ振舞アリ我方トシテハ其都度嚴重抗議シ最近ハ稍緩和シタルモノノ如キモ未タ十分トハ言ヒ難

キ狀態ニテ甚ダ遺憾ニ存シ居ル次第ナリト説明シタル後目下公安局長モ更迭シタル際ナルニ付這般ノ事情篤ト説明セラレ出來得レハ中日警察官ノ協調聯絡ニ依リ治安維持ノ實ヲ擧ケラレ度否ラサレハ少クトモ我方ニ拮抗的態度ヲ以テ對應セラレサル様十分注意セラレ度旨申入レタル處啓縣長ハ御説明ノ次第ハ承セリ自分力當縣長トシテ赴任ノ際張作相ヨリモ懇々ト注意アリ貴下ノ説明セラレタル趣旨ハ一應心得居ル次第ニ實狀ヨリ見レハ中國側ノ警防機關ハ當地方ニ於ケル事態ノ惡化ニ對應スルニ足ルモノトハ認メラレズ又將來トテ其見込ナキ狀態ナルカ故ニ中日ノ關係ニ於テハ現狀維持ヲ以テ進ムヨリ外策ナキ次第ナルカ實際ニ當ツテハ此ノ方針ノモトニ個々ノ事件ニ善處シ行クコトハ仲々六ヶ敷コトナリ殊ニ近來ハ東三省ノ問題モ中央政府ヨリ種々制肘ヲ受ケ對日外交問題ノ如キモ東三省當局ノ意見ニ依レハ當分現狀維持ニ依リテ日本トノ間ニ紛爭ヲ生セシメサルコトヲ欲シ居ル處中央ヨリハ之ト反對ニ種々ノ申出或ハ黨部其他ノ監察員等モ入込ミ當局ハ何レノ方針ヲ採ルヘキ力去就ニ迷ヒ居ル程ナルカ故ニ出先トシテハ表面ニ顯ハレタル主權ニ關係アル事項ハ已ムヲ得ス強硬ノ態度ヲ標榜シテ

五月十九日啓縣長ヲ縣公署ニ往訪シ隔意ナキ意見交換ヲ希望スル旨申入レ先ツ一般交渉要點トシテ(一)間島ニ於ケル治安狀態ノ如何ハ朝鮮統治上直接ノ影響ヲ及ホスマノナルヲ以テ帝國トシテ最大ノ關心ヲ置ク所ナリ(二)商埠地外ニ於ケル我警察官ノ活動ハ過去及現在ノ事態ニ鑑ミ眞ニ已ムヲ得サル所ニシテ在留鮮人ノ保護並ニ不逞鮮人共產黨或ハ馬賊ニ對スル警防ハ中國側ニノミ信賴スルヲ得サル點十分認識セラレ度シ(三)我方ノ眞意ハ領土侵略中國行政權ノ侵害或ハ我警察制度ノ確立等何等野心ヲ有シ居ラサルコトヲ十分了解セラレ度シ(四)然ルニ中國側ノ我警察官ニ對スル態度ハ從來著シク拮抗的或ハ挑戰的トナリ且在留鮮人ニ對スル壓迫ハ益々深刻ヲ加ヘタメニ種々不祥事端ヲ頻發シ而モ這般ノ形勢力不逞鮮人或ハ共產黨ノ活躍ニ益々乘スヘキ機會ヲ與へ昨年五月三十日ノ暴動事件前後ニ於テハ當地方ノ事態ハ甚ダ憂慮ニ堪ヘサルモノアリタリコレカタメ我輿論ノ激昂間島問題ノ重大化ハ遂ニ中央政局ノ問題トサヘナレル程ナ

自己ノ地位ヲ擁護シ然ラサル場合ハ可然善處シテ問題ヲ紛糾セシメサル様致スコト肝要ナリコノ意味ニ於テ當地方ノ如キハ張主席ニ於テモ地方官ノ人選ニ意ヲ用ヒ居ル次第ニテ主席カ自分ニ對シ特ニ一般ノ心得ヲ注意シ又吉林、奉天總領事等ヨリノ申出ノ次第ヲモ説明シ此際日本側ノ希望ヲ容ルルコトハ立場上及部下ニ徹底ヲ期スル點等ヨリ見テ取計難キモ日本ノ眞意力何等野心ヲ藏セサルコトハ最近了解シ得タルニ付差當リハ現狀維持ノモトニ日本側ト衝突ヲ起ササル様ニ努メテ個々ノ問題ニ善處スルノ方針ニ出デ居ル次第ナルカ汝ノ如キ人物ヲ起用シテ延邊ニ遣ハスモコノ點ニ用意ヲ置クカタメナリト語リタルコトアリ要ハ地方官ハ宜敷ク日本側ト常ニ融和シテ衝突ヲ起ササル様ニシテ問題ニ善處シ露骨ナル日本側ノ主權侵害行爲ヲ抑制スヘシト云フニアリ（註、目ニ立タザル日本側ノ自由行動ハ餘り追及スルノ要ナシトノ意ヲ含ミ居ルモノノ如シ）右趣旨ハ縣長位迄ハ夫レトナク通シ居ルモ公安局長以下ニハ徹底シ居ラサルカ故ニ動々スレハ問題發生ノ虞アリ當地公安局長ニハ貴意ノアル處ヲ適當説明致シ置クヘシト答ヘタリ尙餘談トシテ最近發生シタル犯人奪取事件ヲ列示シ右ハ我警察官ノ

第三四二號（至急）
貴電第一二五號ニ關シ

奉天 6月4日後発
本省 6月5日前着

一、五月一日在當地佐奈木十郎外一名森島ヲ來訪シ榎原ハ本件農場ヲ在東京田中逸太郎ニ讓渡シ田中ヨリ佐奈木ヲ代理人トシテ金三十万八千圓ニテ張煥柏及曹交渉署日本科長ニ讓渡スルコトニ話合纏リ既ニ兩契約トモ假調印ヲ了シタルニ付本契約調印前當館ノ諒解ヲ得タキ旨申出タルニ付森島ヨリハ未タ何等當館ノ意思ヲ表示スベキ限りニアラサル旨ヲ述ヘ置キタル處廿八日曹科長森島ヲ來訪シ前記佐奈木ノ話ト同様ノ事實ヲ述ヘタル上本件ハ既ニ省政府委員會ノ承認ヲ得減主席ヨリ王交渉員ニ對シ措置方命令アリタルモノ話ト同様ノ事實ヲ述ヘタル上本件ハ既ニ省政府委員會ノ財政廳ニ於テハ往年ニ於ケル榎原ノ遺リ口及其人柄ニ鑑ミ事前ニ當館ノ同意乃至諒解ノ取付ナキ限り金圓ノ支出ヲ肯シセサルニ付當地方ニ於ケル日支關係ノ癌ヲ取除ク意味ニ國側一部ニ於ケル我方既得權益回収論ニ依リ當地方日本側輿論刺戟サレ居ル際ノコトニテモアリ又榎原ハ先年現農場

自己ノ地位ヲ擁護シ然ラサル場合ハ可然善處シテ問題ヲ紛糾セシメサル様致スコト肝要ナリコノ意味ニ於テ當地方ノ如キハ張主席ニ於テモ地方官ノ人選ニ意ヲ用ヒ居ル次第ニテ主席カ自分ニ對シ特ニ一般ノ心得ヲ注意シ又吉林、奉天總領事等ヨリノ申出ノ次第ヲモ説明シ此際日本側ノ希望ヲ容ルルコトハ立場上及部下ニ徹底ヲ期スル點等ヨリ見テ取計難キモ日本ノ眞意力何等野心ヲ藏セサルコトハ最近了解シ得タルニ付差當リハ現狀維持ノモトニ日本側ト衝突ヲ起ササル様ニ努メテ個々ノ問題ニ善處スルノ方針ニ出デ居ル次第ナルカ汝ノ如キ人物ヲ起用シテ延邊ニ遣ハスモコノ點ニ用意ヲ置クカタメナリト語リタルコトアリ要ハ地方官ハ宜敷ク日本側ト常ニ融和シテ衝突ヲ起ササル様ニシテ問題ニ善處シ露骨ナル日本側ノ主權侵害行爲ヲ抑制スヘシト云フニアリ（註、目ニ立タザル日本側ノ自由行動ハ餘り追及スルノ要ナシトノ意ヲ含ミ居ルモノノ如シ）右趣旨ハ縣長位迄ハ夫レトナク通シ居ルモ公安局長以下ニハ徹底シ居ラサルカ故ニ動々スレハ問題發生ノ虞アリ當地公安局長ニハ貴意ノアル處ヲ適當説明致シ置クヘシト答ヘタリ尙餘談トシテ最近發生シタル犯人奪取事件ヲ列示シ右ハ我警察官ノ

激昂反感ヲ高メ動々スレハ不祥事端發生ノ禍因ヲナスモノナル點ヲ力説シテ十分先方ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

總領事等ヨリノ申出ノ次第ヲモ説明シ此際日本側ノ希望ヲ容ルルコトハ立場上及部下ニ徹底ヲ期スル點等ヨリ見テ取計難キモ日本ノ眞意力何等野心ヲ藏セサルコトハ最近了解シ得タルニ付差當リハ現狀維持ノモトニ日本側ト衝突ヲ起ササル様ニ努メテ個々ノ問題ニ善處スルノ方針ニ出デ居ル次第ナルカ汝ノ如キ人物ヲ起用シテ延邊ニ遣ハスモコノ點ニ用意ヲ置クカタメナリト語リタルコトアリ要ハ地方官ハ宜敷ク日本側ト常ニ融和シテ衝突ヲ起ササル様ニシテ問題ニ善處シ露骨ナル日本側ノ主權侵害行爲ヲ抑制スヘシト云フニアリ（註、目ニ立タザル日本側ノ自由行動ハ餘り追及スルノ要ナシトノ意ヲ含ミ居ルモノノ如シ）右趣旨ハ縣長位迄ハ夫レトナク通シ居ルモ公安局長以下ニハ徹底シ居ラサルカ故ニ動々スレハ問題發生ノ虞アリ當地公安局長ニハ貴意ノアル處ヲ適當説明致シ置クヘシト答ヘタリ尙餘談トシテ最近發生シタル犯人奪取事件ヲ列示シ右ハ我警察官ノ

激昂反感ヲ高メ動々スレハ不祥事端發生ノ禍因ヲナスモノナル點ヲ力説シテ十分先方ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

85 昭和6年6月4日 廣原外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

榎原農場を中國側に売渡したとの情報につき

真相報告方訓令

本省 6月4日後3時9分発

第一二五號（暗、至急）

貴地榎原農場ヲ三十萬円ニテ中國側ニ賣渡スコト、ナリ數日前契約成立調印ヲ了シ貴館ニ對シ之力承認方中國側ヨリ申出テタル趣關東廳ヨリ拓務省宛電報アリタル處本件ノ真相及貴官ノ執ラレツ、アル措置等折返ヘシ回電アリ度

86 昭和6年6月4日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

我が方は中國側の榎原農場譲渡承認要請を拒否について

以外ノ係爭地ヲ中國側ニ返還セル件ニ關シテ三十余年間ニ亘リ權利回復運動ヲ續ケ居ル事實モアリ旁當館トシテ榎原自身ヨリ何等申出ナキ今日直ニ意見ヲ表明スルヲ得スト体ヨク断ハリ置キタル趣ナリ

二、本件農場ニ付テハ榎原ハ本官ニ對シ絕對ニ中國側ニ讓渡セサル旨再三力説シ居ル手前當館ニ對シ直接何等申出ツルコトナカルヘキハ勿論元來本件農場ハ買戻シ條件付ニテ東拓ノ名義トナリ居り且右買戻シ期間ハ數回延長ノ結果愈本年五月末日ヲ以テ満了セル筈ナリ

三、尙本件農場問題ハ永年ノ懸案ナルモ北陵ニアル水田ニ對シテハ完全ナル商租契約存在スルカ爲中國側ニ於テハ特ニ之力回収ヲ重要視シ居ル關係モアルニ付當方トシテハ何等利用ノ途ナキヤ考慮シ或ハ之ヲ切掛トシテ當地ニ於ケル滿鐵關係ノ諸係爭地案件ヲ交換的ニ解決シ得ルコトナシトモ限ラスト思考シ其旨満鐵側ニ通シ置キタリ

87 昭和6年6月17日 廣原外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

張學良の病状如何は時局その他各種問題に關

係大につき今後とも探査回電方訓令

(付記)

付記 七月二日発満鉄奉天公所長より木村満鉄理事宛電報

張学良の病状、東北軍の動静、日中衝突事件等に關し報告

本省 6月17日後7時54分発

合第三四三號(暗)

累次ノ貴電ニ依レハ張學良ノ病狀ハ大体危期ヲ脱セルモノノ如キモ一方新聞紙等ニシテ重態説ヲ傳フルモノアリ殊ニ

本月十二日在支駐屯軍ノ軍部宛電報ハ天津無電局ヨリ得タル情報トシテ「十一日第一一〇号列車ニテ學良ノ左右ニアル重要書類ヲ奉天ニ輸送セリ又學良ハ危篤ニ陥リ絶エス疊語ヲ言ヒ居ル」由報シ居ル次第ナル處、學良ノ病狀如何力時局其他各種ノ問題ニ至大ノ關係ヲ有スルコト申ス迄モナキ儀ナルニ付テハ前記重態説ノ真相御取調回電アリ度尙學良ノ病狀此ノ上トモ精々御探査ノ上隨時電報相成度シ

本電宛先 北平、奉天

参考トシテ北平ヨリ天津濟南ニ轉電アリタシ

参考トシテ在支公使、上海、南京、漢口、廣東ニ轉報セリ

力爲ニ漸次日支感情ノ尖銳化シツツアルハ憂慮スヘキコトト思ハル過般林總領事ヨリ臧式毅ニ警告スルト共ニ其ノ解決方法ヲ交渉スルトコロアリタルカニ、三ノ事件ヲ除キ多クハ未タ解決ヲ見ルニ至ラス

四、東北經濟界ハフウバーノ提案ニヨル銀價ノ騰貴ニ伴ヒ稍好況ヲ示セリ、六月初ヨリ慘落セル奉天票ハ月末ニ至リテ法定相場ノ二倍ニ達スル暴落ヲ見タルカ右ハ官銀號ノ奉天票インフレイシヨン、現洋買占、奉天票爲替取組拒絶等ニ原因スルモノニテ去ル二十九日省政府換ニ應セシメタル爲直チニ回復セリ

五、營業稅猶豫期間二月ハ終了セルモ未タ輕減運動ノ解決ヲ見ス、從ツテ日本側モ形勢觀望中ナリハ金融維持命令ヲ發シテ取締ヲ爲ス外官銀號ヲシテ免最近鐵道交渉ニ關スル支那側輿論硬化シ來ルニ鑑ミ高紀毅ニ輿論ヲ克服シテ鐵道問題ヲ解決シ其ノ責任ヲ負

度キ希望ヲ最近漏シ居リ、其ノ他交通委員會方面ニ於テモ何トナク會議ノ開催ヲ回避セントスル空氣アルハ

奉天 7月2日後8時0分発
大連 7月2日後10時40分着

最近ニ於ケル東北各方面ノ情況ニ關シテハ各情報ニヨリ既ニ御存シノコトト察セラルモ參考迄ニ報告ス、

一、學良ノ病狀ハ既ニ危險期ヲ脱シ快方ニ向ヒツツアル力如キモ彼ノ平常ノ健康狀態ヨリ推測シ余リ樂觀ヲ許サス、恢復スルモ尙相當ノ時日ヲ要スヘク退院後ハ直チニ歸奉セス暫時北戴河ニ靜養スルモノト思ハル

二、東北軍ノ今日迄ノ入關ハ步兵三旅、砲兵二團、工兵一團ニシテ其ノ目的ハ學良力病氣ノ爲北平ヨリ動ク能ハサルニ乘スル虜アル北方反蔣派ノ策動ニ備ヘル爲ニシテ積極的ニ反蔣軍ヲ討ツ爲ニアラス、東北首腦部ハ寧口場合ニ依リテハ關内ノ軍ヲ撤去シタキ意図アリ、尙最近吉林軍ノ出動準備說アルモ右ハ關内ニ出動スルモノニアラスシテ、曩ニ東北軍入關セル結果警備薄トナリタル地方ニ移動スルモノノ如シ

三、最近續出セル日支衝突事件ハ計畫的ノモノニアラス又惡排日現象ノ間ニハ何等聯絡アル譯ニアラサルモ之レ

ノニアラスシテ、曩ニ東北軍入關セル結果警備薄トナリタル地方ニ移動スルモノノ如シ

注意ヲ要スト思フ。

湯爾和が新滿鉄正副總裁就任に中國側が好感を

持つてゐる機会に東北懸案解決を希望について

北平 6月19日後発

本省 6月19日後着

第二二四號

十九日湯爾和ハ他用ヲ以テ往訪ノ原田ニ對シ今回日本政府

カ内田伯及江口氏ヲ満鐵正副總裁ニ任命セラレタルハ支那側一般ニ多大ノ好感ヲ齎シ殊ニ兩氏ニ對スル奉天派幹部ノ氣受至極良好ナル上同幹部間ニハ此機會ニ満洲ニ於ケル日支間各種懸案ノ徹底的解決ヲ圖ラントスル機運頓ニ醸釀シツツアリ甚タ喜ハンキ現象ナル旨内話シ尙特ニ閣下ニ電報方依頼セル趣ナリ

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、奉天、吉林、哈爾賓へ轉電セリ

在奉天林總領事宛

若林問題を主眼に臨江、林土事件解決交渉推進方訓令について

亞二機密第一二三號

昭和六年六月十九日

外務大臣男爵 币原 喜重郎

在奉天

総領事 林 久治郎殿

林土臨江事件解決交渉方ニ閲スル件

本件ニ関シ二月九日附機密第一〇七号貴信ヲ以テ御申越ノ次第了承貴見ノ通若林問題ヲ主眼トシテ交渉ヲ進メラルコトニ異存無キニ付成ルヘク速力ニ解決ヲ見ル様御尽力アリ度賠償額ニ付テハ林土事件被害者ニモ應分ノ融通ヲ為スノ餘裕ヲ存シ置ク様可然御措置相成度

尚貴信末段御申出ニ係ル本件ニ關スル証拠書類陸軍側ヨリ入手別紙^(省略)目録ノ通送付スルニ付可然御利用ノ上御用済ノ上

ハ御返送相成度

本信寫付先 代理公使、北平、南京、安東

幣原外務大臣宛(電報)

我が方の安東密輸取締り勵行に鑑み巡緝員制度廢止方を總稅務司に進言した旨。ピール談話について

安 東 6月25日前着

本 省 6月25日前着

第一一〇號

事務打合セノ爲上海出張中ナリシ「ピール」稅務司本廿四日歸任シタルヲ以テ早速往訪シIGトノ打合ノ内容ニ付何等承り得ヘキ事項ナキヤヲ質シタル處「ビ」ハ滿鐵炭輸出稅問題ニ關シIGハ右ハ最早稅關ノ問題ニ非シテ政治問題トナリタリ其解决ハ專ラ兩國政府間ノ交渉ニ俟ツヘキモノナリトノ見地ヨリ當地ニ於ケル實力通關ニ對スル批評ヲ加フルヲ避ケタリ從テ自分トシテハ現在日本側ノ執リツツアル通關手續ニ對シ此際何等新ナル「ステップ」ニ出ツルノ要ナシト述ヘタル上國境密輸問題ニ言及シ絶對他言セラレサルヘキ旨再三念ヲ押シ極秘トシテ内話セル所左ノ通り一、前任「ペツセル」稅關長時代中央ノ命ニ依リ創設セラレタル巡緝員制度ハ日本側ニ於テ誠意ヲ以テ取締リヲ

スルモノナル旨ヲ述ヘタル上前記二、ノ目的ノ爲我方處罰規定ノ英譯作成方依頼シタルニ付快諾シ置ケリ
右在支公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

支、關東長官へ轉電シ、北平、奉天へ暗送セリ

編注 第一〇〇号の誤りか。

91 昭和6年7月4日

(在奉天森島(守人)總領事代理より
幣原外務大臣宛)

林土、臨江兩事件解決交渉について

機密第五五二號

昭和六年七月四日

在奉天

I Gハ右ハ日本側ノ協力方針ニモ鑑ミ速ニ法規ヲ制定シ之ト歩調ヲ合スコト緊要ト考フル旨ヲ述ヘタル上右法規制定上ノ参考トシテ關東廳取締規則並朝鮮ヘノ密輸二對スル處罰規定ノ通報方希望セリ

尙「ビ」ハ總稅務司ノ命ニ依リ改メテ本官ニ對シ密輸取締

輪ニ關スル現地日本官憲ノ全幅的協力ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表

問詳細ニ亘ツテ説明ヲ加ヘ(一)若林未亡人二百圓ノ香奠ヲ贈リテ臨江事件力全部解決セルカ如クニ臨江縣知事力報告セリトセハ責任回避ノ甚シキモノニシテ其證據ニハ香奠ヲ贈リタルハ民國十七年六月七日ナルモ縣知事力公文ヲ以テ故若林中尉遺族撫恤方盡力スヘキ旨中村司令官ニ答復シタルハ同月十日ナリ(二)臨江事件ハ帝國軍人殺害ニ係ル重大事件ニシテ當時軍側ニ於テ嚴重交渉ノ結果右損害賠償方ニ關シ臨江縣知事ヨリ中村司令官ニ對シテ根本原則ヲ承認シ又(三)林土事件ニ關シテモ輯安縣知事ヨリ中村司令官宛公文ヲ以テ損害賠償ノ原則ヲ承認シ唯其金額ニ關シテハ外交交渉ニ俟ツヘキ旨誓約シ且(四)共ニ其後安東ニ於テ領事對道尹間ニ之カ確認ヲ經タル事情アル處兩東邊道尹ノ更迭岡田領事ノ轉任等ニ依リ今日迄解決遷延シタル次第ナルヲ以テ至急右誓約ニ基キ誠意ヲ以テ損害賠償支拂ノ交渉ニ應セラルル様申入レシメタルニ王特派員ハ支那側關係書類ニ付一應調查セル所ニ依レハ本件ハ數年前既ニ全部解決濟ニシテ今更斯カル御要求ニ接スルコトハ甚タ意外ナルニ依リ昨年末ノ總領事ノ公信ニ對シテモ何等返事ヲ差上ケサリシ次第ナルカ(一)ニ關シテハ香奠トシテナラハ百圓ハ多キニ過ク(二)臨江

事件ニ關シテハ若林中尉等ニ對シ大ニ同情ヲ表スルモ(一)ノ事情モアリ更ニ充分支那側關係書類ヲ調査シ日本側ノ證據書類ト對比研究スルニアラサレハ何トモ即答シ難ク(三)林土事件ニ至リテハ朝鮮領土内ノ出來事ニシテ支那側ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋合ニアラサルコトハ昨年末申述ヘタル通ニシテ輯安縣知事力中村司令官ニ對シ損害賠償ノ原則ヲ公文ヲ以テ承認セリト言フモ元來縣知事ハ外國側トスカル交渉ヲナス權限ヲ有セサルコトニモアリ其間何等力特別ノ事情アルカ如ク此點ニ關シテハ一應記錄ニツキ調査スヘキモ兎遂ケタル名譽アル軍人ニ對シ百圓ノ香奠ハ決シテ多シトナサス現ニ先年南京事件ノ際流彈ニ中リ死亡シタル日本水兵ニ對シ領事及日本人會ヨリ夫々百圓乃至貳百圓宛ノ香奠ヲ贈リタル前例モアリ普通一般病死ノ場合ニ於ケル香奠ト同日ニ論スヘカラズ(二)ニ關シテハ我方ニ於テ最モ重大視スル事件ナレハ双方證據書類ヲ突合セ調査スルコトニ異議無キモ支那側ニ於テ香奠ヲ撫恤金ナリト誣ユルカ如キ非常識ナル責任回避ヲナサルコトニ對シテハ飽迄反対セサルヲ得シテハ全然成立セサル旨強く反駁シタリ

然ルニ王特派員ハ若林事件ニ關シテハ中日双方ノ關係證據書類ヲ對比シ充分研究スルコトヲ承諾スルモ林土事件ハ前陳ノ通り朝鮮領土内ノコトナルヲ以テ如何ナル事情アルモ絶對ニ交渉ニ應シ難シト頑強ニ主張シタルヲ以テ森岡ヨリ種々反駁ヲ試ミタルモ結局要領ヲ得サリンニ付最後ニ森岡ヨリ支那側ノ都合ニ依リテハ日本側ニ於テハ必シモ林土臨江事件ヲ區別シテ論議解決セントスル意向無ク全部ヲ一括シテ交渉ヲ進ムルコトニ異存無シト述ヘタルニ王特派員ハ兎ニ角最近ノ機會ニ双方證據書類ヲ持寄り研究シタントノ次第ニテ支那側ハ追テ關係書類精査ノ上問題ノ縣知事答ヘタリ

右ノ次第ニテ支那側ハ追テ關係書類精査ノ上問題ノ縣知事ノ公文ハ日本軍ノ脅迫ニ依リ已ムヲ得ス署名セルモノナリトノ當時ノ邴道尹發岡田領事宛公文ヲ引用シ我方ノ要求ヲ

事件ニ關シテハ若林中尉等ニ對シ大ニ同情ヲ表スルモ(一)ノ事情モアリ更ニ充分支那側關係書類ヲ調査シ日本側ノ證據書類ト對比研究スルニアラサレハ何トモ即答シ難ク(三)林土事件ニ至リテハ朝鮮領土内ノ出來事ニシテ支那側ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋合ニアラサルコトハ昨年末申述ヘタル通ニシテ輯安縣知事力中村司令官ニ對シ損害賠償ノ原則ヲ公文ヲ以テ承認セリト言フモ元來縣知事ハ外國側トスカル交渉ヲナス權限ヲ有セサルコトニモアリ其間何等力特別ノ事情アルカ如ク此點ニ關シテハ一應記錄ニツキ調査スヘキモ兎遂ケタル名譽アル軍人ニ對シ百圓ノ香奠ハ決シテ多シトナサス現ニ先年南京事件ノ際流彈ニ中リ死亡シタル日本水兵ニ對シ領事及日本人會ヨリ夫々百圓乃至貳百圓宛ノ香奠ヲ贈リタル前例モアリ普通一般病死ノ場合ニ於ケル香奠ト同日ニ論スヘカラズ(二)ニ關シテハ我方ニ於テ最モ重大視スル事件ナレハ双方證據書類ヲ突合セ調査スルコトニ異議無キモ支那側ニ於テ香奠ヲ撫恤金ナリト誣ユルカ如キ非常識ナル責任回避ヲナサルコトニ對シテハ飽迄反対セサルヲ得シテハ全然成立セサル旨強く反駁シタリ

反駁シ來ル一方林土事件ニ關シテハ朝鮮領土内ナリトノ理由ヲ以テ强硬ニ我方ノ要求ヲ挑ネ付クルコト殆ト疑ナク結局我方に於テハ前回卑見開陳ノ通り若林事件ノ損害賠償ニ重點ヲ置キ表面王特派員ヲ相手トシテ根強ク交渉ヲ繼續スルト共ニ裡面ヨリ我軍事顧問ヲ利用シ支那軍司令部方面ニ對シ斡旋セシムルノ外ナキカ如シ右不取敢報告ス

本信寫送付先 中華民國臨時代理公使、北平首席、安東、
南京
在奉天

外交部駐遼寧特派員 王鏡寰殿
總領事 林 久治郎

拜啓陳者馬賊襲撃ニ依ル朝鮮平安北道林土警察官出張所被害事件並ニ臨江縣ニ於ケル若林中尉等拉致被殺事件ニ關スル詳細ノ事情並ニ損害賠償方ニ關シテハ昨年十二月九日附公文第四八五號往信ヲ以テ委細申進タルト同時ニ同月十日附

森岡領事ヲシテ貴特派員ニ會見詳細口頭ヲ以テ接衝セシメタル處其際貴特派員ヨリ林土事件ハ朝鮮領土内發生ノ事件ナルヲ以テ中國側ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋合ニアラサルト談合ヲ遂ケ關係責任者タル保安隊長及巡官數名ヲ免職處分シ且同縣知事ヨリ若林中尉未亡人ニ對シ慰藉金百圓ヲ贈り道尹間ニ確認ヲ經タル關係地方官對日本軍ノ取極ハ事實上殆ト全部履行濟ナル旨御申述相成候ニ付森岡ヨリ種々反駁ヲ試ミタル後一應會談ヲ打切り其後事件ノ真相及交渉經過ニ關シ各關係方面ニ照會ヲ發シ他方一切ノ關係書類ヲ取寄數ヶ月ニ亘リ綿密ニ調査シタル結果ニ依レハ、臨江縣知事ノ報告ニ依ル若林未亡人三百圓ヲ贈リ事件解決セリトノ說ハ全然不實ニシテ右ハ同知事力本件慰藉料仕拂ノ原則ヲ承認シタル以前即民國十七年六月七日若林中尉ノ葬儀ニ當リ同縣知事ヨリ若林未亡人個人ニ對シ香典百圓ヲ贈り來リ同未亡人ハ即時之ヲ中國教育會ニ寄附セルモノニシテ本件賠償問題ト全然關係ナキ旨今回中村少將ヨリ外務省ヲ經テ

證言申越有之察スルニ同縣知事力責任廻避ノ爲強テ香典ヲ賠償金ナリト偽リ上司ニ報告シタルコト疑無ク苟モ斯ル重大事件ノ賠償問題ヲ僅カ百圓ニテ解決スル如キハ常識上アリ得可カラサル事ハ多言ヲ俟タスシテ貴官ノ御諒解ヲ得可ク(二)臨江事件ニ關シテハ當時中村司令官ヨリ張臨江縣知事ニ對シ治安ノ確保、犯人ノ逮捕通知、關係者處分、陳謝若林遺族慰藉料支拂等ヲ文書ニテ要求セルニ對シ別紙甲號寫ノ通同縣知事ヨリ民國十七年六月十日附答復書ヲ以テ若林遺族撫恤金ノ點ニ關シ『若林大尉方當壯年前途遠大遭此變故悼惜良深敵知事對於遺族亟應從優致謝以慰英魂對於所請必負責努力爲之』ト答ヘテ撫恤金支拂ニ就テ責任ヲ負テ努力スヘキ旨ヲ誓約シ(三)林土事件ニ關シテハ是又當時中村司令官ヨリ愈韓安暫代知事ニ對シ土匪ノ討伐、犯人ノ逮捕通知、責任者處罰、陳謝、損害賠償支拂等ヲ文書ニテ要求セルニ對シ別紙乙號寫ノ通リ同暫代知事ヨリ民國十七年六月八日附答復書ヲ以テ損害賠償ノ點ニ關シ『此次林土發生慘殺綁掠案件誠屬可憫對於被害者雖貴方無此要求我方亦必設法與以相當之撫恤但爲數若干須俟外交官根本解決後方能有定非敵知事所能自主也』ト約束シ兩事件共ニ損害賠償支拂

ノ根本原則ヲ承認セルト共ニ別紙丙號寫ノ通り右兩縣知事ノ約束ニ對シ民國十七年六月十七日附ヲ以テ岡田安東領事對兩東邊道尹兼安東交渉員間ニ確認ヲ經タル事實アリテ貴特派員ニ於テ此等明瞭ナル取極文書ヲ度外視セラルヘキ理由無之殊ニ臨江事件ニ關シ若林遺族ニ對スル僅百圓ノ香奠ヲ以テ事件全部力解決セルカ如クニ主張セラレ又林土警官派出所カ朝鮮領土内ナリトノ單純ナル表面的且形式的理由ヲ以テ輯安縣知事ノ誓約ヲ無視セラルカ如キハ本官ノ承認シ得サル所ナルヲ以テ別添書類三件ニ照ラシ即時損害賠償支拂方御配慮相成度此段重ネテ得貴意候 敬具
追テ別添書類三件ノ原本ハ目下軍側ヨリ取寄せ當館ニ保管シアルニ付御希望ニヨリ可供貴覽候

92 昭和6年7月18日 在安東米沢領事より

幣原外務大臣宛

安東において小口密輸增加傾向の背景について

機密第四一六號

(7月22日接受)

昭和六年七月十八日

在安東

領事 米澤 菊二〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

國境密輸狀況ニ關スル件

密輸取締規則ノ實施並關係官憲ノ取締勵行ニ依リ本年當初ヨリ當國境ニ於ケル密輸關係不祥事件ハ頓ニ減退シ著シキ改善ヲ示シ來リツツアリタルカ最近商民ノ經濟的苦境其他後述ノ如キ種々ノ事情モ伏在シ密輸鮮人等ノ行動復漸ク「アクトチーブ」トナリ海關員トノ間ニ種々紛争ヲ釈スニ至リツツアリ本官ニ於テハ事件發生ノ都度海關側トノ間ニ地方的解決ヲ圖ルニ腐心スル一方隨時關係官憲トモ接洽シ事端未然防止ニ遺漏ナキヨ期シツアル次第ナルカ最近ニ於ケル事件ニ、三ヲ擣出記述セハ概略別紙ノ通ニシテ形勢必シモ安心ヲ許ササルモノアル實情ナリ

然ル處海關側幹部ニ於テハ我方ノ誠實ナル取締ニ對シ衷心感謝シ居ルハ勿論ニシテ更ニ國境全般ニ亘ル協力取締ノ目的ヲ達スル爲去ル六月廿五日附ヲ以テ海關監督公署ヨリ縣政府ニ對シ日本側ノ取締ニ呼應シ嚴重管下ノ取締方ヲ要求シタル事實モアル次ナルカ現場下級關員等ノ心情ハ必スシモ然ラス寧ロ之ヲ嫌惡スルノ實情ニシテ從テ彼我現場吏

員相互ノ間ニハ完全ナル協調ヲ期シ難キ大ナル溝渠存スル一方鮮人等ノ密輸行爲ハ從前ノ暴力且シ團体的ナルモノ滅退セルニ反シ小口密輸増大而モ其ノ遣リ口愈々巧妙ヲ加ヘ之ヲ例ヘハ豫メ橋下ニ待チ受ケタル一味ノ徒ニ對シ安東向橋上車窓ヨリ密輸品ノ投下ヲ爲シ素早ク之ヲ待チ逃クルノ類アリ其ノ數日ニ増加從テ事端又繁キヲ加ヘツツアル次第ナリ

今此等不祥事カ現下ノ嚴格ナル取締下ニ於テ尙且ツ消滅セサルノ所以ヲ種々考究スルニ大体左記ノ如キ事由ニ職由スルモノナルカ如シ

即チ

一、沒收品減少ニ依ル海關員ノ收入減退

本月四日附拙信機密第四〇九號ヲ以テ海關巡邏船停止問題ニ關聯シテ報告シ置キタル通り我方警察官ノ取締勵行ト取締規則ノ規定ニ基ク日本側ノ沒收處分增加トハ海關員等ノ差押ヲ尠カラシメ沒收處分額ニ應シテ報酬ヲ受クルコトトナリ居ル現制度ノ下ニ於テ彼等實收入著減シ爲ニ警察側ノ取締勵行ハ却テ彼等ノ嫌惡スル所トナレルト同時ニ他面右收入減ヲ埋メ合ス爲メ密輸

品沒收ニ焦リ普通通行人ニ對シテ迄モ自然検査^{（猛烈）}ヲ極ムニ至リツツアル狀態ナルニ加ヘ沒收品ノ日本警察側ヘノ歸屬ヲ防ク爲警官ノ援助ヲ求メサル傾アルコト

二、新義州稅關ニ輸出申告ヲ經サル貨物

新義州稅關ニ於テハ水路輸出品ニ對シ輸出許可ヲ與ヘストスル法規上ノ根據ナキヲ以テ實際上密輸ノ目的ヲ以テスレハ輸出申告ニモ之ヲ許可セサルヘカラサルコトアルハ勿論一方右新義州稅關ニ於テ取締上許可ヲ出シ溢ル如キ場合ハ輸出者ニ於テ之ヲ取付クルコトナク安東ニ輸送スルコトトナリ此ノ數又相當ノ額ニ上ル處海關員等ニ於テハ右許可ナキノ故ヲ以テ之ヲ密輸ノ目的ニテ運送スルモノナリトノ即断ニ依リ其ノ沒收ヲ爲サントスル事實極メテ多ク元來本件許可ハ朝鮮側稅關ヲ以テ取扱フコトトナリタルモノニシテ之ナシトテ直ニ以テ密輸入ト斷定シ差支ナシトスルカ如ク善意ノ輸送者ニ迄類ヲ及スヘキ筋合ノモノニ非サルハ當然ナリト雖モ此ノ點ノ見解並ニ實際上ノ取扱振調節等ニ就テ

三、密輸行爲力廣キ地域ニ亘り行ハレ且ツ小口密輸增加セルコト

警察取締嚴重ヲ加フルニ及ヒ密輸關係者等ハ暴力且ツ團体ヲ賴ム方法ヲ捨テ多クノ鮮人ヲシテ小キサミニ小量宛ノ品物ヲ密輸セシメツツアル一方江岸一帶ノ警戒

嚴重トナルニ連レ汽車ニ依リ看視線外ニ出テタル地點ニ於テ一味ノ者ニ車窓ヨリ貨物ノ投下ヲ爲ス（海關員ノ看視其他職務執行ハ原則トシテ江岸ニ沿フ狹長ノ地域ニ限ラル様ノ慣例存スル處此ノ限界線ヨリ安東驛迄ニハ可成リノ距離アリテ此ノ間此ノ種ノ行爲ニ出ツル餘裕充分アル次第ナリ等密輸行爲ハ廣範ナル地域ニ迄テ及ヒツツアリ海關吏ニ於テハ前記一、ノ收入減ヲ埋メ合ハス爲屢々右地域ニ迄テ來リ之力沒收ヲ爲サン

トスルニ至レルコト
四、密輸鮮人等ニ於テ沒收品歸屬問題ニ關シ彼我ノ間圓滿ナル協調保タレ居ラサル事實ヲ推知シ居ルコト
沒收品歸屬問題ニ付テノ彼我官憲ノ爭ハ常ニ絶エサル所ニシテ而モ右ハ多クノ場合海關員等ノ私慾ニ端ヲ發

93 昭和6年8月1日

在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

安東付屬地内における巡緝員制度の廢止を決定
した旨ピール談話について

本信寫送付先 公使 北平 奉天 關東長官

安東 8月1日後着

今般「ピール」稅務司ハ總稅務司ヨリ巡緝員ノ廢止ニ依リ

事端ノ發生ヲ少カラシメ且海關吏等ニ於テ却テ日本側警察官憲ヨリ一層充分ナル保護ヲ受クルコトヲ期待シ居ル以上

之力撤廢ハ「ピ」ハ本日本官ヲ來訪シ右内訓ニ接シタル趣ニテ「ピ」ハ本日本官ヲ來訪シ右内訓ニ接シタル

ニ於テ本日限り之カ附屬地内職務ノ執行ヲ廢止シ何レモ附

屬地外ニ轉出セシメ專ラ支那側ノ密輸警戒ニ當ラシムルコ

トトセル旨ヲ述ヘタリ右廢止ハ先方ニ於テ我方ノ苦情ニ聽

從シ我方トノ協調ヲ阻害スルノ因ヲ除キ以テ誠意我力警察官憲ノ保護ニ信賴スルコトヲ示スモノナルト同時ニ我方ト

シテハ將來ニ對シ事端ノ防止ニ付充分ノ責ニ任スルノ覺悟ヲ要スルコトヲ意味ス何レノ途本件巡緝員廢止ニ依リ關員

横暴ニ基ク諸種ノ事端ハ今後相當減少スルモノト豫想セラ

ルルト共ニ海關長ノ英斷ニ對シテハ其期待ニ背カサル様善

公使ヨリ南京、上海へ轉報ヲ請フ

支、北平、奉天、關東長官へ轉電セリ

處スル所存ナリ

在長春

領事 田代 重徳殿

中國國有鐵道運貨差別待遇問題ニ關スル件

本件ニ關シ本年六月十二日附貴信機密公第二三二號ヲ以テ御申越ノ趣諒承、本問題ニ關スル對支交渉ノ客年未迄ノ經緯ハ過般哈爾賓ニ赴任セル清水書記生ニ托送セル昭和五年度亞一議會調書ニ依リ御承知相成度尙其ノ後モ在支重光代理公使其ノ他ヲシテ本件差別待遇撤廢方中國側ト交渉セシメタル處中國側ニテハ本件ハ本年三月一日ヨリ南京ニ於テ開催セラルヘキ全國商運會議ニ於テ一般鐵道運貨引上問題ト一併解決ノ筈ナルヲ以テ暫ク猶豫アリ度旨ヲ答タル趣ナルカ該會議ニ於テハ右運貨引上方（各鐵道ニ依リ一割乃至

中國側は鐵道運貨差別廢止の傾向にあるも膠濟鉄道では差別殘存につき撤廢方交渉について

亞一機密第五五號

昭和六年八月六日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

94 昭和6年8月6日 幣原外務大臣より
在長春田代（重徳）領事宛

幣原外務大臣より
在長春田代（重徳）領事宛

二割ヲ増率ス）ト共ニ差別待遇撤廢方ヲ可決シタル由ニテ滬寧及滬杭兩鐵道ハ三月中旬ヨリ又膠濟鐵道等ハ其ノ後相

次テ運貨引上ヲ實行シタルモ差別待遇撤廢ノ方ハ實業部ヨリ故障出テタリトカニテ實現ノ運ニ至ラス仍テ我方ニ於テ種々交渉ヲ續ケ居リタル處今般在青島川越總領事ヨリ別紙（省略）寫ノ通報告アリタリ即チ右報告ニ依レハ本年八月一日以降鑑詰、「インヂゴ」煙草、葉煙草及燐寸ノ五種ノミ内外品ニ依ル區別ヲ撤廢スルコトトナリタルノミニテ其ノ他ノ三十余種ハ引續キ内外品ニ依リ差別待遇ヲ受ケ居ル次第ナルニ付更ニ之力撤廢方嚴重交渉ノ筈ナリ右申進ス

本信寫送付先 臨時代理公使、奉天、南京

95 昭和6年8月6日 谷亞細亞局長より
木村滿鉄理事宛（電報）

外國側の東北地方航空事業権益獲得阻止に關して

満鉄の出資如何問い合わせについて

付記 閱議稟請案（作成月日不明）

(付記)

閣議稟請案

満洲及北支那ニ對スル航空事業ニ關スル件

一、本件ニ付テハ客年十一月十八日及本年二月一日閣議ニ於テ本邦側ト東北當局トノ間ニ日華合辦航空會社ヲ設立スルコト、同會社ノ資本金額ハ三百五十萬圓トシ日華双方ニ於テ分擔支辨スルコト、右合辦會社ハ差當り收支相償ハサル見込ナルニ付本邦側ノ合辦事業運營ニ對シ政府ニ於テ財政狀態ノ許ス範圍内ニ於テ一定ノ年限補助金ヲ交付スルコト、東北側トノ交渉ニハ便宜上大倉男爵ヲシテ之ニ當ラシムルコト等決定ヲ見タリ

仍ツテ先般大倉男赴奉、本件閣議決定ノ趣旨ニ依リ東北當局ト交渉シタル所東北側ニ於テハ日華合辦航空會社ノ設立ニ異存ナキモ右合辦會社ノ缺損填補ノ爲東北航空銀行（發券銀行トス）ヲ設立スルコトシ右設立ノ爲日金一千萬圓ヲ大倉組ヨリ借款シ度旨申出テタルニ付大倉男ハ大倉組ニ於テ該借款ニ應シ得ヘキ財政狀

態ニアリヤ否ヤ調査ノ上何分ノ返事ヲ爲スヘキ旨挨拶シ歸京セル趣ナリ

二、然ルニ最近佛國政府ト東北當局トノ間ニ奉天ニ佛華合辦飛行機製造工場設立方話合行ハレ居ル趣ニシテ佛國政府ハ發動機ニハ同國「ロレン」機ヲ又機体ニハ同國「ボテ」型ヲ指定セムトスル意圖ヲ以テ「ロレン」社ト内談ノ結果「ロレン」發動機ノ日本及滿洲ニ於ケル製造販賣獨占權ヲ有シ居ル三井物産ニ對シ「ロ」社ヨリ意見ヲ求メ來レル事實アリ仍ツテ三井ノ本件独占權ニ關係ヲ有スル海軍側ニ於テハ前記大倉側ノ交渉ニモ顧ミ出來得ル限り佛國側ノ交渉ヲ遷延セシムルノ見地ヨリシテ差當リ三井ヲシテ「ロ」社ニ對シ奉天工場ニテ製作セラルヘキ飛行機ノ部分品附屬品等ヲ本邦ヨリ購入スヘキコト並同工場ニ邦人技師等ヲ傭聘スヘキコトヲ要求スルノ趣旨ノ回答ヲ發セシムル筈ナリ

三、惟フニ東北ニ於ケル航空事業ハ同地方ニ於ケル我國特殊ノ地位就中國防關係上特ニ之ヲ重要視スル必要アル次第ニシテ前記佛國側交渉ニシテ成功スルコトアラムカ右我方ノ立場ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキノミナラトヲ要求スルノ趣旨ノ回答ヲ發セシムル筈ナリ

ス假リニ佛國側交渉ト大倉側交渉トカ併行シテ成立スル場合ニハ往年中國無電獨占權ニ關シ日米間ニ難問題ヲ發生セシメタルカ如キ事態ヲ再ヒ日佛間ニ繰返ストトナルヘク旁々本件佛國側交渉ハ是非共不成功ニ終ラシムルコトヲ要スヘシ

四、仍ツテ我方ニ於テハ前記ノ通應急措置トシテ佛國側交渉ノ遷延策ヲ講シツツアル次第ナルカ佛國側ニテハ「ロレン」發動機ノ使用ニ付困難アル場合ニハ他ノ佛國會社ノ發動機ヲ指定セムトスル形勢モアリ旁々出來得ル限り迅速ニ大倉對東北當局ノ談合ヲ成立セシムルコト緊要ト認メラルニ付此ノ際大倉男ヲシテ張學良ニ對シ大倉組トシテハ是非共日華合辦會社設立交渉ヲ成立セシメ度日下金策等折角努力中ナル處佛華合辦工場ノ設立ハ日華合辦事業ノ利益ノ大半ヲ佛國側ニ奪取セラルルノ結果ヲ招致スヘキニ付佛國側トノ談合ハ之ヲ中止セラレ度旨申入レシムルト共ニ政府ニ於テ大倉側ヲ援助シ日華合辦航空會社ノ設立ニ重要ノ關係ヲ有ス必要アリ

五、東北航空銀行設立ニ關シ東北側ノ大倉男ニ申出テタル所要借款金額ハ最初二千萬圓ナリシヲ交渉ノ結果一千萬圓迄讓歩セシメタル次第ニシテ猶今後該金額ノ減少方に付テハ折衝ヲ重ヌルノ要アルヘキモ從來ノ交渉ノ經過ニ徵スルニ該金額ヲ貸與スルニ非サレハ先方ヲ満足セシメ難キヤニ思惟セラルルヲ以テ東北側ニ於テ飽ク迄一千萬圓借款ノ希望ヲ固執スル場合ニ於テハ之力貸與ヲ爲スノ外ナカルヘシト認メラル而シテ右ノ場合東北側ノ有スル確實ナル擔保物トシテハ目下ノ所本溪湖煤鐵公司株中東北側持分（拂込額三百五十萬圓ニシテ毎年ノ配當ハ八朱ヲ下ラスト云フ）ノミナルニ付テハ借款金額ハ主義上一千萬圓トスルモ先以テ右株券ヲ擔保トシテ五百萬圓ヲ交付シ殘リ五百萬圓ハ東北側ニ於テ更ニ相當ノ新ナル擔保ヲ提供スルコトヲ條件トシテ交付スルコトシ右貸付金ノ調達方ニ關シテハ政府ニ於テ口添ヲ爲シテ大倉組ヲシテ金策セシムルコトトシ可然ト認ム

六、右航空銀行設立資金貸付ニ付該貸付金ハ必スヤ東北當局ニ依リテ政治的方面ニ流用セラルルニ至ルヘシト見

ルモノアリ右ハ中國ノ現状ニモ顧ミ當然豫期シ置カサルヘカラサル所ナルカ一方在奉天帝國總領事其ノ他ヨリノ情報ヲ綜合スルニ最近東北當局ニ於テハ東北官銀號其ノ他東北各省官銀號發行ノ紙幣暴落ノ結果東北金融及財政極メテ逼迫ノ状態ナルニ鑑ミ此ノ際相當額ノ現金ヲ調達シテ右官銀號發行紙幣ノ準備資金ニ充當シ以テ金融、經濟ノ建直ヲ試ミムトスルノ案ヲ相當眞面目ニ考究シ居ルヤノ模様モアル處右ハ何レニスルモ新設銀行ヲシテ邦人顧問及吏員等ヲ相當數傭聘セシメ且之等邦人ニ對シ銀行業務監理上ノ確實ナル權限ヲ與ヘシムル等右貸付金力濫リニ他ニ流用セラルルノ危險ヲ防止スルノ方法ナキニ非サルヘシ

七、尙本件日華合辦航空事業ニ付テハ帝國政府ニ於テ相當ノ補助金ヲ支出スル豫定ナリシユト前述閣議決定ノ通ナリ然ルニ右補助金ノ支出ハ中國側ニ對シ絕對ニ秘密トスルヲ要スル義ニモアリ之力支出ノ手續ニ付テハ種々面到ナル故障ヲ伴フヘキコトヲ豫期セサルヘカラサル次第ニテ此ノ點ニ付テハ關係各省ニ於テモ相當困難ナル問題ト認メ種々研究中ナルカ前述ノ如ク新設銀行ノ

整理ヲ要スヘク從テ如何ニモ國家的重要事業ナル事萬々承知致シ居ルモ本社カ此ノ際航空事業資金、御引受ケ致ス事遺憾ナカラ財政ノ實情、之ヲ許ササル次第ニ付惡シカラス御諒察ヲ請フ

湯爾和に日本輿論惡化を伝え鉄道交渉につき新提案を行ふよう示唆との木村から亞細亞局長宛報告

大連 8月17日後発
本省 8月18日前着

木村理事ヨリ局長ヘ（極秘）

湯爾和突如來連十六日總裁ヲ訪問シ日支關係ノ惡化殊ニ日本陸軍ノ反張學良運動ニ付頗ル憂慮セル事情ヲ述ヘ十八日香港丸ニテ上京スル心組ナルコトヲ告ケタルニ付總裁ハ實ハ自分モ此ノ惡化セル日本ノ強硬論ニ付テハ種々ノ聞込モ有リ非常ニ心配シ居リ今ニシテ何等力緩和策ヲ講セサルニ有リ意外ナル衝突ヲ起ササルヤト折角考慮中ナリト述へ

業務力眞面目ニ經營セラレ其ノ結果本件航空事業ノ缺損填補ヲ確實ニシ得ルニ於テハ右ノ如キ困難ナル手續ヲ經テ補助金ヲ支出スルノ必要ナキニ至ルヘシ

八、就テハ前述佛國側ト東北當局トノ話合進行中ナルニモ鑑ミ至急前記五及六ノ趣旨ニ依リ東北航空銀行ヲ設立セシムルコトソシ之ニ要スル貸付金調達方ニ付相當ノ措置ヲ執ルコトト致度

右閣議ヲ請フ

96 昭和6年8月10日 内田（康哉）満鉄總裁より
幣原外務大臣宛（電報）

東北當局航空事業に対する五百万円支出引受けは
満鐵財政の実情許さないため不可について

本省 8月10日後着
満鉄構内 発

谷局長發木村宛貴電ニ關シ航空事業ニ五百萬圓支出ノ件ニ付テハ着任以來南滿洲鐵道會社財政實情調（査）結果事業費及人員ニ大整理ヲ斷行セサルヲ得サリシ實情ナルノミナラス南滿洲鐵道會社ノ他會社ニ對スル既出ノ投資モ大々的存テ老驅ヲ提ケテ來滿セル次第ナリト答ヘタリ

翌十七日朝湯ハ木村ヲ來訪シ總裁トノ會談ニ關シ腹藏ナキ意見ヲ求メタルニ付木村ハ目下少壯軍人ノ活動ヲ唯壓迫抑制スルノミナルニ於テハ却テ彼等ヲシテ爆發セシムル惧アルノミナラス對外同志會其他對支強硬論者ハ固ヨリ日本ノ國論ヲ少壯軍人ノ立場ニ同情セシメ一層過激化セシムルノ虞アリ湯カ三月上旬上京ノ際ヨリ目下兩國間ノ空氣惡化セルコトハ支那側殊ニ張學良ニ於テ深甚ノ考慮ヲ拂ハルル要アリト信スト述ヘタルニ湯ハ一々之ヲ首肯シ何ヲ爲セハ此ノ危險ヲ避ケ得ルヤト尋ネタルニ付全然二已ノ私見トシテ此ノ際日本ノ國論力遂ニ支那側ニ強要セサルヲ得サル事情ニ立至ル前ニ機先ヲ制シテ支那側ヨリ自發的ニ吉會長大線ノ建設ニ付全然新ナル提案ヲ爲サルレハ日本ノ國論ハ意外ノ感ニ打タレテ一部ノ強硬過激論ハ霧消スヘシト信スト述ヘタルニ湯ハ右兩線ノ問題ハ東北側ニトリテハ最深キ痛手ニシテ昨年モ要人ノ會議ニ於テ日本力強行スレハ無抵抗主義ニテ押通ス外ナシ日本ノ要求ハ絕對ニ排斥スヘシト決シ

タル程ニテ張學良ノ最モ難シトスル所ナリト答ヘタルニ付木村ハ本問題ニ付テノ支那側ノ苦シキ立場ハ充分諒解シ居リ張學良トノ鐵道交渉ノ際ニモ態ト之ヲ避ケ支那側ノ自發的提議ヲ待チ日本ヨリハ強要セサルコトヲ明言シ他日妥商ノ餘地ヲ残シ置キタリ去リ乍ラ何時カハ解決ヲ要スル問題ニシテ前述ノ如ク遂ニ強要ヲ餘儀ナクスルカ如キ空氣トモナラハ幣原外務大臣ヤ内田總裁ノ折角ノ苦心モ水泡ニ歸スヘク今ヤ支那側ニ於テ深甚ナル考慮ヲ要スル時機ナラスヤト思考ス實ハ日本ニ於ケル有力ナル政界ノ一部ニ於テハ吉會鐵道建設條約契約ノ破棄ハ直ニ間島協約ノ消滅トモナルモノナリトノ强硬論相當根強ク此ノ儘ニ放置セハ間島地方ノ再併合論起ルヘシト警告シタルニ總裁ハ右ニ同意ナリヤト尋ネタルニ付總裁モ支那側ニ於テ難キヲ忍ソテ斯カル誠意ヲ示サハ日滿關係ノ改善ニ一新機ヲ創スヘシトノ意見ナリト答ヘタルニ湯ハ非常ニ苦悶セル態ニテ本件ハ當分兩人間ニ秘密ニシ結局適當ノ時期ニ張學良ニ直接話合スル方可ナルヘシ三週間内ニハ再ヒ來遊スヘキニ付更ニ意見ヲ交換シ（脱）北平ニ赴クヘシトテ別レタリ湯ノ今回ノ上京ハ學良ノ使命ヲ帶ヒ我朝野ノ空氣ヲ探ル爲

現行條約上密輸品ニ就テハ中國側ニモ沒收權アリ且從來貴地江岸ニ於ケル中國稅關吏ノ職權執行ヲ事實上認容シ居ルヲ以テ中國側ノ発見ニ係ル密輸品ハ其ノ處分ニ委シ差支ナルヘク貴信機密第四〇九号二ノ申合モ此ノ趣旨ト思考スルニ付今一應稅關側ニ対シ説得ヲ試ミラレ我方ノ密輸取締力全ク中國ニ對スル協調的精神ニ出ツルモノナルニ鑑ミ先方モ同様ノ精神ヲ以テ発見者先取ノ貴案ノ程度ニ折合ハシムル様盡力セラレ結果回報アリタシ

在支公使、北平、奉天へ轉電アリタシ
関東廳へ轉電セリ

99 昭和6年8月25日 在中國重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

宋子文の東北行への期待表明について

本省 8月25日後着 上海 発

第七九五号 往電第七九四号ニ関シ

宋カ何ノ奥迄滿洲ニ於ケル両國間ノ問題ノ調節ヲ計ラント

ニシテ殊ニ學良ノ身邊ニ危險ヲモ感シ居ルコト明白ニシテ總裁ハ外務大臣カ湯ト會見セラル際ニハ前記ノ次第充分御呑込ノ上吉會線促進ニ御助力ヲ與ヘラル様ノ御趣旨ニテ然ルヘク御應酬ヲ切望スル旨貴官ヨリ御口添ヲ請フトノコトナリ

98 昭和6年8月20日 幣原外務大臣より
在安東米沢領事宛（電報）

安東密輸没收品帰属關係につき回訓

本省 8月20日後3時24分発

第五一號（暗）

貴電第一一四号ニ閲シ

密輸品ノ沒收ハ貴見ノ通我國トシテ正當ニ行ヒ得ル所ニシテ之ヲ中國側ニ引渡ス條約上ノ義務ナキカ故ニ我方官憲ノ差押ヘタル物品迄モ引渡ス要求スル中國側申出ハ主義上承認シ難キノミナラス沒收品ノ引渡ハ我方取締關係當局ノ努力ヲ「ディスクレッヂ」スル虞アリ取締令制定ノ趣旨ニ顧ミルモ面白カラス又沒收品ハ我國ノ輸入シタルモノニ非サルヲ以テ之ニ対シ輸入税ヲ支拂フ理由ナシト認メラル尤モ

考ヘ居ルヤ不明ナルカ最近兎角兩國間ノ感情カ滿洲ノ問題ニ付昂マリ居ル次第ナレハ根本重要ノ問題ハ暫ク措キ差当リ枝葉ノ問題ニ付出来得ル丈ノ調節ヲ為シ良好ナル空氣ヲ齎サントノ意思ハ有スルモノヽ如ク又本使等ニ於テモ右ノ方向ニ向フ様絶エス仕向ケ居ル次第ナリ宋ノ滿洲行ニ付テモ其意思ハ相当有シ居リ又張學良ニ對シ同人南京來訪及學良夫人ノ宋母堂葬儀參列等ノ答禮ノ意味モアルニ付或ハ実現スルヤモ知レス從テ差当リ滿洲ニ於ケル各種ノ問題及日本側ノ希望等ニ付研究セシメ置ク「得策ナルヘク又右ハ宋ト學良トノ関係ヨリ見テ少クトモ無益ノ事ニ非スト考ヘラル就テハ當方ニテモ準備ヲ爲スヘキモ本省ニ於テモ御氣付ノ矣ハ其都度至急日本文又ハ出來得レハ英文ニテ断片的ニテモ差支ナキニ付御申越相成度シ

尚宋ヲシテ滿洲ニ赴キ現状ノ事態ヲ見セシメタキ考ニテ内田伯ノ上海旅行説ニ付テハ特ニ前電ノ通挨拶シ置キタル次第ナレハ御含置相成度

奉天、南京へ転電シ上海へ転報セリ

100 昭和 6 年 9 月 2 日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良の瀋陽帰任時期の決定は困難との臧主席
談話について

機密第四八六號 昭和六年九月二日

（9月7日接受）

安東密輸沒收品歸屬問題は財政部の裁断を待つことになった旨の報告

第五四七號

一日臧主席力森岡ニ語ル所ニ依レハ奉天當局ハ時節柄張學良ヨリハ何トモ返事無ク思フニ山西西北其他雜軍ノ跡始末及閻馮ノ外遊（閻馮ヲ外遊セシムル事ハ實際上困難ノ見込）等ニ關シ重要ナル決裁ヲ要スル事情アル爲歸任期ヲ決定スル能ハサルモノナルヘシ又張作相ハ引續キ錦州ニテ病父ノ看病中ナル力容態惡化セル爲亦歸奉ノ見込立タストノ事ナリ

支、北平、南京へ轉電セリ

101 昭和 6 年 9 月 2 日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛

本件ニ關シ貴電御訓令ノ次第敬承依テ早速「ピール」海關長ヲ往訪シ密輸取締ニ關スル我方ノ努力ト犠牲ニ對シ一應先方ノ注意ヲ喚起シタル後關東廳令ノ制定カ海關側ニ於ケル取締ト相呼應シ專ラ公安維持ノ警察目的ノ上ニ立チテ正常ナル社會生活ヲ紛亂スル密輸行爲ヲ防止セントスルニ在ル次第ヲ縷述シ此ノ目的達成ノ爲違反者ニ課スル制裁ノ一形体ト見ルヘキ沒收處分ハ法ノ效果トシテ當然沒收品ヲ我方ニ歸屬セシメ之ヲ海關側ニ引渡スヘキ余地ヲ存セサルノミナラス海關側トシテモ我方トノ協力ニ依リ其ノ共同ノ根本目的タル密輸行爲其ノモノノ防止力最大限ニ行ハルルコトヲ庶幾スヘク敢テ僅少ナル沒收品ノ歸屬ヲ爭フコトニ依

トヲ庶幾スヘク敢テ僅少ナル沒收品ノ歸屬ヲ爭フコトニ依

リ我警察官ノ取締ニ對スル熱意ヲ失ハシメ延テ双方ノ連絡協調ニ疎隔ヲ來サシムルカ如キ危險ヲ招徴スルコトハ極力之ヲ避クルヲ賢明トスヘキ旨ヲ說キタルニ海關長ハ日本側力本件取締ノ爲特ニ警察官ノ配備ヲ充實シ其他各方面ニ亘リ精神的並物質的ニ海關側ニ與ラレツツアル助力ニ對シテ

ハ衷心謝意ヲ表スル所ナルト共ニ實際問題トシテハ貴說ハ一々尤ニシテ自分個人トシテハ何等異議ヲ有セサル次第ナルモ何分中央ヨリノ再三ノ命令ニ依リ手ヲ縛ラレ居ル關係上総括的ニ密輸品ノ中國側歸屬ヲ主張セサルヲ得スト述べヘタリ之ニ對シ本官ハ此ノ種問題ハ出來得ル限り地方的ニ解決スルコト望マシク海關長ノ立場モアレハ海關吏ニ於テ先ニ密輸行爲ヲ發見シタル場合ハ我方警察官ニ於テ密輸品ノ押收ニ助力シタルトキト雖舉ケテ之ヲ海關ニ歸屬セシムル

コトニ異議ヲ挾マサルヘク（七月十日附機密第四〇九號拙信本文二ノ註參照）我方ノ歸屬ニ屬スル場合トシテハ僅ニ我警察官單獨ニ密輸者ヲ發見押收シタルトキニ限ルヘキコトニ妥結スルノ用意アル旨ヲ說キタルニ海關長ハ前言ヲ續押收ニ助力シタルトキト雖舉ケテ之ヲ海關ニ歸屬セシムル

本官發奉天宛電報第二一號
第三八九號（暗）
北平 6月9日後發

大倉組林ノ談ニ依レハ陶尚銘ハ八日林ト會談中左ノ通語レ

ル由

張學良ト最近面會ノ節張ハ自分ハ今尙入院中ニテ自ラ奉天品發見ノ我警察官ニハ一般ノ場合全樣報酬ヲ與フルコトト

奉天 9月2日後發
本省 9月2日後發

在安東 領事 米澤 菊二〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

密輸沒收品歸屬ニ關スル件

ニ歸リ内田總裁ヲ親シ歓迎出來サルハ甚タ遺憾ナル力若シ同總裁ニ於テ來平セラレ懇談ノ機ヲ得ルコトモナラハ好都合ト思ハル其際ハ平寧線ニテハ特別列車ヲ出シ其他凡ユル歓迎ノ誠意ヲ表スコトトスヘシト洩シタリ云々

右陶ト會談ノ際林ノ受ケタル印象ニ依レハ陶ハ右ヲ滿鐵側ニ傳達方希望シ居ル様認メラレタル趣ナリ

右木村理事ヲ通シ滿鐵側ニ然ルヘク御傳ヘ置キヲ請フ大臣、支へ轉電セリ

103 昭和6年9月11日 在中國重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

宋子文が東北問題に關し双方の協調可能なる問題も多々あり大連などで会談の希望表明について

上 海 9月11日後発
本 省 9月11日後着

*第九一二号

往電第九〇四号宋子文ト會談ノ際宋ハ特ニ憂慮ニ堪ヘサルハ滿洲問題ナリ現在ノ如キ双方ノ感情ニテハ其結果豫測ヲ許サス自分ハ湖南問題ノ見据附クニ於テハ北平ニ張學良ヲ

104 昭和6年9月16日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）
奉天、南京へ転電シ上海へ転報セム
奉天ヨリ木村理事ヲ通シ内田總裁ニ転報セシム
九一三号ノ如キ談話ヲナセリ

北 平 9月16日後発
本 省 9月16日後着

第四〇二號
学良が近日中に第四次全國代表大會出席のため
南下の予定との大倉組林の極秘情報について

北 平 9月16日後発
本 省 9月16日後着

第4〇二號
十六日大倉組林カ極秘ノ聞込ニ依レハ張學良ハ近日（十日以内）第四次全國代表大會ニ出席ノ爲南京ニ向フ事ニ内定セル由尙同日王長春モ本官ニ對シ張力密カニ南下準備中ナル旨内話セリ

支、南京、天津、奉天へ轉電セリ

105 昭和6年9月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
鉄道運賃差別撤廃を督促中および膠濟鐵道の対綿糸差別禁止は訓令された趣きについて

106 昭和6年9月16日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）
張學良は内田滿鐵總裁と会見の意向に対し土肥原大佐危害を加えんとの情報につき湯爾和より注意喚起について

北 平 9月16日後発
本 省 9月16日後着

第四〇五號（極秘）

往電第四〇二號ニ關シ

十六日學良ニ面會ノ際尋ねタルニ出來得レハ南京ニ行キタキ希望ナルモ其前一應奉天ニ歸リタキ考へナルカ病氣未タ
第五四三號
往電第五二〇號ニ關シ

見舞ヒ更ニ吉林ニ張作相ヲ弔問スル事トシ其際大連ニモ立寄リテ内田伯トモ意見ノ交換ヲ行ヒ度シ勿論根本問題ニハ今日觸ルル時機ニ非スト思考スルカ小問題ニテ双方ノ協調可能ナルモノモ多々アレハ出来得ル限り空氣ノ緩和ニ努メ協調氣分ノ釀成ヲ計リ度キ考ナリト述ヘタリ

次テ宋ハ過日約シタル滿洲諸条件ニ閏スル本使覧書ニ付「リマインド」シ尚本使ノ北方旅行カ實現サルレハ自分ノ旅行目的ヲ援助スル意味合ニテ大連辺リニテ落合ヘル様「アレンジ」願度シト述ヘタルニ付本使ヨリ湖南時局モ別ニ憂フルニ足ラサルヘケレハ貴下ニ於テ速ニ旅程ヲ作成セラレ度ク其上ニテ當方ノ旅程ヲ作成シ可成御趣旨ニ副フ様致スヘシ覧書ハ出来次第御見セスヘシト告ケ置キタルカ更ニ宋ハ湖南時局必シモ輕視スヘカラサルヲ指摘シ往電第九一三号ノ如キ談話ヲナセリ

奉天ヨリ木村理事ヲ通シ内田總裁ニ転報セシム

奉天、南京へ転電シ上海へ転報セリ

充分快復セサルニ用務輻輳シ難リ居ル旨語レリ

右ニ關シ學良ノ眞意確カメ旁々館員ヲシテ同日湯爾和ヲ訪
ネタルニ湯ハ副司令ハ南京政府ヨリ嚴重ナル督促アル爲南

京ヘモ行カサルヲ得サル破目ニ陷レルカ其前ニ内田總裁ト

會見ノ意嚮ニテ（往電第三九四號參照）目下間接ニ同總裁

ト打合セ中ナレハ返電ノアリ次第歸奉スルコトトナルヘシ

尚奉天ニテハ土肥原大佐ハ暴力團ヲ組織シ張歸奉ノ際危害

ヲ加ヘント計畫シ居ルヤニ傳ヘラル所萬一右様事件發生

スルコトアラハ自分（湯）ハ極メテ困難ナル立場ニ陷ルヘ

キニ付日本當局ニ於テ充分御注意願ヒ度キ旨吳々語リ居タ

ル由

支、南京、天津、奉天へ轉電セリ

107 昭和6年9月16日 中谷関東庁警務局長より
堀切拓務次官宛
永井外務次官宛

安東における最近の密輸状況について

關機高第八五三五號ノ二

（9月22日接受）

昭和六年九月十六日

關東廳警務局長

拓務次官殿

外務次官殿

安東ニ於ケル最近ノ密輸状況

一、近時滿蒙問題喧シク日支間ノ空氣漸次險惡ナルニ伴ヒ
支那稅關援助ノ安東ニ於ケル密輸入取締ハ依然トシテ
居住日鮮人ノ氣受ケ惡シク種々出先取締官憲ノ行動ヲ
非難シ却ソテ違反者ヲ煽動助勢スルカ爲メ密輸入ハ引
續キ相當敢行セラレ其ノ手段方法タルヤ益々巧妙化シ

ツツアリ

即チ一度ニ多量ノ運搬ヲ爲スコト無ク貨物ハ麻袋等ニ
詰替ヘテ運搬ノ敏活ヲ期シ一個乃至二三個宛ノ分割密
輸入ヲ試ミ以テ檢舉ニ遇フモ損失ノ少額ニテ終ルカ如
キ方法ヲ講シ居レリ、仍ツテ之カ取締ノ方便トシテ安
東側ノ荷主ニ付輸入品ハ制規ノ關稅ヲ納入シ居ルヤ否
ヤノ調査ヲ時々試ミタル處密輸關係者ニ於テハ支那町
商店ノ名義ヲ用ヒテ輸入スルニ至レル等凡有手段方法
ヲ以テ密輸ヲ敢行スル有様ナリ

二、目下冬物仕入時期ニ際シ輸入貨物ハ相當多額ニ上リ其
ノ結果自然大量密輸ヲ敢行セラルル氣配アリ

一面密輸鮮人ト稅關側ノ空氣惡ノ兆アルヲ以テ安東
警察署ニ於テハ八月十二日ヨリ密輸取締員ノ指揮監督
ニ當ラシムル目的ノ下ニ特ニ配置ヲ差練リシ警部補一
名ヲ專務トシテ當分ノ間臨時ニ配置シ密輸取締並密輸
ヨリ發生スヘキ不祥事ノ防止ニ努力シ居レル次第ナル
カ

記

一、海關側トノ協力

ニ在リ之カ豫防對策上相當努力シ居ル次第ナルカ尙警
察ニ於テハ事故防止ヲ第一主義トシ取締警察官ヲ督勵
シ他面關係機關トモ左ノ如キ方法ヲ以テ特ニ協力シ最
善ヲ期スルコトトセリ

三、本月ニ入りテ冬物ノ各種貨物ノ密輸入頓ニ増加シタル
傾向アリ

海關側ニ於テモ自然檢舉ニ努力スルニ至リ一方新義州
稅關モ引續キ或程度ノ輪出免許ヲ與ヘ居リ、殊ニ密輸
船ニ於テハ多數ノ人夫ヲ乗込マセ且石塊棍棒其ノ他ノ
兇器ヲ準備シ居ル等各種ノ事情ヨリシテ最近ハ最干懸
命念慮セラルルノ狀態ニ在リ現ニ本月七日及八日ノ兩
夜ノ如キハ海關巡羅船ノ窓硝子ヲ破壊セラレタルノミ
ナラス七日夜ノ衝突ノ場合ハ海關巡羅船カ密輸船ニ追
突シタル爲鮮人二名ハ江中ニ墜落押流サレ危ク溺死セ
ムトシタルヲ魚釣船ニ依リ漸ク救助サレタルモ一時ハ
大騒ヲ演シタルカ如キ事件ヲ發生シ居ル有様ニシテ、
此際更ニ如何ナル不祥事ヲ惹起スルヤモ計リ難キ狀況

一、海關側トノ協力

新義州稅關ニ於テハ日日相當數量ノ輪出免許ヲ與ヘ居
ルノミナラス密輸船ハ新義州ヨリ多數ノ人夫ヲ乗込マ
セ兇器ヲモ携帶シ海關ト衝突ニ備フル有様ニテ事件防
止上憂慮スヘキ事情ナルヲ以テ本月九日書面ヲ以テ平

第六〇八號

安北道警察部長、新義州稅關長及警察署長ニ宛テ輸出免許ノ制限、兎器積込ノ防止其他江上ニ於ケル取締等ニ付理由ヲ附シテ協助方ヲ要求シ置キタリ

三、商埠公安局トノ協調

最近ニ於ケル名義上ノ荷主ハ多ク中國側商店ナルヲ以テ正當ノ手續ヲ經テ輸入シタルヤ否ヤノ取調等ハ公安局ノ努力ニ俟ツノ外無キヲ以テ安東公安局ニモ相互協力援助方要求シ置ケリ

以上

108 昭和6年9月17日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

東拓自らが榊原農場管理に當る旨内報について

奉天

本省 9月17日後着

発

第六〇六號

榊原農場モ榊原ノ買戻期限滿了セルハ往電第三四三號ノ通ノ處榊原ハ先頃來代理人ヲ來訪セシメ本年收穫ノ賣却並ニ次年度小作契約締結ノ斡旋ニ當ラシメタル爲東拓當地支店

ニテハ小作人等ノ関係ニ對シ同農場力實質上東拓ノ所有ニ屬スル所以ヲ説明シ之ヲ阻止スルト共ニ他方今後ニ於ケル榊原ノ策動ニ備フル爲メ本社ノ承認ヲ得同農場ヲ名義上東拓ノ子會社タル興業公司ニ讓渡シ且本年度ノ收穫ヲ東拓側ニ引取ルニ止マラス次年度ノ小作契約ハ興業公司ニ於テ締結シ東拓自ラ農場ノ管理ニ當ルコトシタル旨本十七日東拓當地支配人ヨリ内報アリタリ尙東拓ヨリハ本日同農場讓渡ニ關スル認證願ヲ當館ニ提出セリ

編注一 「關係」の箇所に「者」との書き込みあり。
編注二、三 「興」の箇所に「鴻」との書き込み訂正あり。

109 昭和6年9月17日 在中国矢野公使館參事官より

幣原外務大臣宛（電報）

張學良が中央政府を含む委員会を組織し東北諸懸案の解決を図る意向なる旨湯爾和の談話報告

北平 9月17日後発

本省 9月17日後着

第四〇七號（暗）

往電第四〇四號ニ關シ

十六日湯爾和ハ館員ニ對シ左ノ通語レル由

張副司令ハ日本側ノ在満鮮人問題處理臨時辦法ニモ顧ミ満洲ニ於ケル日支間懸案三百餘件ヲ整理シ之ヲ政治的ニ解決シタキ意図ニテ之力研究ノ爲南京政府代表ヲモ加ヘタル一

ツノ委員會ヲ組織スルコトトナル見込ナルカ右ニ對シテハ大臣宛貴電第四〇五號後段ニ關シ

湯爾和ノ話ノ如キ計畫全然無キニ付爲念先方ノ誤解ヲ解ク様御取計ヲ得タシ

大臣、支、南京、天津へ轉電セリ

本官發北平宛電報第四〇號

111 昭和6年9月18日 在中國重光公使より

幣原外務大臣宛（電報）

内田總裁が宋子文の来連を歓迎し懇談を熱望
しある旨木村理事談話について

上海 9月18日後発

本省 9月19日前着

第九六八號（暗）

奉天發本使宛電報

第四〇七號

貴電第一三號ニ關シ

方矢野參事官へ電報

110 昭和6年9月18日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

張學良に対する危害計画なきにつき誤解解消

奉天 9月18日後発

本省 9月18日後着

ノ日程成ルヘク九月末又ハ十月初頃ニナレハ好都合ナリ但シ同氏ト會談ノ爲ニハ四、五日上京ヲ延期シテモ可ナリ右ニ關シ至急同氏ノ意嚮ヲ問合セ御電報ヲ請フトノコトナリ尙木村理事ハ先方トノ話合ノ結果十月十日迄ハ先方ノ希望トシテ貴公使ノ意見尊重ノ意味ニテ總裁ニ上京延期ヲ說得スル見込ナリト御含迄

112 昭和6年9月21日

在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛

中国側の検挙犯人奪取に対し啓延吉県長は中央政府からの訓令により対応困難と証明について
昭和六年九月二十一日附在間島岡田總領事發信幣原外務大臣宛報告要旨

犯人奪取事件其ノ他ニ關シ交渉ノ件

張延吉市政籌備處長ハ張作相父葬儀參列ノ爲ト稱シ往復約二週間ノ豫定（張處張ハ延邊ノ内治外交ノ苦難、處内經費缺乏等ノ爲現位置ニ厭氣ヲ生ジ殊ニ最近鎮守使吉興トノ折合益々惡シキ爲他ニ轉任方張作相ニ屢々申出居る趣ニテ今同錦州行ノ機會ニ一層強ク自己ノ希望ヲ説キテ轉任運動ヲ

爲スベシト觀察スル向モアリ從テ同人ノ旅行ハ豫定ヨリ長引クヤモ知レズ）ヲ以テ十八日局子街出發敦化經由吉林ニ赴キ事務打合ヲ爲シタル上更ニ錦州ニ赴クコトナリタルニ付同人出發前各般ノ問題ニ就キ本官ノ希望ヲ申入レ置クコト必要ナリト認メ十六日突然田中副領事ヲ局子街ニ出張セシメタル處張處長ハ不快ノ故ヲ以テ延吉縣長兼籌備處參議啓彬ヲンテ代テ應接セシメタルニ依リ田中副領事ハ同人トノ間ニ左ノ通り懇談シタル趣ナリ

記

一、中國出先官憲ノ無理解ニ依リ從來屢々犯人奪取事件ノ發生ヲ見タルガ右ハ我方朝野ノ人心ヲ甚シク刺戟シ囊ニハ議會ニ於テモ問題トナリ又常ニ新聞、雑誌等ニ於テモ八金敷議論セラレ今ヤ我方ニ於テハ重大問題トシテ取扱ハレ居ル處此儘中國出先官憲ノ態度ガ改メラレザルニ於テハ早晚重大事件ノ發生スルコトナキヤヲ憂慮セラル次第ニテ總領事ハ是迄屢々籌備處長ニ此點ヲ十分説明シテ種々懇談モ遂ゲ居ルニ拘ラズ籌備處長ノ意圖ガ出先ニ徹底シ居ラザル爲動モスレバ犯人奪取事件ノ如キ不都合ノ行爲ガ屢々演ゼラルハ甚ダ遺憾

トル所ナリ今次龍井ニ發生シタル犯人奪取事件ノ如キハ一時貴我ノ間ニ紛糾ヲ招ギタルモ幸ニ間モナク犯人ヲ我方ニ引取りタル爲我方輿論ノ激昂ヲ靜メ得タルモ否ラザレバ現地ニ於ケル一時のノ紛糾以上ニ本邦朝野ノ激昂ヲ買ヒ事態ヲ重大ナラシメタルベシト想像セラレ當時我方ガ機宜ノ處置ニ出デテ犯人ヲ引取りタルコトハ最モ妥當ノ措置ナリト信ズル次第ナリ就テハ今后籌備處長ヨリ出先官憲ニ其ノ意圖ヲ徹底セシメテ犯人奪取事件ノ如キ不都合ヲ再ビ爲サザル様是非共御配慮煩度幸ヒ今次張處長ハ吉林ニ出張セラル由ニ付吉林省當局ト十分協議ヲ遂ゲラレ從來ノ如キ不徹底ノ態度ヲ改メ何等方法ヲ講ジテ犯人奪取ノ他日華官憲衝突ノ禍因ヲ除去スル様措置セラレ度シト申入レタル處啓縣長ハ日本警察官ノ埠外行動ニ關シテハ南京政府ハ强硬ノ意見ヲ有シ是迄屢々嚴重阻止ノ訓令ヲ發シ居リ吉林省政府ハ右訓令ヲ其ノ儘地方官ニ轉達シ居ル次第ニテ吉林當局及籌備處長トシテハ右訓令ノ手前管下ニ對シ犯人奪取ヲ爲スベカラズト訓令シ得ザル立場ニアリ曩ニ籌備處長ハ張作相ニ對シ當地方ノ情勢トシテ日ア

本側ノ埠外行動ヲ阻止スルコト不可能ニシテ自分ハ板挟ミノ苦境ニ在ル事情ヲ説明シテ作相ヨリ何等緩和ノ訓令ヲ受ケ度キ旨懇請シタル處作相ハ自分モ同様ニンテ日本側ノ埠外行動ヲ承認スルガ如キ事項ヲ訓令シ得ザル立場ニ在リ依テ現地ニ於テ日本側ト衝突セザル様可然善處スルヨリ外策ナシト諭シタル由ニテ籌備處長モ已ムヲ得ズ右作相ノ諭示ヲ諒トン管下ニ對シテ日本側ノ埠外行動ハ上司ノ訓令通り極力阻止スベキモノナルモ之ニ由リ日本側ト衝突事件ヲ惹起セザル様可然措置スベキ旨訓達シ居ル次第ニテ日本側ノ希望スル如ク徹底シタル訓令ヲ發スルコトハ好マシカラザルニ付貴意ノアル所ハ籌備處長ニ傳達シ置クベシト答ヘ田中副領事ハ更ニ我方トシテハ從來中國側ノ面目ヲモ考ヘ共產黨不逞鮮人等重大犯人ニアラザル限り埠外ニ於ケル檢舉ヲ差控ヘ又檢舉ニ際シテモ可成目立タザル方法ニ出デ居ル次第ヲ例證シテ説明シタル處啓ハ今回ノ龍井ニ於ケル犯人奪取ノ如キハ分駐所巡警ノ輕舉ニ出デタル

ヤノロ口吻ヲ洩シ居タル趣ナリ

二、日華警察官ノ連絡協調ニ就テハ總領事ト籌備處長トノ

間ニ從來屢々懇談ヲ重ね又總領事ヨリ種々具體案ヲモ

提示シテ處長ニ考量ヲ促シ居ルモ未だニ纏リタル結果

ヲ得ズ然ルニ其ノ後ニ於ケル犯人奪取事件及我警察官

ノ職務執行ニ對スル中國出先官憲ノ妨害行爲等ニ依リ

貴我ノ感情疎隔ヲ來ス虞ナキニアラズト被考ニ付此際

特ニ感情ノ融和接近ヲ圖リ連絡協調ノ實ヲ擧ゲ得ル様

具體辦法ヲ協定實行スルコト最緊要ナルヤニ思料セラ

ルルニ付籌備處長晉省ノ機會ニ省政府當局ト十分協議

ヲ遂ゲラレ歸任ノ上ハ何等妥結ノ運ビニ到リ得ル様御

考慮置キ願度シト申入レタル處啓縣長ハ右傳達スベキ

旨答ヘタル趣ナリ

三、現有補助書堂ノ件ハ其ノ後如何措置サレシヤト聞質シ

タル處本件ハ一應調査ヲ遂ゲタル處日本側ノ調査ト略

ボ一致シ居タルニヨリ處長トシテハ大體承認スルヨリ

外ナシト考ヘ居ルモ一部ニハ之ニ反対スル向キモアリ

テ省政府ヨリハ處長ノ責任ヲ問フガ如キ訓令ナド發セ

ラレ居リ右ハ汪清縣長ヨリノ報告ノ結果ナルコト查明

シタリト

記

延吉市政籌備處長内訓第七百九十七號

延吉縣公安局警字第966十八號

東盛鴻第五公安分局長ニ令ス

張籌備處長ノ内訓ヲ奉ズルニ曰ク去ル九月十日未明龍井市外東興村ニ於テ同地駐在第五分局第二分駐所員ハ日本警察官ノ檢舉犯人朝鮮人三名ヲ奪取シタル處日本警察官ヨリ武力ヲ以テ即時該犯人ヲ奪還セラレシコトハ各機關紙ノ報道及當該分駐所長ノ報告ニ徵シ瞭ナルガ其ノ後龍井村商埠局長ヨリ籌備處長宛報告ニ依レバ該事件發生ニ際シ張商埠局長ハ呂翻譯ヲ帶岡田日本總領事ヲ訪問シスル事件ノ爲日支親善ノ破壞セラレザルコトヲ懇談シタルニ同總領事ニ

其ノ後ノ調査ニ依レバ第二分駐所長ノ執リタル措置ハ妥當ト認メ難ク本件犯人ハ過日中國民ヲ射傷セシ重大犯人ナル趣ナルガ同分駐所長ハ最初何等犯人ノ性質ヲモ訊サズシテ輕卒ニ武力ヲ以テ之ヲ奪取シタルハ全ク政策ヲ誤リタルモノニシテ毫モ假借ノ餘地ナク嚴戒スベキ重大事件ナリ元來

シタルニ依リ處長トシテハ省政府當局ニ對シ事情ヲ釋

明シテ承認ノ手續ヲ履ム所存ニテ一件書類ヲ携帶シ親

ラ省政府ト協議スルコトト爲シ居レルガ多分本件ハ處

長ノ說明ニ依リ省政府モ了解シ二十五校ヲ日本側ノ施

設トシテ承認スルニ至ルベシト答ヘタル趣ナリ

113 昭和6年9月23日 在間島岡田總領事より

幣原外務大臣宛

檢挙犯人奪取事件に対し延吉縣公安局長が部

下を戒飭について

昭和六年九月二十三日附在間島總領事發信幣原外務大臣宛

報告要旨

我方檢挙犯人奪取事件ニ對シ部下戒飭方中國側ノ

訓令ニ關スル件

本件ニ關シ謀知シタル處ニ依レバ延吉縣公安局長ハ延吉市政籌備處長ノ訓令ニ基キ九月十日第五分局駐東興村第二分駐所員ガ日本警察官ノ檢挙シタル犯人ヲ輕卒ニ奪取シタルハ全ク政策ヲ誤リタル重大事件ニ付將來ハ斯ル醜態ヲ演ゼザル様部下戒飭方ニ關シ第五分局長宛左記譯文ノ如ク訓令

龍井村ハ總領事館所在地ニシテ警備充實シ中日警察ハ相讓リ相助ケテ不良分子ノ掃蕩ニ努ムベキナリ又條約上ヨリ是ヲ觀ルモ商埠地内ノ外國警察權ハ治外法權撤廢サルニ非^{アラ}ザレバ之ヲ積極的ニ阻止スルコトハ不可能事ニ屬シ本職ハ岡田總領事ニ該事件ノ交渉ヲ爲スト同時ニ爾^自今如斯武力行為ニ出デザル様絶對保證セシムベキニ付嚴重部下ヲ戒飭スベシトアリ就テハ當該分局長ハ部下監督ヲ嚴ニシ爾今此ノ種醜態事件ヲ演出スルガ如キコトナキ様特ニ留意相成度シ右訓令ス

中華民國二十年九月十三日

延吉縣公安局長 鄒文韶

114 昭和6年10月7日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

滿鉄付屬地における外国人の所有家屋の登記
並に外国人に対する土地貸付け方針について

満鉄付屬地内支那人所有家屋の登記問題
(10月12日接受)

昭和六年十月七日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

滿鐵附屬地ニ於ケル外國人ノ所有家屋ノ登記並ニ外國

人ニ對スル土地貸附方針ニ關スル件

從來滿鐵ニ於テハ附屬地内ノ土地並ニ家屋ノ支那人ノ所有

ニ歸スルヲ防止スルノ方針ノ下ニ支那人ニ於テ家屋ヲ購入

セル際右移轉ニ承諾ヲ與ヘサル爲當館ニ於テモ登記ヲ受理

スル能ハス延キテ登記法上並對支關係上困難ナル問題ヲ招

致シタルヲ以テ當館トシテハ最近ノ事態ニ鑑ミ右滿鐵ノ方

針ヲ緩和セシムルヲ妥當トシ同社ニ對シ引續キ折衝中ナリ

シハ昭和五年十一月一日附機密公第七八〇號十二月二十七

日附機密公第九二七號等屢次ノ公信ヲ以テ報告ノ通ノ處滿

鐵ニ於テモ慎重考慮ノ結果附屬地内ニ於ケル外國人ノ不動

產取得ニ對スル從來ノ制限ヲ此際直チニ撤廢スルコトハ將

來邦人ノ發展ニモ至大ノ影響ヲ及ホス虞アルニ付遽カニ之

ヲ變更シ難キモ之ヲ緩和シ弊害ヲ少カラシムルコトニ致度

キ所存ナル趣ヲ以テ十月六日附ヲ以テ別紙^(第2回)寫ノ通大森地方

部長ヨリ本官宛通報ノ次第アリタルニ付委細右ニ就キ御承
知相成度此段報告ス
本信寫送付先 在華公使、北平首席、哈爾賓、沿線各領^(第2回)
關東長官、

(付記)

滿鐵附屬地内支那人所有家屋ノ登記問題

一、事件ノ經過

二、在奉天總領事ニ對スル回訓案ノ作成

四、回訓發送ノ延期及問題ノ暫定的解決

一、事件ノ經過

一、從來滿鐵ハ附屬地内ニ家屋ヲ建設スル爲滿鐵ニ對シ借
地ノ申込ヲ爲ス者アル場合貸付條件トシテ借地内ニ建
設シタル家屋ヲ後日他人ニ賣却又ハ抵當ト爲ストキハ
豫メ滿鐵ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ借地人ヲシテ承諾セシ
メタル上右條件ヲ借地契約書ニ記載セシメ居レリ（滿
鐵土地建物貸付規則第二十六條參照）

二、然ルニ滿鐵ト借地人間ニ於テ斯カル契約ヲ爲シタリト

スルモ後日借地人ニ於テ該契約ヲ無視シ家屋ヲ他人ニ
賣却シ之力登記ヲ完了スルトキハ右契約ハ殆ト空文ニ
屬スルニ至ル關係上滿鐵ハ沿線各領事館ニ對シ附屬地
内ノ家屋ヲ賣買又ハ抵當トシ之力登記ノ申請ヲ爲ス者
アル場合ニハ前記滿鐵ノ承諾書ヲ添付スヘキコトヲ要
求シ右添付ナキ場合ニハ登記申請ヲ受理セサル方針ヲ
執ラレ度キ旨照會越シ領事館ハニニ應シ爾來右來照ノ
趣旨ニ依リ登記ノ處理ヲ爲シ來レリ

三、滿鐵ノ前記方針ハ附屬地内ニ於ケル家屋ノ權利移轉ヲ
個人ノ任意ト爲ストキハ附屬地内家屋ノ大半ハ悉ク支
那人ノ所有ニ歸シ滿鐵ノ附屬地内市街經營上面白カラ
サル結果ヲ招来スヘキヲ慮リタルモノニシテ更ニ滿鐵
ハ此ノ方針ヲ徹底セシムル爲家屋ノ權利カ支那人ニ移
轉セラルヘキ場合ニハ右移轉行爲ニ對シ絶對ニ承認ヲ
與フヘカラサル旨各地方事務所ニ對シ内訓ヲ發シ居レ
ルカ如シ

四、然ルニ實際上ハ邦人ニシテ滿鐵ノ承諾ヲ經スシテ内密
ニ支那人ニ家屋ヲ賣却スル者アリ此等邦人中ニハ賣買
ニ依ル權利移轉ノ登記ヲ申請シ能ハサル關係上領事官

請ハ同法第四十九條第八號ノ規定ニ依リテ却下セラル
ヘキモノト解スルヲ妥當ト認メラルヲ以テ將來支那人
人ヨリ此ノ種登記ノ申請ヲ受ケタルトキハ右ノ趣旨ニ
依リ措置可相成」トテ從來ノ取扱ヲ維持スヘキ旨ヲ述

ヘタリ

五、然ルニ近時經濟的不況ノ深刻化ニ伴ヒ在留邦人トシテハ所有家屋ニ依リ金融ヲ計ルノ必要增加スルニ拘ハラス鮮銀ハ營業方針トシテ不動產ニ對スル金融ヲ行ハス

東拓亦整理時代ニ在リ貸出ヲ差控ヘ居ル狀態ニ在ル爲附屬地ニ家屋ヲ所有スル邦人側ニ於テハ比較的資力豊カニシテ且附屬地内ノ家屋所有ヲ希望スル支那人トノ間ニ何等カノ方策ヲ講シ金融ヲ計ルコトニ苦心シタル結果事實上支那人ニ賣却シナカラ對滿鐵及登記關係ニ

於テハ日本人ニ賣却シタルカ如キ形式ヲ執リ形式的名義人タル邦人ニ對シテハ支那人ヨリ相當ノ報酬ヲ支拂フノ方法ヲ採ルニ至レリ即チ此ノ種ノ家屋ハ滿鐵方面及登記簿面ヨリ見ルトキハ全然邦人ノ所有ナルモ事實上買受人タル支那人ニ於テ之ヲ支配セルモノナリ

六、右ノ結果例へハ形式的名義人タル邦人ニ對スル強制執行ノ場合事實上支那人ノ所有ナルモ名義上其ノ所有トシテ登記セラレアル家屋モ差押ヘラレ之ニ對シ支那人所有者ヨリ異議ヲ申立ツルカ如キ（昭和五年在奉天林總領事來信機密公第七八〇號參照）又ハ形式的名義人

タル邦人ニ於テ債權者ト通謀ノ上此ノ種家屋ニ對シ強制執行ヲ受ケ賣却代金ヲ以テ債務ヲ辨濟シ其ノ殘額ヲ己ニ於テ騙取セントスルカ如キ（昭和五年在長春田代領事來信機密公第五一三號參照）事例ヲ生シ爲ニ近時支那側官界ニ於テモ漸次本問題ニ注目スルニ至リシモノノ如ク趙欣伯ノ如キハ奉天總領事館員ニ對シ屢々本問題ニ對スル日本側取扱ノ結果カ支那内地ニ於ケル日本側ノ土地權利關係ニ影響スルコトアルヘキ旨諷示セリト云フ

二、在奉天總領事ノ請訓

七、本件ニ關シ昭和五年十一月一日及同年十二月二十七日附在奉天林總領事ヨリノ請訓アリ其ノ趣旨ハ滿鐵ニ於テ附屬地内日本人所有家屋ノ支那人所有ニ移ルヲ防止セントスルハ同地方ニ於ケル邦人ノ地步ヲ維持セントノ意向ニ出ツルモノナランモ之カ爲領事館ニ於テ法律上ノ根據ナキ姑息ナル取計ヲ爲スハ事項ノ性質ヨリ云フモ又登記不受理ノ結果トシテ生スル幾多ノ弊害ヨリ云フモ面白カラザルノミナラス延イテ對支關係ニ惡影響ヲ及ホス虞アリト認メラルニ付（今後登記申請ノ

場合ニハ滿鐵ノ承諾ノ有無ニ拘ハラス實際上ノ所有者ニ對シ登記ヲ受理スルコト（二）滿鐵ニ於テ附屬地内ニ於ケル邦人家屋ノ支那人ノ手ニ移ルヲ防止スルノ必要アルニ於テハ同社ヲシテ別ニ適當ノ方法ヲ考究セシムルコト致度シト云フニ在リタリ

三、在奉天總領事ニ對スル回訓案ノ作成

八、不動產登記法第三十五條第四號ハ法律（私法タルト公法タルトヲ問ハス形式的意義ニ於ケル法律ヲ指ス）ノ規定又ハ登記當事者間ノ特約（登記原因タル法律行為ニ於テ登記當事者ノ爲シタル約束ニ依リ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スル場合ニ於テノミ適用アルモノト解説スヘキ處（司法省民事局ノ解釋モ同シ）滿鐵ノ土地建物貸付規則ナルモノノ由來及性質ヲ見ルニ明治四十年四月滿鐵ハ政府ヨリ政府出資ノ一部トシテ鐵道用地ヲ合セ關東州内外ニ亘リ約四千五百二十八萬餘坪ノ土地及建物四千九百八十一棟ヲ引繼キ翌四十一年ニ至リ之カ貸付契約書式ヲ作り貸付條件及貸付料ノ標準ヲ定メ爾後五ヶ年間ノ經驗ニ鑑ミ貸付事務ノ改善ヲ要スヘキ點渺カラサルヲ感シ大正二年二月土地建物貸付内

（註一）第四條 其社ハ鐵道ノ便益ノ爲左ノ附帶事業

ヲ營ムコトヲ得

- 一 鑛業殊ニ撫順及煙台ノ炭礦採掘
- 一 水運業
- 一 電氣業
- 一 主要ナル鐵道貨物ノ委託販賣業
- 一 倉庫業
- 一 鐵道附屬地ニ於ケル土地及家屋ノ經營
- 一 其ノ他政府ノ許可ヲ受ケタル營業
- (註二) 第五條 其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地内ニ於ケル土木教育衛生等ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スヘシ
- 第六條 前條ノ經費ヲ支辨スル爲其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地内ノ居住民ニ對シ手數料ヲ徵收シ其ノ他必要ナル費用ノ分賦ヲ爲スコトヲ得
- 九、從テ不動產登記法力滿鐵附屬地ニ於テノ儘適用アルモノト假定スレハ滿鐵カ土地建物貸付規則ニ依リ土地賃借人トノ間ニ建物處分ニ際シ滿鐵ノ承諾ヲ得ヘキ旨ヲ約定スルモ右約定ハ地上建物賣買行爲ニ關シ買受人

(註二) 従來ノ取扱ヲ正當視スルコトハ延イテ附屬地ニ於ケル實体物權法ノ内容ヲモ變更スルコトナレトモ之亦登記ニ關シ述ヘタルト同一ノ理由ニ依リ正當視スヘキモノナルヘシ

十一、仍テ前記在奉天總領事請訓ニ對シイ從來ノ取扱振力法律上理由アルモノナルコトヲ示シ(口)問題ノ根元ハ滿鐵ニ於テ支那人ニ對スル權利移轉ハ絕對ニ之ヲ承諾セストノ方針ヲ固執スルコトニ在ルニ鑑ミ此ノ際滿鐵ニ對シテ右方針ノ緩和方ニ付交渉セシメハ同時ニ附屬地内ノ建物カ支那人ノ所有ニ歸スルヲ防止セントスル方針ノ實行方法トシテ他ニ根本的對策ノ樹立ニ付滿鐵ト折衝セシメントスル趣旨ノ回訓案ヲ作成シタリ

四、回訓發送ノ延期及問題ノ暫定的解決

十二、右回訓案ニ對シテハ亞細亞局ニ於テモ原則トシテ異議ナカリシモ同局ニ於テハ本問題ヲ哈爾賓ニ於ケル不動產裁判管轄問題又ハ奉天商埠地ニ於ケル邦人ノ土地商租問題ト關聯セシメテ後者ヲ我方ニ有利ニ解決セシムルコトノ可否得失ヲ考究セントノ希望アリ且之力爲滿鐵附屬地全域ニ於ケル邦人名義ノ支那人所有家屋ノ

ヲ拘束スヘキモノニ非スシテ假ニ滿鐵ノ承諾ヲ得スシテ建物ヲ賣却スルモ右賣買ハ完全ニ其ノ效力ヲ生シ登記原因ニ付何等缺クル所ナキヲ以テ領事館トシテハ滿鐵ノ承諾書ヲ添付セサル場合ニ於テモ右賣買ヲ原因トスル建物所有權移轉登記申請ハ之ヲ受理シ得ヘキモノト解釋スヘキナリ

十、然レトモ不動產登記法力滿鐵附屬地ニ於テ文字通りニ適用アリトノ前提ハ正當ナラス不動產登記法ハ附屬地ニ於ケル特種ノ事情ニ應スル變更ヲ受ケテ適用セラルモノニシテ右ハ「領事官ノ職務ニ關スル法律」第三條ノ豫見スル所ナリ領事官カ今日迄附屬地ニ於ケル建物ノ賣買ニ依ル所有權移轉登記ニ滿鐵ノ承諾書ヲ必要ナリトセルハ附屬地内ニ於ケル建物ノ處分ヲ個人ノ自由ニ放任スヘカラサル特種ノ事情ニ應スルカ爲不動產登記法ノ規定ト異レル取扱ヲ爲シ來レルモノト解釋シテ正當視セラルヘキモノトス(註一、二)

(註二) 従來ノ取扱ヲ不動產登記法ノ解釋ニ依リ理由付ケントシタル大正十四年一月ノ訓令ニハ異論アリ得ヘシ

十三、然ルニ昭和六年十月七日附在奉天林總領事ヨリノ報告ニ依レハ滿鐵ニ於テモ慎重考慮ノ結果附屬地内ニ於ケル外國人ノ不動產取得ニ對スル從來ノ制限ヲ此ノ際直ニ撤廢スルコトハ將來邦人ノ發展ニモ至大ノ影響ヲ及ホス虞アルニ付遽ニ之ヲ變更シ難キモ之ヲ緩和シ弊害ヲ少カラシムルコトニ決定セル趣ニテ十月六日附滿鐵大森地方部長ヨリ同總領事宛左記ノ如キ書翰ヲ送付越シ茲ニ本問題ハ暫定的ニ結末ヲ告ケタリ

(大森滿鐵地方部長發林總領事宛書翰)

拜啓 陳者首題ニ關シ從來弊社ノ採り來レル制限方針ニ付登記法上並對支關係上御異論有之哉ニ及承候處目下ノ狀勢ニ於テハ右方針ハ多少ノ弊害ヲ伴フモ弊社附屬地經營上不得已モノニ有之且又本制限撤廢ハ將來邦人ノ發展ニ至大ノ影響ヲ及ホス虞有之候ニ付今遽ニ本方針ハ變更致難キモ大體左記ノ通之ヲ緩和シ弊害ヲ尠ナカラシムルコトニ致度所存ニ有之候ニ付テハ登記ニ關シ從前通御取計被成下度此段

得貴意候也

記

- 一、左ノ場合ニ於テハ外國人ニ對シ土地貸付ヲ爲シ得ルモノトス
- (1)現在及將來共重要ナラスト認メラル地區ノ貸付
 - (2)外國人ニ對スル貸付ヲ有利トスル場合
 - (3)會社ニ功勞アリタル外國人ニ對スル貸付
 - (4)貸付地上建物ノ賣渡擔保又ハ擔保權執行ニ依リ外國人ヨリ建物所有權ヲ取得シタル邦人力債務辨濟又ハ建物ノ處分ノ爲再ヒ外國人ニ其ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於ケル貸付地名義變更ノ場合
- 二、前項實施ノ方法
- (1)中間驛所在地ハ前項(1)ニ該當スルモノトシテ制限セス
 - (2)主要附屬地ニ付テハ解放地域ヲ定メス個々ニツキ詮議スルコトシ地方部長ニ經伺セシム
 - (3)新契貸付ハ最少限度ニ止ム
 - (4)前項(2)ノ場合ニ於テ必要アルトキハ所轄領事ノ意図ヲ尊重シ協調ノ上詮議ス

「局長」自分ハ現下ノ潮流ニ順應シ善處スル考ヲ持テ居ル、貴方トノ事端ヲ避クヘキコトニ關シテハ已ニ過般會見ノ際言明セル通り管下各分局分駐所ニ訓達シアリ御安神ヲ乞フ、此際自分トシテハ政局ノ變動ニ關セス一意其職分タル地方ノ治安維持ニ盡ス考テ從テ關係各方面ノ理解アル援助ヲ望ム次第テアル、誤レル考ヲ以テ事端ヲ釀シ平地ニ波瀾ヲ起ツルハ却テ公安機關ノ任務ニ反スルモノト思ツテ居ル、今回ノ時局ニ際シ延邊地方ニ於テ日本側ノ執法、ラレタ平和的態度ハ我方官民ノ均シク敬服スル處テ殊ニ商人方面ハ衷心カラ感謝シテ居ル此ノ喜フヘキ現象ハ一二日本側ノ好意的努力ニ因ルコト勿論テアルカ又我方ノ隱忍自重ト相俟ツテ得タ結果テアルト思フ自分達ハ今回ノ事件テ善ヒ經驗ヲ得

横行スルハ想像シ得ラル處ニシテ當方に於テハ今後時々地方ニ出動シ之等ノ檢舉取締リヲ行フ計畫ナルカ貴方ニ於テ從來ノ如キ態度ヲ以テ干渉センカ不幸ナル事件ヲ惹起スルニ到ルヘシ此點ニ關シ貴下ノ考慮ヲ求ムルモノテアル

「署長」次ニ貴局管下各分局分駐所間ニ架設セラレアル警備電話ヲ當方ノ地方出張員等ニ於テ急用アル場合借用出來得ル様御配慮アリタシ

「局長」本件ハ縣長トモ相談ノ上管下ニ對シ非公式ニ命令シ必ス御希望ニ副フ様取計フヘシ云々

本信寫送付先 奉天 吉林 管下四分館

116 昭和6年10月12日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍部は省政府をして吉会線敷設計画を実行する意向について

吉林 10月12日後発
本省 10月13日前着

間島總領事發閣下宛往電第二二一號ニ關シ
本月五六日頃吉長中川代表來吉一泊シ大迫ノ許ニ出入セル旨聞込ミタルニ付不思議ニ思ヒ居タル處極秘ノ聞込ニ依レハ右ハ吉會線ニ關スル相談ノ爲ラシク軍部ハ氣ヲ動カシ省

115 昭和6年10月9日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛
局子街分館警察署長、延吉県公安局長と共産党檢挙に關し協調方談話について
機密第一二二五號
昭和六年十月九日 在間島
（10月16日接受）

115 昭和6年10月9日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛
局子街分館警察署長、延吉県公安局長と共産党檢挙に關し協調方談話について
機密第一二二五號
昭和六年十月九日 在間島
（10月16日接受）

(5)關東州内ニ於ケル貸付ハ制限セス

政（府）ヲシテ右敷設ヲ實行セシムル計畫ヲ進メ居ルモノ
ノ如シ間島總領事ヨリノ情報ハ此間ノ消息ヲ傳フルモノニ
非スヤト思ハル

尙最近東京飯田延太郎ヨリ在當地派遣員ニ對シ此際天圖ヲ

（脱）經テ敦化ニ延長スル用意アルニ付適當ノ機會ニ省政
府ニ「アプローチ」セヨトノ趣旨電報アリタル趣本官限り
ノ含ミトシテ右派遣員ヨリ内話アリタリ御参考迄

間島、奉天、長春へ轉電セリ

117 昭和6年10月15日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙長官が天國線延長案に賛意表明について

吉林省 10月15日前發
本省 10月15日後着

第一四三號

往電第一四一號軍ノ計畫ニ付テハ天圖鐵道トシテモ利害關係大ナル爲飯田ノ代表者松下モ探リヲ入レ居ル處松下ハ天圖總辦程科甲（新吉林市政籌備處長目下滯吉中）ヲシテ熙長官ニ天圖ノ延長案ヲ試ニ持掛ケシメタル處熙ハ天圖輕便

118 昭和6年10月15日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

滿鉄重役會議では吉会線の經濟的価値が低いため積極的に敷設の意思なき判断との吉林宛電報

奉天 10月15日後發
本省 10月15日後着

第九七八號（極秘）

本官發吉林宛電報
第七六號

大臣宛貴電第一四一號ニ關シ

滿鐵首藤理事ニ確メタル處滿鐵ニ於テハ數日前重役會議ノ結果滿洲各地ニ於ケル地方的懸案ニシテ此際一應解決シ得ルモノハ不取敢右様取計ヒ置キ後日必要ニ應シ更ニ整調ノ途ヲ講スレハ可ナリトノコトニ決定セルカ吉會線ハ元來滿鐵ニトリ經濟上有利ナルモノニモ非サルニ顧ミ政府ヨリ命令アラハ兎モ角然ラサル限り滿鐵トシテハ進ソテ之力敷設ヲ企圖スル意思ナキ趣ナリ

大臣、間島、長春へ轉電セリ

119 昭和6年10月23日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

安東における酒類密輸取締り勵行の方針について

安東 10月23日前發
本省 10月23日後着

時局ニ伴フ警察官ノ非常勤務ニ依リ鴨綠江江岸密輸監視ニ

ハ省政府ト日本側トノ合辦事業ニシテ中央政府ノ許可ヲ受ケタルモノナルヲ以テ之ヲ敦化ニ延長スル案ハ此際最モ自然ナル方法ナリト贊意ヲ表シタル趣ニテ其口吻ヨリ察スルニ軍ハ未タ吉敦ノ延長ヲ省政府ニハ持掛け居ラサル如シト内報シ來レリ

尙十四日本官熙ニ面會ノ節夫レトナク質問シタルニ吉會線ニ付軍ヨリ何等申出ヲ受ケ居ラス新政府ハ治安維持ノ爲ノ臨時政府ニシテ斯ノ如キ懸案ハ一般交渉ノ際解決セラルヘキモノニテ臨時政府トシテハ解決ノ責任ヲ執リ難シト語リ居タリ

奉天、間島、長春へ轉電セリ

リ

支、北平、奉天、牛莊へ轉電セリ

120 昭和6年10月23日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

帽兒山領事館分館設置に対する日、中、朝鮮

人の意向について

安東 10月23日後発
本省 10月23日後着

第一七五號

軍部ノ行動ヲ機會ニ火事場泥棒式ノ舉ニ出ツルカ如キハ此際最慎ムヘキハ固ヨリ當然ノ儀ナレトモ支那側ノ理不盡ナル言ヒ分ノ爲實行不能ニ屬スル事項ニシテ今日尙其必要ヲ痛感スルモノニ付テハ適當ノ方法ニ依リ今日之力實現ヲ期スルコト肝要カト存セラル當管内ニ於テ右ニ該當スルモノニ帽兒山分館設置問題アル處過般岡村書記生ヲ鴨綠江上流地方視察ニ赴カシメタル際特ニ事情ヲ含メ夫レトナク同方面ニ於ケル日支鮮各方面ノ意嚮ヲ探ラシメタルニ大体左ノ通ニシテ多少ノ困難アリトスルモ我方トシテ本分館設置ニ

一、支那人方面ニ於テハ商民中分館設置ヲ以テ鮮人移住ノ促進ト共ニ一般市況ノ繁榮ヲ齎スモノトシテ之ヲ希望シ居ル向アルカ如キモ縣長等官邊ニ於テハ臨江縣内ニハ日本人居住セス又鮮人ハ支那側ニ於テ極力保護シ居ルヲ以テ何等分館設置ノ必要ナカルヘシトテ反對的口吻ヲ洩シ居レリ

二、現在帽兒山居住採木公司員及中江鎮主要邦人等ハ先年ノ分館設置問題ニ於テ我國ノ威信ヲ鮮カラス失墜シ居レルヲ以テ帝國ノ一貫セル方針ヲ示ス上ニ於テモ亦現在事實上支那官憲ノ爲スカ儘ニ放任セラレ居ル移住鮮

人ヲ救ヒ且朝鮮側ニテ移住ノ機會ヲ窺ヒツツアル數千ノ鮮農ヲ救濟スル策トシテモ其ノ設置ノ必要ナルコト勿論ナルモ既ニ先年ノ苦キ經驗モアルコトナルニ付餘程支那側官憲ノ諒解ヲ取付ケタル後設置スルニアラサレハ到底成功ノ見込ナキノミナラス却テ現住鮮人スマモ驅逐セラレ平地ニ波瀾ヲ起スニ終ルヘシト見ル向多シ

公使、北平、奉天へ轉電セリ

121 昭和6年10月28日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）大迫中佐が吉會線問題の自發的解決を熙洽に
勸告について吉林省 10月28日後発
本省 10月29日前着

第一五六號（部外極秘）

確實ナル情報ニ依レハ大迫ハ吉會線問題ノ自發的解決ヲ熙

長官ニ勸告シ居ルモノノ由又吉長金局長中川代表及大迫ヨ往電第一五〇號ニ關シ

122 昭和6年10月31日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛
安東における酒類の大規模な密輸入に関し新義州の税関・警察は放置の状況について
(11月4日接受)

在安東

外務大臣男爵
幣原 喜重郎殿

大規模ナル酒類密輸ニ關スル件

本件ニ關シテハ本月二十八日附機密第六二九號拙信ヲ以テ報告ノ次第アル處鮮人密輸團ニ於テハ其ノ後モ引續キ機ヲ

窺ヒ居タルカ如ク二十七日再ヒ大規模ノ密輸ヲ敢行セントシ之カ取締ニ當レル我警察官一名負傷シ税關巡羅船二相當ノ損害ヲ見タル事件發生スルニ至レリ即チ同日午后六時半

頃邦人海關吏カ江岸警察官吏派出所ニ出頭シ密輸鮮人等ノ投石ニヨリ職務ノ執行不可能ナリトテ援助方要求シタルヲ以テ警部補以下四名急行シ海關吏ト共ニ中濱ニ至リタルニ陸上ニ於ケル多數鮮人ハ投石シツツ逃走シタルカ密輸船ト認メラルル數雙ノ舢舨ハ江上ニ散在シ逃走ノ模様ナカリシ

ニヨリ海關側ニ於テハ巡羅船ヲ以テ取押ニ向ハントシテ警察官ノ保護ヲ要望シ其儘放任スルトキハ如何ナル不祥事ヲ惹起スルヤモ計り難キ狀況ニ在リタルヲ以テ警察官二名ハ警察提灯ヲ掲ケテ巡羅船ニ便乗ノ上中濱方面ニ向ハントシタルニ酒樽ヲ滿載シタル密輸船三隻ハ新義州ニ向ケ逃走シタルカ中ノ島下方ニ逃走セントスル他ノ二隻ハ突然巡羅船ニ向ツテ投石ヲ開始シ熊手様ノ器具ヲ以テ巡羅船ニ引掛け

ノ(二分アキ) 好機會ト思惟スルモノノ如ク極メテ大膽ナル方法ニヨリ飽ク迄之レカ遂行ヲ企圖シ居レル始末ニシテ右ニ對スル取締ハ最モ多ク新義州警察及稅關ノ力ニ俟タサルヘカラサルニ不拘同方面ニ於ケル空氣ハ昨今著シク微溫的トナリ密輪ニ對シテハ殆ソト何等ノ措置ヲモ構シ居ラサル模様ナル

右報告申進ス

本信寫送付先 公使 北平 奉天 上海 牛莊 關東長官

123
昭和6年11月3日

在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙治が同金銭の合併に同金銭の趣について正副長等任命の趣について

吉林省 11月3日前發

熙長官ハ一田告長告敷兩鐵道ヲ合併シ告長告敷鐵路局ヲ設

トウヲ任命シ局内ニ四處ヲ設ケ事務團長ニ中川（吉長局滿
ケ局長及副局長ニハ各前任者タルキンヘキトウ及サイヨウ

テ接近シ斧ヲ以テ暴行ヲ働くニ至リ極メテ危険ナリシヲ以テ警察官ハ提灯ヲ高ク掲ケテ警察官ナルコトヲ明示シタルモ鮮人等ハ暴行ヲ止メサルニヨリ已ムナク拳銃數發ヲ空ニ向ケ發射シ威嚇シタルニ始メテ二雙ノ密輸船ハ新義州ニ引返スヘク逃走ヲ始メタルカ巡羅船ハ更ニ追跡ヲ試ミタルモ警燈全部ヲ破壊セラレ居ル爲航行危険ナルニヨリ午后七時半渡船場ニ引揚ケシメタリ

本事件ノ爲警察官一名ハ鮮人ノ投石ニヨリ胸部ニ負傷内出血ヲ起シ目下醫療中ナルカ尙海關巡羅船ハ窓硝子四枚ノ破損ト扉一枚ノ損壊ノ外斧ノ刃跡數ヶ所ノ損害ヲ受ケタリ右ニ關シ「トルボツト」海關長ハ二十九日本官ヲ來訪シ今後ノ對策ニ付申入ヲ爲スト共ニ巡羅船ノ受ケタル損害ヲ百五十圓乃至二百圓ト見積リ本件暴行者ヲ我方ニ於テ處罰シ右損害ノ賠償ヲ爲サシメソコトヲ要求スル所アリタルカ後刻更ニ別紙寫(省略)ノ如キ公文ヲ送付シ越セリ

本件密輸ノ黒幕ニ付取調フルニ右ハ最近奉天方面ヨリ日本酒三百樽ノ註文ヲ受ケタル國境在住日本人ニ於テ多數鮮人ヲ手先トシ遮ニ無ニ密輸ヲ敢行セントシ居ルモノナルコト略明瞭トナリタル力他面此等鮮人ハ目下ノ事態ヲ以テ密輸

鐵代表) 工務團長二田邊(吉敷局技師長) 會計處長二谷
(吉長局會計課長) ノ各滿鐵派員ヲ配置シ総務處長ニ支那
人職員ヲ任命シタル趣ナリ

奉天ヨリ哈爾賓へ轉電アリ度シ

124 昭和6年11月5日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

て確認方吉林總領事宛要請

奉天 11月5日後發
本省 11月6日前着

第一二〇三號

吉會鐵道敷設二關スル契約成立シ明六日ヨリ測量ニ掛ルコ
トトノノ旨請段アリ上、萬國社ニ置同合ロ、ニテ爲ハ

貴地ニ於テ眞否御取調請フ

大臣、支、北平、間島へ轉電セリ

125 昭和6年11月5日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙洽より本庄軍司令官に対し吉会線敷設方申
し越しについて

奉天 11月5日後発
本省 11月5日後着

第一二〇六號（極秘）

吉林宛往電第一一〇號ニ關シ森島ヲシテ滯奉中ノ滿鐵山崎
總務部次長ニ問合セシメタルニ同次長ハ詳細ノ點ヲ了知セ
スト前提シ大要左ノ通語レリ

先般來吉林方面ニ於テ吉會線敷設ノ話合弗々抬頭シ居タル
ヲ以テ滿鐵トシテハ右具体化ノ場合ニ際シ執ルヘキ方針ヲ
豫メ決定シ置ク必要アリタル爲吉林方面ニ於ケル本件敷設
問題ノ模様ヲ具シ在京ノ内田總裁ニ電請シ置キタルニ對シ
同總裁モ交渉ニ應シテモ差支ヘ無キ旨回訓アリタル次第ノ
處其後吉林ニ於ケル話合具体化シタルモノト見エ數日前熙

治ヨリ本庄軍司令官ニ對シ吉會線ヲ敷設アリ度キ旨ノ申越
アリタルニ依リ村上、山西兩理事三日吉林ニ赴キタリ委細
ノ事情ハ明六日兩理事歸奉ノ上ニ非サレハ判明セサルモ總
裁ヨリ前記電報ノ次第モアリ吉林ニ於テ既ニ具体的ニ話合
進ミ或ハ明日ヨリ測量着手ノコトトナリ居ルヤモ知レス尙
新線通過地及天圖線トノ關係等政府ノ方針ニ待ツヘキモノ
アルニ付羅津ヲ終點トスル滿鐵側ノ意見ヲ具シ總裁宛電報
濟ニ付外務省ニモ協議中ノコトト思考ス

冒頭往電極秘トセラレタシ

支、北平、吉林、間島へ轉電セリ

126 昭和6年11月6日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙洽と関東軍間で吉会線を吉長・吉敦線延長と
して敷設の了解成立した旨奉天宛電報について

本官發奉天宛電報
第一六二號（極秘）

吉林 11月6日後着

第二七號
貴電第一一〇號ニ關シ
當地滿鐵公署長ノ内話ニ依レハ未タ契約成立ト成リ居ラサ
ルモ吉長吉敦並行線ノ延長トシテ愈々敷設ノ事ニ熙洽ト軍
側トノ了解成立セルハ事實ナリ測量ハ吉長吉敦局ノ手ニテ
至急取掛ル事トナルラシキモ本六日ヨリ掛ル事ハ承知セス
ト言ヘリ從テ大臣宛貴電第一二〇六號ノ村上山西兩理事ハ
中川代表及田邊吉洋技師長同伴四日來吉五日離吉セリ尙取
調ヘ中ナルモ不取敢

奉天、支、北平、哈爾賓へ轉電セリ

128 昭和6年11月7日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉会および長大線は吉長吉敦局長より延長線とし
て敷設方願出を許可する形式をとる旨について

吉林 11月7日後発
本省 11月7日後着

第一六六號

往電第一六五號ニ關シ

關係者ノ内報ニ依レハ吉會及長大ハ吉長吉敦局長ヨリ延長
線トシテ敷設方願出來リ之ヲ許可シタル形式ヲ取リタルモ
ノニシテ滿鐵トノ請負契約ハ未タ成立シ居ラサルモ夫ハ追
テ調ヘルコトトシ先ツ吉會ヨリ取掛リ來ル十一日頃ヨリ測
量ニ着手シ測量ニ追隨シテ簡略的ニ工事ヲ進メ最短期間内
ニ完成スル豫定ナリト

奉天宛拙電第二七號ニ關シ

第一六五號（極秘）

長大線ノ敷設ニ付テモ同様了解成立セリ矢張リ長敦ノ延長

奉天宛拙電第二七號ニ付テモ同様了解成立セリ矢張リ長敦ノ延長

吉会、長大両線の敷設に対しは昭和三年の
契約を実行する建前をとることについて

奉天 11月8日後発
本省 11月8日後着

第一二三五號
往電第一二〇六號ニ關シ

森島ヲシテ村上鐵道部長ニ問合ハサシメタルニ吉會、長大
兩線ニ付吉林發閣下宛電報第一六六號ノ通ノ形式ヲ取リタ
ルモノニシテ滿鐵トシテハ昭和三年ノ契約ヲ實行スルノ建
前ヲ取り別段新契約ヲ締結セス右契約中改正ヲ要スル點ノ
ミ追テ往復文書ニテ定ムルコトトナリ居レル由ニシテ吉會
線ニ關シ天圖側ヨリ同線力合辨ナルニ鑑ミ天圖ノ延長トシ
テ敷設方滿鐵ニ申出アリタルモ滿鐵側ニテハ之ヲ拒否セル
由ナリ尙延會、吉五、洮索線ニ付テモ滿鐵トシテ考慮中ナ
ルモ未タ内部ノ關係ニ止マリ居ル由
公使、北平、吉林、間島ニ轉電セリ

熙治が吉会線敷設に関する合意は軍部が非常
に急いでいるため已むを得ずと述べたについて

吉林 11月9日後発
本省 11月10日前着

第一七一號（部外極秘）
奉天發閣下宛往電第一二三五號ニ關シ

一、天圖總辦飯田岩雄及カライン兩人來吉シ大迫中佐ニ天
圖側ノ意見ヲ述ヘタル處滿鐵側トノ話合サヘ着ケハ天
圖ノ延長トシテ敷設スルモ可ナルヘシトノ話ナリシニ
依リカライン等ハ直接内田總裁ノ諒解ヲ得ル爲近日中ニ
大連ニ赴ク由ナリ

二、八日本官ト會談ノ際熙治ハ吉會線ニ關スル自分ノ意見
ハ曩ニ述ヘタル通り（往電第一四三號參照）臨時政府
ノ遣ルヘキコトニ非スト爲スモノナルモ軍部力非常ニ
急キ居ルタメ已ムヲ得ス許可シタル次第ナルカ吉長ヨ
リノ請願ノ形式ヲ執リ軍部ハ少シモ關係無キ体ニセル
等ハ軍モ外交ハ上手ナリト苦笑シ居レリ

三、滿鐵ノ工事請負ニ關スル原則的契約ハ矢張リ成立シ
(十月卅一日ナリト謂フ)之ニハ當地滿鐵公所長カ在
奉擔當理事ノ諒解ヲ得テ調印シ内田總裁之ヲ追認シ來
レリト謂フ

四、本問題ニ付外務省ヨリノ阻止ヲ避クル爲軍部ハ領事館
側ニ對シ絶対漏洩セサル様關係者ヲ戒メ居ル由ニ付右
御含ヲ願フ、尙八日敦化出張警察官ノ報告ニ依レハ未
タ測量ニ掛リ居ラス

奉天、支、北平、哈爾賓へ轉電セリ

131 昭和6年11月10日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天における日本青年將校の横暴により鐵道交
渉停頓状況につき加来より飯田へ連絡について

吉林 11月10日後発
本省 11月10日後着

加來ヨリノ依頼電左ノ通
飯田延太郎へ御傳ヘヲ請フ

第一七二號

ハ賣却スルヲ賢明トス」トノ說ヲ持シ居ルニ付此問題ニ殆ト無關係ノ地位ニ置カレ居ル同總領事ト争フノ必要モナク弓張嶺鐵道ノ件ニ付同總領事力「満鐵ハ他ニ大仕事ヲ控ヘ居ルニ付同鐵道ハ容易ニ建設セサルヘク契約ノミ取付ケタリトテ又反古同様ニナル」トテ熱ヲ示ササルニ付余ハ資金ハ何時ニテモ調達スヘク假ニ總領事ノ說ニ從ヒ天圖ヲ始末

スルトスレハ此方面ヨリモ資金ノ餘裕生スルニ非スヤト説キタル處「吉會線等ト異ナリ此鐵道ハ世界ノ問題トモナラス又張學良モ承知シ居タルモノナレハ此際完成スルハ最好機ナリ然ラハ野口ニ勧メテ軍ノ反対ヲ受ケサル様ニシ一方自分モ盡力シテ完成セシムヘシ」ト語ラレタル次第ナリ又

天圖ノ件ニ付余ハ根本ノ基礎ヲ異ニスル借款鐵道力合辨ニ優ル等ト考ヘタルコト毫モナク電文ニモ「役員構成ノ點ノミヨリスレハ」ト申述ヘタルニ止マリ決シテ軟化シ居ルニ非サルニ付御心配ナキ様願フ只深ク憂慮スル所ハ威嚴ヲ唯ノモノト考ヘ居ル軍部力既ニ一旦軍立會ノ上満鐵ト調印セシメタル點ニシテ之ヲ變更スル必要アル事態トナリ居ルトスレハ事面倒ニシテ或ハ内田總裁ト相談シテ奉天ノ日本軍側ヲ說得スル必要アリトモ考ヘ居レリ石射總領事並ニ京

133 昭和6年11月13日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

敦化・牡丹江間測量が十一月九日開始され牡丹江・延吉間は十二月一日着手の予定について

本省 11月13日前後 吉林 11月12日後発

敦化・牡丹江間と長大・吉会兩線の測量着手に關し満鉄は未だ原則的契約未調印について

吉 林 11月13日後発 本省 11月14日前着

第一七六號 第一七六號

往電第一七四號ニ關シ
十三日來訪ノ中川代表ノ内話左ノ通

(一)敦化ニ於ケル測量ハ牡丹江ノ架橋地點ノ「ボーリング」ヲ始メタルモノニシテ一兩日中ニ終了スヘシ長大ノ測量ハ吉會ト共ニ十二月初着手ノ豫定ナリ

(二)満鐵トシテハ右兩線ヲ請負ニスルヤ借款ニスルヤ未定ナリ支那側満鐵間ニハ未タ原則的契約調印等ノコトナクロ頭ノ話合トナリ居レリ

134 昭和6年11月20日 永井外務次官より
次田（大三郎）内務次官宛 支、北平、奉天、間島へ轉電セリ

132 昭和6年11月12日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

敦化・牡丹江間測量が十一月九日開始され牡丹江・延吉間は十二月一日着手の予定について

本省 11月13日前後 吉林 11月12日後発

第一七四號（極秘）

出張警察官ヨリ左ノ通り報告アリタリ狀況確カナラサルモ不取敢

吉敦工務團ノ支那人技師ハ本局ノ命ニ依リ去ル九日敦化驛牡丹江間一杆ノ測量ニ掛リタルカ同地満鐵公所出張員ノ談ニ依ルニ牡丹江延吉間ノ測量ハ十二月一日着手ノ豫定ナル由

支、北平、奉天、間島へ轉電セリ

135 昭和6年11月25日 中谷閏東府警務局長より
永井外務次官宛

滿州事變後の満鉄による貨物輸送狀況について
(11月30日接受)

滿鐵が新政權と新線敷設準備進行中との新聞記事差止めについて

報二機密第九一三號 昭和六年十一月二十日

次田内務次官 新聞記事差止めスル件

滿鐵力鐵道ノ延長又ハ新線ノ敷設等ニ関シ滿洲新政權ヲ相手トシテ何等カノ準備ヲ進メ居ルト云フカ如キ國際的惡宣傳ニ利用セラル恨アル記事ハ一切新聞紙ニ掲載セサル事ニ付テハ曩ニ貴省竝ニ當省係官ニ於テ協議シタル通リニ有之候條右申進ス

滿州事變後の満鉄による貨物輸送狀況について
(11月30日接受)

閏東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿

最近ニ於ケル滿鐵ノ貨物輸送狀況

今回ノ事變後一時特產物ノ南行停頓シタル爲メ前途ヲ悲觀セラレ居タル力最近吉長、吉敦兩鐵路局ノ合併吉海、瀋海線ト滿鐵線トノ連絡回復四洮、洮昂線ノ管制、管理、打通北寧線ノ不通ト共ニ河北線ノ經濟封鎖等ニヨリ北滿貨物ノ南行著シク激増シツツアリ、從ツテ滿鐵々道部ノ減收モ昨年度上半期ハ約金四百萬圓台ナリシモ、本年度ハ十月十三日ニ至リ約金三百五十萬圓台ニ回復セリ

然ルニ現下ノ沿線各地及前記各鐵路附近ハ今尙匪賊或ハ敗竄兵ノ出沒横行熾ニシテ之カ脅威ヲ受ケ自然特產物ノ出廻ニ支障ヲ來シ居レルカ如キ狀態ニアリ

又十月四日洮昂線江橋附近ノ鐵橋破壞ノ結果チチハル方面ノ特產物ノ出廻リ圓滑ヲ缺キ居ルニ不拘大連埠頭昨今ノ出廻り狀況ヲ見ルニ鐵道貨物ノ扱屯數ハ毎日五萬屯内外ニシテ昨年度ノ同期ニ比シ遙カニ殷盛ニシテ最近ニ於ケル滿鐵ノ貨客及倉庫料等ニヨル收入ハ毎日平均三十萬圓内外ナリ、豫想セラル

尙今後沿線各地ノ時局安定ニ依リ特產物ノ出廻順調トナラハ更ニ著シキ增加ヲ來スヘク未曾有ノ活況ヲ呈スルニ至ルヘシ故ニ營口ノ結冰ト同時ニ貨物ノ南行ハ激増シ之ニ伴ヒ船舶ノ大連入港ヲ誘致シ今後ニ於ケル輸出狀況ハ一層好轉スルモノニシテ現在ノ鐵道收入ノ赤字ハ來年三月未下期迄ニハ充分消滅シ更ニヨリ以上ノ收益ヲ見ルニ至ルヘシト豫想セラル

以上

136 昭和6年11月26日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉会、長大兩線の測量実施が軍部の懇意によ
る旨並び両線着工は来年解氷期よりとの中川
代表等談話について

長春 11月26日後発

第一八六號

本省 11月27日前着

137 昭和6年11月29日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

時局ニ際シ吉會ト共ニ長大線ノ測量實施ヲ耳ニシ居リタルヲ以テ本廿六日中川代表田邊技師長本官來訪ノ節尋ネタ

張景惠側と鉄道・航空事業を日中合併となすことに調印をみたとの駒井関東軍団談話について

如斯貨物ノ運行狀態好轉ニ伴ヒ大連埠頭ノ到着貨物數量モ昨年度同期ニ比シ益々增加ノ傾向ニアリテ毎日特產物モ一萬屯内外ノ着荷アリ

前年度ノ同期ハ毎日六七千屯ニ過キサリシニ見ルモ如何ニ特產物ノ出廻リノ好況ヲ呈シ來レルカヲ立證スルニ足ルヘシ、然ルニ最近ニ於ケル大連港ノ入港船舶ハ一日七八隻ニ過キサル狀態ニシテ自然輸移出貨物ノ滯貨ヲ見ルニ至レルカ如斯入港船舶ノ減少シタル原因ハ英國ノ金輪出停止ノ結果銀貨ノ昂騰ニ伴フ運賃ノ低下及世界的財界ノ不況ニ依ル繫船ノ增加ニ依ルモノト思（推）セラル然レトモ近海航路ヲ見ルニ營口滿鐵埠頭ノ入港船舶ハ昨年度ニ比シ著シク增加ヲ見セツツアルモ遼河ノ結氷ニアルヲ以テ（滿鐵會社ハ來ル二十日ヨリ營口ニ於ケル船車連絡中止ノ旨去ル十二日滿鐵會社報ヲ以テ公表ス）各船舶ハ自然缺航ヲ見ルヘク從ツテ之等近海航路船舶ハ例年ノ如ク大部分大連港ニ入港シ來リ特產物ノ積込ミヲ爲スヘク想像セラルルヲ以テ今後ニ於ケル同港ノ配船狀況モ相當活況ヲ呈スルニ至ルヘシ、更ニ翻ツテ埠頭構内滯貨ノ數量ヲ見ルニ約二十七八萬噸ノ多キニ達シ昨年ノ同期ニ比シ十餘萬噸ノ增加ヲ示シ居レルカ

奉天 11月29日後発
本省 11月29日後着

第一四二八號（極秘）

黒龍江省政權問題ニ關シ關東軍駒井囑託等哈爾賓ニ出張中ナリシ處同囑託ハ廿九日本官ニ對シ哈爾賓ニ於テ張景惠ト折衝ノ結果張ハ結局黒龍江省ニ乗出ス事トナリタルカ右ニ

關聯シ

一、滿鐵宇佐美哈爾賓事務所長ト張トノ間ニ(イ)齊々哈爾黒河間(ロ)克山海倫間(ハ)洮南索倫滿州里間ニ日支合辦鐵道ヲ敷設シ之力經營ヲ滿鐵ニ委任スヘキ契約ヲ調印シタリ

二、百武哈爾賓特務機關長ト張景惠ノ息子トノ間ニ哈爾賓ヲ中心トスル航空事業ヲ日支合辦ニテ經營スル事ニ決定調印ヲ了シタルカ右ニ依レハ支那側ヨリ飛行場ヲ又日本側ヨリ機体其他ノ設備ヲ夫々出資スル事損益ヲ分擔スル事差當リ期間ヲ五箇年トシ具体案決定次第試験飛行ヲ爲ス事トナリ居レリ

三、黒龍江省内ニ於テ日本人ニ對シ南滿ニ於ケルト同一ノ権利ヲ附與スヘキ旨張景惠ヨリ軍司令官ニ文書ヲ以テ申入レタリト語レリ

右ハ駒井囑託力外務省側ノ参考ノ爲同人限リノ取計ニテ本官ニ内話セルモノナルニ付部外極秘トシテ御取扱ヲ請フ支、北平、哈爾賓、齊々哈爾、吉林へ轉電セリ

138 昭和6年11月30日 在ハルビン大橋（忠二）總領事より 币原外務大臣宛（電報）

黒龍江省鐵道問題の日中間調印未確認だが航空事業は軍を表面に出さない形式で調印の方針について

ハルビン 11月30日後発
本省 11月30日後着

第七〇〇號（極秘）

奉天發貴大臣宛電報第一四二八號ニ關シ

黒龍江省鐵道問題ニ關シ滿鐵本社及軍部ト協議ノ爲一兩日中宇佐美斯但シ右ニ關シ滿鐵本社及軍部ト協議ノ爲一兩日中宇佐美事務所長南下ノ苦尙航空事業ハ純然タル商業企業タルノ條件ニテ廿九日特別區實業廳長ニ於テ契約ニ調印シ直ニ之ヲ奉天ニ送リ成ルヘク軍側ヲ表面ニ出ササル形式ニテ適當者ヲシテ調印セシムル方針ナル趣ナリ

支、北平、奉天、吉林、齊々哈爾ヘ轉電セリ

139 昭和6年12月1日 在吉林石射總領事より 币原外務大臣宛（電報）

吉会、長大兩線の請負は既存の契約を尊重する形で行なう予定について

吉林 12月1日後発
本省 12月1日後着

第一九一號

長春發閣下宛往電第一八六號ニ關シ

昨三十日歸連ニ際シ來訪シタル村上理事ハ本官ノ質問ニ答へ吉會、長大ノ請負ハ矢張既存ノ契約ヲ尊重シ大體之ニ依

ルコトトナレリ尤モ諸物價低落ノ爲金額ハ雙方ニテ二千二

百萬圓位（但シ用地買收費總務費及警備費ヲ含マス又籌備費ハ全然之ヲ廢ス）ノコトニ決定セリ別ニ契約書ヲ作ラス

書面ノ交換ニ依リテ雙方確認スル筈ナリ天圖トノ關係ニ付テハ飯田氏從來ノ努力ヲ無ニシ難キヲ以テ後日適當ニ考慮スルコトトシ加來氏モ之ヲ承シテ歸京セリト語レリ（終端港ノコトハ言明ヲ了承シテ歸京セリト語レリ（終

吉長吉敦兩鐵道合併ノ次第ハ吉林總領事ヨリ電報ノ通ノ處確實ナル筋ヨリノ聞込ニ依レハ海吉鐵道ヲモ右兩鐵道ニ合併スル事トシ過日滿鐵井上鐵道部長吉林出張中同部長ト熙治トノ間ニ調印ヲ了シタル趣ナリ本件ハ情報供給者ノ關係

141 昭和6年12月2日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

弓長嶺運行鉄道に関する鐵道敷設案近く調印の運びについて

奉天 12月2日後発
本省 12月2日後着

第一四五二號

九月三日附機密第七一二號弓長嶺運行鐵道ニ關シ十一月十九日弓長嶺鐵工公司野口總辦ヨリ實業廳長ニ對シ弓長嶺鐵工ヲ中心トシ安奉線橋頭並南滿本線遼陽又ハ首山ニ達スル兩鐵道敷設ニ關スル案提出中ナリシ處二日野口ヨリノ通報ニ依レハ右案ハ一日ノ地方維持委員會ニ於テ審議可決セラレ今後土地收容其他ニ付主義方針ヲ尙一應實業廳長ト日支兩總辦間ニ協議ノ上遲クモ一週間位ノ中ニハ調印ノ運ヒニ至ルヘキ筈ナリ

安東、遼陽、公使、北平、間島、南京へ轉電セリ

142 昭和6年12月(4)日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

我が軍部と張景惠間で奉天・ハルビン間航空運送事業契約成立し調印を了したるについて

ハルビン 発
本省 12月4日後着

第七二二號(極秘)

豫テ我軍部ト當地張景惠トノ間ニ商議中ナリシ奉天當地間航空運送事業ニ關スル契約ハ十二月一日附ヲ以テ成立双方調印ヲ了シタル上當館ノ認證ヲ求メ來レル處右契約全文左ノ如シ

日支合辦航空營業ニ關スル契約
楊文緒(以下甲ト稱ス)ト駒井徳三(以下乙ト稱ス)トハ飛行機ニ依ル旅客並ニ貨物ノ輸送業務ヲ營ム爲契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

一、本航空輸送營業ハ日支兩國商民ノ合資經營ニ係ルモノ

トス

二、甲ハ哈爾賓ニ於ケル飛行場ヲ提供シ乙ハ本航空營業ニ要スル一切ノ設備並ニ飛行機ヲ提供ス

143 昭和6年12月5日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

吉海と吉長・吉敦の合併実施期並びに吉林・

五常間と延吉・寧古塔間の鐵道敷設等について

吉林 12月5日前發
本省 12月5日後着

第一九五號(極秘)

鐵道問題ニ關スル情報左ノ通

(一)吉海ヲ滿鐵ノ委任經營ニ移シ吉長吉敦ト合併スルコトニ

尙軍側ハ技師ヲ當地ニ派遣シ目下飛行場ノ施設ニ付支那側ト協議中ニテ愈試験飛行ヲ行フ段取リトナルニ至ラハ奉天軍部及當地支那側ニ於テ然ルヘク公表スルコトトナリ居リ

公使、北平、奉天、露、長春、米ニ轉電セリ

モノトス

附本契約調印ノ上ハ直ニ試験飛行ヲ行フモノトス

尙軍側ハ技師ヲ當地ニ派遣シ目下飛行場ノ施設ニ付支那側ト協議中ニテ愈試験飛行ヲ行フ段取リトナルニ至ラハ奉天軍部及當地支那側ニ於テ然ルヘク公表スルコトトナリ居リ

編注 原文では第七一九号とあるが、書き込み訂正及び分割電報番号から第七二一號とした。

(二)吉林五常間及延吉寧古塔間ノ鐵道敷設ニ付テモ諒解成立セル由ナルカ内容尙不明ナリ

右(一)及(二)ハ滿鐵側ニテ極秘ニシ居ルモノナルニ付御含ヲ
請フ

公使、北平、奉天、長春、哈爾賓、間島へ轉電セリ

144 昭和6年12月6日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛 (電報)

弓長嶺運行鐵道に関する協定書の効力を有力に
させるため總領事として調印の意向について

奉天 12月6日後発
本省 12月6日後着

第一四八二號(至急)

往電第一四七二號ニ關シ

弓長嶺運行鐵道ニ關スル協定書ハ大正七年十二月二十二日
調印ノ基本契約第十一項ニ基クモノニシテ(大正八年一月
十五日附機密公第三號往信)一兩日中ニ調印ノ運ニ至ルヘ

キ處野口ヨリ基本契約第十一項ニ基クモノニシテ(大正八年一月
十五日附機密公第三號往信)一兩日中ニ調印ノ運ニ至ルヘ
野口ノ三者調印シ居ル關係モアリ本件協定書ニ付テモ實業
廳長野口ノ外本官ノ調印ヲモ得度キ旨申出アリ本官トシテ
ハ此種地方問題ニ關シテハ我方外交機關ニ於テモ場合ニ依

リ事實上ノ政權ヲ相手方トシテ話合ヲ進ムルコトモ現下ノ
事態ニ鑑ミ已ムヲ得サル處ナルノミナラス基本契約ニ日本
總領事調印シ居ル次第ニ顧ミ本件協定ノ效力ヲ有力ナラシ
ムル爲本官モ調印シ置ク方然ルヘキヤニ存シ居ル次第ナル
力何等御意見モアラハ至急御指示相成度ク別ニ御回電ニ接
セサルニ於テハ本官ニ於テ調印スヘキニ付右御含ミ置相成
度シ

支、北平、南京へ轉電シ、間島、安東、遼陽へ暗送セリ

145 昭和6年12月7日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

張景惠が黒龍江省主席に就任の際に鐵道問題
の具体的意志表示を行なうと聲明について

147 昭和6年12月7日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

江省鐵道計畫大綱ニ關シ張景惠ハ目下齊々哈爾ヨリ代表者
來哈シ居ル次第ニ商議ノ結果自分力愈江省主席ニ就任シ
タル上ニテ具体的ノ意思表示ヲスル旨聲明シ居レリ

支、北平、奉天、吉林、齊々哈爾ヘ轉電セリ

差額ヲ交付スルコトナルヘシ

(三)純益アル場合ニハ滿鐵力三割支那側七割ノ部合ニテ分配
スルコト從テ支那側ハ損益ニ拘ラス每年借款金額ノ一割
ニ當ル利益ヲ保證サレ居リ其ノ上純益ノ七割力右借款額
ノ一割以(上)ニ上ル場合ニハ夫レ丈ケ餘分ノ利益ヲ受
クルコトナルヘク旁右方法ハ支那側ニ取り極メテ有利
ナルモノト思考セラル

支、北平、奉天、長春、間島、齊齊哈爾ヘ轉電セリ

第七三二號(極秘)

過日當地宇佐美事務所長カ極秘ノ含ヲ以テ本官ニ内話スル

處ニ依レハ村上理事ト熙治トノ間ニ了解成立セル鐵道建設
計畫ハ吉林五常間長春泰來間、扶餘哈爾賓間、延吉依蘭間、
敦化東京城間ノ五線ニシテ右建設ニ關シ支那側トノ諒解事

項ハ
(一)建設工事ハ總テ滿鐵ニ於テ請負ヒ右經費ハ支那側ノ借款
トスルコト

(二)工事完成ノ上ハ滿鐵ノ委任經營トシ毎年損益ニ拘ラス借
款ノ一割ヲ支那側ニ提供スルコト(結局右一割ト其利子

162
彙聲硝子山口分署長ヨリノ報告ニ依レハ本七日滿鐵測量班
一行二〇名及同護衛支那兵三〇名ハ敦化ヨリ自動車ニ分乗
シ同地ニ來着セルカ右ノ内滿鐵社員二名カ若干ノ同行護衛

第二七八號(至急)

間島 12月8日前發
本省 12月8日前着

敦化付近にて中國兵が測量中の滿鐵社員など
を殺傷について

163

兵ヲ連レ午後三時頃徒步ニテ同地所在ノ陸軍營本部附近ノ山地ニ於テ地勢觀測中何等力ノ誤解ニ依リ同地支那兵ト護衛兵トノ間ニ衝突ヲ來シ其結果滿鐵社員及護衛兵各一名即死同社員一名負傷支那側モ一名ノ負傷者ヲ出シ死傷者全部

直ニ同營本部ニ收容セル力右事件ノ真相不明ニシテ目下取調中ノ趣ナリ就テハ不取敢當館ヨリ應援ノ爲今夕六時福井署長以下一三名及醫師ヲ自動車二台ニ分乗出發セシメ明八日同地着ノ筈ナルカ局子街支那側ニ於テモ現地官憲ヨリ右ト同様ノ報告アリ警備司令ハ事件ヲ重大視シ今夕直ニ自動車ニテ梁團長任參謀及上野顧問ヲ同地ニ派シ當地河野連絡班長モ局子街ヨリ同行セル趣ナリ尙右事件ノ真相ヲ取調ヘ誠意ヲ以テ速ニ解決スヘキ様田中分館主任ヨリ啓籌備處長へ申入レ置ケリ

支、北平、上海、奉天、吉林、長春、局子街、頭道溝、琿春、百草溝、朝鮮總督ヘ轉電セリ

148 昭和6年12月9日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄測量班遭難事件の詳細報告について

タリ伊藤及中村ノ屍体ハ八日午後一時我力警察官檢視ノ上調査隊員一同附添ヒ敦化經由吉林ニ引揚ケタリ

轉電先冒頭往電ノ通

149 昭和6年12月10日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄測量班遭難事件に關する中國側との交渉

について

間 島 12月10日後発
本 省 12月10日後着

支那側トノ善後交渉ハ當初調査隊派遣ノ交渉ヲナシタル方面ト吉林熙治長官トノ間ニ之ヲナスコト便宜カト存セラル

ルヲ說キ陳謝賠償處罰今後ノ取締等ニ付出來得ル丈ノ誠意ヲ披瀝シ自發的ニ何分ノ申出ヲナサシムル様交渉スルコトセリ

尙河野聯絡班長歸來談ニ依レハ警備司令ハ充分ナル誠意ヲ

問 島 12月9日後発
本 省 12月10日前着

第二七八號ニ關シ

現地ニ出張シタル福井署長ノ歸來報告ニ依レハ事件ノ真相左ノ如シ滿鐵調查隊員川邊ヨシ以下三十名ハ支那陸軍二十五名ニ護衛セラレ七日午前十一時四十五分敦化ヨリ自動車ニテ甕聲硝子ニ到着シ午後二時頃一行中ノ伊藤萬次、中村岩藏外本邦人二名支那人二名護衛支那兵五名ハ地形偵察ノ爲市街西方高地支那陸軍監視所方面ニ向ヒタルニ山頂監視所ニ在リタル支那兵一名ハ銃ヲ擬シ阻止シタルニ依リ（行）ハ中腹ヨリ引返サントシタル時十三名ノ支那兵ニ出逢ヒタルヲ以テ護衛兵ヲ介シ滿鐵調查隊員ナルコトヲ告ケ地形偵察ノ爲高地ニ上リ度キ旨交渉シタル處要塞地帶ナル旨ヲ告ケラレタル爲引返シテ本道ニ出テ附近地形偵察中突然監視所方面ヨリ射擊セラレ中村ハ銃弾ヲ受ケ打倒レシヲ裝ヒタル處追擊シ來リタル支那兵ノ爲銃剣ヲ以テ右肺部ヲ突カレ瀕死ノ重傷ヲ負ヒ同夜死亡シ伊藤ハ銃弾ヲ受ケ即死シ通リ合セタル支那兵一名モ亦味方ノ銃弾ヲ受ケ負傷シ

以テ本件ニ處シ居ル旨ヲ縷述シテ之ヲ本官並ニ各方面ニ傳達方ヲ依頼セルニ付河野ヨリモ前記諸點ニ付自發的ニ相當ノコトヲナスコト然ルヘキ旨ヲ說キ且事件ヲ起シタル監視所（同地ハ頗ル形勝ノ地位ヲ占メ我警察分署ヲ眼下ニ見下シ我分署モ常ニ脅威ヲ感シ居ル所ナリト）撤去方懇意シタルニ初メハ彼此言ヒ居リタルモ遂ニ同意セリト

支、吉林、奉天、局子街ニ轉電セリ

150 昭和6年12月11日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

帽兒山領事館分館開設または警官派出所の増設により所謂三矢協定の廢止方意見具申

第一五二一號

大正十四年ノ國境取締協定（所謂三矢協定）ニ關シテハ先年來支那側ノ實施振ニ鑑ミ其利害得失ニ付幾多ノ議論アリ昭和三年貴電第八號御訓令ニ基ク關係各館ノ所見ハ廢止説ト改正説トノ二説ニ分レ居ルモ支那側カ本件協定ニ藉ロン

鮮人ニ對シ諸種ノ稅金ヲ課スルニ止マラス右協定ヲ逆用シ
テ鮮人壓迫ノ具ニ供シツアリトノ見解ニ至リテハ何レモ
其軌ヲ一ニシ居ルカ如シ元來本協定ハ國境警備ノ必要ニ基
クモノニシテ國境警備ノ完全ヲ期スル上ニ於テ多大ノ效果
アリタルハ明カナルモ最近ニ於ケル國境地帶ノ現狀ハ警備
ノ充實交通ノ改善等協定取極當時ト趣ヲ異ニスルモノアル
カ如ク本件協定ノ廢止ニ依リ直ニ國境地帶ニ影響アリトハ
思考セラレス例^(註)ヘハ右ノ如キ懸念アリトルモ帽兒山分館
ノ開設又ハ警官派出所ノ増設其他ノ方法ニ依リ積極的ニ之
ヲ排除スルヲ得策トスヘシ尤モ事變發生後ノ現在ニ於テハ
本件協定ノ存在ハ事實上有名無實トナリタリト雖今後我方
ニ於テ滿蒙ニ對シ鮮人ノ積極的發展ヲ促進セントセハ本件
協定ニ依ル支那側ノ取締ニ依頼スルヨリモ寧口助長政策ト
並行シテ我方自ラ積極的保護策ヲ講スルコト緊要ニシテ此
ノ際本件協定ヲ廢止スルコト機宜ニ適スト信スルコト付至急
總督府側ト御協議ノ上成ル可ク速ニ廢止方御決定アランコ
ト切望ニ堪エス

尙右廢止方御決定ノ場合ニハ本協定成立當時ト同様奉天省
警察當局ト總督府警務局トノ間ニ必要ノ文書ニ調印スルノ
ト切望ニ堪エス

尙右廢止方御決定ノ場合ニハ本協定成立當時ト同様奉天省
警察當局ト總督府警務局トノ間ニ必要ノ文書ニ調印スルノ
ト切望ニ堪エス

形式ニ依ルコト然ルヘシト存セラル
支、關東廳、朝鮮總督、在滿各領事ニ轉電セリ
編注 「例ヘハ」の箇所に「假令」との書き込み訂正あり。

151 昭和6年12月11日 在局子街田中（作）副領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鐵測量班遭難事件に關し中國側へ陳謝等の

実行方警告につき間島總領事宛電報

局子街 12月11日後発 本省 12月11日後着

第三八號

本官發間島宛電報第一三號

甕聲硝子ニ於テ支那兵ノ爲我方測量隊員ノ射殺セラレタル
事件ニ關シ貴官發外務大臣宛電報第二八七號ノ通既ニ其眞
相判明シタルヲ以テ本官十日啓籌備處長ト會見シ豫テ同處
長ヨリノ事件通報内容ニ於テ兔角責任ヲ輕減セントスルカ
如キ口吻アリタルニ對シ測量隊ノ入間ニ關シ長官公署ヨリ
何等命令ニ接シ居ラストモ既ニ敦化ヨリノ通報ニ基キ一行

館設置の好機の旨意見具申

安東 12月11日後発
本省 12月11日後着

第二一〇號

保護方ヲ甕聲硝子駐在王營長ニ前後二回命令シタリト言フ
ニ遂ニ斯ル不祥事ヲ發生セシメタルハ奇怪ナリ抑々吉興警
備司令ハ吉會線敷設ニ反対ナルヤト質シ既ニ貴我立會調査
ノ結果責任全然支那側ニアルコト明瞭トナリタル以上我方
ノ滿足スヘキ陳謝、慰藉、責任者處罰將來ノ保障等必要事
項ヲ我方ニ提示シ速ニ解決ヲ期セラルコト得策ナルヘシ
ト警告シタル處本件力多年日本ノ重要視セル吉會線關係事
件丈ヶニ支那側ハ之力處置ニ當惑シ居レリトテ吉會線反対
ヲ打消シ警備司令ト篤ト協議ノ上十一日何分回答スヘシト
約セリ尙本件發生ハ主トシテ甕聲硝子軍隊ノ素質不良（營
長以下馬賊出身）警備司令ノ命令不徹底ニ依ルコトヲ告ケ
今回問題ヲ惹起シ今後共我警察分署ノ脅威絶エサル山上監
視兵ノ撤廢ヲモ要望シ置ケリ
奉天ヨリ公使ヘ轉電ヲ請フ
外務大臣、奉天、吉林ヘ轉電セリ

~~~~~  
在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

153 昭和6年12月12日 勅原外務大臣より  
在吉林石射總領事宛（電報）

吉会線問題に関する朝鮮軍の問合せに對し外務、陸軍協議の上回電について

別電 十二月十二日発 勅原外務大臣より在吉林石

射總領事宛第四六号

明春解氷期後に吉会線敷設着手について

付記 十二月十九日発龍井村内地人民会・龍井村

朝鮮人民会より犬養（毅）外務大臣宛電報  
龍井村の吉会線通過区域編入に關し考慮方  
要請について

本省 12月12日 発

第四五號（暗、極秘）

吉會線問題ニ關シ朝鮮軍ヨリ中央軍部ニ問合アリタルニ付  
外務、陸軍協議ノ結果陸軍ヨリ同軍參謀長ニ對シ別電第四

六號ノ通り回電セリ

尙ホ往電第三六號申進ノ次第ハアルモ其後事態ノ進展ニ顧  
ミ商取引ト看做シ得ヘキ斯種問題ニ付テハ軍側及滿鐵ト可  
然連絡ヲ保チ吉林政權トノ間ニ内密ニ事實上ノ話合ヲ行ハ

（付記）

問島 12月19日後發  
本省 12月20日後着

今回ノ日支事件ヲ契機トシテ二十年來懸案トサレタル吉會  
鐵道モ愈急速ニ敷設サルヘシトノ趣邦家ノ爲眞ニ欣快ニ堪  
ヘス仄聞スル所ニ依レハ龍井村ハ其ノ幹線外ノ區域ニ在リ  
官憲ニハ外務ヨリ打電スルコトニ打合セ濟

レ差支ナキニ付右ニ御含置相成度

別電ト共ニ在満各總領事及領事ニ轉電アリ度

別電ト共ニ公使北平ニ轉電セリ

（別電）

本省 12月12日發

トノ事ニテ在留民ノ痛心落膽ハ到底之ヲ筆舌ニ盡シ難ク然  
シ乍ラ國家百年ノ大計ヲ定ムル上ニ於テ龍井通過ヲ適當ト  
セサルモノナレハ微々タル在留市民亦何ヲカ陳辯ノ要無カ  
ラン要ハ間島ヲシテ今日ノ如ク同胞ノ地盤ヲ築キタルハ一  
ニ龍井ヲ中心トシタル諸般ノ施設ニ外ナラス然ルニ之ヲ一  
朝ニシテ拋擲スルハ民會トシテ餘リニ忍ヒ得サル處此ノ際  
何トカシテ御考慮ヲ煩ハシ度偏ニ歎願ス

154 昭和6年12月12日 在局子街田中副領事より  
（幣原外務大臣宛（電報）

延吉警備司令が満鉄測量班遭難事件に關し陳

謝のため來館について間島總領事宛電報

局子街 12月12日後發

本官發問島宛電報第二五號

第四〇號  
往電第二四號ニ關シ

滿鐵會社ノ營口行特定運賃廢止發表

拓務次官殿  
外務次官殿

155 昭和6年12月12日 中谷閏東府警務局長より  
（堀切拓務次官）宛  
満鉄の當口行特定運賃廢止發表について  
關機高第一三七七二號ノ二  
(12月17日接受)

昭和六年十二月十二日

關東廳警務局長

貴地延吉警備司令十二日本官ヲ來訪折柄來局中ノ軍部代表  
岩田朝鮮憲兵隊司令官及河野聯絡班長列席ノ上事件發生ニ  
月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止スルコトニ決定客月三十日附其

ノ旨當地特產商方面ニ通知シタカ目下ノ處格別之力存續運動等ナス模様ナシ

以 上

156 昭和 6 年 12 月 14 日

在吉林石射總領事より  
犬養外務大臣宛

事変後の差別運賃撤廃に關する東北交通委員会より東北各鐵路局宛指令について

機密公第七八二號 昭和六年十二月十四日

（12月22日接受）

在吉林 総領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣 犬養 豁殿

支那鐵道ノ外國製品ニ對スル差別運賃制ノ撤廃ニ關スル件

吉海、瀋海、吉敦等支那側各鐵道ニ於テハ從來東北交通委員會ノ指令ニ基キ國有鐵道ニ準シ本國製品ト外國製品（支那内地ニ於ケル外國人工場ノ製品ヲ含ム）トノ取扱ヲ區別シ各鐵道ノ貨物等級表ニハ歷然ト差別等級ヲ掲記シアリ之

奉天 上海 哈爾賓 間島各總領事  
南京 長春 齊々哈爾 安東 牛莊各領事  
海龍 局子街 瑿春 百草溝 頭道溝各分館主任  
上海商務參事官 朝鮮總督

右報告ス

本信寫送附先

在華公使及北平

157 昭和 6 年 12 月 15 日 在局子街田中副領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

滿鉄測量班遭難事件の責任者処分を中國側躊躇の狀況について間島總領事宛報告

局子街 12月15日後発  
本省 12月15日後着

第四三號 本官發問島宛電報第三一號  
往電第二九號ニ關シ

十四日籌備處長ニ對シ當地ニ關スル限り速ニ責任者處分ヲ斷行シ不快ナル空氣ヲ一掃シ調査隊ヲ迎フル様處置方要求シタル處責任者處分ノ結果他部隊ニ及ホス影響重大ナルモノアルヲ顧慮シ目下折角方法考究中近ク實行ノ豫定ナリトシ處分ニ應スルヤ否ヤ疑ハシク從テ其結果如何ニ依リテハ各地軍隊ノ憤激ヲ買ヒ反亂ヲ招來スル虞アリトセラル大臣、奉天、吉林ニ轉電セリ

貴電ニ關シ既墾地ノ買收計畫ハ主トシテ東拓會社等ニ於ケル支那人擔保土地ヲ肩替リトシテ漸次鮮農ニ買收セシメン  
トスルモノナルカ鮮農ハ債務更改ノ場合支那人債權者ニ代  
リ東拓等ニ對シ延滯利子反當リ五圓乃至十圓位ノ支拂ヲ必  
要トスルニ付此所要額ヲ貸出スモノニシテ右ニ對スル元金  
八年賦等ノ方法ニ依リ消却セシムルモノナルカ元來既墾地  
買收ハ未墾地ト違ヒ相當資力アルモノニ非サレハ之力利用  
ニ當リ資金調達其他ニ種々蹉跌ヲ來スヘキ虞アルヲ以テ前  
記肩替リニ依ラサルモノハ成ルヘク買收價格ノ半額ヲ鮮農  
自身ニ負擔セシメ殘リ半額ヲ貸出ス方針ニテ本計畫ヲ立テ

力實際上ノ取扱ニ當リテモ外國品力支那商人ノ手ニ依リ托送セラル場合驛員ノ過誤又ハ默認ニ依リ中國製品トシテ受托サレタルコトアルヘキハ例外トシ總テ差別アル等級表ニ基キ外國製品ハ支那製品ニ比シ不利益ナル運賃ヲ適用セラレ只吉長線ノミハ滿鐵ノ委任經營ナル關係上滿鐵側ノ反對ニ依リ貨物等級表ニハ本國製品ト外國製品トノ區別存シタルモ實際ノ取扱ニ於テハ差別項目ヲ適用シ居ラサリン次第ハ既報ノ處事變後吉長、吉敦兩鐵道ノ合併ニ依リ吉敦線ノ分モ吉長線同様差別取扱ヲ廢止セラレ更ニ最近東北交通委員會ノ主席顧問タル滿鐵村上理事ノ發議ニ依リ同委員會ハ十二月三日東北各鐵路局ニ對シ別紙ノ通指令ヲ發シテ即時支那製品トノ差別運賃ヲ撤廃セシメタル趣ナリ

委員會ノ主席顧問タル滿鐵村上理事ノ發議ニ依リ同委員會ハ十二月三日東北各鐵路局ニ對シ別紙ノ通指令ヲ發シテ即時支那製品トノ差別運賃ヲ撤廃セシメタル趣ナリ

タルモノニシテ從テ毎年四十萬圓ヲ貸出シ反當リ二十圓ノ土地四千町歩（此價格八十萬圓）ヲ獲得セシメ得ル次第ナリ

159 昭和 6 年 12 月 18 日 在間島岡田總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

領事館警察をして吉海線測量隊の保護方軍側と合意について

間 島 12 月 18 日 後発  
本 省 12 月 18 日 後着

第三〇一號  
往電第二七八號ニ關シ

吉海線測量隊ハ甕聲硝子事件ニ顧ミ日本軍隊ノ保護ヲ受クルニ非サレハ測量作業ニ從事スル事困難ナル旨關東軍側ニ申出テタ（ル）趣ノ處同軍部側ニ於テハ吉海線測量ノ爲間島地方ニ我軍隊ヲ出ス事ハ面白カラサルニ付領事館警察ヲシテ測量隊ノ保護ニ當ラシムルヲ適當トスル意図ニテ河野聯絡班長ヲ通シ本官ニ協議アリタル處當地方日下ノ狀況ハ我警察官ヲシテ之ニ當ラシムルノ外無キモノト認メ軍側ト

モ聯絡シ我警察官ヲシテ保護ニ當ラシムヘキ旨ヲ答へ置キタルニ付御承認相成タシ測量期間ハ確定セサルモ二組二分レ約三ヶ月ヲ要スル趣ナレハ保護出張ニ要スル警察官經常部旅費約四千圓ヲ要スル見込ニ付豫メ御承認相成タシ奉天、吉林へ轉電セリ

160 昭和 6 年 12 月 18 日 在安東米沢領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

安東において公然と密輸入実施され取締り困難なる状況について

安 東 12 月 18 日 後発  
本 省 12 月 18 日 後着

第二一八號  
往電第一七三號ニ關シ

當地ニ於ケル密輸入ハ其ノ後モ依然トシテ行ハレ殊ニ昨今年末ヲ控ヘ其ノ方法モ露骨且ツ大膽トナリ海關トシテハ軍部ニ對スル氣兼モアリ之力防止ニ一段ノ苦心ヲ拂ヒ居ル始末ナル處昨十七日ノ如キ午後六時ヨリ午前一時ニ至ル間ニ於テ前後三回ニ瓦リ荷物（綿布、醤油及雜貨）ヲ滿載セル

人力車合計約百台公然密輸入ヲ企テ橋側海關検査所ニ於テ漸ク八台（醤油二十四樽）ヲ押ヘタルカ右ヲ奪回セントシテ多數鮮人該検査所ニ殺到シ海關吏及應援ノ我警察官一名ヲ所内ニ押込メ暴行至ラサルナク僅ニ拳銃ヲ空發シテ退散セシメタル事件スラ惹起スルニ至レリ

北寧鐵道借款支払いのための振出手形支払い  
停止問題地方的解決の見込みについて

奉 天 12 月 19 日 後発  
本 省 12 月 19 日 後着

第一五六四號

<sup>(1)</sup> 在支公使發本官宛電報第三三號及第三七號ニ關シ

一、英國借款支拂ノ爲北寧鐵路局ヨリ拂出シタル官銀號及交通銀行拂手形ノ支拂停止ニ關シ之力解決方當地英國總領事ヨリ申入レアリタル次第ハ十二月四日附機密第九九〇號報告ノ通リナル處四日更ニ公文ヲ以テ本件ハ同鐵道「マネージング、ディレクター」ヨリ振出シタル兩銀行拂合計大洋一、四一二、三六〇元ヲ當地香上銀行ヲシテ取立テシメ新ニ香上ニ北寧ノ借款支拂勘定ヲ開キ本月以後毎月一八九八年借款分七、九二六磅四片及復線借款分一萬磅ヲ British and Chinese Corporation ニ支拂フコトトシ度キ趣旨ナルニ付支那側兩銀行ヲシテ支拂方斡旋アリタキ旨申越シタリ來本件北寧ニ對スル英國借款ニ付テハ北寧線ノ全財產並ニ收入ニ對シ優先擔保權ヲ設定シ居ルノミナラス

公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ  
公使、北平、奉天、關東長官へ轉電セリ

161 昭和 6 年 12 月 19 日 在奉天林總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

ニシテ且ツ本件契約中ニハ支那側ノ債務不履行ノ場合ニハ英國側ニ於テ同鐵道ノ管理權ヲ獲得スルコトアルヘキコトヲ規定シ居ルニ鑑ミ我方ニ於テハ前記兩銀行ノ支拂禁止ヲ解クコト得策ナルニ付引續キ軍側ト折衝ノ結果略々解決ノ見立ツニ至レリ。

162 昭和6年12月25日 在間島岡田總領事より  
王德林部隊の甕聲砲子分署襲撃について  
問 島 12月25日後発 本省 12月25日後着

〔二〕然ル處十七日「コーゴーレーション」代表 Bothby 本官ヲ來訪シ本件ハ「ランプソン」公使ヨリ本國政府へ報告シ或ハ政府間ノ問題トナルヘキ處直接責任者タル自分（「ブ」）ニ於テ今一應地方的解決ニ努力ノ爲來訪シタル次第ナル力

本件預金カ英國側以外ノ手ニ渡ルヤノ日本軍側ノ不安ヲ除ク爲右金額ヲ「コオボレーシヨン」倫敦本店ニ送付ノコトニ北寧當局ノ承諾ヲ取付ケタリトテ高紀毅等ノ署名アル十二月十日附當地香上支店宛書面ヲ示シタルニ依リ「ブ」ニ對シテハ大体地方限リニテ解決ノ見込ナル旨内話シ置キタリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタン

公使、天津、北平、南京へ轉電セリ

編 註 「振」と書き込み訂正あり。

163 昭和6年12月29日 在ハルビン大橋總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）  
日本軍側代表と張景惠間で黒龍江省鐵道計画  
大綱覚書および同省内の日本側諸権利を認め  
る覚書に調印について

ハルビン 12月29日後発 本省 12月29日後着  
第六九三號（極秘）  
往電第六三一號二關シ  
廿八日軍側代表ト張景惠トノ間ニ江省鐵道計畫大綱ニ關シ左記趣旨ノ覺書ニ調印セリ

一、齊克、呼海、兩鐵道ヲ結ヒ洮昂線ト合併經營スルコト  
二、洮索線ヲ海拉爾及滿洲里ニ延長スルコト  
三、齊克線ノ一點ト大黑河ヲ結フ鐵道建設  
四、扶餘哈爾賓間鐵道建設  
五、右建設工事ハ滿鐵ニ於テ引受ケ資金ハ滿鐵ヨリ借款、  
官營ト爲スコト  
尙同時ニ江省内ニ於ケル帝國臣民ノ居住往來、營業及土地所有貨借利用ノ自由及右臣民保護ノ爲江省到ル處我警察官

174 162 昭和6年12月25日 在間島岡田總領事より  
王德林部隊の甕聲砲子分署襲撃について  
問 島 12月25日後発 本省 12月25日後着

第三〇八號

第三衛王德林部下ノ兵ハ吉林ニ移駐ヲ命セラレ其一部ハ二十四日午後一時甕聲砲子ヲ通過ノ際内數名ハ乘馬調教中ノ甕聲砲子分署菊谷順ニ對シ射擊ヲ加ヘ尙他ノ二箇所ヨリ我分署射擊シタルニ付分署員ハ之ニ應射シ約三十分ニシテ擊退シタルカ双方共死傷ナシ甕聲砲子連長及公安局長ハ直ニ我分署ニ馳付ケ遺憾ノ意ヲ表シタリ我方ニ於テハ局子街分館主任ヲシテ支那側ニ對シ嚴重抗議中ナルカ第三衛兵ノ吉林移駐ハ當分續行セラレ今後共事件ノ發生セサルヲ保シ難ク之を防止ノ爲支那側ヨリ二十五日朝吳參謀長ヲ甕聲砲子ニ急行セシメタルカ本館ヨリハ更ニ今朝應援警察官五名ヲ派遣シ嚴重警戒中ナリ

支、北平、奉天、吉林へ轉電セリ

編 註 「六」の箇所に「七」との書き込みあり。  
ノ駐在ヲ認ムル趣旨ノ覺書ニモ調印セリ  
奉天、齊々哈爾ヘ轉電セリ

164 昭和6年12月29日 在局子街田中副領事より  
犬養外務大臣宛（電報）  
滿鐵測量班襲撃事件責任者の処分について問  
島總領事宛報告  
局子街 12月29日後発 本省 12月29日後着  
第一〇七號  
第三八號  
本官發間島宛電報  
甕聲砲子ニ於ケル測量隊員射殺及分署狙擊事件加害兵及責任者處分ニ關シ警備司令トシテハ適當ノ方法（脱）機會ニ於テ之ヲ實行セントシ誠意ヲ披瀝シ居ルモ徒ラニ部下ノ反亂ヲ惧レテ躊躇シ且威令毫モ行ハレサル觀アリ此上處分ヲ遲延スルニ於テハ遂ニ我方ノ寬容ニ馴レ近ク測量隊ノ來間

175 162 昭和6年12月25日 在間島岡田總領事より  
王德林部隊の甕聲砲子分署襲撃について  
問 島 12月25日後発 本省 12月25日後着

- ニ際シ又復如何ナル暴行ヲ敢テスルヤモ計リ難キニ付處分  
斷行ヲ強硬ニ要求中警備司令ハ昨晩先ツ責任者第九連長及  
營附將校ヲ免職シ加害兵士ハ王營長及新連長ニ充分申含メ  
當地ニ押送統殺斷行ノ趣ナリ
- 大臣、奉天、吉林へ轉電セリ
- 165 昭和6年12月30日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛（電報）
- 弓長嶺運行鉄道の事務一切を日本側總弁にて  
管理すること等に協定書案を変更方について
- 第一六一九號 奉天 12月30日後発 本省 12月30日後着
- 往電第一四八二號ニ關シ  
野口ノ談ニ依レハ弓長嶺鐵坑並運行鐵道ハ結局滿鐵ニ譲渡  
セラルヘキ豫定ナルニ鑑ミ鐵道經營上ノ實權ヲ日本側ニ掌  
握シ置クヲ得策ト認メ一應内定セル協定書案ニ變更ヲ加ヘ  
本鐵道一切ノ事務ハ日本側總辨ニ於テ管理スルコト職員ハ

- 日本側總辨ニ於テ選任シ總務、文書ハ主トシテ支那人ヨリ  
會計、工務、運輸ハ主トシテ日本人ヨリ選任スルコトニ訂  
正シ再度實業廳並ニ省政府ト交渉中ナルカ大体右ニテ纏メ  
得ル見込ノ由ナリ
- 公使、北平、南京ニ轉電シ間島、安東、遼陽ニ暗送セリ
- 166 昭和6年12月31日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛（電報）
- 吉林省内における日本側諸権利承認に関する  
覚書調印決定について
- 第一六二五號（極秘） 奉天 12月31日後発 本省 12月31日後着
- 駒井部長ノ談ニ依レハ近ク吉林省内ニ關シテハ同様ノ覺書  
調印ノ事ニ決定シ居レル由  
公使、哈爾賓、吉林ニ轉電セリ
- 167 昭和6年4月7日 在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛
- 長春県三姓堡において朝鮮人による水田借地  
契約成立について
- 機密第一四八號 昭和六年四月七日 在長春  
領事 田代 重徳
- 外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
- 長春縣三姓堡ニ於ケル水田借地契約成立ニ關スル件  
長春縣三姓堡ハ長春ノ西北方四十華里農安街道ニ沿ヘル地  
點ナルカ長春朝鮮人居留民會ノ斡旋ニ依リ中國人郝永德所  
有三姓堡ノ荒地五百天地ニ付客年來中國官憲又ハ地主不逞  
鮮人等ノ壓迫ノ爲當地ニ避難シ居タル朝鮮人李昌薰、金斗  
千、鄭燦玉等九名（客月十七日附機密公第一二〇號拙信報  
告參照）ト前記地主トノ間ニ概不左記條件ヲ以テ十ヶ年ノ
- 一、期間十ヶ年（自民國廿年陰曆三月至民國三十年陰曆三  
月）  
二、一天地トハ耕作面積二四四弓トス  
三、借地料ハ毎年一天地ニ付畠二石トス  
四、天災ニ依リ收穫不能ニ陥リタル場合ハ貸主、借主双方  
ノ責任トス  
五、小ナル灾害ヲ蒙リ半收トナリタル場合ハ租地料ハ貸主、